

令和7年度授業計画  
—デジタル生活学部フードマネジメント学科—

岡山学院大学

## デジタル生活学部フードマネジメント学科の教育方針

岡山学院大学の建学の精神「教育三綱領」は、

自律創生: 道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹: 目標を達成する継続的な学びと努力を实践する。

共存共栄: 社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

であり、教育理念は、21世紀の我が国の少子高齢化の時代において、15歳から65歳までの生産年齢人口の縮小を抑止するために、国民一人一人の健康維持及び増進をはかり、我が国の労働生産力の向上に寄与する Society 5.0 時代の人材を本学の「人間教育」と免許・資格を取得する「技術・技能教育」をもって育成することである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士養成の教育目標を達成することを使命とする。

デジタル生活学部フードマネジメント学科の教育目標

デジタル生活学部フードマネジメント学科では数理・データサイエンス・AI 教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士を育てるために次の教育目標を掲げている。

- ① 数理・データサイエンス・AI 教育及びフードマネジメントメソッドを修めた、高梁川流域圏で活躍する管理栄養士の養成
- ② 生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成
- ③ 疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成
- ④ 豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成
- ⑤ 食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成
- ⑥ 学校における食に関する指導の目標、食に関する指導の全体計画、各教科等や給食における食に関する指導方法を修得し、管理栄養士として学んだことを学校教育の現場で生かすことができる栄養教諭の育成

卒業後の管理栄養士の将来像として、次のフードビジネスアントレプレナーとなる次世代フードビジネスアントレプレナー養成コース、フードビジネス人材となる次世代フードビジネス人材養成コース、更に、次世代の管理栄養士となる次世代管理栄養士養成コースを設ける。

○次世代フードビジネスアントレプレナー養成コース

下記の科目を修めることで、様々な困難や変化に対し、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していくアントレプレナーシップ精神を身に付いた次世代の管理栄養士「フードビジネスアントレプレナー」になり高梁川流域圏の活性化に貢献する。卒業後高梁川流域圏の市町で起業且つ所定のプロセスに則り審議を経て合格した者に対し、起業運営資金最大 100 万円を助成する。

【デジタル生活人材養成科目】

デジタル生活論、消費者行動論、地域活性化論、高梁川流域圏の活性化(倉敷市連携授業)、高梁川流域圏の活性化と実践(倉敷市連携授業)、ICT リテラシーⅡ、データサイエンスⅠ、データサイエンスⅡ、応用数学(食とビジネス)、情報数学Ⅰ(統計学)、情報数学Ⅱ(線形代数・微分積分)、クリエイティブエコノミー(ファンの経済学)、クラウドファンディングの理論と実践、食とベンチャービジネス、フード・ビジネス経営、フードテックと実践、コンテンツビジネス、プレゼンテーション、教学マネジメント、キャリアガイダンス(フードビジネス人材)

【専門科目】

栄養士必修科目、管理栄養士必修科目、フードスペシャリスト必修・選択科目

○次世代フードビジネス人材養成コース

下記の科目を修めることで、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの応用基礎レベルを身に付けた次世代の管理栄養士「フードビジネス人材」になる。卒業後高梁川流域圏の市町にフードビジネス人材の正社員として 3 年間就業且つ所定のプロセスに則り審議を経て合格した者対

し、岡山学院大学キャリアプラン応援金として最大 40 万円を助成する。

#### 【デジタル生活人材養成科目】

デジタル生活論、消費者行動論、地域活性化論、高梁川流域圏の活性化(倉敷市連携授業)、高梁川流域圏の活性化と実践(倉敷市連携授業)、ICTリテラシーⅡ、プログラミング、データサイエンスⅠ、データサイエンスⅡ、データエンジニアリング、応用数学(食とビジネス)、情報数学Ⅰ(統計学)、情報数学Ⅱ(線形代数・微分積分)、クリエイティブエコノミー(ファンの経済学)、フード・ビジネス経営、フードテックと実践、英語Ⅰ、プレゼンテーション、教学マネジメント、キャリアガイダンス(フードビジネス人材)

#### 【専門科目】

栄養士必修科目、管理栄養士必修科目、フードスペシャリスト必修・選択科目

#### ○次世代管理栄養士養成コース

下記の科目を修めることで、食環境戦略イニシアチブ<sup>※</sup>の目的を達成するための数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルを身に付けた次世代の管理栄養士になる。管理栄養士国家試験に140点以上を獲得且つ卒業後管理栄養士などの専門職として3年間就業した者に対し、岡山学院大学キャリアプラン応援金として40万円を助成する。

#### 【デジタル生活人材養成科目】

ICTリテラシーⅠ、ICTリテラシーⅡ、データサイエンスⅠ、データサイエンスⅡ、データエンジニアリング、応用数学(食とビジネス)、情報数学Ⅰ(統計学)、情報数学Ⅱ(線形代数・微分積分)、食環境戦略イニシアチブⅠ、食環境戦略イニシアチブⅡ、英語Ⅰ、プレゼンテーション、教学マネジメント、キャリアガイダンス(管理栄養士)、

#### 【専門科目】

栄養士必修科目、管理栄養士必修科目

※「食塩の過剰摂取」、「若年女性のやせ」、「経済格差に伴う栄養格差」等の栄養課題や環境課題を重大な社会課題として捉え、産学官等の連携・協働により、誰もが自然に健康になれる食環境づくりを展開し、日本はもとより、世界の人々の健康寿命の延伸、活力ある持続可能な社会の実現を目指すことを目的とする。

「食環境づくり」とは、人々がより健康的な食生活を送れるよう、人々の食品(食材、料理、食事)へのアクセスと情報へのアクセスの両方を、相互に関連させて整備していくことをいう。

#### 学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基、自律した信念のある社会人となることである。

数理・データサイエンス・AI教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士になるために、学科の教育課程(デジタル生活人材養成科目および専門教育科目)の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

##### I. 汎用的学習成果

デジタル生活人材養成教育科目の学習をとおして、

- ① 消費者行動等の生活系学習や地域活性化メソッド等の高梁川流域事業学習から、高梁川流域圏市町で活躍するための人間生活(ヒューマン・サービス)力を獲得する。
- ② 数理・データサイエンス・AI教育プログラム応用基礎レベルの学習及びキャリア実践学習を通して、デジタル生活社会の様々な困難や変化に対し、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく精神を身に付けたフードマネジメント力を獲得する。
- ③ 異文化コミュニケーション及び他者とのコミュニケーションメソッドの学習を通して、自ら計画し行動することができるキャリア的思考に基づいたデジタル生活コミュニケーション力を獲得する。

##### II. 専門的学習成果

学科の専門学習では、Society 5.0時代の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をとおして、専門知識と専門的能力を獲得する。

- ① 多様な専門領域に関する基本となる専門的知識を獲得する。
- ② チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を獲得する。

- ③ 公衆衛生を理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力を獲得する。
- ④ 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。
- ⑤ 子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、食に関する指導(学校における食育)をする能力を獲得する。

#### 卒業認定・学位授与の方針

学位:学士(栄養学)

栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士になるため、デジタル生活人材養成科目および管理栄養士課程の専門教育科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。

1. 学位授与に必要な単位を修得している。
  2. 卒業後社会人として求められる汎用的学習成果及び専門的学習成果を獲得している。
- 尚、単位認定は科目の成績評価を基礎として単位認定の教授会において、学習成果を基準に判定する。

#### 教育課程編成・実施の方針

数理・データサイエンス・AI 教育及びフードマネジメントメソッドを修めた、高梁川流域圏で活躍する管理栄養士になるために必要な 3 つの力を汎用的学習成果として獲得させるデジタル生活人材養成科目にヒューマン・サービス科目、フードマネジメント科目及びコミュニケーション力科目を編成し、実施する。

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための専門教育科目を編成し、実施する。

また、同時に「食品衛生資格履修コース」を専門教育科目の中に科目指定し、実施する。

栄養教諭一種免許状を得るための教職課程を編成し、実施する。

希望者に対して、フードスペシャリスト資格認定証、専門フードスペシャリスト資格認定証、図書館司書などが取得できるカリキュラムも編成し、実施する。

#### 入学者受入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- ・ 栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士の仕事を理解している。
- ・ 卒業後、管理栄養士として働く意志が強い。
- ・ 卒業後、高梁川流域圏でフードビジネスを通して活躍する意志が強い。
- ・ 数理・データサイエンス・AI 教育の修得意識が強い。
- ・ 本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- ・ 生物、化学を基礎とする学習に努力できる。

## 履修にあたって

シラバスは学生の皆さんに対して、各授業科目の担当教員がその科目の教育目標、授業内容のアウトラインなどの情報を明記したものです。よく読んで、各授業の進行状況の把握、予習や自分の学習成果を測るなど、有効に活用して下さい。

### ◆ 履修にあたって

**必修科目**……各学科の教育目標を達成する為に必ず履修しなければなりません。1科目でも不認定になると卒業できませんので、授業の教育目標と学生の学習成果・教育方法・学習評価の方法をよく読んで、授業のアウトラインをつかんで履修して下さい。

**選択必修科目**……一定の授業科目群のなかから自分で履修する授業科目を選択することができますが、その授業科目群に定められた必修単位数は必ず修得しなければなりません。

**選択科目**……自分の目的にあわせて選択履修することができます。授業の内容をみて興味のある授業科目や、自分の希望する職業また取得したい資格に必要な知識、技術と照らし合わせながら選択して下さい。

### 本書の見方

カリキュラム表及び担当教員掲載頁一覧								
注1) 学部共通基礎教養科目								
科目群	授業科目	必修	選択	計	担当教員名	職名	掲載頁	備考
		注2)	注3)		注4)	注5)	注4)	

注1) 学部共通基礎教養科目は全学科共通です。具体的に自分の所属学科・学年でどの授業科目がいつ開講されているかは「学生便覧」4. 授業科目時間配当表を参照して下さい。

注2) 単位数が記載される科目は必修科目です。1単位でも落とすと卒業できません。又、2つ以上の授業科目にわたって単位数が記載されている場合は、選択必修科目でその科目群（区分）の選択科目のなかから、定められた必修単位数を修得しなければなりません。

注3) 注2) に単位数の記載がない授業科目で、ここに単位数が記載されている科目は選択科目です。各資格取得に必要な科目もありますので、詳しくは「学生便覧」を参照して下さい。

注4) 各授業科目の担当教員とその授業科目のシラバス掲載頁を明記しています。一つの授業科目を複数の教員が担当している場合もありますので、必ず時間割で自分のクラスの担当教員名を確認して下さい。

注5) 非常勤の先生は職名の後に(兼)と記載してあります。

## 科目ナンバリングについて（岡山学院大学）

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学習の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するための仕組みです。

（例）日本国憲法・・・DF14A2a130-B000A

DF	14	A	2a	130	-	B	0	0	0	A
①	②	③	④	⑤		⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

## ①開講学部・学科

デジタル生活学部フードマネジメント学科	DF
---------------------	----

## ②学問領域(科目区分)

デジタル生活人材養成科目	ヒューマン・サービス科目	生活系科目	14
		高梁川流域事業科目	15
	フードマネジメント科目	デジタル系科目	16
		数理系科目	17
		キャリア実践科目	18
	デジタル生活コミュニケーション科目	外国語科目	19
コミュニケーション科目		20	
専門科目	現代生活基礎科目		21
	専門基礎分野	社会・環境と健康	31
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	32
		食べ物と健康	33
	専門分野	基礎栄養学	41
		応用栄養学	42
		栄養教育論	43
		臨床栄養学	44
		公衆栄養学	45
		給食経営管理論	46
		総合演習	47
		臨地実習	48
	自由科目		51
	栄養教論に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	61
栄養・教育の基礎的理解に関する科目等		62	

## ③授業形態

講義	A
演習	B
実験・実習・実技	C
その他	Z

## ⑥卒業必修/選択

## ⑦栄養士必修/選択

## ⑧フードスペシャリスト必修/選択

## ⑨食品衛生必修/選択

## ⑩栄養教論必修/選択

必修	A
選択必修	B
選択	C
該当なし	0

## ④学習水準(配当年次) 学年+記号

前期	a
後期	b
通年(前期始まり)	c
通年(後期始まり)	d
その他	z

## ⑤識別番号

デジタル生活人材養成科目	101~
現代生活基礎科目	201~
専門基礎分野	301~
専門分野	401~
自由科目	501~
栄養教論に関する科目	601~

● デジタル生活人材養成科目ナンバリング

科目群		授業科目	必修	選択	計	科目ナンバー					
ヒューマン・サービス科目	生活系科目	デジタル生活論	8	4	2	2	DF14A1a101 - B0000				
		消費者行動論			2	2	DF14A2a102 - B000A				
		日本国憲法			2	2	DF14A2a103 - B0000				
	高梁川流域事業科目	地域活性化論			2	2	DF15A2a104 - B0000				
		高梁川流域圏の活性化 (倉敷市連携授業)			2	2	DF15A1b105 - B0000				
		高梁川流域圏の活性化と実践 (倉敷市連携授業)			4	4	DF15B2c106 - B0000				
小計			8	8	14	14					
フードマネジメント科目	デジタル系科目	ICTリテラシーⅠ	20	8	2	2	DF16A1a107 - B0000				
		ICTリテラシーⅡ			2	2	DF16B1b108 - B0000				
		プログラミング			2	2	DF16B1b109 - B000A				
		データサイエンスⅠ			2	2	DF16B1a110 - B000C				
		データサイエンスⅡ			2	2	DF16B2a111 - B000A				
		データエンジニアリング			2	2	DF16B2b112 - B000A				
	数理系科目	応用数学（食とビジネス）			2	2	DF17A1a113 - B000A				
		情報数学Ⅰ（統計学）			2	2	DF17A1b114 - B000A				
		情報数学Ⅱ (線形代数・微分積分)			2	2	DF17A2a115 - B000C				
	キャリア実践科目	クリエイティブエコノミー (ファンの経済学)			2	2	DF18B2b116 - B0000				
		クラウドファンディングの理論と実践			2	2	DF18B4a117 - B0000				
		食とベンチャービジネス			2	2	DF18B4b118 - B0000				
		フード・ビジネス経営			2	2	DF18B2a119 - B0000				
		フードテックと実践			2	2	DF18B2b120 - B0000				
		コンテンツビジネス			2	2	DF18B3b121 - B0000				
		食環境戦略イニシアチブⅠ			2	2	DF18A2a122 - B0000				
		食環境戦略イニシアチブⅡ			2	2	DF18A2b123 - B0000				
		管理栄養士国家試験 専門基礎分野集中ゼミ			4	4	DF18B3d124 - B0000				
		小計			20	20	38	38			
		デジタル生活コミュニケーション力科目			外国語科目	英語Ⅰ	6	4	2	2	DF19B1a125 - B0000
英語Ⅱ	2		2	DF19B1b126 - B0000							
コミュニケーション科目	体育理論		1	1	DF20A1a127 - B0000						
	体育実技		1	1	DF20C1b128 - B0000						
	プレゼンテーション		2	2	DF20B2a129 - B0000						
	教学マネジメント		2	2	DF20B3a130 - B0000						
	キャリアガイダンス (フードビジネス人材)		2	2	DF20B2b131 - B0000						
	キャリアガイダンス (管理栄養士)		2	2	DF20B2b132 - B0000						
	小計			6	6	14			14		
	合計			34	34	66			66		

●フードマネジメント学科専門科目ナンバリング

区分			授業科目	必修	選択	科目ナンバー		
現代生活基礎科目			基礎化学	6	2	DF21A1a201 - B0000		
			基礎生物学		2	DF21A1a202 - B0000		
			アクティブラーニングⅠ		2	DF21B2c203 - B0000		
			アクティブラーニングⅡ		2	DF21B3d204 - B0000		
			食文化論		2	DF21A4a205 - B0A00		
			フードコーディネート		2	DF21A4a206 - B0A00		
			食料経済		2	DF21A3b207 - B0A00		
			小計		6	14		
栄養士法管理栄養士指 定教育分野	講義又は演 習必修単位	実験又は実 習必修単位	授業科目	必修	選択	科目ナンバー		
専門 基礎 分野	社会・環境と 健康	6	公衆衛生学Ⅰ	2	2	DF31A1b301 - BB0A0		
			公衆衛生学Ⅱ		2	DF31A2a302 - BB0A0		
			公衆衛生学Ⅲ		2	DF31A4b303 - BB0A0		
			健康管理論		2	DF31A4b304 - AB000		
			社会福祉概論		2	DF31A4a305 - AB000		
			小計		6	6		
	人体の構造と 機能及び疾病 の成り立ち	14	解剖生理学Ⅰ	7	2	DF32A1b306 - BA0A0		
			解剖生理学Ⅱ		2	DF32A2a307 - BA0A0		
			解剖生理学実験Ⅰ		1	DF32C1b308 - BB0A0		
			解剖生理学実験Ⅱ		1	DF32C3b309 - BB0A0		
			運動生理学		2	DF32A3b310 - BA000		
			生化学Ⅰ		3	2	DF32A1b311 - BA0A0	
			生化学Ⅱ			2	DF32A2a312 - BA0A0	
			生化学実験			1	DF32C3b313 - BB0A0	
			病理学		2	DF32A2b314 - AA0A0		
			微生物学		2	DF32A4a315 - AA0A0		
			小計		14	13		
	食べ物と健康	8	10	食品学総論Ⅰ	3	2	DF33A1a316 - BBAA0	
				食品学総論Ⅱ		2	DF33A3b317 - BBBA0	
				食品学総論実験		1	DF33C1a318 - BBAA0	
				食品学各論		2	DF33A2b319 - BBAA0	
				食品学各論実験Ⅰ		1	DF33C3b320 - BBAA0	
				食品学各論実験Ⅱ		1	DF33C4a321 - BB0A0	
				食品加工学Ⅰ		2	DF33A1b322 - BBAA0	
				食品加工学Ⅱ		2	DF33A3a323 - BB0A0	
				食品加工学実習		1	DF33C4a324 - BBBA0	
				食品品質管理論		2	DF33A3b325 - BB0A0	
				食品分析学		2	DF33A3b326 - BB0A0	
				調理学Ⅰ		3	2	DF33A1a327 - BBAA0
				調理学Ⅱ			2	DF33A1b328 - BB000
				調理学実習Ⅰ			1	DF33C1a329 - BBAA0
				調理学実習Ⅱ			1	DF33C1b330 - BBAA0
				調理学実習Ⅲ			1	DF33C3a331 - BBB00
食品衛生学Ⅰ	2	2	DF33A1a332 - BBAA0					
食品衛生学Ⅱ		2	DF33A2b333 - BBBA0					
食品衛生学実験		1	DF33C3b334 - BBBA0					
小計	8	30						

専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学	6	2	DF41A1a401 - BAAA0
				基礎栄養学実験		1	DF41C2a402 - BABA0
	応用栄養学	6		運動栄養学		2	DF42A4a403 - BA000
				応用栄養学		2	DF42A1b404 - BA0A0
				栄養アセスメント		2	DF42A1b405 - BA000
				応用栄養学実習		1	DF42C2a406 - BA0A0
				小計	6	10	
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	6	2	DF43A1a407 - BA000
				栄養教育論Ⅱ		2	DF43A2a408 - BA000
				栄養教育管理		2	DF43A3a409 - BA000
				栄養教育論実習Ⅰ		1	DF43C1b410 - BA000
				栄養教育論実習Ⅱ		1	DF43C2b411 - BA000
	小計	6		8			
	臨床栄養学	8		臨床栄養学Ⅰ	10	2	DF44A2a412 - BA000
				臨床栄養学Ⅱ		2	DF44A2b413 - BA000
				臨床栄養学Ⅲ		2	DF44A3a414 - BA000
				臨床栄養学実習		1	DF44C2a415 - BA000
				臨床栄養学演習		2	DF44B2b416 - BA000
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ	10	2	DF45A2a417 - BAB00
				公衆栄養学Ⅱ		2	DF45A2b418 - BA000
				公衆栄養学実習		1	DF45C2b419 - BA000
				小計		10	14
	給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ	6	2	DF46A1b420 - BA000
				給食経営管理論Ⅱ		2	DF46A2a421 - BA000
				給食経営管理実習Ⅰ		1	DF46C2b422 - BA000
				給食経営管理実習Ⅱ		1	DF46C3a423 - BA000
	総合演習	2		総合演習	6	2	DF47B2b424 - BA000
				給食経営管理実習事前事後		1	DF47C2d425 - BA000
小計			6	9			
臨地実習		4	給食経営管理臨地実習Ⅰ		1	DF48C3a426 - CB000	
			給食経営管理臨地実習Ⅱ		1	DF48C3a427 - CB000	
			公衆栄養臨地実習		1	DF48C3a428 - CB000	
			臨床栄養臨地実習		2	DF48C3b429 - CA000	
小計	0	5					
単位数	60	22					
自由科目				卒業研究Ⅰ		2	DF51B4a501 - C0000
				卒業研究Ⅱ		2	DF51B4b502 - C0000
				小計	0	4	
				合計	62	113	
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目		学校栄養指導論Ⅰ		2	DF61A3a601 - C000A	
			学校栄養指導論Ⅱ		2	DF61A3b602 - C000A	
			小計	0	4		
	栄養・教育の基礎的理解に関する科目等		教育原理		2	DF62A2a603 - C000A	
			教師論		2	DF62A2b604 - C000A	
			教育制度論		1	DF62A3a605 - C000A	
			教育心理学		2	DF62A2a606 - C000A	
			特別支援の方法と理解		1	DF62A3a607 - C000A	
			教育課程論		1	DF62A3a608 - C000A	
			道徳・特別活動・総合的な学習の時間		2	DF62A3b609 - C000A	
			教育の方法及び技術		1	DF62B3a610 - C000A	
			生徒指導論		2	DF62A3b611 - C000A	
			教育相談		2	DF62B3a612 - C000A	
			事前・事後指導		1	DF62C3d613 - C000A	
			栄養教育実習		1	DF62C4a614 - C000A	
			教職実践演習(栄養教諭)		2	DF62C4b615 - C000A	
		小計	0	20			

大分野	中分野	授業科目	必修	選択	計	担当教員	職名	掲載頁	備考			
ヒューマン・サービス科目	生活系科目	デジタル生活論	8	4	2	2	前田 博美	教授(兼)	I-1			
		消費者行動論			2	2	島 浩二	教授(兼)	I-5			
		日本国憲法			2	2	近 勝彦	教授(兼)	I-8			
	高梁川流域事業科目	地域活性化論		4	2	2	川神 裕司	教授(兼)	I-11			
		高梁川流域圏の活性化(倉敷市連携授業)			2	2	尾崎 聡	教授(兼)	I-14			
		高梁川流域圏の活性化と気候(倉敷市連携授業)			4	4	尾崎 聡	教授(兼)	I-19			
フードマネジメント科目	デジタル系科目	ICTリテラシーⅠ	20	8	2	2	小松 正直	講師	I-27			
		ICTリテラシーⅡ			2	2	小松 正直	講師	I-30			
		プログラミング			2	2	小松 正直	講師	I-33			
		データサイエンスⅠ			2	2	小松 正直	講師	I-36			
		データサイエンスⅡ			2	2	小松 正直	講師	I-39			
		データエンジニアリング			2	2	西堀 俊明	教授(兼)	I-42			
	数理系科目	応用数学(食とビジネス)		4	2	2	小松 正直	講師	I-45			
		情報数学Ⅰ(統計学)			2	2	小松 正直	講師	I-48			
		情報数学Ⅱ(線形代数・微分積分)			2	2	小松 正直	講師	I-51			
	キャリア実践科目	クリエイティブエコマ(ファン)の理解		8	2	2	近 勝彦	教授(兼)	I-54			
		クラウドファンディングの理論と実践			2	2	中島 晋	教授(兼)	I-58			
		食とベンチャービジネス			2	2	島 浩二	教授(兼)	I-61			
		フード・ビジネス経営			2	2	島 浩二	教授(兼)	I-64			
		フードテックと実践			2	2	島 浩二	教授(兼)	I-67			
		コンテンツビジネス			2	2	吉田 博高	教授(兼)	I-70			
		食環境戦略イニシアチブⅠ			2	2	氏峰栞里 堀口のぞみ		I-73	オムニバス		
		食環境戦略イニシアチブⅡ			2	2	氏峰栞里 堀口のぞみ		I-77	オムニバス		
	管理栄養士国家試験専門基礎分野集中ゼミ	4		4	学科教員				未掲載			
	デジタル生活コミュニケーション力科目	外国語科目		英語Ⅰ	2	2	2	2	花田 春香	講師	I-82	
				英語Ⅱ			2	2	花田 春香	講師	I-87	
コミュニケーション科目		体育理論	6	4	1	1	吉田 升	准教授(兼)	I-91			
		体育実技			1	1	吉田 升	准教授(兼)	I-93			
		プレゼンテーション			2	2	前田 博美	教授(兼)	I-96			
		教学マネジメント			2	2	平野 聡	准教授	I-98			
		キャリアガイダンス(フードビジネス入団)			2	2	松永 和美	教授(兼)	I-101			
		キャリアガイダンス(管理栄養士)			2	2	平野 聡	准教授	I-104			

令和7年度教育計画							
科目名	デジタル生活論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	前田博美
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : hmaeda@owc.ac.jp、OH:火・木 10:00～13:00							
教育目標	<p>教育目標：</p> <p>ITおよびICTが生活に密着しているという側面から暮らしを学びます。コンピュータやネットワーク、情報家電などのデジタル技術を駆使して送る生活について検証していきます。生活がデジタル化することでのメリットやデメリット、また、これからのデジタル化について考察します。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>毎回、前回の短い復習をしたあとに、今回の講義をする。最後に短いまとめをおこないます。また、毎回、小課題を出しますので、真剣に講義を聴くこと。</p>					
	予習・復習	<p>予習事項：次回予告を授業終わりにするので、自分なりの情報収集をしてから授業にも臨むこと。(45分)</p> <p>復習事項：習った個所を毎回講義後に復習をすること。(45分)</p>					
	テキスト	<p>毎回の授業で使用するパワーポイントを授業後にPDFで配信します。</p>					
学習評価の方法	<p>毎回の小テスト (40) 点</p> <p>最終テスト (60) 点</p>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <p>未来を実装する——テクノロジーで社会を変革する4つの原則 馬田隆明 (著)</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション（本講義の全体像と目標をしめす）</p> <p>復習：GAFAMについて</p> <p>次週の予習：身近なデジタル生活家電について調べて見よう。</p>
2 回	<p>タイトル：デジタル生活とは</p> <p>内容：言葉の違いを理解していこう</p> <p>    身近なITの例は？デジタル化とオンライン化の違いは？</p> <p>    DX化とは？デジタル化とDX化の違いは何ですか？</p> <p>検討内容：「こんなものがあつたらいいな」を考えてみる。</p> <p>復習：IT産業に関わる言葉の違いを整理しておこう。</p> <p>次週の予習：ブレインストーミングとKJ法について調べておこう。</p>
3 回	<p>タイトル：デジタル技術を活用した身近な例</p> <p>内容：日常生活でデジタル化の例は？</p> <p>    デジタルを学ぶ理由は何ですか？</p> <p>    デジタル技術の最新事例を知る</p> <p>検討内容：「デジタル技術の進化について」どのように思うかを考える</p> <p>復習：デジタルを学ぶと何がメリットでデメリットなのかをまとめ直しておこう。</p> <p>次週の予習：デジタル社会について自分で調べてまとめておきましょう。</p>
4 回	<p>タイトル：なぜデジタル化が必要なのか？</p> <p>内容：情報化社会で何が変わったのかを考えてみる</p> <p>    デジタル化の反対は？</p> <p>    デジタル生活の年表を知る</p> <p>検討内容：「デジタルを学ぶ理由は何ですか？」</p> <p>復習：何のためにデジタル生活論を学んでいるのか、自分なりの意見を整理しておきましょう。</p> <p>次週の予習：デジタルが世の中にもたらした様々なものを今週の年表から考えてまとめておきましょう。</p>
5 回	<p>タイトル：デジタル化が生活にもたらす影響は？</p> <p>内容：現状、日々の生活で使用しているデジタル化されたものを上げてみる</p> <p>    それらのおかげで便利になったこと</p> <p>    デジタル化がもたらした恩恵について</p> <p>検討内容：デジタル生活を実際にしていることを改めて確認する</p> <p>復習：自分たちの生活から離れて、世界的に、便利になったことをまとめておきましょう。</p> <p>次週の予習：デジタル化って？もう少し身近なところから社会で実装されているものまで調べてみましょう。</p>

6 回	<p>タイトル：デジタル化には何種類ありますか？</p> <p>内容：身近なところから社会で実装されているデジタル化を知る  デジタルイゼーション  デジタルライゼーション  デジタルトランスフォーメーション</p> <p>検討内容：この中でも身近なデジタル化についての理解を深める</p> <p>復習：デジタル化を整理して、身近なところから社会で実装されているものまで、今日習った言葉で整理し直しておきましょう。</p> <p>次週の予習：世界のデジタル化について、デジタル先進国はどこなのか。ランキング 30 位まで調べてくる。</p>
7 回	<p>タイトル：世界一のデジタル国家はどこですか？</p> <p>内容：デジタル化が進んでいる国を調べて見よう  世界のデジタル生活を見てみよう  日本にはない技術革新を知る</p> <p>検討内容：「自分たちの生活にも取り入れたいデジタル生活は？」</p> <p>復習：日本の位置づけと日本にはまだない世界のデジタル化についてまとめておきましょう。</p> <p>次週の予習：日本は、なぜ、世界に比べて出来たか遅れてきたのか調べておきましょう。</p>
8 回	<p>タイトル：日本はなぜデジタル化が進まないのでしょうか？</p> <p>内容：日本のデジタル化は世界で何位か？  日本の IT 業界はなぜ弱いのか  デジタル化の遅れによるデメリットは？</p> <p>検討内容：「なぜ日本はデジタル化が遅れているのか」を考える</p> <p>復習：日本のデジタル化が遅れている理由を自分なりにまとめておく。</p> <p>次週の予習：デジタル化が進むと 50 年後にはどんな世界がやってくるのか、様々な方向から想像して、まとめておきましょう。</p>
9 回	<p>タイトル：デジタル化によるメリットは？</p> <p>内容：デジタル化が進むとどうなる？①  デジタル時代とは？  メリットがもたらすことが？（個人と社会）</p> <p>検討内容：「自分自身の生活に起こったデジタル化のメリット」について考える</p> <p>復習：デジタル化が進んだ未来の状態を個人と社会に分けて。整理しておきましょう。</p> <p>次週の予習：デジタル社会の問題点について、海外も含めて、最近のニュースを最低 3 つ S らべて来ること。</p>
10 回	<p>タイトル：デジタル化の欠点は？</p> <p>内容：デジタル化が進むとどうなる？②  デジタル社会の問題点は何ですか？  メリットとデメリットを比較してみる</p> <p>検討内容：「我々の生活は本当に潤ったのか？」について考える</p> <p>復習：デジタル社会で実際に起きている問題から解決法はあるかをまとめておく</p> <p>次週の予習：DXについて、言葉の意味と何をする事なのかを調べておく。</p>

<p>11 回</p>	<p>タイトル：デジタル生活と DX                  内容：今のデジタル化生活と社会でのデジタル化の関連について                      DX とは？社会人に会ったら出会うデジタル化                      社会に出てもデジタル化は必須                  検討内容：「今後のデジタル化の波に遅れないようにする」にはを考えてみる                  復習：DXについて 400 文字くらい（原稿用紙 1 枚程度）にまとめておく。                  次週の予習：情報弱者について考える。なぜ、情報弱者となるのか。</p>
<p>12 回</p>	<p>タイトル：デジタル難民とは？                  内容：情報弱者になりやすい人は？                      デジタルデバイド（情報格差）について考える                      情報弱者はなぜ生まれるのか                  検討内容：「デジタル難民を減らすためにはどうすれば良いのか」を考える                  復習：情報格差はなぜ生まれるのか。情報弱者とならないためにはどうすれば良いかをまとめておく。                  次週の予習：人に優しいデジタル化とは何かを自分なりに調べてまとめておく。</p>
<p>13 回</p>	<p>タイトル：人に優しいデジタル化とは？                  内容：「人に優しい」とはどういうことか。                      なぜ高齢者はデジタルが苦手なのでしょう？                      デジタル化が子どもに与える影響は？                  検討内容：「人に優しいデジタル化とは何か」を考える                  復習：「人に優しいデジタル化」とは何かについてまとめておく。                  次週の予習：2050 年の世界におけるデジタルの進化について想像してまとめておく。</p>
<p>14 回</p>	<p>タイトル：デジタル化が進むとどうなる？                  内容：未来のデジタル化について考える                      デジタルで勉強するメリットは？                      デジタル化により目指す社会                  検討内容：「よりよい 2050 年を創造してみる」                  復習：よりよい 2050 年にするために、我々でも出来ることを整理しておきましょう。                  次週の予習：総復習に備えて、今まで復習でまとめたものを整理しておく。</p>
<p>15 回</p>	<p>これまでの総括や総復習をする                  （ここで、試験範囲に関する復習もします。）</p>

令和7年度教育計画							
科目名	消費者行動論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	島 浩二
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) :							
教育目標	教育目標：自己の消費者としての行動に理解を深めるとともに、製品やサービスを提供する立場に立ったときに、効果的なマーケティング戦略を考える力を身に付ける。						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>毎回、最初に、前回の短い復習の後、今回の講義を行う。最後に短いまとめをおこなう。また、適宜、グループワーク、レポート課題を実施するので、講義に積極的に参加すること。</p>					
	予習・復習	<p>予習事項：講義の終わりに、来週の講義内容を予告するので、指定された箇所をきちんと読んでおくこと。(45分)</p> <p>復習事項：既習部分を含む習った箇所を毎回講義後に復習をすること (45分)</p>					
	テキスト	適宜用意する。					
学習評価の方法	<p>小テスト (15) 点</p> <p>授業態度・レポート (35) 点</p> <p>期末テスト (50) 点</p>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <p>外食における消費者行動の研究 (創成社)</p> <p>田中洋『消費者行動論』、中央経済社、2015年</p> <p>松井 剛、西川 英彦 (編集) 「1からの消費者行動」(第2版) 2020年</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション（本講義の全体像と目標をしめす）
2 回	タイトル：市場における消費者の位置づけ 内容：市場とは 消費者、消費者行動とは 消費者心理とは 検討内容：「市場をめぐる情報の非対称性」
3 回	タイトル：消費者の購買意思決定プロセス① 内容：購買意思決定過程とは 情報と購買意思決定 購買意思決定モデル 検討内容：「消費者行動とマーケティング」
4 回	タイトル：消費者の購買意思決定プロセス② 内容：問題認知とは 消費者欲求と動機付け 情報化社会における購買の動機付けの特徴 検討内容：「消費者行動と心理学」
5 回	タイトル：消費者の購買意思決定プロセス③ 内容：情報探索とは インターネット時代における情報探索 情報化社会における情報源 検討内容：「消費者行動と情報経済学」
6 回	タイトル：消費者の購買意思決定プロセス④ 内容：代替品の評価とは マーケティングにおける代替品 収集した情報とニーズとの合致 検討内容：「消費者行動と行動経済学」
7 回	タイトル：消費者の購買意思決定プロセス⑤ 内容：購買決定とは 購買決定要因 購買決定と消費者行動 検討内容：「消費者行動と行動経済学」

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	タイトル：消費者の購買意思決定プロセス⑥ 内容：購買後の行動とは 期待と評価からなる満足度 評価とロイヤリティ、ブランドへの態度 検討内容：「消費者行動と評価」
9 回	タイトル：消費者の購買意思決定プロセス⑦ 内容：インターネット時代における購買後の行動 クチコミの投稿 デジタル情報の発信 検討内容：「消費者行動と情報発信」
10 回	タイトル：消費者の購買意思決定プロセス⑧ 内容：マーケティング活動 マーケティングにおける情報活用 企業側視点の購買意思決定プロ 検討内容：「消費者行動とマーケティング」
11 回	タイトル：消費者行動の特性 内容：心理的特性 行動的特性 アンケート調査によるセグメント（分類） 検討内容：「消費者行動と分析」
12 回	タイトル：消費者行動の特性 内容：準拠集団 文化 ライフスタイル 検討内容：「消費者行動と影響要因」
13 回	タイトル：マーケティングの実践 内容：市場調査 消費者調査 ターゲティングとポジショニング 検討内容：「消費者行動とマーケティング」
14 回	タイトル：消費者行動の背景 内容：法令順守 情報開示 安全・安心の担保 検討内容：「消費者行動と影響要因」
15 回	総括及び総復習

令和7年度教育計画							
科目名	日本国憲法	授業回数	15	単位数	2	担当教員	近 勝彦
質問受付：毎月水曜日午後4時10分—午後5時		e-mail： dark-blue@star.nifty.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：憲法は、日本法の「最高法規である（98条）」であり、いわば、法の頂点に位置している。この観念は、近代市民革命の頃から現れたことからしても、国民の基本的な人権を擁護し、国家の統治権力に制限を課したものであるといえる。この見方は、日本国憲法の構成にもみてとれる。すなわち、きわめて大きくその内容を分けると、国民の「基本的人権の保障」と「統治機構とその権能」について書かれているのである。まずは、憲法の基本的概念とその意義および基礎理論を理解する必要がある。</p> <p>学生の学習成果：栄養士は、日本国民の健康で安全な食生活の維持や公衆衛生にかかわっている（25条の生存権と公衆衛生の維持にかかわる）。また、その活動には、様々な法律が関わっているが、まずは基礎的な法概念や法知識を学ぶことが必要である。そのうえで、個別事件の判例の理解や法律解釈がおこなえる応用力の獲得を成果と考える。普遍的能力としては、受講者の適正なリーガルマインド（法的精神・思考）を高めることを目指す。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>（講義・演習・実験・実習・実技）</p> <p>日本国憲法の基本的な考え方や内容を知る必要がある。そのためには、憲法の主要な条文をやはり読む必要がある。しかし、法学部の学生ではないので、精緻な条文の暗記や解釈というよりは、現代に起きている法律問題の解決のために、憲法がどのように機能しているのかという視点で講義を進める。そこで、最低限度の条文の解釈を試みた後に、主要な憲法事件（判例）を取り上げて、丁寧に講義していくことにする。また、公務員試験や民間会社の社会科学系の一般知識試験としてもよく出題されるので、内容を網羅するように授業を進めたい。毎回の講義の終了時に、「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を求める。次回の講義時に、質問等の回答を記入して返却する。これによって、各々の学習進行状況を確認しながら講義を進める。</p>					
	予習・復習	<p>各回の予習・復習の時間はそれぞれ90分、あるいは合計180分。</p> <p>予習としては、次回の章をきちんと読んでくる。この場合、講義相当分を読んでくる（90分程度）。または、各章には複数の課題があるので、それを各自が考えておくこと。この各課題によって、各章の理解度が格段に深まる。復習にもこの課題を解いてくる（90分）。「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。</p>					
	テキスト	<p>拙著『日本国憲法講義ノート改訂版』（小野高速印刷）</p> <p>補足資料は、適宜、配布する</p>					
学習評価の方法	<p>憲法の基本的な理解の習得を目指す。さらには、主要な条文の概念や法用語を習得する。なお、講義の期間中に、憲法全文を読んでいく（上記テキストの中にも出ている）。なお、評価方法としては、期末試験(70%)、レポート(20%)、発言(10%)。レポートの課題としても、講義ノートの課題を利用する。質問は、適宜、毎時間実施する。</p>						
注意事項	<p>憲法は、公法であり、最高法規なので、最初は法学概念や用語に誰しもが戸惑うが、学習が進むにしたがって、徐々に慣れてくるので、あまり心配しなくてもよい。質問等があるときは、講義終了時か、上記メールアドレスに送ってください。必ず回答いたします。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション：憲法を学ぶ意義と基本的な考え方 法となにかを考える 人のリーガルマインドと感覚の差の意味
2 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：憲法の歴史と各国の憲法の歴史について 基本的人権獲得の歴史</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読んでおく</li> <li>・復習事項および課題：「日本国憲法はいかなる淵源をもっているか」</li> </ul>
3 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：人権とは 人権の主体とその制限</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「マククリーン事件」</li> </ul>
4 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：法の下での平等について 実質的平等とは何かを学ぶ</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「尊属殺重刑違憲判決」</li> </ul>
5 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：思想・良心の自由について 精神的自由の内容とその制約</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「三菱樹脂事件」</li> </ul>
6 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：宗教の自由について 宗教活動の意義と課題</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「政教分離の意義と課題」</li> </ul>
7 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：表現の自由について 権利の侵害と自由</li> <li>・予習内容：時間の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「名誉毀損と表現の自由」</li> </ul>
8 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：社会権について 生存権の本質と現代的意義</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「社会保障と労働者の権利」</li> </ul>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：経済的自由について 二重の基準の理論</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「所得格差と公平性」</li> </ul>
10 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：平和憲法と国際社会について 国際社会の危機と国家の安全</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「平和主義と現実国際社会の課題」</li> </ul>
11 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：国会について 国権の最高機関性と権能</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「法律を作る過程」</li> </ul>
12 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：裁判所について 違憲立法審査権</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「訴訟とそのプロセス」</li> </ul>
13 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：内閣について</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「内閣制度と大統領制」</li> </ul>
14 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容：地方自治体について</li> <li>・予習内容：次回の箇所を読む</li> <li>・復習事項および課題：「自治体の意義と道州制」</li> </ul>
15 回	<p>講義内容：憲法改正と環境権を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復習事項および課題：「憲法改正の諸課題」 1回から15回の総復習</li> </ul>

令和7年度教育計画							
科目名	地域活性化論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	川神 裕司
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>地方の衰退の流れに抗い、地域を活性化し、明るい未来を築くべく、全国各地で様々な人々が多様な活動を展開している。本講義では、実際に地域を活性化させている具体的な事例を学ぶ。また、具体的な地域活性化事例を通し、その成功のポイントならびに実践活動の概念、実態、取り組み方を学ぶ。</p> <p>本授業では、日本の中小都市の地域の活性化を街づくりの総合的な面から考える。とくに、島根県石見地域のなかでの地域の活性化に向けた試みを論じる。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果：デジタル生活に係る地域の活性化を図る方法を学び、地域で活躍するための地域課題解決人材になるために必要な能力を修める。</p> <p>汎用的学習成果：デジタル生活に係る地域の活性化を図る方法を学び、論理的思考力を修得する。</p>						
	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>毎回、前回の短い復習をしたあとに、今回の講義をする。最後に短いまとめをおこなう。また、適宜、質疑応答をするので、真剣に講義を聴くこと。</p>					
教育方法	予習・復習	<p>予習事項：次回の講義の終わりに、来週の講義内容を予告するので、指定された章(箇所)をきちんと読んでおくこと。</p> <p>復習事項：習った箇所を毎回講義後に復習をすること</p>					
	テキスト	適宜					
学習評価の方法	<p>小テスト (40) 点</p> <p>授業態度 (20) 点</p> <p>期末テスト (40) 点</p>						
注意事項	<p>様々な事例を紹介する資料を配布するのでよく読んでおくこと。</p> <p>また、地域社会の様々な記事をよく読んでおくこと</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション（地域活性化はなぜ必要か）</p> <p>予習：地域活性化とはなにか調査すること</p> <p>復習：地域活性化の目的と意義について1000字以内でまとめておくこと</p>
2 回	<p>第2回 地方の社会経済問題を総合的に把握する</p> <p>予習：社会経済問題の種類を整理し各種類について説明できるようにすること</p> <p>復習：グラフ理論を用いて社会経済問題の問題の整理をすること</p>
3 回	<p>第3回 地域の人口減少問題をみんなで考えてみよう。なぜ減るのか。なぜ、小さい地域ほど減るのか。</p> <p>予習：ドーナツ化現象を具体的に説明できるようにすること</p> <p>復習：人口減少問題と地域コミュニティとの関係性を説明できるようにすること</p>
4 回	<p>第4回 少子化問題を考える。少子化はなぜ問題か。一緒に考えよう。</p> <p>予習：文科省の関係資料を使って少子化問題を整理すること</p> <p>復習：少子化の解消方策をブレインストーミング法とKJ法で整理すること（2回目の内容の復習の深化が重要である。）</p>
5 回	<p>第5回 高齢化は地域に何をもちたらずのか。周りの生活から考えよう。</p> <p>予習：社会増と自然増の違いについて整理すること</p> <p>復習：地域の高齢化に係る解決方策を整理すること</p>
6 回	<p>第6回 地域活性化対策が功を奏さない理由はなんだろうか。</p> <p>予習：理想（地域活性化対策（第2回～第5回の復習内容））と現実（少子高齢化が進行する）のギャップを整理しておくこと</p> <p>復習：地域活性化を図るための経営資源を整理すること</p>
7 回	<p>第7回 島根県石見部の特徴と地域活性とは</p> <p>予習：中国地方の5県の概要、島根県の強みと弱み（人口減少問題を除く）を調査すること</p> <p>復習：島根県の地域活性化と島根県石見部の強みの相乗効果を考えてみよう</p>

8 回	<p>第8回 地域産業をどうするのか。バージョンはうまくいくのか。  予習：島根県の地域産業と政治との関わりを整理すること  復習：島根県の世界遺産登録は地域活性化につながるのか考えてみよう</p>
9 回	<p>第9回 農林水産業やエネルギー問題を考える。  予習：農林水産と再生可能エネルギーとの関係性を調べておくこと  復習：再生可能エネルギーについての考察を小レポートで提出すること</p>
10 回	<p>第10回 自然資本は、新しい国富の中心となるのか。  予習：第9回目の復習から自然資本を1つだけ抽出しメリットとデメリットを考えておくこと  復習：再生可能エネルギーについて小グループでディスカッションしておくこと</p>
11 回	<p>第11回 文化資本としての世界遺産の価値を考える。石見銀山の事例から。  予習：石見銀山の事例を用いて、世界遺産としての価値を考えておくこと（好循環サイクル？負のサイクル？）  復習：石見銀山の事例と富岡製糸場の事例で似ているところを調べておくこと</p>
12 回	<p>第12回 石見神楽を通じた地域おこし  予習：石見神楽以外の日本文化に係る神楽の種類を調べておくこと  復習：神楽と地域おこし、そこから生み出す新たな価値とはなにか考えておくこと</p>
13 回	<p>第13回 石見神楽をデジタルコンテンツで世界に発信する  予習：日本文化とデジタルコンテンツの関係ニュースを調べておくこと  復習：新たな価値を生み出す手法としてデジタルコンテンツの活用法について考えておくこと</p>
14 回	<p>第14回 歴史と文化伝統を守り地域のアイデンティティを高める  予習：伝統（日本文化、地域のアイデンティティ）と革新（新たな価値）について調べておくこと  復習：デジタルコンテンツを使わない新たな価値を生み出す手法を考えてみよう</p>
15 回	<p>第15回 地域活性化のまとめ  予習：第1回～14回までのキーワードを整理しよう  復習：履修生の考える地域活性手法を整理しておくこと</p>

令和7年度教育計画

科目名	高梁川流域圏の活性化	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎聡
-----	------------	------	----	-----	---	------	-----

質問受付の方法：[電子メールであれば vladdracul0824@yahoo.co.jp](mailto:vladdracul0824@yahoo.co.jp) までタイトルに学生番号と氏名を書いて質問のこと。口頭であれば毎週土曜日、12:20~17:00 をオフィスアワーをひらくので、メールにて予約の上、尾崎研究室 (B308) を訪ねてくること。

教育目標と学生の学習成果	<p><b>【教育目標】</b></p> <p>① 学園全体における今後の人材養成目標のひとつである「高梁川流域圏においても活躍可能な人材」となるために以下の学びを身につける。</p> <p>② 大学の立地する倉敷市を含む7市3町からなる「高梁川流域圏」の全体及び各地域の位置・立地、それらの歴史・文化・産業・生活などについて、概要と特色を理解する。学科の学びの特色を考慮して食文化についても学ぶ。</p> <p>③ ②をもとに高梁川流域圏の各市町のそれぞれの地域の抱える課題を考察する。また課題解決の方策を考察する。</p> <p>④ ②③から地域社会の過去を振り返り、現在を考察し、未来を展望する力を身につける</p> <p>(付記)</p> <p>高梁川流域圏とは、岡山県西部を流れる一級河川「高梁川」沿いおよび水利関係で結びついている地域で、10の市町(7市3町)で構成されている。7市3町とは倉敷市を中心に北へ総社市・高梁市・新見市、北西へ矢掛町・井原市、西へ浅口市・里庄町・笠岡市、東へ早島町である。</p> <p>圏域の特徴は、北から中国山地・吉備高原・南部平野・丘陵地帯・瀬戸内海岸地帯・島嶼部まで個性的なエリアが広がっていることである。具体的には地形・気候などの自然的なもの、人々の生活・産業などの社会的なもの、歴史・文化・住民の気質など人文的なものまでが地域ごとに複雑に絡み合っていることである。人と人のつながりなどコミュニティーという視点から見ると「備中国」の時代より1千年以上を経ても地域間の強いつながりが引き継がれており、今も地域の総合力をもって圏域全体の経済成長することを目標にしている。</p> <p>圏域の抱える課題の大きな背景は人口減少・少子高齢化とそれへの対応であり、かつての中山間地域特有と言われた諸問題が、今や南部平野の都市部にまで広がっている。課題への具体的な取り組みの方向性は、地域の活性化につながる様々な方策の研究、商工観光業から農林水産業まですべてを巻き込んだ分野での連携などである。</p>
	<p><b>【学生の学習成果】</b></p> <p>専門的学習成果： 自分の住んでいる地域だけでなく、日本各地の様々な地域の歴史・文化・生活・産業などについて考察と展望ができるような教養を身につけること。</p> <p>汎用的学習成果： 郷土に関心を持ち、それを愛情にまで高めることのできる人間になること。</p>

教育方法	授業の進め方	講義ではあるが、対話を取り入れて、受講生一人ひとりの関心や理解を確かめながら進める。
	予習・復習	大学設置基準第21条中の「1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」により予習・復習を義務付ける。「1単位45時間の計算による。この授業は2単位なので授業90分(2時間として計算)×15回=30時間、予習90分(2時間として計算)×15回=30時間、復習90分×15回=30時間、総計90時間を要する。
	テキスト	特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。
学習評価の方法	<p><b>【達成基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高梁川流域圏の各市町の各地域における歴史・文化・生活・産業などについて、その概要と特色について理解している。(筆記試験の50%)</li> <li>・郷土や地域に関する関心や愛情が芽生えていること。自分が生まれ育った地域、青春時代に過ごした地域、大人になって働くことになる地域、家族を作って生きることになる地域、終の棲家になる地域、友人の住んでいる地域、すべての地域に関する関心が芽生えている。(筆記試験の50%)</li> </ul> <p>以上を筆記試験において証明すること。</p> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的学習成果 筆記試験：授業に出てきた用語や事例の説明を課する(70%) シャトルカード：授業領域等への興味・関心、理解、コミュニケーション力について評価に入れる(30%)</li> <li>・汎用的学習成果 授業態度を評価する。但し、半期における人間的成長についても配慮する。</li> </ul>	
注意事項	参考図書は古今東西の名著から折に触れて指示する	
授 業 回 数 別 教 育 内 容		
1回	<p>■ガイダンス 教育目標、教育方法、単位認定、半期の講義計画について予告し、受講者と合意する。</p> <p>■講義内容と目標 高梁川流域圏全体の「概要」(各市町の面積、人口、自然、歴史、文化、産業など)について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った地域の「概要」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「概要」について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>	

2 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「位置・自然・地勢」（北は新見市、南は倉敷市、東は早島町、西は笠岡市。瀬戸内海と山・丘陵と高梁川と平野・干拓地）について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「位置・自然・地勢」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「位置・自然・地勢」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>
3 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の各市町の「名所」（名勝・旧蹟から“聖地”や隠れ家的名所まで）について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「名所」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「名所」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>
4 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「名産品」（農林水産物：マスカット、白桃など果物関係、タコ、マカリ、ガラエビなど小魚関係、手工芸品：イグサ、畳表、ゴザ、緞通など敷物関係）について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「名産品」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「名産品」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>
5 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「文化芸術施設」（について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「文化芸術施設」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「文化芸術施設」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>
6 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「文化財」について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「文化財」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「文化財」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>

7 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「衣食住“食道楽”編」について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「衣食住“食道楽”編」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「衣食住“食道楽”編」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>
8 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「衣食住“住まい”編」について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「衣食住“住まい”編」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「衣食住“住まい”編」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>
9 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「歴史文化とくらし」（村の生活・町的生活など）について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「歴史文化とくらし」（村の生活）についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「歴史文化とくらし」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>
10 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「歴史文化とくらし」（街道や川筋の生活・高梁川流域の生活）について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「歴史文化とくらし」（街道や川べりの生活）についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「歴史文化とくらし」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>
11 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「歴史文化とくらし」（海辺の生活・瀬戸内海の港町や漁村の生活）について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「歴史文化とくらし」（海辺の生活・港町や漁村の生活）についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「歴史文化とくらし」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>

12 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「災害の歴史と暮らし」（高梁川の巨大堤防、完全水没しない“水屋”構造の家々、大学周辺の古い農家）について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「災害の歴史と暮らし」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「災害の歴史と暮らし」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>
13 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「経済と産業 繊維編」（綿花、足袋、学生服、スポーツウェア、帆布、ジーンズ、国産ジーンズ第1号など）について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「経済と産業 繊維など軽工業」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「経済と産業 繊維編」について、授業シートの予習復習欄に書く</p>
14 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「経済と産業 “水島工業地帯”編」（戦後は三菱ランサー、戦前は一式陸攻、日本一の工場夜景）について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「経済と産業 機械・鉄鋼・造船など重工業」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「経済と産業 水島編」（三菱ランサー、一式陸攻、日本一の工場夜景）について、授業シートの予習復習欄に書く</p>
15 回	<p>■講義内容と目標 高梁川流域圏の各市町の「祭りと暮らし」（茶屋町の鬼、児島のだんじり、玉島の神輿、倉敷の素隠居など）について知る。</p> <p>■予習 自分の生まれ育った町や村の「祭り」についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 高梁川流域圏の各市町の「祭りと暮らし」について、授業シートの予習復習欄に書く</p> <p>■まとめとテストについて</p>

令和7年度教育計画							
科目名	高梁川流域圏の活性化と実践	授業回数	30	単位数	4	担当教員	尾崎聡
<p>質問受付の方法：<a href="mailto:vladdracul0824@yahoo.co.jp">電子メールであれば vladdracul0824@yahoo.co.jp</a> までタイトルに学生番号と氏名を書いて質問のこと。口頭であれば毎週土曜日、12：20～17：00 においてオフィスアワーを開催するので、メールにて予約の上、尾崎研究室（B308）を訪ねてくること。</p>							
教育目標と学生の学習成果	<p><b>【教育目標】</b></p> <p>① 学園全体における今後の人材養成目標のひとつである「高梁川流域圏においても活躍可能な人材」となるために以下の学びを身につける。</p> <p>② 講義科目「高梁川流域圏の活性化」で学んだ、大学の立地する倉敷市を含む7市3町からなる「高梁川流域圏」の全体及び各地域の位置・立地、それらの歴史・文化・産業・生活などの概要と特色、学科の学びに関係する食文化、をもとに「地域課題と解決への方策」について学ぶ。</p> <p>③ 高梁川流域圏の各市町をフィールドワークすることによって地域の抱える課題をリアルに感じる。また課題解決の方策を考察する。</p> <p>④ ②③から地域社会の過去を振り返り、現在を考察し、未来を展望する力を身につける</p> <p>(付記)</p> <p>高梁川流域圏とは、岡山県西部を流れる一級河川「高梁川」沿いおよび水利関係で結びついている地域で、10の市町（7市3町）で構成されている。7市3町とは倉敷市を中心に北へ総社市・高梁市・新見市、北西へ矢掛町・井原市、西へ浅口市・里庄町・笠岡市、東へ早島町である。</p> <p>圏域の特徴は、北から中国山地・吉備高原・南部平野・丘陵地帯・瀬戸内海岸地帯・島嶼部まで個性的なエリアが広がっていることである。具体的には地形・気候などの自然的なもの、人々の生活・産業などの社会的なもの、歴史・文化・住民の気質など人文的なものまでが地域ごとに複雑に絡み合っていることである。人と人のつながりなどコミュニティーという視点から見ると「備中国」の時代より1千年以上を経ても地域間の強いつながりが引き継がれており、今も地域の総合力をもって圏域全体の経済成長することを目標にしている。</p> <p>圏域の抱える課題の大きな背景は人口減少・少子高齢化とそれへの対応であり、かつての中山間地域特有と言われた諸問題が、今や南部平野の都市部にまで広がっている。課題への具体的な取り組みの方向性は、地域の活性化につながる様々な方策の研究、商工観光業から農林水産業まですべてを巻き込んだ分野での連携などである。</p>						
	<p><b>【学生の学習成果】</b></p> <p>専門的学習成果： 自分の住んでいる地域だけでなく、日本各地の様々な地域の歴史・文化・生活・産業などについて考察と展望に基づいて、地域課題と解決への方策を考えることができるような「知」を身につけること。</p> <p>汎用的学習成果： 郷土に関心を持ち、それを愛情にまで高めることのできる人間になること。</p>						

教 育 方 法	授業の進め方	演習であるので、実地フィールドワーク、D棟演習室を利用したリモートによる現地との対話、などを取り入れながら、生き生きとした学びを進める。
	予習・復習	大学設置基準第21条中の「1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」により予習・復習を義務付ける。
	テキスト	特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。
学 習 評 価 の 方 法	<p><b>【達成基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高梁川流域圏の各市町の各地域における歴史・文化・生活・産業などについて、その概要と特色の理解に加え、学科の学びに関係する食文化に関する知識が身につけていること。それをもとに「地域課題とその解決策」について考える力を有していること。(演習の50%)</li> <li>・郷土や地域に関する関心や愛情が芽生えていること。自分が生まれ育った地域、青春時代に過ごした地域、大人になって働くことになる地域、家族を作って生きることになる地域、終の棲家になる地域、友人の住んでいる地域、すべての地域に関する関心が芽生えていること。それに加えて学科の学びに関係する食文化、をもとに「地域課題とその解決策」について考える力を有していること。(演習の50%)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的学習成果 演習参加：演習への積極的参加度をルーブリックによって評価する(70%) シャトルカード：授業領域等への興味・関心、理解、コミュニケーション力について評価に入れる(30%)</li> <li>・汎用的学習成果 授業態度を評価する。但し、半期における人間的成長についても配慮する。</li> </ul>	
注 意 事 項	参考図書は古今東西の名著から折に触れて指示する	
授 業 回 数 別 教 育 内 容		

1 回	<p>■ガイダンス 教育目標、教育方法、単位認定、半期の講義計画について予告し、受講者と合意する。</p> <p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、倉敷市の抱える課題について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、倉敷市の抱える課題についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
2 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、倉敷市の抱える課題とその解決方策について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、倉敷市の抱える課題とその解決方策についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題とその解決方策について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
3 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、倉敷市をフィールドワークし、課題とその解決方策の実効性について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、倉敷市におけるフィールドワーク地についてネット等で調べ、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域におけるフィールドワーク地を想定して、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p>
4 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、総社市の抱える課題について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、総社市の抱える課題についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
5 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、総社市の抱える課題とその解決方策について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、総社市の抱える課題とその解決方策についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題とその解決方策について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>

6 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、総社市をフィールドワークし、課題とその解決策の実効性について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、総社市におけるフィールドワーク地についてネット等で調べ、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域におけるフィールドワーク地を想定して、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p>
7 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、高梁市の抱える課題について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、高梁市の抱える課題についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
8 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、高梁市の抱える課題とその解決策について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、高梁市の抱える課題とその解決策についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題とその解決策について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
9 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、高梁市をフィールドワークし、課題とその解決策の実効性について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、高梁市におけるフィールドワーク地についてネット等で調べ、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域におけるフィールドワーク地を想定して、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p>
10 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、新見市の抱える課題について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、新見市の抱える課題についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>

11 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、新見市の抱える課題とその解決方策について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、新見市の抱える課題とその解決方策についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題とその解決方策について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
12 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、新見市をフィールドワークし、課題とその解決方策の実効性について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、新見市におけるフィールドワーク地についてネット等で調べ、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域におけるフィールドワーク地を想定して、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p>
13 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、矢掛町の抱える課題について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、矢掛町の抱える課題についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
14 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、矢掛町の抱える課題とその解決方策について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、矢掛町の抱える課題とその解決方策についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題とその解決方策について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
15 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、矢掛町をフィールドワークし、課題とその解決方策の実効性について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、矢掛町におけるフィールドワーク地についてネット等で調べ、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域におけるフィールドワーク地を想定して、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p>

16 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、井原市の抱える課題について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、井原市の抱える課題についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
17 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、井原市の抱える課題とその解決方策について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、井原市の抱える課題とその解決方策についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題とその解決方策について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
18 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、井原市をフィールドワークし、課題とその解決方策の実効性について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、井原市におけるフィールドワーク地についてネット等で調べ、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域におけるフィールドワーク地を想定して、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p>
19 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、浅口市の抱える課題について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、浅口市の抱える課題についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
20 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、浅口市の抱える課題とその解決方策について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、浅口市の抱える課題とその解決方策についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題とその解決方策について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>

21 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、浅口市をフィールドワークし、課題とその解決策の実効性について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、浅口市におけるフィールドワーク地についてネット等で調べ、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域におけるフィールドワーク地を想定して、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p>
22 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、里庄町の抱える課題について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、里庄町の抱える課題についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
23 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、里庄町の抱える課題とその解決策について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、里庄町の抱える課題とその解決策についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題とその解決策について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
24 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、里庄町をフィールドワークし、課題とその解決策の実効性について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、里庄町におけるフィールドワーク地についてネット等で調べ、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域におけるフィールドワーク地を想定して、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p>
25 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、笠岡市の抱える課題について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、笠岡市の抱える課題についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>

26 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、笠岡市の抱える課題とその解決方策について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、笠岡市の抱える課題とその解決方策についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題とその解決方策について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
27 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、笠岡市をフィールドワークし、課題とその解決方策の実効性について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、笠岡市におけるフィールドワーク地についてネット等で調べ、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域におけるフィールドワーク地を想定して、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p>
28 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、早島町の抱える課題について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、早島町の抱える課題についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
29 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、早島町の抱える課題とその解決方策について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、早島町の抱える課題とその解決方策についてネット等で調べ、授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域の抱える課題とその解決方策について、授業シートの予習復習欄に書く。</p>
30 回	<p>■授業内容と目標 高梁川流域圏のうち、早島町をフィールドワークし、課題とその解決方策の実効性について考察する。</p> <p>■予習 高梁川流域圏のうち、早島町におけるフィールドワーク地についてネット等で調べ、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p> <p>■復習 自分の生まれ育った地域におけるフィールドワーク地を想定して、地域イメージ図を授業シートの予習復習欄に書く。</p>

令和7年度教育計画							
科目名	ICTリテラシーI	授業回数	15	単位数	2	担当教員	小松正直
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : komatsu@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり，世界のグローバル化や流動化など，日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために，下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの基本構成や仕組みについて説明できる。</li> <li>2. コンピュータでのデータの表現について説明できる。</li> <li>3. 様々な情報技術について仕組みや役割について説明できる。</li> <li>4. AI の基本や仕組みについて説明できる。</li> <li>5. 数理・データサイエンス・AI の基礎について説明できる。</li> </ol> <p>学生の学習成果：            数量的スキルを使って Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用することができる（基礎）</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方            (講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>パワーポイントと教科書，配付資料により授業を行う。適宜パソコンを用いた演習を行うことで講義内容の充実を図る。授業終了時にシャトルカードに質問・感想などの記述を求める。質問への返答等を通して学習理解状況を確認しながら授業内容をアレンジする。</p>	<p>予習・復習            予習事項：教科書を予習し，学習内容を把握する (90 分)。            復習事項：教科書・配付資料を基に学習内容を整理する (90 分)。</p>	<p>テキスト            noa 出版 (著・制作)，2024 年，『これだけは知っておこう！ 情報リテラシー 改訂第 5 版』，noa 出版。</p>			
学習評価の方法	<p>提出課題 (30 点)            定期試験 (70 点)</p>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 岡本敏雄 (監修)，2017 年，『改訂新版よくわかる情報リテラシー』，技術評論社。</li> <li>● 岡嶋裕史・吉田雅裕，2021 年，『はじめての AI リテラシー』，技術評論社</li> </ul>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス, 授業の進め方, 成績評価の確認</p> <p>数理・データサイエンス・AI 教育プログラムにおける科目の位置づけ</p> <p>Moodle 利用方法を身につける (ログイン, 課題提出等)</p> <p>復習内容: 配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
2 回	<p>コンピュータと情報 (データの表現) ①</p> <p>予習内容: 教科書を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
3 回	<p>コンピュータと情報 (データの表現) ②</p> <p>予習内容: 教科書を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
4 回	<p>情報技術の進歩 (Society5.0 と AI) ①</p> <p>予習内容: 教科書を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
5 回	<p>情報技術の進歩 (Society5.1 と AI) ②</p> <p>予習内容: 教科書を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
6 回	<p>ハードウェア① (パソコンの構成と役割)</p> <p>予習内容: 教科書を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
7 回	<p>ハードウェア② (入力と出力)</p> <p>予習内容: 教科書を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
8 回	<p>ソフトウェア① (OS とアプリ)</p> <p>予習内容: 教科書を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
9 回	<p>ソフトウェア② (プログラミングとアルゴリズム)</p> <p>予習内容: 教科書を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>

10 回	<p>ネットワークとインターネット</p> <p>予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
11 回	<p>インターネットを用いたコミュニケーション</p> <p>予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
12 回	<p>情報セキュリティ</p> <p>予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
13 回	<p>情報モラル</p> <p>予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
14 回	<p>AI 社会の情報モラル</p> <p>予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
15 回	<p>まとめ</p> <p>これまでの講義を振り返る</p> <p>予習内容：教科書・配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>

令和7年度教育計画							
科目名	ICTリテラシーII	授業回数	15	単位数	2	担当教員	小松正直
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : komatsu@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり，世界のグローバル化や流動化など，日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために，下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI の変遷について説明できる。</li> <li>2. AI の技術について説明できる。</li> <li>3. AI の社会への適用について説明できる。</li> <li>4. 数理・データサイエンス・AI の応用について説明できる。</li> </ol> <p>学生の学習成果： 数量的スキルを使って Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用することができる（応用）。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>パワーポイントと教科書，配付資料により授業を行う。適宜パソコンを用いた演習を行うことで講義内容の充実を図る。授業終了時にシャトルカードに質問・感想などの記述を求める。質問への返答等を通して学習理解状況を確認しながら授業内容をアレンジする。</p>	<p>予習・復習 予習事項：配付資料を予習し，学習内容を把握する (90 分)。 復習事項：配付資料を基に学習内容を整理する (90 分)。</p>	<p>テキスト 竹村影通・田中琢真・椎名洋・深谷良治 (編)，2024 年，『データサイエンス応用基礎』，学術図書出版社。</p>			
学習評価の方法	<p>課題提出 (30 点) 定期試験 (70 点)</p>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● noa 出版 (著・制作)，2024 年，『これだけは知っておこう！ 情報リテラシー 改訂第 5 版』，noa 出版。</li> <li>● 浅井宗海・譚奕飛・山口誠一・浅井拓海 (著)，2024 年，『ファーストステップ AI・データサイエンスの基礎』，近代科学社</li> <li>● 岡嶋裕史・吉田雅裕 (著)，2021 年，『はじめての AI リテラシー』，技術評論社</li> </ul> <p>【注意】 ICT リテラシーI を受講していることが望ましい。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス, 授業の進め方, 成績評価の確認</p> <p>数理・データサイエンス・AI 教育プログラムにおける科目の位置づけ</p> <p>Society5.0 と AI (ICT リテラシーI の復習) ①</p> <p>復習内容: 配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
2 回	<p>Society5.0 と AI (ICT リテラシーI の復習) ②</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
3 回	<p>AI の歴史</p> <p>予習内容: 教科書・配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
4 回	<p>AI と社会</p> <p>予習内容: 教科書・配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
5 回	<p>機械学習の基礎①</p> <p>予習内容: 教科書・配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
6 回	<p>機械学習の基礎②</p> <p>予習内容: 教科書・配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
7 回	<p>機械学習による予測・判断</p> <p>予習内容: 教科書・配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
8 回	<p>深層学習の基礎</p> <p>予習内容: 教科書・配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
9 回	<p>認識</p> <p>予習内容: 教科書・配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: 教科書・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>

10 回	<p>言語と知識</p> <p>予習内容：教科書・配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
11 回	<p>生成AIの基礎と展望①</p> <p>予習内容：教科書・配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
12 回	<p>生成AIの基礎と展望②</p> <p>予習内容：教科書・配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
13 回	<p>身体と運動</p> <p>予習内容：教科書・配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
14 回	<p>AIの構築・運用</p> <p>予習内容：教科書・配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
15 回	<p>まとめ</p> <p>これまでの学習内容を振り返る</p> <p>予習内容：教科書・配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>

令和7年度教育計画							
科目名	データサイエンス I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	小松正直
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : komatsu@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>AI の歴史, 技術, 社会への適用, ならびにデータの利活用を学び, Society5.0 におけるデータの新たな活用方法を修得する. そのため, 下記項目について修得することを到達時の目標とする.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文書の作成と編集ができる.</li> <li>2. 情報を活用することができる.</li> <li>3. プレゼンテーションの基本的な方法が身についている.</li> </ol> <p>学生の学習成果: 数量的スキルを使って Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用することができる (応用).</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>板書, パワーポイント, 教科書, 配付資料により授業を行う. 適宜パソコンを用いた演習を行うことで講義内容の充実を図る. 授業終了時にシャトルカードに質問・感想などの記述を求める. 質問への返答等を通して学習理解状況を確認しながら授業内容をアレンジする.</p>	<p>予習・復習</p> <p>予習事項: 教科書を予習し, 学習内容を把握する (90 分). 復習事項: 教科書・配付資料を基に学習内容を整理する (90 分).</p>	<p>テキスト</p> <p>杉本くみ子・大澤栄子 (著), 『30 時間アカデミック Office2021 Windows 11 対応』, 実教出版.</p>			
学習評価の方法	<p>小テスト (30 点) 課題 (70 点)</p>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 松山恵美子・黄海湘・八木英一郎・黒澤敦子・石野邦仁子・堀江郁美 (著), 2022 年, 『Office によるデータリテラシー～大学生のデータサイエンス～』, 共立出版</li> </ul>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス、授業の進め方、成績評価の確認</p> <p>数理・データサイエンス・AI 教育プログラムにおける科目の位置づけ</p> <p>Windows の基礎・使用方法</p> <p>予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。</p> <p>復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>Word の基礎・活用①</p> <p>予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。</p> <p>復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>Word の基礎・活用②</p> <p>予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。</p> <p>復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>Word の基礎・活用③</p> <p>予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。</p> <p>復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>Word の基礎・活用④</p> <p>予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。</p> <p>復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>Excel の基礎・活用①</p> <p>予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。</p> <p>復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>Excel の基礎・活用②</p> <p>予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。</p> <p>復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>Excel の基礎・活用③</p> <p>予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。</p> <p>復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。</p>
9 回	<p>Excel の基礎・活用④</p> <p>予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。</p> <p>復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。</p>

10 回	データベースの活用 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料を基に講義内容を復習する。
11 回	データサイエンスの基礎 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料を基に講義内容を復習する。
12 回	PowerPoint の基礎・活用① 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。
13 回	PowerPoint の基礎・活用② 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。
14 回	PowerPoint の基礎・活用③ 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。
15 回	まとめ これまでの学習内容を振り返る 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する。

令和7年度教育計画							
科目名	データサイエンス II	授業回数	15	単位数	2	担当教員	小松正直
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : komatsu@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>大学の専門科目において、観察、実験、調査、その他いろいろな方法によって得られたデータを整理し、分析する能力が要求される。そのため、下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数理・データサイエンス・AI における統計処理の基礎が身につく。</li> <li>2. 基本的な統計学や統計的知識について説明できる。</li> <li>3. データ処理や分析方法などの統計的スキルが身につく。</li> </ol> <p>学生の学習成果： 数量的スキルを使って Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用することができる (完成)。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>板書，パワーポイント，教科書，配付資料により授業を行う。適宜パソコンを用いた演習を行うことで講義内容の充実を図る。授業終了時にシャトルカードに質問・感想などの記述を求める。質問への返答等を通して学習理解状況を確認しながら授業内容をアレンジする。</p>	<p>予習・復習</p> <p>予習事項：教科書を予習し，学習内容を把握する (90 分)。 復習事項：教科書・配付資料を基に学習内容を整理する (90 分)。</p>	<p>テキスト</p> <p>相澤裕介，2019 年，『統計処理に使う Excel 2019 活用法—データ分析に使える Excel 実践テクニック—』，カットシステム。</p>			
学習評価の方法	<p>小テスト (50 点) 課題 (50 点)</p>						
注意事項	<p>データサイエンス I も履修することが望ましい。</p> <p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 武藤志真子 (監修)，2012 年，『管理栄養士・栄養士のための統計処理入門』，建帛社</li> <li>● 伊藤正義・伊藤公紀，2002 年，『わかりやすい数理統計の基礎』，森北出版</li> <li>● 岡嶋裕史・吉田雅裕，2021 年，『はじめての AI リテラシー』，技術評論社</li> <li>● 富士通エフ・オー・エム株式会社，2021 年，『学生のためのデータリテラシー～データの読み方から分析結果の伝え方まで～』，FOM 出版</li> </ul>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション シラバス、授業の進め方、成績評価の確認 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムにおける科目の位置づけ データサイエンス I の復習① 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>データサイエンス I の復習② 予習内容：教科書・配付資料を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>検定① 検定、帰無仮説と対立仮説、F 検定、等分散の t 検定による分析方法 予習内容：教科書・配付資料を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>検定② 不等分散の t 検定による分析方法 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>栄養士のための統計解析①（演習課題） 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>検定③ 対応のある t 検定による分析方法 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>検定④ 比率の比較と期待値の算出の統計的理解、<math>\chi^2</math> 検定による分析方法 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>栄養士のための統計解析②（演習課題） 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。</p>
9 回	<p>分散分析① 1 要因の分散分析と統計的理解 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。</p>

10 回	分散分析② 2 要因の分散分析と統計的理解 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。
11 回	栄養士のための統計解析③（演習課題） 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。
12 回	時系列データ① 時系列データの特徴（トレンド，周期） 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料を基に講義内容を復習する。
13 回	時系列データ② 時系列データの解析（移動平均） 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料を基に講義内容を復習する。
14 回	栄養士のための統計解析④（演習課題） 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料を基に講義内容を復習する。
15 回	まとめ これまでの講義内容を振り返る 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。

令和7年度教育計画							
科目名	データエンジニアリング	授業回数	15	単位数	2	担当教員	西堀 俊明
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : snishibori@owc.ac.jpOH: 授業日 10:00～13:00							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： PC（表計算ソフト）を用いたデータの可視化や、統計的処理に有用な基本的手法について学習することを目的とする。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果：データに含まれる、新たな知見の獲得につなげるため、データをどのように取り扱うのか、その基本手法について、実際にPCを用いて理解する。 汎用的学習成果：未知のデータに含まれる課題を自ら発見し、学習した知識を応用して課題解決につなげるための基礎的知識を身につける。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・<b>演習</b>・実験・実習・実技)</p> <p>毎回の講義をしたのちに、実際にPCを操作してデータ分析を行う。 また、PCを用いたデータ処理を、各自で行ってもらった課題（宿題）を2回出題する。 (第8回講義時に前回(第7回)までを範囲とする、中間課題(宿題)、第8回以降を範囲とする期末課題を出題する)</p>				
		予習・復習	<p>予習事項：講義の終わりに、来週の講義内容を予告するので、指定された章(箇所)をきちんと読んでおくこと。 復習事項：習った箇所(特にPCの操作)を毎回講義後に復習をすること。 また、自身の身の回りにあるデータを用いて、授業で習ったデータ分析手法を実際に試すなど、授業内容の理解を深めること。</p>				
	テキスト	資料を適宜配布する					
学習評価の方法	<p>中間課題 (50) 点 期末課題 (50) 点</p>						
注意事項	<p>【参考図書】 講義中に適宜紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>タイトル：オリエンテーション</p> <p>内容：講義のねらい、講義の進め方、成績評価方法を説明する。</p> <p>データエンジニアリング（データ分析のための環境整備）について、大まかな説明を行う。</p>
2 回	<p>タイトル：表計算ソフト（Excel）の基本的機能</p> <p>内容：データ分析に必須となる、表計算ソフトの構成、機能について大まかな説明を行う。</p>
3 回	<p>タイトル：データとは何か（1）</p> <p>内容：データの種類、収集、加工（集計方法）、活用方法について大まかな説明を行う。</p>
4 回	<p>タイトル：グラフの活用</p> <p>内容：データ分析の基本的手法であるグラフ描画について、解説する。</p>
5 回	<p>タイトル：データ群が持つ特徴を知る（1）</p> <p>内容：PCを用いて、データ群が持つ特徴を知るための手法について、解説する。</p>
6 回	<p>タイトル：データ群が持つ特徴を知る（2）</p> <p>内容：PCを用いて、データ群が持つ特徴を知るための手法について、解説する。</p>
7 回	<p>タイトル：データ群が持つ特徴を知る（3）</p> <p>内容：PCを用いて、データ群が持つ特徴を知るための手法について、解説する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	タイトル：中間課題（宿題）の出題、後半部分のオリエンテーション 内容：前回までを範囲とする中間テストを行う。 次回以降、解説する多変量解析について大まかな解説を行う。
9 回	タイトル：多変量解析～相関係数 内容：2変数の関係の方向と強さを表す相関係数について、解説を行う。
10 回	タイトル：多変量解析～単回帰分析 内容：単回帰分析について、解説を行う。
11 回	タイトル：多変量解析～重回帰分析 内容：重回帰分析について解説を行う。
12 回	タイトル：多変量解析～重回帰分析 内容：重回帰分析について解説を行う。
13 回	タイトル：多変量解析の応用～判別分析 内容：判別分析について解説を行う。
14 回	タイトル：多変量解析の応用～数量化理論 I 内容：数量化理論 I について解説を行う。
15 回	タイトル：まとめ これまでに学んできたデータ分析の手法について、重要ポイントをまとめる。

令和7年度教育計画							
科目名	応用数学(食とビジネス)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	小松正直
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : komatsu@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>食（管理栄養士）やビジネスの分野において、数学の考え方・計算方法を用いてデータを処理する機会が多い。応用数学（食とビジネス）では、上記分野に関連のある実用的な数学を、問題演習を通して学習し、情報数学 I・II につなげる。なお、以下の習得が到達時の目標である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養に関する基本的な計算ができる。</li> <li>2. ビジネスに関する基本的な計算ができる。</li> </ol> <p>学生の学習成果：</p> <p>数量的スキルを使って <b>Society 5.0</b> 時代のビッグデータを管理・活用することができる（基礎・応用）。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>パワーポイントと配布プリントにより授業を行う。適宜練習問題に取り組むことで内容の定着を図る。授業終了時にシャトルカードに質問・感想などの記述を求める。質問への返答等を通して学習理解状況を確認しながら授業内容をアレンジする。</p>				
予習・復習		<p>予習事項：資料に目を通し、学習内容を把握する（90分）。</p> <p>復習事項：パワーポイントやプリントの内容を確認し、学習内容を整理する（90分）。</p>					
テキスト		なし。適宜資料を配付する。					
学習評価の方法	<p>演習課題（複数回実施，合計 50 点）</p> <p>定期試験（50 点）</p>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小野廣紀・日比野久美子・吉澤みな子，2018 年，『栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル』，化学同人</li> <li>● グロービス，2022 年，『ビジネスで使える数学の基本が 1 冊でざっくり分かる本』，東洋経済新聞社</li> <li>● 岡田朋子，2024 年，『数理・データサイエンス・AI のための数学基礎』，近代科学者</li> <li>● 中村吉男，2018 年，『栄養士のための数学講座』，九州栄養福祉大学ホームページ  <a href="https://www.knwu.ac.jp/uploads/ck/admin/files/career/2022/eiyosisugaku(3)2022.pdf">https://www.knwu.ac.jp/uploads/ck/admin/files/career/2022/eiyosisugaku(3)2022.pdf</a></li> </ul>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス, 授業の進め方, 成績評価の確認</p> <p>数理・データサイエンス・AI 教育プログラムにおける科目の位置づけ</p> <p>栄養士のための数学 (ものの大きさ, 単位, 有効数字)</p> <p>復習内容: パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する.</p>
2 回	<p>栄養士のための数学 (様々な計算①)</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する.</p>
3 回	<p>栄養士のための数学 (様々な計算②)</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する.</p>
4 回	<p>栄養士のための数学 (歩合, パーセント)</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する.</p>
5 回	<p>栄養士のための数学 (廃棄率, 可食部, 発注量)</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する.</p>
6 回	<p>栄養士のための数学 (エネルギー, 摂取量, 塩分計算)</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する.</p>
7 回	<p>ビジネスのための数学 (商)</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する.</p>
8 回	<p>ビジネスのための数学 (一次関数)</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する.</p>
9 回	<p>ビジネスのための数学 (指数関数)</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する.</p>

10 回	<p>ビジネスのための数学（平均）</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
11 回	<p>ビジネスのための数学（確率）</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
12 回	<p>ビジネスのための数学（標準偏差）</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
13 回	<p>ビジネスのための数学（集合）</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
14 回	<p>ビジネスのための数学（微分入門）</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
15 回	<p>まとめ</p> <p>これまでの講義を振り返る．</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>

令和7年度教育計画								
科目名	情報数学 I (統計学)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	小松正直	
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : komatsu@owc.ac.jp								
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>データサイエンスは、数学および統計の知識を組み合わせ、データの特徴・価値を引き出す手法である。情報数学 I は、記述統計学と推測統計学の違いを意識しながら、データの縮約・視覚化、母集団と標本分布の違い、統計的仮説検定の基本的な手順を学び、下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数理・データサイエンス・AI における統計処理の基礎が身につく。</li> <li>2. 基本的な統計学や統計的知識について説明できる。</li> <li>3. データ処理や分析方法などの統計的スキルが身につく。</li> </ol> <p>学生の学習成果：</p> <p>数量的スキルを使って <b>Society 5.0</b> 時代のビッグデータを管理・活用することができる (応用)。</p>							
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>パワーポイントと配布プリントにより授業を行う。適宜練習問題に取り組むことで内容の定着を図る。授業終了時にシャトルカードに質問・感想などの記述を求める。質問への返答等を通して学習理解状況を確認しながら授業内容をアレンジする。</p>					
		予習・復習	<p>予習事項：資料に目を通し、学習内容を把握する (90 分)。</p> <p>復習事項：板書やプリントの内容を確認し、学習内容を整理する (90 分)。</p>					
テキスト		<p>石村友二郎・廣田直子・石村貞夫, 2020 年, 『よくわかる統計学 介護福祉・栄養管理 データ編 第3版』, 東京図書。</p>						
学習評価の方法	<p>演習課題 (複数回実施, 合計 50 点)</p> <p>定期試験 (50 点)</p>							
注意事項	<p>応用数学(食とビジネス)を受講していることが望ましい。</p>							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス, 授業の進め方, 成績評価の確認</p> <p>数理・データサイエンス・AI 教育プログラムにおける科目の位置づけ</p> <p>データの型, データの種類, データ収集</p> <p>復習内容: 教科書・配布資料を基に講義内容を復習する.</p>
2 回	<p>度数分布表によるデータのまとめ方</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
3 回	<p>平均値と標準偏差によるデータのまとめ方</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
4 回	<p>グラフ表現によるデータのまとめ方</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
5 回	<p>散布図と相関係数によるデータのまとめ方</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
6 回	<p>回帰直線によるデータのまとめ方</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
7 回	<p>クロス集計表によるデータのまとめ方①</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
8 回	<p>確率分布とその数表の作り方</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>
9 回	<p>区間推定によるデータのまとめ方</p> <p>予習内容: 配付資料を予習し, 次回の学習内容を把握する.</p> <p>復習内容: パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する.</p>

10 回	仮説の検定によるデータのまとめ方① 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する。
11 回	仮説の検定によるデータのまとめ方② 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する。
12 回	クロス集計表によるデータのまとめ方② 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する。
13 回	重回帰分析によるデータのまとめ方 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する。
14 回	時系列データのまとめ方と明日の予測 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する。
15 回	まとめ これまでの講義を振り返る。 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	情報数学 II (線形代数・微分積分)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	小松正直
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : komatsu@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>データサイエンスは、数学および統計の知識を組み合わせ、データの特徴・価値を引き出す手法である。情報数学 II は、大量データの処理に欠かせない数学の一分野である「線形代数」と「微分積分」について学ぶ。これらは、統計学や情報処理の基礎知識である重要な科目であり、「線形代数」では個々のデータを一括表現することで、データ分析の本質的な要素を理解する。「微分積分」では蓄積されたデータから未来を予測するための必要知識を身につける。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>数量的スキルを使って <b>Society 5.0</b> 時代のビッグデータを管理・活用することができる (応用)。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>パワーポイントと配布プリントにより授業を行う。適宜練習問題に取り組むことで内容の定着を図る。授業終了時にシャトルカードに質問・感想などの記述を求める。質問への返答等を通して学習理解状況を確認しながら授業内容をアレンジする。</p>	<p>予習・復習</p> <p>予習事項：資料に目を通し、学習内容を把握する (90 分)。 復習事項：板書やプリントの内容を確認し、学習内容を整理する (90 分)。</p>	<p>テキスト</p> <p>なし (資料を配付する)</p>			
学習評価の方法	<p>演習課題 (複数回実施, 合計 50 点)</p> <p>定期試験 (50 点)</p>						
注意事項	<p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岡田朋子, 2024 年, 『数理・データサイエンス・AI のための数学基礎』, 近代科学者</li> </ul> <p>【注意事項】</p> <p>応用数学(食とビジネス)を受講していることが望ましい。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション シラバス、授業の進め方、成績評価の確認 ベクトルと行列 復習内容：パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>ベクトルの演算 予習内容：配布資料を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>行列の演算 予習内容：配布資料を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>エクセル演習（ベクトルと行列の演算） 予習内容：配布資料を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>逆行列と行列式の計算 予習内容：配布資料を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>連立一次方程式 予習内容：配布資料を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>様々な関数 予習内容：配布資料を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>微分係数①（関数の極限） 予習内容：配布資料を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する。</p>
9 回	<p>微分係数②（関数の傾きと微分） 予習内容：配布資料を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：パワーポイント・配布資料を基に講義内容を復習する。</p>

10 回	<p>エクセル演習（微分係数の近似値を求める）</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
11 回	<p>不定積分</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
12 回	<p>積分と面積の関係</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
13 回	<p>定積分</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
14 回	<p>エクセル演習（定積分の近似値を求める）</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>
15 回	<p>まとめ</p> <p>これまでの講義を振り返る．</p> <p>予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する．</p> <p>復習内容：パワーポイント・配付資料を基に講義内容を復習する．</p>

令和7年度教育計画							
科目名	クリエイティブエコノミー (ファンの経済学)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	近 勝彦
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : dark-blue@star.nifty.jp							
教育 方法	教育目標	<p>教育目標：</p> <p>現在は、新しいコンテンツの創造者として、クリエイターが注目されている。日本には、兼業副業も合わせると1000万人以上いるともいわれている。彼らが作り出す経済をクリエイティブエコノミーと呼ぶ。その力を支援し、新しいコンテンツ関連ビジネスを創造することで経済を発展させるスキームを講義する。</p>					
	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>毎回、前回の短い復習をしたあとに、今回の講義をする。最後に短いまとめをおこなう。また、適宜、質疑応答をするので、真剣に講義を聴くこと。</p>					
	予習・復習	<p>予習事項：次回の講義の終わりに、来週の講義内容を予告するので、指定された章(箇所)をきちんと読んでおくこと。45分</p> <p>復習事項：習った箇所を毎回講義後に復習をすること。45分</p>					
	テキスト	授業レジュメを配布する。					
学習評価の方法	<p>小テスト (40) 点</p> <p>授業態度 (20) 点</p> <p>期末テスト (40) 点</p>						

注意事項	<p>【参考図書】 適宜指定</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション（本講義の全体像と目標をしめす）
2 回	<p>タイトル：クリエイティブエコノミーとは 内容：新しい経済の担い手 検討内容：クリエイターとその経済を考える</p>
3 回	<p>タイトル：デジタルコンテンツの可能性 内容：デジタルだからできること 検討内容：デジタル経済の可能性</p>
4 回	<p>タイトル：デジタルコンテンツの多様性1 内容：画像 検討内容：生成 AI を活用することの可能性と限界</p>
5 回	<p>タイトル：デジタルコンテンツの多様性2 内容：映像 検討内容：動画の訴求力とその意味</p>

6 回	<p>タイトル：デジタルコンテンツの多様性3</p> <p>内容：音声</p> <p>検討内容：生成 AI による音声</p>
7 回	<p>タイトル：デジタルコンテンツの多様性4</p> <p>内容：テキスト</p> <p>検討内容：生成 AI によるテキストの課題</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>タイトル：クリエイターの開く世界1</p> <p>内容：コンテンツからモノ作りへ</p> <p>検討内容：新しい商品を構想する</p>
9 回	<p>タイトル：クリエイターの開く世界2</p> <p>内容：だれでもがメーカーとなれる</p> <p>検討内容：3Dプリンターの活用</p>
10 回	<p>タイトル：クリエイターの開く世界3</p> <p>内容：デジタルとアナログの融合</p> <p>検討内容：モノとそのプロモーションとしての SNS</p>
11 回	<p>タイトル：クリエイターを支援する1</p> <p>内容：デジタルの支援ソフトウェア</p> <p>検討内容：ソフトウェアを評価する</p>
12 回	<p>タイトル：クリエイターを支援する2</p> <p>内容：デジタルプラットフォームを考える</p> <p>検討内容：デジタルコミュニティを作る</p>
13 回	<p>タイトル：クリエイターを支援する3</p> <p>内容：新しいコラボレーションをマッチングする</p> <p>検討内容：イノベーションは新たな組み合わせである</p>

14 回	タイトル：マルチモーダルなコンテンツが世界を開く 内容：仮想世界とイマーシブ 検討内容：仮想世界は時空間を超える
15 回	これまでの総括や総復習をする

令和7年度教育計画							
科目名	食とベンチャービジネス	授業回数	15	単位数	2	担当教員	島 浩二
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー) :							
教育目標	<p>教育目標 :</p> <p>ベンチャー企業は、新たなビジネスを動かす力として期待されている。この授業では、ベンチャーとはどのようなものか、ベンチャーの現状について、食マネジメントをふまえて紹介する。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>毎回、前回の短い復習をしたあとに、今回の講義をする。最後に短いまとめをおこなう。また、適宜、質疑応答をするので、真剣に講義を聴くこと。</p>					
	予習・復習	<p>予習事項：講義の終わりに、来週の講義内容を予告するので、指定された章（箇所）をきちんと読んでおくこと。(45分)</p> <p>復習事項：習った個所を毎回講義後に復習をすること (45分)</p>					
	テキスト	<p>授業レジュメを配布する。</p>					
学習評価の方法	<p>小テスト (40) 点</p> <p>授業態度 (20) 点</p> <p>期末テスト (40) 点</p>						
注意事項	<p>様々な事例を紹介する資料を配布するのでよく読んでおくこと。</p> <p>また、ネットの ICT 起業に関する記事をよく読んでおくこと</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	第1回 授業の概要や進め方の説明、ミニプレゼン、成績評価
2 回	第2回 起業とは
3 回	第3回 日米での起業の現状比較
4 回	第4回 起業の役割
5 回	第5回 起業の具体例①－有名起業－
6 回	第6回 起業の具体例②－日本型企业（食マネジメント）
7 回	第7回 調査課題の決定

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	第8回 ベンチャーキャピタル
9 回	第9回 学生起業家の作り方
10 回	第10回 調査課題の発表
11 回	第11回 調査課題の発表
12 回	第12回 調査課題の発表
13 回	第13回 調査課題の発表
14 回	第14回 調査課題の発表
15 回	第15回 まとめ

令和7年度教育計画							
科目名	フード・ビジネス経営	授業回数	15	単位数	2	担当教員	島 浩二
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : newlive@m5.kcn.ne.jpOH: 授業日 10:00～13:00							
教育目標	教育目標：就職活動を見据え、起業家、チェーン店、メディアなど、第一線で活躍する実務者を招聘し、立場や役割、多様な価値観を感じることができるワークショップを通して、実践的な学びの場を提供する						
教育方法	授業の進め方	(講義)・演習・実験・実習・実技 毎回、最初に、前回の短い復習の後、今回の講義を行う。最後に短いまとめをおこなう。また、適宜、グループワーク、レポート課題を実施するので、講義に積極的に参加すること。					
	予習・復習	予習事項：講義の終わりに、来週の講義内容を予告するので、指定された箇所をきちんと読んでおくこと。(45分) 復習事項：既習部分を含む習った箇所を毎回講義後に復習をすること (45分)					
	テキスト	授業レジュメを配布する。					
学習評価の方法	小テスト (15) 点 授業態度・レポート (35) 点 期末テスト (50) 点						
注意事項	【参考図書】 加護野忠男・吉村典久『1からの経営学〈第3版〉』中央経済社。2021年。 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門〈第3版〉』日本経済新聞出版社。2003年。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション（本講義の全体像と目標をしめす）
2 回	タイトル：企業経営の全体像と企業の経営 内容：企業とは 経営とは 企業経営とは 検討内容：「企業経営の全体像」
3 回	タイトル：企業と市場① 内容：金融市場 資本市場 労働市場 検討内容：「経営（企業運営）と市場」
4 回	タイトル：経営戦略① 内容：競争戦略 検討内容：「経営と市場（他商品）」
5 回	タイトル：経営戦略② 内容：多角化戦略 検討内容：「経営と市場（他社）」
6 回	タイトル：経営戦略③ 内容：グローバル化戦略 検討内容：「国際経営」
7 回	タイトル：経営組織① 内容：組織構造の種類と仕組み 検討内容：「組織形態」

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	タイトル：経営組織② 検討内容：「経営理念」 内容： ミッション、ビジョン、ヴァリュー、ビジネス 検討内容：「経営理念」
9 回	タイトル：食農連携 内容：農林水産物等の地域資源を活用 「おかやま地域食農連携プロジェクト（おかやま LFP）」 検討内容：「地域食農連携」
10 回	タイトル：企業組合による課題解決 内容：食品の開発・販路に関する総合的支援拠点 「岡山フードバレーセンター」 検討内容：「開発から販路へ」
11 回	タイトル：行政による課題解決 内容：食料確保と食品ロス削減 「岡山県」 検討内容：「食品産業とフードバンク」
12 回	タイトル：多角化戦略 内容：食の6次産業化 「岡山フードサービス」 検討内容：「多角化」
13 回	タイトル：飲食店起業 内容：独自の展開で数店舗開業 「ポンテベッキオ」 検討内容：「アントレプレナー」
14 回	タイトル：グローバル経営 内容：世界進出したフランチャイズチェーン 「カレーハウス CoCo 壱番屋」 検討内容：「グローバル都市経営」
15 回	総括及び総復習

令和7年度教育計画							
科目名	コンテンツビジネス	授業回数	15	単位数	2	担当教員	吉田博高
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) yoshidah@owc.ac.jp 授業日 10:00～13:00							
教育 目 標	<b>教育目標：</b> 本講義の教育目標は、コンテンツビジネスを経営する場合における経営理念や経営手法や経営戦略を学ぶものである。現代社会において、コンテンツの果たす意義や役割は、コンテンツビジネス自体の制作や流通のみならず、異なる分野の産業においても大きくなっている。そこで、コンテンツビジネスを実際に経営するものとして、そのビジネスを成功発展させる要諦やコアコンピタンスやケイパビリティを学生に十分に理解させる。そのときに、具体的な事例を多く盛り込んで講義を展開する。						
	教 育 方 法	授 業 の 進 め 方	<b>【講義・演習・実験・実習・実技】</b> 毎回、前回の短い復習をしたあとに、今回の講義をする。最後に短いまとめをおこなう。また、適宜、質疑応答をするので、真剣に講義を聴くこと。				
		予 習 ・ 復 習	予習事項：講義の終わりに、来週の講義内容を予告するので、指定された章（箇所）をきちんと読んで理解しておくこと。(45分) 復習事項：習った箇所を毎回講義後に復習をすること。予習復習に30分以上時間をかけること。(45分)				
		テ キ ス ト	授業レジュメを配布する。				
学 習 評 価 の 方 法	小テスト (40) 点 授業態度 (10) 点 期末テスト (50) 点						
注 意 事 項	<b>【参考図書】</b> 毎回講義後に適宜資料等を指定						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション（本講義の全体像と目標をしめす）
2 回	タイトル：コンテンツビジネスとは 内容：これまでのアナログコンテンツとデジタルコンテンツの違いを学ぶ 検討内容：「コンテンツ市場分析の規模とその可能性」
3 回	タイトル：自社の発展史1 内容：アナログからデジタル転換の意義とその併用の可能性。 検討内容：「なぜデジタル化は進むのかー紙からデジタルコンテンツへ向けて」
4 回	タイトル：自社の発展史2 内容：「販売からプラットフォームビジネスへなぜ移行したか」 検討内容「SWOT分析などで自社プラットフォームを分析する」
5 回	タイトル：エリアマーケティング 内容：これまでリアル店舗の立地をどう考えてきたか 検討内容：「商業立地分析を考える」
6 回	タイトル：従業員の育成と組織を考える 内容：従業員のモチベーションと働き方を知る 検討内容：「人的資本と経営との関係を知る」
7 回	タイトル：財務管理 内容：経営資金をいかに確保するのか 検討内容：「財務戦略を考える」

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>タイトル：投資を考える</p> <p>内容：自社はいかにて拡大するためにどのような投資をしてきたか</p> <p>検討内容：「投資戦略」</p>
9 回	<p>タイトル：デジタルビジネス経営1</p> <p>内容：商品管理システムをどう構築していったか</p> <p>検討内容：「在庫管理を考える」</p>
10 回	<p>タイトル：デジタルビジネス経営2</p> <p>内容：自社のDX化をいかにすすめたのか</p> <p>検討内容：「情報戦略」</p>
11 回	<p>タイトル：デジタルビジネス経営3</p> <p>内容：デジタルプラットフォームの構築はどうしたのか</p> <p>検討内容：「デジタルプラットフォーム戦略」</p>
12 回	<p>タイトル：デジタルビジネス経営4</p> <p>内容：デジタルプラットフォームの競合分析をおこなう</p> <p>検討内容：「デジタルプラットフォームの競争戦略」</p>
13 回	<p>タイトル：顧客とはだれか</p> <p>内容：クリエイターとファンの両サイドの拡大と充実化</p> <p>検討内容：「クリエイター支援のための最良なシステムを考える」</p>
14 回	<p>タイトル：未来のデジタルコンテンツ企業の展望</p> <p>内容：生成AIを経営にいかすには</p> <p>検討内容：「AI戦略」</p>
15 回	<p>総括として、デジタル経営の課題と可能性を考える</p>

令和7年度教育計画							
科目名	食環境戦略イニシアチブ I	授業回数	15	単位数	1	担当教員	氏峰栞里 堀口のぞみ
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : ujimine@owc.ac.jp、OH : 随時(A107) horiguchi@owc.ac.jp、OH : 木曜日 12:20-13:00 (M棟 410)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>厚生労働省が推進する「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」の内容とその背景を包括的に理解する。さらに、栄養学、経済学、政治学などの学際的視点から現代の食環境に関わる課題を分析し、食環境づくりの意義を多角的に考察する能力を養う。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 :</p> <p>教育目標に掲げる知識・スキルの修得 食環境に関する政策や戦略の理解と批判的考察</p> <p>汎用的学習成果 :</p> <p>自律的な思考 領域横断的な分析能力 コミュニケーション能力</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技) オムニバスによる授業により、前半・後半で授業形態が異なる</p> <p>前半 :</p> <p>主として講義形式を採用。 講義はPower Point、自作の講義ノート、関連資料等を用いる</p> <p>後半 :</p> <p>講義形式と実習形式を採用。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>予習事項 (90分) : 適宜資料の読み込みと考察 復習事項 (90分) : テキストおよび授業で配付されたレジュメを読み復習。</p>					
	テキスト	<p>適宜、資料を配布</p>					
学習評価の方法	<p>学習成果 : 以下の項目について評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食環境戦略イニシアチブの内容について理解している。</li> <li>・学際的な視点から現代の食環境に関わる課題を分析している。</li> <li>・食環境づくりの意義を多角的に考察することができる。</li> <li>・自律的に考え、それを論理的に他者に説明することができる。</li> </ul> <p>学習評価は、小テスト(30%)と提出物(70%)の合計で行う。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山田克士、荒井裕介『カレント 改訂 公衆栄養学【第3版】』建帛社、2024年。</li> </ul> <p>他、随時紹介する。</p>						

授業回数別教育内容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <p>○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、食環境戦略イニシアチブの概要について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明 ・講義ノート、配布資料、Power Point で解説</p> <p>○本時の学習成果 本科目の概要を把握し、食環境戦略イニシアチブの概要－理念、目的、全体像を理解する</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：シラバスを読む。 復習事項：授業で配布された講義ノートや資料等を参照し、授業の要点をまとめる。 小テストに備えて復習する。</p>
2 回	<p>〈食環境戦略イニシアチブの登場背景〉</p> <p>○本時の目標 厚生労働省「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」が登場するに至るまでの我が国の栄養政策の歴史について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テストの実施。 ・講義ノート、配布資料、Power Point で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 ・我が国の栄養政策の歴史を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：厚生労働省「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」のHPを読み込んでくる。 復習事項：授業で配布された講義ノートや資料等を参照し、授業の要点をまとめる。 小テストに備えて復習する。</p>
3 回	<p>〈食環境戦略イニシアチブにみる我が国の栄養課題と環境課題①〉</p> <p>○本時の目標 今日の我が国の栄養課題と環境課題について、データを参照しながら理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・講義ノート、配布資料、Power Point で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 今日の我が国の栄養課題について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：厚生労働省「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」のHPを読み込んでくる。 復習事項：授業で配布された講義ノートや資料等を参照し、授業の要点をまとめる。 小テストに備えて復習する。</p>
4 回	<p>〈食環境戦略イニシアチブにみる我が国の栄養課題と環境課題②〉</p> <p>○本時の目標 前回に引き続き、今日の我が国の栄養課題と環境課題について、データを参照しながら理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義ノート、配布資料、Power Point で解説する。</li> </ul> <p>○本時の学習成果 今日の我が国の栄養課題について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：厚生労働省「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」のHPと配布資料を読み込んでくる。 復習事項：授業で配布された講義ノートや資料等を参照し、授業の要点をまとめる。 小テストに備えて復習する。</p>
5 回	<p>〈食環境戦略イニシアチブにみる我が国の栄養課題と環境課題③〉</p> <p>○本時の目標 前回に引き続き、今日の我が国の栄養課題と環境課題について、データを参照しながら理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・講義ノート、配布資料、Power Point で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 今日の我が国の環境課題について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：厚生労働省「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」のHPと配布資料を読み込んでくる。 復習事項：授業で配布された講義ノートや資料等を参照し、授業の要点をまとめる。 小テストに備えて復習する。</p>
6 回	<p>〈持続可能な食環境づくりを行動経済学および政治/経済から捉える〉</p> <p>○本時の目標 持続可能な食環境づくりを行う上で、既存の政治・経済システムをおさえたうえで、ナッジ理論をもとに戦略的なシステム構築の可能性について考える。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・講義ノート、配布資料、Power Point で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 既存の政治・経済システムについての枠組みを理解したうえで、行動経済学をもとにした人間行動の特性に着目し、戦略的なシステム構築について考察する。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：配布資料を読み込んでくる。 復習事項：授業で配布された講義ノートや資料等を参照し、授業の要点をまとめる。 小テストに備えて復習する。</p>
7 回	<p>〈総括と今後の政策について〉</p> <p>○本時の目標 これまで学習したことを領域横断的に捉えながら総括を行う。加えて、倉敷市の政策にも触れながら、身近な食環境づくりに対する本学の取り組みを位置づける。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・講義ノート、配布資料、Power Point で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 食環境戦略について理論的に理解するとともに、具体的なシステムづくりについても実践的に理解する。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：倉敷市の取り組みについて調べる。 復習事項：これまでの範囲を復習する。</p>

8 回	<p>&lt;各県における課題及び取り組みに関する調査①&gt; 対象県を選定し、その県における社会課題および課題に対する取り組みについて調査し、まとめる。</p>
9回	<p>&lt;各県における課題及び取り組みに関する調査②&gt; 調査した課題と取り組みについて、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。</p>
10 回	<p>&lt;課題抽出①&gt; 授業で得た知識を基に、身近な食環境づくりに対する課題を抽出する。 抽出した課題に対する取り組みや対策を調査し、次回授業に備える。</p>
11 回	<p>&lt;課題抽出②&gt; 調査した課題への新たな取り組みを考案し、プレゼンテーションおよび調理の準備を行う。</p>
12 回	<p>&lt;実践調理&gt; 考案したアイデアを実践し、調理する。 試食後意見交換を行い、改善案を作成する。</p>
13 回	<p>&lt;プレゼンテーション準備&gt; 調理後のフィードバックを行い、ブラッシュアップしたアイデアをプレゼンテーションする準備を行う。</p>
14 回	<p>&lt;プレゼンテーション&gt; 考案したアイデアの最終版をプレゼンテーションし、最終ディスカッションを行う。</p>
15 回	<p>総括</p>

令和7年度教育計画							
科目名	食環境戦略 イニシアチブⅡ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	氏峰栞里 堀口のぞみ
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : ujimine@owc.ac.jp、OH: 随時(A107) horiguchi@owc.ac.jp、OH: 木曜日 12:20-13:00 (M棟 410)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>2年前期科目「食環境戦略イニシアチブⅠ」の学習内容を踏また上で、本講義ではより実践的な地域の取り組みに触れることで、食環境づくりを身近なものとしてより理解を深めることを目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 :</p> <p>教育目標に掲げる知識の修得 食環境づくりに関する政策や戦略についての自律的な思考の涵養</p> <p>汎用的学習成果 :</p> <p>自律的な思考 コミュニケーション能力 プレゼン能力</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>外部講師による授業が多くなるが、基本は講義形式で進む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義はPower Point、配布資料等を用いる</li> <li>・内部/外部講師による講義と学生発表</li> </ul>					
	予習・復習	<p>予習事項 (90分) : 適宜資料を読み込む</p> <p>復習事項 (90分) : 配付された資料等を読み込む 適宜、プレゼン資料作成</p>					
	テキスト	<p>適宜、資料を配布</p>					
学習評価の方法	<p>学習成果 : 以下の項目について評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食環境戦略イニシアチブについて理解した上で、課題解決策を考えることができる。</li> <li>・多角的な視点から食環境づくりについて意見を述べるができる。</li> <li>・自律的に考え、それを論理的に他者に説明することができる。</li> <li>・自由な発想をもとに未来志向的な課題解決を行おうとする。</li> <li>・他者とのコミュニケーションを積極的に取ろうとする。</li> </ul> <p>学習評価は、授業態度(30%)と提出物(70%)の合計で行う。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山田克士、荒井裕介『カレント 改訂 公衆栄養学【第3版】』建帛社、2024年。</li> </ul> <p>他、随時紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <p>□本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解する。 食環境づくりの取り組み事例を参照し、意見交換を行う。</p> <p>□本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 ・講義 講義ノート、配布資料、Power Point で解説する。</p> <p>□本時の学習成果 本科目の概要を把握し、食環境づくりの取り組み事例を参照し、意見交換をし理解を深める。</p> <p>□予習及び復習事項 予習事項：シラバスを読む。 復習事項：授業で配付された講義ノートや資料等を参照し、本日の授業の要点をまとめる。</p>
2 回	<p>〈商品開発について〉</p> <p>□本時の目標 食環境づくりにコミットする形で行っている本学の商品開発について、講師を招いて説明を受け、具体的な商品開発の流れと見通し、戦略を理解する。</p> <p>□本時の活動 ・配布資料、Power Point 等で解説。</p> <p>□本時の学習成果 ・食環境づくりを念頭にした商品開発について、その取り組みを理解する。</p> <p>□予習及び復習事項 予習事項：適宜指示 復習事項：授業で配付された資料等を参照し、本日の授業の要点をまとめる。 発表資料作成。</p>
3 回	<p>〈第2回について各自発表&amp;ディスカッション〉</p> <p>□本時の目標 第2回の講義を受けて、各自の考察をプレゼンし、議論することを通して、食環境づくりにおける商品開発の意義について理解する。</p> <p>□本時の活動 ・各自プレゼン資料を準備し、ディスカッションを行</p> <p>□本時の学習成果 ・食環境づくりを念頭にした商品開発について、その取り組みへの理解を深める。</p> <p>□予習及び復習事項 予習事項：発表準備 復習事項：配付された資料等を参照し、本日の授業の要点をまとめる。</p>
4 回	<p>〈食品ロスについて〉</p> <p>□本時の目標 食品ロスを防ぐ取り組みについて実践的に理解する。</p> <p>□本時の活動 ・配布資料、Power Point で解説する。</p> <p>□本時の学習成果 ・今日の我が国の食品ロスの問題について理解している。</p>

	<p>○予習及び復習事項 予習事項：適宜指示 復習事項：授業で配付された資料等を参照し、本日の授業の要点をまとめる。 発表資料作成。</p>
5 回	<p>〈第4回について各自発表&amp;ディスカッション〉</p> <p>○本時の目標 第4回の講義を受けて、各自の考察をプレゼンし、議論することを通して、食環境づくりにおける商品開発の意義について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・各自プレゼン資料を準備し、ディスカッションを行う。</p> <p>○本時の学習成果 ・食環境づくりにおける食品ロスを防ぐための取り組みとその意義について深く理解する。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：発表準備 復習事項：配付された資料等を参照し、本日の授業の要点をまとめる。</p>
6 回	<p>〈子ども食堂について〉</p> <p>○本時の目標 子ども食堂の理念、運営方針、課題等を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・配布資料、Power Point で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 ・子どもの栄養格差の問題と実践的取り組みの内容について理解している。 ・倉敷市社会福祉協議会をはじめステークホルダーの連携について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：適宜指示 復習事項：授業で配付された資料等を参照し、本日の授業の要点をまとめる。 発表資料作成。</p>
7 回	<p>〈第6回について各自発表&amp;ディスカッション〉</p> <p>○本時の目標 第6回の講義を受けて、各自の考察をプレゼンし、議論することを通して、食環境づくりにおける商品開発の意義について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・各自プレゼン資料を準備し、ディスカッションを行う。</p> <p>○本時の学習成果 ・子どもの貧困という社会問題の構造を理解したうえで、その問題に対して地域社会でどのように取り組んでいるのか、その実情と意義、さらに直面する課題等について考えることができる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：発表準備 復習事項：配付された資料等を参照し、本日の授業の要点をまとめる。</p>
8 回	<p>〈倉敷市の取り組みについて〉</p> <p>○本時の目標 倉敷市の健康増進について、また、障がい者雇用の観点からも食を通して地域の取り組みの事例を通して、地方自治体ならではの食環境づくりについて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・配布資料、Power Point で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 ・倉敷市の健康増進について理解している。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者の雇用について社会福祉の知見から、食を通じた地域づくりについて理解している。</li> </ul> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予習事項：適宜指示</li> <li>復習事項：配付された資料等を参照し、本日の授業の要点をまとめる。 発表資料作成。</li> </ul>
9回	<p>〈第8回について各自発表&amp;ディスカッション〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>第8回の講義を受けて、各自の考察をプレゼンし、議論することを通して、食環境づくりにおける商品開発の意義について理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自プレゼン資料を準備し、ディスカッションを行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倉敷市の食環境づくりについて理解している。</li> <li>・障がい者の雇用について社会福祉の観点から、食を通じた地域づくりについて理解している。</li> </ul> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予習事項：発表準備</li> <li>復習事項：配付された資料等を参照し、本日の授業の要点をまとめる。</li> </ul>
10回	<p>〈食環境づくりにおけるメディアの役割について〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>食環境づくりにおける栄養課題のうち、メディアの力が大きい。メディアの功罪について理解したうえで、メディアの力による食環境イニシアチブの普及可能性について理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料、Power Point で解説する。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食環境づくりにおけるメディアの役割について実践的に理解する。</li> </ul> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予習事項：適宜指示</li> <li>復習事項：授業で配付された資料等を参照し、本日の授業の要点をまとめる。 発表資料作成。</li> </ul>
11回	<p>〈第10回について各自発表&amp;ディスカッション〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>第10回の講義を受けて、各自の考察をプレゼンし、議論することを通して、食環境づくりにおける商品開発の意義について理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自プレゼン資料を準備し、ディスカッションを行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食環境づくりメディアの役割について、その影響力や役割について理解する。</li> </ul> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予習事項：発表準備</li> <li>復習事項：配付された資料等を参照し、本日の授業の要点をまとめる。</li> </ul>
12回	<p>〈模擬ワークショップ企画①〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>これまでの授業の総括として、ワークショップを企画する。課題抽出、アイデア考案、プレゼンテーション、企画準備を通じて、学びを実践に反映させることの意義とポイントを理解するとともに、自らが主体となって企画・運営する方法を学ぶ。</p> <p>○本時の活動</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の抽出</li> <li>・ワークショップ企画</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <p>ワークショップの企画を通じ、人に物事を伝えるプレゼンテーション能力だけでなく、随時双方向にコミュニケーションをとることの意義を学び、より実践的な能力を会得する。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：これまでの授業の総復習</p> <p>復習事項：発表準備</p>
13 回	<p>〈模擬ワークショップ企画②〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>これまでの授業の総括として、ワークショップを企画する。課題抽出、アイデア考案、プレゼンテーション、企画準備を通じて、学びを実践に反映させることの意義とポイントを理解するとともに、自らが主体となって企画・運営する方法を学ぶ。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表準備</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <p>ワークショップの企画を通じ、人に物事を伝えるプレゼンテーション能力だけでなく、随時双方向にコミュニケーションをとることの意義を学び、より実践的な能力を会得する。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：発表準備</p> <p>復習事項：発表準備</p>
14 回	<p>〈模擬ワークショップ企画③〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>これまでの成果を集約し、ワークショップを開催する。終了後に反省会並びにディスカッションを行い、各自の取り組みをブラッシュアップさせる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップの開催</li> <li>・反省会ならびにディスカッション</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <p>ワークショップの企画を通じ、人に物事を伝えるプレゼンテーション能力だけでなく、随時双方向にコミュニケーションをとることの意義を学び、より実践的な能力を会得する。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：発表準備</p> <p>復習事項：反省点を参考に取り組みをブラッシュアップさせる</p>
15 回	<p>〈総括〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>『食環境戦略イニシアチブⅠ・Ⅱ』を通じて得た学びより、今後の自らの行動をどのように変化させていくかを考え、身近な食環境課題を考え、解決する管理栄養士になるためにはどうすれば良いか考察する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総まとめ</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <p>身近な食環境課題を抽出し、解決案を考案できる能力を得ている。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：これまでの総復習</p> <p>復習事項：今後の行動に生かせるよう、これまでの学びを総括する。</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	英語 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	花田春香
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : 授業時間中 OH: ——							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 : 英語を「読む」「書く」「聞く」「話す」を統合的に学び、①英語の総合力を向上させ、②実用的に英語を活用する力を身につける。時事問題にも触れ、③多文化共生社会における職業的意義も踏まえた実践的な学習を行う (グループ・ワークなど)。④食物栄養関連の英語に親しむ。</p> <p>学生の学習成果 : 教育目標に記載した①～④の専門的学習成果と 汎用的学習成果として、自己管理能力と教育を通じた人間関係形成力 (自己表現、他者理解、問題解決) を涵養する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・<b>演習</b>・実験・実習・実技)</p> <p>※原則、英語で授業は進行される。挨拶、質問などを英語で行う (あるいは、行おうとする) こと。</p> <p>1. Reading: 時事ニュースと食物栄養に関する英文を音読し、内容を理解する。活用できる語彙を増やす。内容理解と英語の発音や抑揚を練習する。</p> <p>2. Listening: 英文を「聞く」ことを通して内容理解と自然な速さで聞き取る練習。</p> <p>3. グループ・ワークにて実践的に英語を「話す」「書く」。主に専門分野 (食物栄養) に関するトピックを用いて「使える英語」学習を、活動を通して行う。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>毎回の授業に対して、予習 (90 分) ・復習 (90 分) が義務付けられる。</p> <p>予習事項 : 授業各回内容を参照すること。各授業で指示。</p> <p>復習事項 : 授業各回内容を参照すること。各授業で指示。</p>					
	テキスト	<p>・中里菜穂子, 松浦加寿子, 2019, 『やさしい栄養英語』田中芳文編, 講談社.</p> <p>・プリント教材 (a) 英語で読む時事ニュース (b) 接客で使える英語フレーズ: リサーチ・ヴァート『もう困らない! 「英語で接客」ができる本』 など</p>					
学習評価の方法	<p>1. 提出物 : 15 点 → 記述されている内容の正誤や授業内容の理解を評価する。提出後、次の時間に戻し、講義形式で解説とコメントを行う。</p> <p>2. グループワーク : 5 点 → 課題に主体的に取り組み、協働的な活動を行うことができる。</p> <p>3. 復習テスト (授業 8 回目に実施) : 40 点 (100 点満点 × 0.4)</p> <p>4. 定期テスト : 40 点 (100 点満点 × 0.4) → 「英語を使える」ことにおいて重要な語彙力、「聞く」こと、「書く」こと、「読む」ことを、学習を通して身につけられたかを評価。ペーパーテスト。 * 「話すこと」が試験では評価困難なため、フレーズ発表でテストへの追加点。</p>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <p>富永恵美子, 『日本の家庭料理をやさしい英語で教えてみませんか?』ベレ出版.</p> <p>田中芳文, 『やさしい英語ニュースで学ぶ現代社会と健康』講談社.</p> <p>田中芳文, 『英文ニュースで学ぶ健康とライフスタイル』講談社.</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>①オリエンテーション 授業内容の共有、授業で持参するもの、試験実施について、成績評価の説明、予習・復習方法について、など。</p> <p>②言語活動：英語で自己紹介（プリント使用）。</p> <p>③Unit1 導入 The ABCMs of Eating（食事の基本） 語彙練習：単語ビンゴ・本文導入（音声で「聞く」、目で追う「読む」）</p> <p>*配布物：英語で読む時事ニュースのプリント(1) / 自己紹介プリント / ビンゴ プリント / 教科書 Unit1 和訳プリント /接客で使える英語フレーズプリント(1)</p> <p>*予習：〈教科書〉分からない表現を調べておく。授業中に聞いた音声を再度聞いて、音読。教科書の内容把握しておく。〈プリント〉英語で読む時事ニュースプリントの読解と問題を解く。接客で使える英語フレーズを覚えておくこと。</p> <p>*復習：〈教科書〉授業中に聞いた音声を再度聞く。〈プリント〉自己紹介文を書き、次回に提出。</p>
2 回	<p>①ニュース・リーディング(1)</p> <p>②Unit 1 前半 The ABCMs of Eating（食事の基本）…本文内容理解（音読、内容理解）</p> <p>③KITCHEN ACTIONS（厨房での英単語）前半</p> <p>④接客で使える英語フレーズ(1)…ペアワーク</p> <p>*提出物：自己紹介プリント</p> <p>*配布物：教科書内容理解プリント Unit1 / KITCHEN ACTIONS（厨房での英単語）プリント /接客で使える英語フレーズプリント(2) /英語で読む時事ニュースのプリント(2)</p> <p>*予習：〈教科書〉Unit 1 音声を再度聞いて、音読。Exercise を終わらせる。〈プリント〉英語で読む時事ニュースプリント(2)の読解、問題を解く。接客で使える英語フレーズ(2)を覚えておくこと。</p> <p>*復習：〈教科書〉内容理解プリントと教科書を相互確認し、重要点をハイライトすること。本文の音声を繰り返し聞くこと（全回で行う復習のため以下省略）。 KITCHEN ACTIONS を復習すること。</p>
3 回	<p>①ニュース・リーディング(2)</p> <p>②Unit 1 後半 The ABCMs of Eating（食事の基本） …本文内容理解（音読、内容理解）・Exercise Unit2 導入 Determining Whether Your Diet Is Adequate（あなたの食事は適切か） …語彙練習：単語ビンゴ・本文導入（音声で「聞く」、目で追う「読む」）</p> <p>③KITCHEN ACTIONS（厨房での英単語）後半</p> <p>④接客で使える英語フレーズ(2)…ペアワーク</p> <p>*提出物：KITCHEN ACTIONS プリント</p> <p>*配布物：ビンゴプリント / Unit1 内容理解プリントの答え / 教科書 Unit2 和訳プリント /接客で使える英語フレーズプリント(3) /英語で読む時事ニュースのプリント(3)</p> <p>*予習：〈教科書〉Unit 2 音声を再度聞いて、音読。分からない表現を調べておく。〈プリント〉英語で読む時事ニュースプリント(3)の読解、問題を解く。接客で使える英語フレーズ(3)を覚えておくこと。</p>
4 回	<p>①ニュース・リーディング(3)</p> <p>②Unit 2 前半 Determining Whether Your Diet Is Adequate（あなたの食事は適切か） …本文内容理解（音読、内容理解）</p> <p>③ Cooking in English：英語で材料や調理方法を表現する練習。栄養や味、またはアレルギーなどを踏まえたアレンジをグループ・ワークとして行う。</p> <p>④接客で使える英語フレーズ(3)…ペアワーク</p> <p>*提出物：Cooking in English プリント</p> <p>*配布物：教科書内容理解プリント Unit 2 / Cooking in English プリント /接客で使える英語フレーズプリント(4) /英語で読む時事ニュースのプリント(4)</p> <p>*予習：〈教科書〉Unit 2 音声を再度聞いて、音読。Exercise を終わらせる。〈プリント〉英語で読む時事ニュースプリント(4)の読解、問題を解く。接客で使える英語フレーズ(4)を覚えておくこと。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<p>①ニュース・リーディング(4)            ②Unit 2 後半 Determining Whether Your Diet Is Adequate (あなたの食事は適切か)            …本文内容理解 (音読、内容理解)・Exercise            Unit 3 導入 Keeping Caloric Intake In Check (カロリー摂取を抑制する)            …語彙練習：単語ビンゴ・本文導入 (音声で「聞く」、目で追う「読む」)            ③NUTRITIONS PROJECT 前半            …英語で食物栄養素や食の好み、効果を学習する。グループ・ワークで言語活動を通して表現を深める。            ④接客で使える英語フレーズ(4)…ペアワーク</p> <p>*配布物：ビンゴプリント / Unit 2 内容理解プリントの答え / 教科書 Unit 3 和訳プリント / 接客で使える英語フレーズプリント(5) / 英語で読む時事ニュースのプリント(5)            *予習：〈教科書〉Unit 3 音声を再度聞いて、音読。分からない表現を調べておく。〈プリント〉英語で読む時事ニュースプリント(5)の読解、問題を解く。接客で使える英語フレーズ(5)を覚えておくこと。            *復習：NUTRITIONS in ENGLISH プリントの本日の範囲を必ず終わらせる。</p>
6 回	<p>①ニュース・リーディング(5)            ②Unit 3 前半 Keeping Caloric Intake In Check (カロリー摂取を抑制する)            …本文内容理解 (音読、内容理解)            ③ NUTRITIONS PROJECT 後半            …英語で食物栄養素や食の好み、効果を学習する。グループ・ワーク            ④接客で使える英語フレーズ(5)…ペアワーク</p> <p>*提出物：NUTRITIONS in ENGLISH プリント            *配布物：教科書内容理解プリント Unit 3 / 接客で使える英語フレーズプリント(6)            *予習：〈教科書〉Unit 3 音声を再度聞いて、音読。Exercise を終わらせる。〈プリント〉ニュースプリント(6)の読解、問題を解く。接客で使える英語フレーズ(6)を覚えておくこと。</p>
7 回	<p>①Unit 3 後半 Keeping Caloric Intake In Check (カロリー摂取を抑制する)            …本文内容理解 (音読、内容理解)・Exercise            Unit 5 導入・前半 What's a Body Made Of? (からだは何でできている?)            …語彙練習：単語ビンゴ・本文導入 (音声で「聞く」、目で追う「読む」)。本文内容理解。            ④Unit 1, 2, 3, 5 総復習…グループ・ワーク</p> <p>*配布物：総復習プリント / Unit 5 和訳プリント / Unit 5 内容理解プリント / ビンゴプリント / 接客で使える英語フレーズプリント(6) / 英語で読む時事ニュースのプリント(6)            *予習：〈教科書〉Unit 3, 5 音声を聞いて、音読。Unit 3 の Exercise を終わらせる。〈プリント〉ニュースプリント(1)～(5)の総復習。接客で使える英語フレーズ(7)を覚えておくこと。            *復習・確認：1回～7回までの資料や内容を必ず把握しておくこと。</p>

8 回	<p>①復習テスト…〈持ち込み〉教科書、ニュースプリントのみ。</p> <p>②ニュース・リーディング(6)</p> <p>③接客で使える英語フレーズ(6)…ペアワーク</p> <p>*提出物：復習テスト総復習プリント  *配布物：接客で使える英語フレーズプリント(7) /英語で読む時事ニュースのプリント(7)  *予習：〈教科書〉Unit 6 音声を聞いて、音読。〈プリント〉ニュースプリント(7)の読解、問題を解いておく。接客で使える英語フレーズ(7)を覚えておくこと。  *復習：Unit5 教科書内容プリントを全て終わらせる。</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p>①ニュース・リーディング(7)</p> <p>②Unit 6 導入・前半 Knowing Your Nutrients (栄養素を知ろう)  …語彙練習：単語ビンゴ・本文導入 (音声で「聞く」、目で追う「読む」)。本文内容理解。</p> <p>③ NUTRITION プリント前半</p> <p>④接客で使える英語フレーズ(7)…ペアワーク</p> <p>*配布物：Unit6 和訳プリント / 教科書内容理解プリントUnit6 /接客で使える英語フレーズプリント(8) /英語で読む時事ニュースのプリント(8)  *予習：〈教科書〉Unit 6 音声を聞いて、音読。〈プリント〉ニュースプリント(8)の読解、問題を解く。接客で使える英語フレーズ(8)を覚えておくこと。</p>
10 回	<p>①ニュース・リーディング(8)</p> <p>②Unit 6 後半 Knowing Your Nutrients (栄養素を知ろう)  …本文内容理解 (音読、内容理解)・Exercise  Unit 7 導入 Energizing Nutrients: Proteins, Carbs, and Fats (エネルギーの源：タンパク質、炭水化物、脂肪) …語彙練習：単語ビンゴ</p> <p>③NUTRITION プリント後半  …英語で食物栄養素や食の好み、効果を学習する。グループ・ワークで言語活動を通して表現を深める。</p> <p>④接客で使える英語フレーズ(8)…ペアワーク</p> <p>*配布物：ビンゴプリント / Unit 6 内容理解プリントの答え / 教科書Unit 7 和訳プリント / 接客で使える英語フレーズプリント(9)/英語で読む時事ニュースのプリント(9)  *予習：〈教科書〉Unit 9 音声を聞いて、音読。分からない表現を調べておく。〈プリント〉英語で読む時事ニュースプリント(9)の読解、問題を解く。接客で使える英語フレーズ(9)を覚えておくこと。  *復習：NUTRITIONS in ENGLISH プリントの本日の範囲を必ず終わらせる。</p>
11 回	<p>①ニュース・リーディング(9)</p> <p>②Unit 7 前半 Energizing Nutrients: Proteins, Carbs, and Fats (エネルギーの源：タンパク質、炭水化物、脂肪) …本文内容理解 (音読、内容理解)</p> <p>③ 英語食品ラベルを用いたグループ・ワーク 前半</p> <p>*提出物：NUTRITIONS PROJECT プリント  *配布物：教科書内容理解プリントUnit 7 / 食品ラベルプリント  *予習：〈教科書〉Unit 7 音声を再度聞いて、音読。Exercise を終わらせる。〈プリント〉接客で使える英語フレーズ(9)を覚えておくこと。</p>

12 回	<p>①Unit 7 後半 Energizing Nutrients: Proteins, Carbs, and Fats (エネルギーの源: タンパク質, 炭水化物, 脂肪) …本文内容理解 (音読、内容理解)・Exercise</p> <p>②英語食品ラベルを用いたグループ・ワーク 後半 / 発表</p> <p>③接客で使える英語フレーズ(9)…ペアワーク</p> <p>*配布物: Unit 7 内容理解プリントの答え / 教科書 Unit 8 和訳プリント / 接客で使える英語フレーズプリント(10) / 英語で読む時事ニュースのプリント(10)</p> <p>*予習: &lt;教科書&gt; Unit 8 音声を聞いて、音読。分からない表現を調べておく。&lt;プリント&gt; 英語で読む時事ニュースプリント(10)の読解、問題を解く。接客で使える英語フレーズ(10)を覚えておくこと。</p> <p>*復習: 英語食品ラベルプリントの仕上げ</p>
13 回	<p>①ニュース・リーディング(10)</p> <p>②Unit 8 導入・前半 ビタミンについて…語彙練習: 単語ビンゴ。本文導入。 ビタミンに関する英語動画。</p> <p>③接客で使える英語フレーズ(10)…ペアワーク</p> <p>④Body Parts パズル グループ対抗ゲーム / プリント</p> <p>*配布物: ビンゴプリント / Unit 8 内容理解プリント / 教科書 Unit 8 和訳プリント / 接客で使える英語フレーズプリント(11) / Body Parts プリント</p> <p>*予習: &lt;教科書&gt; Unit 8 音声を再度聞いて、音読。分からない表現を調べておく。&lt;プリント&gt; 接客で使える英語フレーズ(11)を覚えておく。</p>
14 回	<p>①Unit 8 後半 ミネラルについて 英語動画: ミネラルについて英語で観る/「聞く」: 本文内容理解 (音読、内容理解) Exercise (p22)</p> <p>②接客で使える英語フレーズ(11)…ペアワーク</p> <p>③Body Parts パズル グループ対抗ゲーム / プリント</p> <p>*提出物: Body Parts パズル グループ対抗ゲーム / プリント</p> <p>*予習・復習・準備: 教科書 Unit 5, 6, 7, 8 内容理解プリントの整理、内容確認。英語ニュース(7)~(10)プリントの整理、内容確認。</p>
15 回	<p>①ニュース・リーディング総復習</p> <p>②第9回以降の総復習</p> <p>予習: 全て学習した内容を振り返っておくこと。</p> <p>復習: 同上。</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	英語Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	花田春香
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : 授業時間中 OH: ——							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 : 英語を「読む」「書く」「聞く」「話す」を統合的に学び、①英語の総合力を向上させ、②実用的に英語を活用する力を身につける。時事問題にも触れ、③多文化共生社会における職業的意義も踏まえた実践的な学習を行う (グループ・ワークなど)。④食物栄養関連の英語に親しむ。</p> <p>学生の学習成果 : 教育目標に記載した①～④の専門的学習成果と 汎用的学習成果として、自己管理能力と教育を通じた人間関係形成力 (自己表現、他者理解、問題解決) を涵養する。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・<b>演習</b>・実験・実習・実技)</p> <p>※原則、英語で授業は進行される。挨拶、質問などを英語で行う (あるいは、行おうとする) こと。</p> <p>1. Reading: 時事ニュースを音読し、内容を理解する。活用できる語彙や表現を増やす。内容理解と英語の発音や抑揚を練習する。</p> <p>2. Reading, Excercise, Speaking: 食物栄養関連のテキストを用いて本文の語彙と内容理解問題を行う。表現や語彙を習得する。</p> <p>3. 食物栄養に関する言語活動。グループ/ペア・ワーク。</p>				
予習・復習		<p>毎回の授業に対して、予習 (90 分) ・復習 (90 分) が義務付けられる。</p> <p>予習事項 : テキストや資料を読み、質問したい内容を準備しておく。授業中に英語で質問をし、自分の問題関心を英語で表現する。本文全て和訳をする必要はないが、分からない部分は日本語で和訳を記入しておく。英語フレーズを覚える。など。</p> <p>復習事項 : 間違った問題や語句の復習を行う。テキストのコラムを読む。</p> <p>*詳細は各授業時間に指示。</p>					
テキスト		<p>・中里菜穂子, 松浦加寿子, 2019, 『やさしい栄養英語』田中芳文編, 講談社.</p> <p>Unit 9, 10, 11, 12, 13,</p> <p>・プリント教材</p>					
学習評価の方法	<p>1. レポート提出:10 点 (授業にて指示)</p> <p>→授業内容で取り扱った摂食障害をテーマに、英語の資料を用いた授業を行う。その内容に関して専門的な視点でグローバルな社会的な課題に取り組む意欲・関心を主に評価する。詳細指示は授業中にて。</p> <p>3. 提出物 : 10 点 (①～⑤)</p> <p>→記述されている内容の正誤や授業内容の理解を評価する。提出後、次の時間に戻し、コメントをする。</p> <p>3. 復習テスト : 40 点 (100 点満点×0.4) 第 8 回に実施</p> <p>4. 定期テスト : 40 点 (100 点満点×0.4) 授業全て終了後</p> <p>→「英語を使える」ことにおいて重要な語彙力、「聞く」こと、「書く」こと、「読む」ことを、学習を通して身につけられたかを評価。ペーパーテスト。</p>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <p>富永恵美子, 『日本の家庭料理をやさしい英語で教えてみませんか?』ベレ出版.</p> <p>田中芳文, 『やさしい英語ニュースで学ぶ現代社会と健康』講談社.</p> <p>田中芳文, 『英文ニュースで学ぶ健康とライフスタイル』講談社.</p> <p>リサ・ヴァート, 『もう困らない! 「英語で接客」ができる本』大和書房.</p> <p>【予習】</p> <p>教科書本文の和約を導入時に配布するため、必ず予習をしておくこと。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>①オリエンテーション 授業内容の共有、授業で持参するもの、試験実施について、成績評価の説明、予習・復習方法について、など。</p> <p>②言語活動：夏休みの出来事をシェアする。：プリント使用</p> <p>③Unit 9 導入…語彙練習 単語ビンゴ、本文導入（音声で「聞く」、目で追う「読む」）</p> <p>④人体と水の英語動画を観て、内容理解をゲーム形式で行う。</p> <p>*配布物：シラバスなど / 夏休みの思い出プリント / ビンゴ プリント / ニュースプリント(11) / 英語フレーズ(12)</p> <p>*提出物①：夏休みの思い出プリント</p> <p>*予習：次回までにニュースを読む。英語フレーズを覚える。</p> <p>*復習：教科書の語彙の理解と本文リスニングを必ずすること。</p>
2 回	<p>①ニュース・リーディング(11)：ニュースを英語で読む。</p> <p>②Unit 9 前半 水…本文内容理解（音読、内容理解）、英語動画を復習。</p> <p>③人体と水の英語動画を観て、内容理解をゲーム形式で行う。</p> <p>④接客で使える英語フレーズ(12)…ペアワーク</p> <p>*配布物：ニュースプリント(12) / 英語フレーズ(13)</p> <p>*予習：次回までにニュースを読む。英語フレーズを覚える。教科書 Exercise をする。</p> <p>*復習：教科書の語彙の理解と本文リスニングを必ずすること。</p>
3 回	<p>①ニュース・リーディング(12)：ニュースを英語で読む。</p> <p>②Unit 9 後半 水…本文内容理解（音読、内容理解）、Exercise</p> <p>③Unit 10 導入 語彙練習：単語ビンゴ</p> <p>④言語活動：日常英語を使った対話カードで対話練習</p> <p>⑤接客で使える英語フレーズ(13)…ペアワーク</p> <p>*配布物：英語フレーズ(14)</p> <p>*予習：次回までにニュースを読む。英語フレーズを覚える。教科書 Exercise をする。</p> <p>*復習：教科書の語彙の理解と本文リスニングを必ずすること。</p>
4 回	<p>①Unit10 むちゃ飲み 前半…本文内容理解（音読、内容理解）、Exercise</p> <p>②言語活動：教科書トピックに関連したワーク・ショップ 前半 テーマ：ミクソロジーの世界を知る ー化学、季節とカクテルー ミソロジスト動画で学習：プリント使用 / ステア実践</p> <p>③英語動画でレシピの聞き取り練習。</p> <p>④接客で使える英語フレーズ(14)…ペアワーク</p> <p>*配布物：ミクソロジープリント / 英語フレーズ(15)</p> <p>*予習：英語フレーズを覚える。教科書 Exercise をする。</p> <p>*復習：教科書の語彙の理解と本文リスニングを必ずすること。</p>
5 回	<p>①言語活動：トピックに関連したワーク・ショップ 後半 テーマ：ミクソロジーの世界を知る ー化学、季節とカクテルー</p> <p>②Unit10 むちゃ飲み 後半…本文内容理解（音読、内容理解）、Exercise</p> <p>③接客で使える英語フレーズ(15)…ペアワーク</p> <p>*提出物②：完了したミクソロジープリント</p> <p>*配布物：英語フレーズ(16) / 英語ニュース(13)</p> <p>*予習：英語フレーズを覚える。本文の音声を聞いておくこと。語彙を調べておく。</p> <p>*復習：教科書の語彙の理解と本文リスニングを必ずすること。</p>
6 回	<p>①Unit 11 消化 導入・前半…本文内容理解（音読、内容理解）</p> <p>②消化に関する英語動画を観て、内容理解をゲーム形式で行う。</p> <p>③ニュース・リーディング(13)：ニュースを英語で読む。</p> <p>*配布物：英語ニュース (14) / ビンゴプリント</p> <p>*予習：英語ニュースを読み、問題を解いておく。教科書、分からない語彙を調べておく。問題を解いておく。</p> <p>*復習：教科書内容理解プリントなどを必ず終わらせる。第1回から6回までの配布物や内容を全て確認しておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p>①ニュース・リーディング(14)：ニュースを英語で読む。 ②Unit11 前半 消化 ③復習 「学び合い」活動。：プリント使用（提出は8回目復習テスト後）</p> <p>*提出物③：ニュースプリント11～14 *持ち物：ニュースプリント11～14、教科書本文内容理解プリントUnit9～Unit11（前半）教科書 *配布物：総復習プリント *予習：後期の授業資料を必ず揃えておく。分からない語彙を調べておく。問題を解いておく *復習：間違えた問題や語彙を復習する。グループ・ワークで行なった活動内容をアウト・プットできるようにしておく。</p>
8 回	<p>①復習テスト：第7回までに学習したことの総まとめを行い、確認する。 持ち込み可能：教科書、ニュースプリントのみ ②Unit11 消化 後半…本文内容理解（音読、内容理解）、Exercise ③Staying in Shape (from TOPNOTCH 1 pp62-pp69) 導入（プリント使用）…「聞く」「話す」</p> <p>*提出物：復習プリント④ *配布物：英語ニュース（15） / 英語フレーズ（16） / Staying in Shapeプリント *予習：英語ニュースを読み、問題を解いておく。教科書、分からない語彙を調べておく。問題を解いておく。 *復習：教科書内容理解プリントなどを必ず終わらせる。Staying in Shapeプリント、指示。</p>
9 回	<p>①ニュース・リーディング(15)：ニュースを英語で読む。 ②Staying in Shape (from TOPNOTCH 1 pp62-pp69)：プリント使用 「読む」「書く」「聞く」「話す」 ③Unit12 導入・前半 摂食障害…語彙理解、本文を音声で聞いて、目で追う。 ③接客で使える英語フレーズ(16)…ペアワーク</p> <p>*配布物：英語フレーズ（17） / 教科書内容理解プリント *予習：英語ニュースを読み、問題を解いておく。教科書、分からない語彙を調べておく。問題を解いておく。Staying in Shapeプリント（ ）。 *復習：教科書内容理解プリントなどを必ず終わらせる。Staying in Shapeプリント、指示</p>
10 回	<p>①Unit12 後半 摂食障害…本文内容理解（音読、内容理解）、Exercise ③Staying in Shape (from TOPNOTCH 1 pp62-pp69)：プリント使用 「読む」「聞く」「話す」 ④Unit12 語彙練習：単語ビンゴ ③接客で使える英語フレーズ(17)…ペアワーク</p> <p>*配布物：ビンゴ プリント / 英語フレーズ(18) *予習：</p>
11 回	<p>①Eating Disorders 動画を観る。 若年者の摂食障害に関する映画 “To the Bone” *摂食障害に関する映画を観て、問題意識、治療などを含めたレポート作成（13回目に提出）※日本語、英語どちらでも良いが、必ず授業中に扱った英語の資料についての内容理解を示すこと。「感想文」ではなく、レポートであること。 ②接客で使える英語フレーズ(18)…ペアワーク</p> <p>*予習：分からない語彙を調べておく。問題を解いておく。摂食障害について調べておく。 *復習：摂食障害について学びを深めておく。Unit12の本文を再読し、語彙や内容理解を深めておく。</p>

12 回	<p>①Eating Disorders 動画 若年者の摂食障害に関する映画や動画 “To the Bone” *摂食障害に関する映画を観て、問題意識、治療法などを含めたレポート作成（13回目に提出）※「感想文」ではなく、レポートであること。「感想文」の場合は再提出になります。</p> <p>*予習：分からない語彙を調べておく。摂食障害について調べておく。 *復習：摂食障害について学びを深めておく。Unit12の本文を再読し、語彙や内容理解を深めておく。レポート作成。</p>
13 回	<p>①ニュース・リーディング(16) ②Unit13 導入・前半 食物アレルギー…単語ビンゴ、本文内容理解（音読、内容理解） ③英語動画で食物アレルギーを知る 前半（プリント使用）</p> <p>*配布物：アレルギーに関するプリント / ビンゴ プリント *予習：分からない語彙を調べておく。本文を音声で聞いておくこと。単語を記入しておくこと。 *復習：授業内で指示</p>
14 回	<p>①Unit13 後半 食物アレルギー…本文内容理解（音読、内容理解）、Exercise ②食物アレルギー動画とプリント 後半</p> <p>*予習：食物アレルギープリント。分からない語彙を調べておく。問題を解いておく。 *復習：間違えた問題や語彙を復習する。</p>
15 回	<p>①ニュース・リーディング総復習 ②定期試験の範囲の復習：第9回から第14回までに学習したことを振り返る。 ③英語フレーズ総復習</p> <p>*提出物：アレルギーに関するプリント⑤ *予習：全て学習した内容を振り返っておくこと。 *復習：同上。</p>

令和7年度教育計画								
科目名	体育理論	授業回数	8	単位数	1	担当教員	吉田 升	
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー) : nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限目								
教育 目 標 と 学 生 の 学 習 成 果	<p>教育目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体力の保持・増進に係る科学的な運動処方及び生涯体育の必要性に対する理解</li> <li>2. 現代社会における心身の健康を取り巻く諸問題に対する理解</li> <li>3. 健康生活の構築を図るための有効なアプローチに対する理解</li> </ol> <p>学生の学習成果：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的学習成果として、上記3項目の教育目標を達成できるようにする。</li> <li>・汎用的学習成果として、積極的に体力の保持・増進を図るための「価値・意見」を形成すると共に、「論理的思考力」を身につける。</li> </ul>							
	教 育 方 法	授 業 の 進 め 方	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <p>上述の教育目標及び学習成果を達成するために、シラバスに示すテーマ以外にも、健康を脅かす喫緊の課題があれば、その内容を盛り込んで講義を展開する。 また、講義内容にかかわらず、以下の項目を重視して授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 取り扱う全テーマについて、自らの問題として関心を持って捉える姿勢を育む。</li> <li>2. 問答式授業を採用し、積極的な発表や質疑応答等を通して授業を活性化する。</li> </ol>					
		予 習 ・ 復 習	<p>1回の授業に対する予習および復習の時間はそれぞれ90分とする。</p> <p>予習：講義における主要な内容について予習を課す。 復習：講義内容における重要な項目について復習を課す。</p>					
テ キ ス ト		<p>・テキストは使用せず、講義内容に即したプリントを使用して講義を進める。 * 補助教材として、VTRやDVDを適宜使用する。</p>						
学 習 評 価 の 方 法	<p>●専門的学習成果 筆記試験：下記3点について、用語の説明および図等を用いた論述を課す。(80%)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 体力の保持・増進に係る科学的な運動処方及び生涯体育の必要性に対する理解</li> <li>(2) 現代社会における心身の健康を取り巻く諸問題に対する理解</li> <li>(3) 健康生活の構築を図るための有効なアプローチに対する理解</li> </ol> <p>●汎用的学習成果 「価値・意見」及び「論理的思考力」：受講中の態度や質疑応答等を評価する。(20%)</p>							
注 意 事 項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緒方正名編『健康科学概論』朝倉書店、1992年。</li> <li>・田口貞善・山地啓司編『運動・健康とからだの秘密』近代科学者、1998年。</li> <li>・春日規克編『運動生理学の基礎と発展』星雲社、2018年。</li> </ul>							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>■オリエンテーション 教育目標と学生の学習成果、教育方法、学習評価の方法について説明する。</p> <p>■講義内容 [生活習慣病予防のための運動と食事] 現代の生活習慣病を学び、生活習慣病予防のための運動と食事について解説する。 *学習成果：生活習慣病予防のための運動と食事の方法について理解する。 【予習】心身の問題や課題について調べる。 【復習】現代人の心身の問題について考え、生活習慣についても復習する。</p>
2 回	<p>■講義内容 [運動と筋肉] 骨格筋の構造と働き、筋収縮様式と運動・スポーツの種類との関連性について解説する。 *学習成果：運動・スポーツによる身体への具体的な効力について理解する。 【予習】筋肉について調べる。 【復習】トレーニングの方法について復習する。</p>
3 回	<p>■講義内容 [発育と発達] 人体の発育・発達について解説する。 *学習成果：人間を支える骨格の構造や働きを理解し、身体の発育・発達について理解する。 【予習】人間の骨の働きについて調べる。 【復習】現在の自分の身体の発育・発達について復習する。</p>
4 回	<p>■講義内容 [ストレス] ストレス発生のメカニズムと生理的变化、引き起こされるストレス病について解説する。 *学習成果：ストレスのメカニズムと回避・解消法について理解する。 【予習】ストレスの要因について調べる。 【復習】ストレスの回避・解消法の実際について復習する</p>
5 回	<p>■講義内容 [運動と体温] 体温調節のしくみと運動時の環境温について解説する。 *学習成果：運動時の体熱産生・放散について理解する。 【予習】体温の測定方法を調べ、体温を測定し、自分の平熱を調べる。 【復習】高温環境下での運動時に発生する事故および対処法について復習する。</p>
6 回	<p>■講義内容 [ここの健康] 現代に生きる我々が抱える心身を取りまく諸問題について解説する。 *学習成果：現代社会における心身の諸問題について理解する。 【予習】心身の問題や課題について調べる。 【復習】現代人の心身の問題について復習する。</p>
7 回	<p>■講義内容 [運動と循環] 循環器系の機能と構造について学び、運動時の身体の循環機能について解説する。 *学習成果：心臓から送り出された血液が人体の何に使われているのかについて理解する。 【予習】心臓の形態や構造について調べる。 【復習】運動による循環動態について復習する。</p>
8 回	<p>■講義内容 [妊娠・出産] 生命誕生について、「DVD/驚異の小宇宙(1)人体～生命の誕生～」の視聴により解説する。 *学習成果：妊娠・出産に伴う心身の変化を通して「生命の尊厳」について理解する。 【予習】生命の誕生について調べる。 【復習】「生命の尊厳」について復習する。</p>

令和7年度教育計画							
科目名	体育実技	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田 升
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー) : nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 体育実技を通して、体力や技能の向上を図り、仲間と体を動かす楽しさを味わうことでコミュニケーション能力を身につける。また、生涯にわたってスポーツを行う生活習慣を身につける。</p> <p>学生の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的学習成果：1 基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。 2 日常生活に必要な体力を養う。</li> <li>・汎用的学習成果：スポーツ活動に積極的に参加し、実践する態度が身につく。コミュニケーション能力や自己管理能力が向上し、人間関係力が身につく。</li> </ul>						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・<b>実技</b>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6種目の球技を実践する。</li> <li>・体力維持の為、筋力トレーニングを行う。</li> <li>・それぞれの球技のルールを説明し、基礎技能の練習や試合を行う。</li> <li>・グループ編成で授業を進めていく。</li> <li>・用具の管理を当番制で行う。</li> </ul>	予習・復習	<p>1回の授業に対する予習および復習の時間はそれぞれ90分とする。</p> <p>予習：講義における主要な内容について予習を課す。 復習：講義内容における重要な項目について復習を課す。</p>			
学習評価の方法	<p>特に設けない。</p>						
学習評価の方法	<p>専門的学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バドミントン ・卓球 ・バレーボール ・ソフトバレーボール</li> <li>・バスケットボール ・硬式テニス 等</li> </ul> <p>技能、ルール理解の評価を行う (70%)。</p> <p>汎用的学習成果</p> <p>スポーツ活動に参加する態度 (20%) 「態度・信念」 グループ活動での参加態度 (10%) 「人間関係力」</p>						
注意事項	<p>服装等について：室内で用いる運動用シューズを準備すること。服装は、運動に適した服装で参加すること。アクセサリ等については、可能な限り全て外すこと。</p> <p>遅刻について：準備運動終了後入室した場合、怪我などの心配があるため、指導者の指示に従って授業に参加すること。</p> <p>見学者について：授業内容を見学用紙に記入すること。 トイレ等で退室する場合、入室時に帰ってきたことを伝えること。 体調等が悪い場合は、事前に申し出ること。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション 授業の進め方、安全に対する留意点、学習評価の方法、施設、用具の使い方について説明する。</p> <p>基礎運動 ストレッチ、ランニング、腹筋、背筋などの実技を行う。</p> <p>学習評価 授業の進め方及び学習評価の方法を理解する。毎回の授業において基礎運動を行うことにより体力が身に付くことを理解する。 【予習】 シラバスを読み、講義の内容を確認し、ストレッチについて調べる。 【復習】 基礎運動について復習する。</p>
2 3 回	<p>ソフトバレーボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎技能の習得：アンダーパス オーバーパスの技能習得をする。</li> <li>・ ルールの説明：2ゲーム先取で行う。1ゲーム 15点、1対1の場合は3ゲーム目を行う。ただし3ゲーム目は5点で勝敗を決める。</li> <li>・ 試合：チームごと対戦相手を決め交流を図る。</li> </ul> <p>学習評価 基礎技能の向上及びルールを理解することにより試合を円滑に進めることが出来る。対戦相手と交流を図ることでコミュニケーション能力が身に付く。 【予習】 ソフトバレーボールのルールを調べる 【復習】 アンダーパス、オーバーパスを復習する。</p>
4 ・ 5 ・ 6 回	<p>硬式テニス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎技能の習得：ストローク、サーブ、レシーブの技能習得をする。</li> <li>・ 2人組、4人組で打ち合いを行う。</li> </ul> <p>学習成果 基礎技能の向上及び試合が出来る能力が身に付く。 【予習】 硬式テニスのルールについて調べる。 【復習】 サーブやストロークの復習をする。</p>
7 回	<p>バドミントン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎技能の習得：ストローク、ハイクリヤー、スマッシュ、ドロップ、サーブの技能習得をする。</li> </ul> <p>ルールの説明：実践を交えながらルールの理解を行う。</p> <p>学習成果 基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。 【予習】 バドミンントンのシングルのルールについて調べる。 【復習】 サーブ、スマッシュ、ヘアピンについて復習する。</p>
8 ・ 9 回	<p>バドミントン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試合（ダブルス）：リーグ戦を行う（グループごと）。</li> </ul> <p>学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試合戦術が向上する</li> <li>・ 積極的に実践する態度が身に付く。</li> </ul> <p>【予習】 バドミンントンのダブルスのルールについて調べる。 【復習】 バックスイングの復習をする。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

10 回	<p>卓球</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合（シングルス）基礎技能の習得 リーグ戦を行う（グループごと）サーブ ストロークの技能習得をする。</li> <li>・ルール説明：実践を交えながら ルールの理解を行う</li> </ul> <p>学習成果</p> <p>卓球：基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。  <b>【予習】</b>卓球のルールについて調べる。  <b>【復習】</b>サーブ、ラリーについて復習する。</p>
11 ・ 12 回	<p>卓球</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合（ダブルス）リーグ戦を行う。</li> </ul> <p>学習成果</p> <p>卓球：練習してきた成果が発揮できる能力が身に付く（自己実現）  <b>【予習】</b>サーブと10回以上のラリーの練習をする。  <b>【復習】</b>サーブとラリーについて復習する。</p>
13 回	<p>バスケットボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎技能の習得：チェスト等のパス ジャンプ・ドリブルシュートの技能習得をする。</li> <li>・ルールの説明：実践を交えながらルールを理解する。</li> <li>・試合：グループ編成を行い、交流戦を行う。</li> </ul> <p>学習成果</p> <p>基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。戦術を考えることで、協力し合う態度、価値観、意見などの自己表現力が身に付く。  <b>【予習】</b>バスケットボールのルールを調べる。  <b>【復習】</b>パスとドリブルについて復習する。</p>
14 ・ 15 回	<p>バレーボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎技能の習得：サーブ、レシーブ、オーバー・アンダーハンドパスを習得する。</li> <li>・ルールの説明：実践を交えながらルールの理解をする。</li> <li>・試合：グループ編成を行い、交流戦を行う。</li> </ul> <p>学習成果</p> <p>基礎技能の向上および試合ができる技能・能力が身に付く。戦術を考えることで、協力し合う態度、価値観、意見などの自己表現力が身に付く。  <b>【予習】</b>バレーボールのルールについて調べる。  <b>【復習】</b>アンダーハンドパスとオーバーハンドパスについて復習する。</p>

令和7年度教育計画							
科目名	プレゼンテーション	授業回数	15	単位数	2	担当教員	前田博美
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : hmaeda@owc.ac.jp、OH:火・木 10:00～13:00							
教育目標	<p>教育目標：</p> <p>プレゼンテーションに必要なスキルを理解し、プレゼンテーションに必要な能力の高め方を追求します。プレゼンテーションに使える基本的ツールを習得し、使いこなせるようになります。プレゼン実践の制作と発表も含んでいます。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>毎回、前回の短い復習をしたあとに、今回の講義を行なう。前回のことを思い出した上で、今週の課題に取り組んでいく。最後に、今回のまとめを行なう。</p>					
	予習・復習	<p>受講者各人の積極的な勉強が基本です。分からないところは、必ず質問してください。自分自身で調べて、発表授業回まで、事前に課題に取り組みましょう。</p> <p>予習事項：次回の講義の終わりに、来週の講義内容を予告するので、指定された章(箇所)をきちんと読んでおくこと。(45分)</p> <p>復習事項：習った箇所を毎回講義後に復習をすること(45分)</p>					
	テキスト	一生使えるプレゼン上手の資料作成入門 岸 啓介 著					
学習評価の方法	<p>毎回の授業課題評価 40%、中間確認小テスト 30%、最終課題パワーポイントレポート 30%で評価します。毎回の授業課題、中間小テストの提出がない場合は、採点となりません。最終課題は、パワーポイントの作成です。期日に間に合わなければ、一切採点に入れません。</p>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <p>一生使える見やすい資料のデザイン入門 森重湧太 著</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション（本講義の全体像と目標をしめす）
2 回	タイトル：資料作成ツールとしてのパワーポイント 内容：パワーポイントプレゼンの必要性 パワーポイントプレゼンの事例 パワーポイントの基本的機能について
3 回	タイトル：一発 OK がもらえる資料とはどういうものか 内容：資料の事例提示 どこをどうすれば良い資料と言われるのか 見る人のことを考える
4 回	タイトル：資料の「説得力」が高まる構成の基本 内容：「説得力」ある資料の事例提示 構成を考える上での基本 1枚あたりの必要なプレゼンテーションタイムを考える
5 回	タイトル：言いたいことが伝わるスライドの基本① 内容：伝わるスライドとは何か 伝わるスライドについて考える 考えた伝わるスライドから構成を考える
6 回	タイトル：言いたいことが伝わるスライドの基本② 内容：作成したスライドを Google スライドで共有 構成して作成したスライドをお互いに評価する 評価を受けたスライドをアップグレードする
7 回	タイトル：作成したスライドの振り返り 内容：説得力のある構成のしっかりしたスライドを作成するには 構成を考える上での基本のおさらい 1枚に盛り込む内容の量の確認

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>タイトル：OKを引き出す！ グラフとビジュアルの効果的な使い方</p> <p>内容：グラフの効果的な使い方 ビジュアルに最適な文字ポイントとカラーについて トータルグラフィックの美しさの重要性</p>
9 回	<p>タイトル：グラフとビジュアルにこだわったプレゼンテーションをつくる</p> <p>内容：テーマに沿った構成とビジュアル、グラフの作成を行なう ストーリーの論理性の確認（結論⇒理由⇒本論⇒結論） ノートを使用して、発表原稿を作成する</p>
10 回	<p>タイトル：アニメーションの使い方を学ぶ</p> <p>内容：効果的にアニメーションを取り入れる アニメーションの様々な事例 見る人の立場に立って煩雑にしすぎないことも重要</p>
11 回	<p>タイトル：効率よく資料の見た目を整えるテクニック</p> <p>内容：効率よく資料の見た目を整えるテクニックの事例 自分のプレゼンの見た目を整える</p>
12 回	<p>タイトル：資料作成のプラスワンテクニック①</p> <p>内容：テクニックの整理 実際にテクニックを整理しながら使ってみる</p>
13 回	<p>タイトル：資料作成のプラスワンテクニック②</p> <p>内容：使ってみたテクニックから使えそうなものをチョイスする 自分のプレゼンテーションにいくつかのテクニックを取り入れる</p>
14 回	<p>タイトル：第9回で提示したプレゼンのテーマに沿って再度プレゼンを構築する</p> <p>内容：プレゼンテーションの総仕上げ Google スライドで講師と共有しながら作業を進める 提出日までに完成するように仕上げていく</p>
15 回	<p>総括 振り返りとまとめ</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	教学マネジメント	授業回数	15	単位数	2	担当教員	平野 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A 棟 405 研究室 水曜日 13 時から 14 時 30 分 hirano@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>専門職として予測困難な時代を生き抜くためには、学生が自律的に学習し行動する力が必要である。本学が表明する学生の学習成果は、いわゆる三つの方針のうち教育課程編成・実施の方針に即して獲得するものであり、大学及び学科レベルで定める汎用的学習成果を、専門的学習成果を獲得する授業科目でも授業科目レベルの汎用的学習成果として定めている。大学での学習を修了した学生に対して卒業証書・学位記を授与することになるが、その際、三つの方針のうち卒業認定・学位授与の方針に即して判定することになる。授与される卒業証書・学位記は卒業と学位の取得を証する書類であるので、教学マネジメント指針では学生の学習成果の測定と可視化が求められその内容をディプロマ・サブリメント (学位証書補足資料) として学生自身の卒業時の能力を提示することとしている。</p> <p>本授業では、1~2 年次までの自身の学習成果を分析・把握し、また担当教員の成績評価と比較するなど学生と教員の協働により卒業時のディプロマ・サブリメントの初期データを作成する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>汎用的学習成果 : マネジメント力を獲得するために必要であるキャリア的思考を身に付ける。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・<b>演習</b>・実験・実習・実技)</p> <p>第 1 回~第 7 回 : 下記のテキストを基に講義を行う。</p> <p>第 8 回~第 15 回 : パソコンを使った演習を行う。</p> <p>また、作成したディプロマ・サブリメントを協議する。</p>	<p>予習・復習</p> <p>予習事項 : 第 1 回~第 7 回に予習事項を定める。(約 45 分)</p> <p>復習事項 : 第 1 回~第 7 回に復習事項を定める。(約 45 分)</p> <p>作成したディプロマ・サブリメントを基に授業担当教員と対話して適宜修正すること。</p>	<p>テキスト</p> <p>学生便覧</p>			
学習評価の方法	<p>学習評価の方法として、</p> <p>① ディプロマ・サブリメントを作成するための基礎知識の獲得状況 (30%)</p> <p>② 完成したディプロマ・サブリメントの成果状況 (50%)</p> <p>③ ディプロマ・サブリメントの成果からみる今後の学生生活の行動計画 (20%)</p> <p>で評価する。</p> <p>① はレポートなどで評価する。</p> <p>② は教員と協働で作成したディプロマ・サブリメントの成果物で評価する。</p> <p>③ は最終レポートで評価する。</p> <p>※レポートは提出期限に遅れて提出された場合、減点対象となるので注意すること。</p>						
注意事項	<p>参考図書 : 教学マネジメント指針 (令和 2 年 1 月 22 日 中央教育審議会大学分科会)</p> <p>ディプロマ・サブリメントの取り扱いについて : ディプロマ・サブリメントの内容は、今後のクラスメンターとの面談や国試対策ゼミで活用するなど、本授業の終了後も全学的に情報共有を図っていきます。また、ディプロマ・サブリメントは学科教員と協働で随時更新し完成していきます。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション 教育計画の説明（教育目標と学生の学習成果、教育方法、学習評価の方法、注意事項）</p> <p>【復習事項】 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科の学生の学習成果と3つの方針について調べる</p> <p>【予習事項】 教学マネジメント指針の「はじめに」を読む</p>
2 回	<p>教学マネジメント指針①</p> <p>● はじめに</p> <p>【復習事項】 「学習者本位の教育及びこれからの学習者に求められる能力について」をレポートで提出。</p> <p>【予習事項】 教学マネジメント指針の「三つの方針」を通じた学修目標の具体化」及び「授業科目・教育課程の編成・実施」を読む</p>
3 回	<p>教学マネジメント指針②</p> <p>● 「三つの方針」を通じた学生の学習成果の具体化</p> <p>● 授業科目・教育課程の編成・実施</p> <p>● 学生の学習成果とディプロマポリシー</p> <p>【復習事項】 「本学と他大学の授業科目・教育課程の比較について」をレポートで提出。</p> <p>【予習事項】 教学マネジメント指針の「学修成果・教育成果の把握・可視化」を読む。</p>
4 回	<p>教学マネジメント指針③</p> <p>● 学習成果・教育成果の把握・可視化</p> <p>【復習事項】 「学習成果の測定・可視化における期待と今後の課題」をレポートで提出。</p> <p>【予習事項】岡山学院大学のディプロマ・サプリメント規程を読む。</p>
5 回	<p>ディプロマ・サプリメントの理解① 岡山学院大学ディプロマ・サプリメント規程</p> <p>目的 ディプロマ・サプリメント 記載内容 教育の質保証</p> <p>【予習事項】卒業後のキャリアについて考える。</p>
6 回	<p>ディプロマ・サプリメントの理解② 食物栄養学科で取得できる資格について</p> <p>管理栄養士、栄養士、食品衛生管理者、食品衛生監視員、フードスペシャリスト、 専門フードスペシャリスト、栄養教諭一種免許、図書館司書、社会福祉主事</p> <p>【予習事項】卒業研究について考える。</p>

7 回	ディプロマ・サプリメントの理解③ 卒業研究について 【演習】4年前期「卒業研究Ⅰ」でやってみたい研究を1つ考える。
8 回	ディプロマ・サプリメントの作成① D203 で演習 1. 証明者名 名前 生年月日 学籍番号 2. 資格 資格名称 主要学習分野 資格授与機関の名称及び種別 3. 証明者の資格取得 卒業資格 教育課程の公式期間 資格取得
9 回	ディプロマ・サプリメントの作成② D203 で演習 4. 証明者の履修内容及び成果 履修形態 教育課程の詳細 基礎教育科目 評点一覧 専門教育科目 評点一覧 総合評価
10 回	ディプロマ・サプリメントの作成③ D203 で演習 5. 証明者の学生の学習成果のチャート① 専門的学習成果 汎用的学習成果
11 回	ディプロマ・サプリメントの作成④ D203 で演習 6. 証明者の学生の学習成果のチャート② 専門的学習成果 汎用的学習成果 7. 証明者の能力及び特記事項 卒業研究Ⅰ・Ⅱのタイトル 卒業研究Ⅰ・Ⅱの概要 特記事項
12 回	ディプロマ・サプリメントの評価と修正① D203 で演習・協議 ステップ① 出力データの内容について担当教員と一緒に考える 出力結果について考察 授業についての感想・得意内容と苦手内容
13 回	ディプロマ・サプリメントの評価と修正② D203 で演習・協議 ステップ② 授業担当教員とコミュニケーションをとり、GPの裏付けを明確にする 学生と授業担当教員のギャップを埋める 何が出来ていたのか、何が出来ていなかったのか 出来ているところをどのように強みとしていくのか 出来ていないところをどのように改善すべきか
14 回	ディプロマ・サプリメントの評価と修正③ D203 で演習・協議 ステップ③ 授業担当教員と共に評価し、ディプロマ・サプリメントを仕上げる。
15 回	ディプロマ・サプリメントと今後の学生生活 まとめ 第12回から14回まで行ってきたディプロマ・サプリメントの評価と修正を、今後の学生生活の計画にどのように活かしていくのか

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	キャリアガイダンス	授業回数	15	単位数	2	担当教員	松永 和美
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : matsunaga@owc.ac.jp OH: 授業日 10:00～13:00							
教育目標	教育目標：労働には、どのような形態があるのか。グローバル経済が広がる中、人口減少を迎える日本において、働き方の形態は多様になってくる。働き方の形態によって、加入する社会保険や、受ける事ができる保障が異なってくる。どのような労働形態があり、その形態によって生活がどのように違ってくるのかを、社会保障や労働制度から体系的に学ぶ。						
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) 一方通行な講義ではなく、ディスカッションを交えながら進めます。					
	予習・復習	予習事項：講義の終わりに、来週の講義内容を予告するので、指定された章（箇所）をきちんと読んでおくこと。(45分) 復習事項：習った個所を毎回講義後に復習をすること。(45分)					
	テキスト	講師が毎回資料を提供します。 参考文献・資料に関しては、授業の中で紹介する予定です。					
学習評価の方法	期末試験 100点						
注意事項	【参考図書】 授業の中でその都度説明する。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>ガイダンス・オリエンテーション ～イントロダクション～人生設計とは～</p> <p>まずは、人生設計（ライフプラン）を立てましょう。その設計から最終講義でどのように設計が変わるのかを、楽しみにしてください。 また、講義全体の概要を説明し受講の方法などを説明します。</p>
2 回	<p>タイトル：労働の種類</p> <p>内容：労働するとはどのようなことを指すのでしょうか。現状の雇用でない働き方を紹介します。具体的に、その働き方をした人のお話も聞きます。働き方のちがいによって、どのようなメリットやデメリットがあるのかを検討します。</p>
3 回	<p>タイトル：起業するとは</p> <p>内容：働く場合に、雇用ではない働き方で、起業するとは、どのようなことが必要なのか。起業にも、いろいろな起業の方法があります。どの様な起業があるのかを紹介します。また、起業した場合に受ける事ができる給付金などを紹介します。</p>
4 回	<p>タイトル：企業ではたらく①</p> <p>内容：大半の人は、企業で働くことが多いですが、企業で労働した場合の社会保障の概要を学びます。</p>
5 回	<p>タイトル：企業ではたらく②</p> <p>内容：企業で働く場合に、人生の中で起こるイベントの際に、どのような制度があるのかを紹介します。今回は、人生のイベントの中で、結婚、出産、育児に関する法制度や社会保障を学びます</p>
6 回	<p>タイトル：企業ではたらく③</p> <p>内容：企業で働く場合に、病気になった場合や、会社を辞める場合の法制度や社会保障を学びます。</p>
7 回	<p>タイトル：企業ではたらく④</p> <p>内容：企業で働く場合に子育て中に受ける事ができる法制度や社会保障を学びます。また、介護をしなければならない場合の制度もみていきます。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>タイトル：働く時間について</p> <p>内容：人生の中で労働する時間は何時間ぐらいでしょうか。それを考えながら、今後のライフプランを考えて行くことが出来るように、今まで習ったことを元にしながら、検討していきます。</p>
9 回	<p>タイトル：定年後の人生①</p> <p>内容：定年後の生活はどのように暮らしていけばよいのでしょうか。この回では主に年金制度について見ていきます。</p>
10 回	<p>タイトル：定年後の人生②</p> <p>内容：年金制度について、働き方によってどのような違いがあるのかを学びます。また、資産の運用やお金についても学びます。</p>
11 回	<p>タイトル：人生のキャリア形成</p> <p>内容：自分の人生を考えると、今後のキャリア形成は重要です。今後自分がどのようなキャリアを形成していくのかを考える能力を身につけます。</p>
12 回	<p>タイトル：給料明細の見方</p> <p>内容：給料明細の中には、今まで学んだことがたくさん詰まっています。実際の給料明細を見ながら、この場合はどのような働き方をしているのか。どのような保障が受けられるのかを検討していきます。</p>
13 回	<p>タイトル：日本の労働政策</p> <p>内容：これからの労働政策について概略を説明します。自分自身でどのような不安や疑問があるのか。その課題を解決するための働き方を検討していきます。</p>
14 回	<p>タイトル：日本の社会保障政策</p> <p>内容：これからの社会保障についての概略を説明します。今後どのように自分の人生をプランすればいいのかを検討していきます。</p>
15 回	<p>タイトル：総括</p> <p>内容：今まで学んだ内容を復習します。 今までの学びによって、自分の人生のプランがどのように変わったのか。再度ライフプランを立てていきます。</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	キャリアガイダンス	授業回数	15	単位数	2	担当教員	平野 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A 棟 405 研究室 水曜日 13 時から 14 時 30 分 hirano@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;</p> <p>学生から社会人への移行を円滑におこなうことは充実した社会生活を送るために必須の能力である。各々の希望やライフステージに応じて、職業に必要な知識・技能を身に付け、職業生活の中で存分に力を発揮していかなければならない。</p> <p>本科目では、社会的・職業的自立に向け、学生生活での学習成果やこれまでの経験を分析し、今後の自分にとって必要な資質や能力はなにかを考えるための導入教育をおこなう。講義内容に基づく演習を通して、主体的に自分の将来設計に必要な知識や手法の修得を図ることを目標とする。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt;</p> <p>専門的学習成果：社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力を身につける。自分自身のキャリアプランニングをおこなうことが出来る。</p> <p>汎用的学習成果：社会的・職業的自立に向け、「論理的思考力」、「問題解決力」、「自己管理能力」、「チームワーク」を身につける。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・<b>演習</b>・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業回数別授業内容に沿った講義後、演習をおこなう。</li> <li>・演習は個人または集団で実施する。</li> </ul> <p>なお、学習のフィードバックは、各演習終了時に解説を行う。</p> <p>予習・復習</p> <p>【予習】：90 分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題を提示した際は、実施する。</li> <li>・授業時に配付するキャリアガイダンステキストを予め読む。</li> </ul> <p>【復習】：90 分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後課題を提示した際は、実施する。</li> <li>・授業後に演習内容を復習し、講義内容を中心に応用力をつける。</li> </ul> <p>テキスト</p> <p>配布資料 (レジメ・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援ガイド (本学科作成)</li> <li>・授業開始時に配布する。</li> </ul>					
学習評価の方法	<p>自分自身の将来設計をおこない、演習に積極的に取り組んでいるかに重点をおき、学習評価を行う。</p> <p>専門的学習成果は、毎回の授業における個人または集団での演習に関する質的評価 60 点として評価する。</p> <p>汎用的学習成果は、演習における論理的思考力、「問題解決力」、「自己管理能力」、「チームワーク」を 40 点として評価する。</p>						
注意事項	<p>参考図書：</p> <p>中央教育審議会：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>授業の進め方についての説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアガイダンスの授業計画を解説する。</li> <li>・職業選択における業種・職種・賃金</li> <li>・将来設計におけるライフイベントと必要な資金</li> </ul> <p>成果：授業回数別教育内容に関して理解する。</p>
2 回	<p>キャリアプランニングとライフプランニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の将来設計を考える</li> <li>・自分が望む仕事・生活を書き出す。</li> <li>・テキストに沿って、生涯に必要な資金を算出する。</li> </ul> <p>成果：必要なお金を知ることで就業意欲を高める。</p>
3 回	<p>社会における自己理解・自己管理能力①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ストレスマネジメントとアンガーマネジメント</li> <li>・ストレスとの付き合い方を知る。</li> <li>・怒りとの付き合い方を知る。</li> </ul> <p>成果：自分の感情を管理する。</p>
4 回	<p>社会におけるチームワーク①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○就職に関するマナー講座</li> <li>・企業への電話でのマナーを学ぶ。</li> <li>・企業への書類作成のマナーを学ぶ。</li> </ul> <p>成果：就職活動に必要なマナーが身につく。</p>
5 回	<p>社会におけるチームワーク②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○就職に関するマナー講座</li> <li>・面接における入退室のマナーを学ぶ。</li> <li>・話し方、聞き方を学ぶ。</li> </ul> <p>成果：就職活動に必要なマナーが身につく。</p>
6 回	<p>社会における自己理解・自己管理能力②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己分析</li> <li>・キャンパス・ハイパフォーマンスシートを作成する。</li> <li>・これまでの学校生活で得た知識・技能を書き出しまとめる。</li> </ul> <p>成果：自分の個性を理解し、これまでの経験を具体化する。</p>
7 回	<p>社会における自己理解・自己管理能力③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己分析</li> <li>・キャンパス・ハイパフォーマンスシートを発表する。</li> <li>・他者の発表内容を聞き、学生が総評する。</li> </ul> <p>成果：他者の個性を知り、自分のPRポイントを知る。</p>

8 回	<p>就職試験対策①</p> <p>○グループディスカッションの演習：1回目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志望する業種ごとにグループを作り、グループディスカッションの演習をおこなう。</li> <li>・グループディスカッションは試験官役を教員が担当し、総評をおこなう。</li> </ul> <p>成果：他者とのディスカッション能力を養う。</p>
9 回	<p>就職試験対策②</p> <p>○グループディスカッションの演習：2回目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志望する業種ごとにグループを作り、グループディスカッションの演習をおこなう。</li> <li>・グループディスカッションは試験官役を教員が担当し、総評をおこなう。</li> </ul> <p>成果：他者とのディスカッション能力を養う。</p>
10 回	<p>就職試験対策③</p> <p>○履歴書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が働きたい業種を考え、自己分析を基に履歴書を作成する。</li> <li>・志望動機及び自己PRを作成する。</li> </ul> <p>成果：履歴書がまとまる。</p>
11 回	<p>就職試験対策④</p> <p>○履歴書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が働きたい業種を考え、自己分析を基に履歴書を作成する。</li> <li>・志望動機及び自己PRを作成する。</li> </ul> <p>成果：履歴書を完成させる。</p>
12 回	<p>就職試験対策⑤</p> <p>○個人面接の演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志望する業種ごとに、個人面接の演習をおこなう。</li> <li>・個人面接は試験官役を教員が担当し、総評をおこなう。</li> <li>・待ち時間に履歴書の修正をおこなう。</li> </ul> <p>成果：個人面接を経験し、志望動機・自己PRの内容を深める。</p>
13 回	<p>就職試験対策⑥</p> <p>○SPI試験の演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI試験の概要説明</li> <li>・SPI試験を解く。</li> </ul> <p>成果：SPI試験の概要を理解する。</p>
14 回	<p>就職試験対策⑦</p> <p>○集団面接の演習：基本編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志望する業種ごとにグループを作り、集団面接の演習をおこなう。</li> <li>・集団面接は試験官役を教員が担当し、総評をおこなう。</li> </ul> <p>成果：集団面接を経験し、志望動機・自己PRの内容を深める。</p>
15 回	<p>就職試験対策⑧</p> <p>○集団面接の演習：応用編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志望する業種ごとにグループを作り、集団面接の演習をおこなう。</li> <li>・集団面接は試験官役を教員が担当し、総評をおこなう。</li> </ul> <p>成果：集団面接での志望動機・自己PRを伝える力を養う。</p>

区分			授業科目	必修	選択	計	担当教員	職名	掲載頁	備考	
現代生活基礎科目			基礎化学	6	2	2	岡田只士	講師	Ⅱ-1		
			基礎生物学		2	2	清水憲二	教授	Ⅱ-4		
			アクティブラーニングⅠ (健康寿命延伸教室Ⅰ)		2	2	内田雅子 岡田只士		Ⅱ-7		
			アクティブラーニングⅡ (健康寿命延伸教室Ⅱ)		2	2	佐藤幸枝 妹尾良子		Ⅱ-10		
			食文化論		2	2	次田隆志	教授	Ⅱ-13		
			フードコーディネーター		2	2	次田隆志 氏峰菜里		Ⅱ-15		
			食料経済		2	2	次田隆志	教授	Ⅱ-18		
栄養士法管理栄養士指定 教育分野		講義又は 演習必修 単位	実験又は 実習必修 単位		必修	選択	計	担当教員	職名	掲載頁	備考
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学Ⅰ	2	2	2	兼安貴子	講師	Ⅱ-20	
	公衆衛生学Ⅱ	2		2		兼安貴子	講師	Ⅱ-23			
	公衆衛生学Ⅲ	2		2		兼安貴子	講師	Ⅱ-26			
	健康管理論	2		2	山田治来	教授	Ⅱ-28				
	社会福祉概論	2		2	松尾 冀	教授(兼)	Ⅱ-31				
	人体の構造と機能、疾病の成り立ち	14		解剖生理学Ⅰ	7	2	2	清水憲二	教授	Ⅱ-35	
	解剖生理学Ⅱ			2		2	清水憲二	教授	Ⅱ-38		
	解剖生理学実験Ⅰ			1		1	清水憲二	教授	Ⅱ-41		
	解剖生理学実験Ⅱ			1		1	清水憲二	教授	Ⅱ-44		
	運動生理学			2		2	清水憲二	教授	Ⅱ-46		
	生化学Ⅰ		3	2		2	岡田只士	講師	Ⅱ-49		
	生化学Ⅱ			2	2	岡田只士	講師	Ⅱ-52			
	生化学実験			1	1	岡田只士	講師	Ⅱ-55			
	病理学		2	2	山田治来	教授	Ⅱ-58				
	微生物学		2	2	狩山玲子	教授	Ⅱ-61				
	食べ物と健康	8		食品学総論Ⅰ	3	2	2	次田隆志	教授	Ⅱ-64	
	食品学総論Ⅱ	2		2		次田隆志	教授	Ⅱ-66			
	食品学総論実験	1		1		次田隆志	教授	Ⅱ-68			
	食品学各論	2		2		津村哲司	准教授	Ⅱ-70			
	食品学各論実験Ⅰ	1		1		津村哲司	准教授	Ⅱ-72			
食品学各論実験Ⅱ	1	1		津村哲司		准教授	Ⅱ-74				
食品加工学Ⅰ	2	2		津村哲司		准教授	Ⅱ-76				
食品加工学Ⅱ	2	2		津村哲司		准教授	Ⅱ-78				
食品加工学実習	1	1		津村哲司		准教授	Ⅱ-80				
食品品質管理論	2	2		次田隆志			Ⅱ-82				

								狩山玲子 津村哲司				
				食 品 分 析 学		2	2	津村哲司	准教授	II-84		
				調 理 学 I	3	2	2	氏峰菜里	講師	II-86		
				調 理 学 II		2	2	氏峰菜里	講師	II-89		
				調 理 学 実 習 I		1	1	氏峰菜里	講師	II-92		
				調 理 学 実 習 II		1	1	氏峰菜里	講師	II-95		
				調 理 学 実 習 III		1	1	石高優子	講師	II-98		
				食 品 衛 生 学 I	2	2	2	狩山玲子	教授	II-102		
				食 品 衛 生 学 II		2	2	狩山玲子	教授	II-105		
				食 品 衛 生 学 実 験		1	1	狩山玲子	教授	II-106		
専 門 分 野	基 礎 栄 養 学	2	8	基 礎 栄 養 学	6	2	2	岡田只士	講師	II-112		
				基 礎 栄 養 学 実 験			1	1	岡田只士	講師	II-115	
	応 用 栄 養 学	6		運 動 栄 養 学			2	2	清水憲二	教授	II-118	
				応 用 栄 養 学			2	2	妹尾良子	教授	II-121	
				栄 養 ア セ ス メ ン ト			2	2	妹尾良子	教授	II-124	
				応 用 栄 養 学 実 習			1	1	妹尾良子	教授	II-127	
	栄 養 教 育 論	6		栄 養 教 育 論 I	6	2	2	石高優子	講師	II-131		
				栄 養 教 育 論 II			2	2	石高優子	講師	II-135	
				栄 養 教 育 管 理			2	2	石高優子	講師	II-138	
				栄 養 教 育 論 実 習 I			1	1	石高優子	講師	II-142	
				栄 養 教 育 論 実 習 II			1	1	石高優子	講師	II-146	
	臨 床 栄 養 学	8		臨 床 栄 養 学 I	10	2	2	平野 聡	准教授	II-149		
				臨 床 栄 養 学 II			2	2	平野 聡	准教授	II-152	
				臨 床 栄 養 学 III			2	2	平野 聡	准教授	II-156	
				臨 床 栄 養 学 実 習			1	1	平野 聡	准教授	II-159	
				臨 床 栄 養 学 演 習			2	2	平野 聡	准教授	II-163	
	公 衆 栄 養 学	4		公 衆 栄 養 学 I		2	2	内田雅子	准教授	II-166		
				公 衆 栄 養 学 II		2	2	内田雅子	准教授	II-170		
				公 衆 栄 養 学 実 習		1	1	内田雅子	准教授	II-174		
	給 食 経 営 管 理 論	4		給 食 経 営 管 理 論 I	6	2	2	佐藤幸枝	教授	II-177		
		給 食 経 営 管 理 論 II		2		2	佐藤幸枝	教授	II-180			
		給 食 経 営 管 理 実 習 I		1		1	佐藤幸枝	教授	II-183			
		給 食 経 営 管 理 実 習 II		1		1	佐藤幸枝	教授	II-186			
総 合 演 習	2			総 合 演 習		2	2	佐藤幸枝 内田雅子 平野聡 妹尾良子 石高優子		II-189		

				給食経営管理実習事前事後		1	1	佐藤幸枝	教授	Ⅱ-192	
	臨地実習		4	給食経営管理臨地実習Ⅰ		1	1	佐藤幸枝	教授	Ⅱ-195	
				給食経営管理臨地実習Ⅱ		1	1	佐藤幸枝	教授	Ⅱ-197	
				公衆栄養臨地実習		1	1	内田雅子	准教授	Ⅱ-199	
				臨床栄養臨地実習		2	2	平野聡	准教授	Ⅱ-201	
自由科目				卒業研究Ⅰ		2	2	未掲載			
				卒業研究Ⅱ		2	2	未掲載			
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目			学校栄養指導論Ⅰ		2	2	塩津敦子	講師	Ⅲ-1	
				学校栄養指導論Ⅱ		2	2	塩津敦子	講師	Ⅲ-5	
	栄養・教育の基礎的理解に関する科目等			教育原理		2	2	堀口のぞみ	講師	Ⅲ-9	
				教師論		2	2	堀口のぞみ	講師	Ⅲ-15	
				教育制度論		1	1	堀口のぞみ	講師	Ⅲ-21	
				教育心理学		2	2	大賀恵子	教授(兼)	Ⅲ-25	
				特別支援の方法と理解		1	1	大賀恵子	教授(兼)	Ⅲ-31	
				教育課程論		1	1	堀口のぞみ	講師	Ⅲ-37	
				道徳・特別活動・総合的な学習の時間		2	2	尾崎聡 都田修兵		Ⅲ-41	
				教育の方法及び技術		1	1	原田博史 原田俊孝 都田修兵 塩津敦子		Ⅲ-48	
				生徒指導論		2	2	浦上博文	教授(兼)	Ⅲ-55	
				教育相談		2	2	大賀恵子	教授(兼)	Ⅲ-62	
				事前・事後指導		1	1	塩津敦子	講師	Ⅲ-66	
				栄養教育実習		1	1	塩津敦子	講師	Ⅲ-71	
			教職実践演習 (栄養教諭)		2	2	塩津敦子 堀口のぞみ		Ⅲ-73		

令和7年度教育計画

科目名	基礎化学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	岡田只士
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : C棟101研究室 教員在室時は随時可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本学科では、高度な専門知識や技能を修得した栄養のスペシャリストである管理栄養士を育成することを目標とする。化学は栄養学分野の基礎であり、管理栄養士の育成に不可欠である。したがって、本講は管理栄養士に求められる化学の基礎力を涵養することを目的とする。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果：①物質の成り立ち（原子の構造、電子配置、周期律と周期表、原子の安定化と化学結合、イオンとイオン結合、分子と共有結合、配位結合、分子の極性と電気陰性度、水素結合）、②物質の変化（原子量、分子量、式量、物質量モル、中和反応、酸化還元反応、反応熱と熱化学方程式、反応速度、可逆反応と化学平衡）、③物質の状態と性質（物質の三態、溶質と溶媒、溶解度、溶液の濃度、電解質と非電解質、浸透圧、酸・塩基とpH、中和滴定と酸・塩基濃度、緩衝液と緩衝作用、コロイド溶液）、④身近な有機化合物（官能基、炭素の価標と結合の種類、炭化水素の性質と反応、アルコールの性質と反応、有機酸の性質と反応、エステル、アミンの性質と反応、アミドとペプチド、異性体）、⑤食品中の生体物質の性質（糖質、脂質、たんぱく質・アミノ酸、酵素、ヌクレオチドと核酸、ビタミン、ミネラル）を理解し、管理栄養士の果たすべき専門領域に関する基本となる能力を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果：本科目の学習により、職業生活や社会生活に必要な数量的スキルを獲得する。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>( 講義・演習・実験・実習・実技 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、テキスト及びプリントを用いて行う。</li> <li>・各章終了後に、「小テスト」を行う。</li> <li>・毎授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想など、自由記述形式での記入を求める。その記載内容に対する回答、コメント等を記載して次回の授業で返却する。</li> <li>・小テストに対するフィードバックの方法：採点后、返却して解説する。</li> </ul>				
		予習・復習	<p>予習事項：各回の授業で学習する内容についてテキストを読み、疑問点を明確にする。  復習事項：テキスト、授業で配付されたプリント、ノートを読み、授業内容を理解する。  各回の予習・復習の時間はそれぞれ90分、あるいは合計180分とする。  また、各回の予習・復習事項は「授業回数別教育内容」に示す。</p>				
	テキスト	<p>食を中心とした化学 第5版  北原重登、塚本貞次、野中靖臣、水崎幸一 著  東京教学社 定価 2200円 (税別) 2022年</p>					
学習評価の方法	<p>学習成果：以下の項目について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①物質の成り立ちについて理解している。</li> <li>②物質の変化について理解している。</li> <li>③物質の状態と性質について理解している。</li> <li>④身近な有機化合物について理解している。</li> <li>⑤食品中の生体物質の性質を理解している。</li> </ol> <p>学習評価は、授業態度（遅刻をしない、質問に答えるなど）(20%)、小テスト(30%)、および期末試験の結果に50%の重みをつけて100点満点とする。</p>						

注意 事項	<p>【参考図書】 特に、指定しない。</p>
----------	-----------------------------

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>物質の成り立ち(1) 講義内容：(a)原子の構造；(b)電子配置；(c)周期律と周期表 予習事項：テキスト第1章 (pp. 1-9)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第1章 (pp. 1-9)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
2 回	<p>物質の成り立ち(2) 講義内容：(a)原子の安定化と化学結合；(b)イオンとイオン結合；(c)分子と共有結合；(d)配位結合 予習事項：テキスト第1章 (pp. 10-14)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第1章 (pp. 10-14)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
3 回	<p>物質の成り立ち(3) 講義内容：(a)分子の極性と電気陰性度；(b)水素結合 予習事項：テキスト第1章 (pp. 15-18)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第1章 (pp. 15-18)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
4 回	<p>物質の変化(1) 講義内容：(a)化学量（原子量、分子量、式量）；(b)物質量（モル） 予習事項：テキスト第2章 (pp. 19-24)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第2章 (pp. 19-24)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
5 回	<p>物質の変化(2) 講義内容：(a)中和反応；(b)酸化還元反応 予習事項：テキスト第2章 (pp. 25-31)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第2章 (pp. 25-31)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
6 回	<p>物質の変化(3) 講義内容：(a)反応熱と熱化学方程式；(b)反応速度；(c)可逆反応と化学平衡 予習事項：テキスト第2章 (pp. 32-46)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第2章 (pp. 32-46)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
7 回	<p>物質の状態と性質(1) 講義内容：(a)物質の三態；(b)溶質と溶媒；(c)溶解度；(d)溶液の濃度 予習事項：テキスト第3章 (pp. 47-60)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第3章 (pp. 47-60)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
8 回	<p>物質の状態と性質(2) 講義内容：(a)電解質と非電解質；(b)浸透圧；(c)酸・塩基と pH 予習事項：テキスト第3章 (pp. 61-71)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第3章 (pp. 61-71)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>

9 回	<p>物質の状態と性質(3)</p> <p>講義内容：(a)中和滴定と酸・塩基濃度；(b)緩衝液と緩衝作用；(c)コロイド溶液</p> <p>予習事項：テキスト第3章 (pp. 72-86)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第3章 (pp. 72-86)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
10 回	<p>身近な有機化合物(1)</p> <p>講義内容：(a)官能基；(b)炭素の価標と結合の種類；(c)炭化水素の性質と反応</p> <p>予習事項：テキスト第4章 (pp. 87-98)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第4章 (pp. 87-98)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
11 回	<p>身近な有機化合物(2)</p> <p>講義内容：(a)アルコールの性質と反応；(b)有機酸の性質と反応；(c)エステル</p> <p>予習事項：テキスト第4章 (pp. 107-120)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第4章 (pp. 107-120)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
12 回	<p>身近な有機化合物(3)</p> <p>講義内容：(a)アミンの性質と反応；(b)アミドとペプチド；(c)異性体</p> <p>予習事項：テキスト第4章 (pp. 121-134)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第4章 (pp. 121-134)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
13 回	<p>食品に見る生体物質(1)</p> <p>講義内容：(a)糖質；(b)脂質</p> <p>予習事項：テキスト第5章 (pp. 135-147)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第5章 (pp. 135-147)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
14 回	<p>食品に見る生体物質(2)</p> <p>講義内容：(a)タンパク質・アミノ酸；(b)酵素</p> <p>予習事項：テキスト第5章 (pp. 148-158)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第5章 (pp. 148-158)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
15 回	<p>食品に見る生体物質(3)</p> <p>講義内容：(a)ヌクレオチドと核酸；(b)ビタミン；(c)ミネラル</p> <p>予習事項：テキスト第5章 (pp. 159-169)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第5章 (pp. 159-169)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	基礎生物学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	清水 憲二
質問受付の方法（質問票、e-mail, オフィスアワー等）：シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp、 オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前 10 時～12 時が望ましい。							
教育目標と学生の学習成果	<b>教育目標：</b> 最初にヒトの設計図である遺伝子と、身体の構成単位である細胞の構造および機能を理解する。それを基礎にして、組織、器官の成り立ちと働き、栄養素の代謝、ホメオスタシス機構、遺伝の機構、等を学ぶことにより、生命現象を学ぶ楽しさを知り、栄養科学の基本となる医学生物学的な知識と考え方を習得する。必要に応じて、疾患についても触れる。 <b>学生の学習成果：</b> [専門的学習成果]：管理栄養士となるために必要な教科を学ぶ上で基本となる生命科学を理解した上で、それらの機構を具体的に説明できる。 [汎用的学成果習]：シャトルカードの質問提示による課題発見力、予習・復習の徹底に						
	<b>（講義）・演習・実験・実習・実技）</b> 勉学の基本はノート作りである。最初にノートの作り方を指導した後、講義はテキストを中心に、プリントを併用して進める。高等学校で生物を履修していない学生にも十分理解できるように、時には中学レベルまでさかのぼって、複雑な生命現象の理解を助ける。講義に際しては、シャトルカードで毎回質問を提出してもらい、翌週にそれらの回答プリントを配布して、個人毎の疑問に答える。また、下記に述べるように、原則として毎回、講義終了時に重要事項復習テストを提出し、添削を受ける。その他にも到達度を測る小テストを適宜行ない、知識の自己点検と予習、復習の評価を行なう。						
教育方法	<b>予習・復習</b> 予習：シラバスまたは講義の進捗状況に従い、教科書の予定講義範囲を前もって読んでおき、シャトルカードに記入する質問を自力で発見して別紙に記録しておく。 講義中：自らの手を動かし、ノートを作成するのが受講の基本である。予習および講義中に疑問点を発見したら、必ずシャトルカードに質問として提出する！ 復習：毎回の講義終了時に重要事項復習テストを行なうので、講義があった日は、必ず教科書の該当部分を読み直し、重要事項復習テストの結果で誤った箇所を「間違いノート」に記入しておく。また、シャトルカードの質問箱に対する回答プリントを熟読し、他の学生の質問と回答も含めて、ノートを完全にしてお						
	<b>テキスト</b> ○木下、小林、浅賀 編 (2010)「ZERO からの生命科学」第 4 版、南山堂、2,400 円＋税 この教科書が前期で終了しなかった場合は、後期の解剖生理学 I でもテキストの一つとして使用する。						
学習評価の方法	学期中に行なう小テストは自己評価を主な目的とするが、毎週の予習復習を正確に反映するので、成績評価にも 10%程度勘案する。また、毎回の重要事項復習テストの結果も成績評価に加える。 重要事項復習テストの結果と中間テストを合わせて 20 点満点で評価し、試験期間中に期末試験を行ない (80 点)、合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。						
注意事項	<b>参考図書：</b> ○坂井建雄、岡田隆夫 監訳 (2005)「ヒューマンバイオロジー」医学書院 (わかりやすい画像が多数あり、理解する上に役立つ。図書館に準備する。)						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション：シラバスの説明。特に注意すること；(真の学問とは：問いを発見することの重要性) 初講試験（学力確認）：生命科学における基本的な化学と生物学の復習。重要事項復習テストの実施方法について具体的に説明する。</p> <p>メインテーマ解説：①生命の根本原理；遺伝子を中心としたセントラル・ドグマが生命の基本原理であることを理解する。②細胞の働きと多様性；ヒトの体は多種類の細胞で構成され、それにより生命活動を維持している。多種類の細胞の存在理由を理解し、生命活動を維持する分子・細胞・組織・器官・器官系のアウトラインを知る。また、生命界でのエネルギー、物質、情報の流れを把握する。(第1回重要事項復習テスト)</p>
2 回	<p>初講試験の解説と補足講義</p> <p>細胞の基本構造とその機能：原核細胞と真核細胞の違い、細胞膜、核、細胞内小器官の構造と機能を理解する。細胞、とりわけ細胞内小器官の構造と機能は国家試験でも重要な単元である。特に、元来は別の生命であったミトコンドリアや葉緑体の役割を確認する。(第1回重要事項復習テストの添削返還と第2回重要事項復習テスト)</p>
3 回	<p>細胞骨格と細胞運動：</p> <p>細胞の移動、細胞内の輸送、細胞の形態維持と形態変化、細胞間相互作用等を担う細胞骨格およびモータータンパク質の構造と機能を理解する。(第2回重要事項復習テストの添削返還と第3回重要事項復習テスト)</p>
4 回	<p>細胞周期と細胞分裂：</p> <p>細胞の一生(細胞分裂で生じた娘細胞が再び母細胞となって細胞分裂を行い、新しい娘細胞を作るまでの過程)、特に染色体を均等に分配する有糸分裂の機構を理解し、併せて、成人の体内の至る所に幹細胞が存在することを学ぶ。(第3回重要事項復習テストの添削返還と第4回重要事項復習テスト)</p>
5 回	<p>多細胞生命体と器官系：</p> <p>細胞が集まってできる4種の組織、上皮組織、支持組織、筋組織と神経組織を構成する細胞と細胞間物質の構造および機能を理解し、これら4種類の組織が連合して様々な器官が形成されていることを知る。さらに、脳、心臓、血液、肝臓、腎臓、皮膚などの代表的器官について、その構造と機能の概要を学ぶ。(第4回重要事項復習テストの添削返還と第5回重要事項復習テスト)</p>
6 回	<p>細胞の分化、器官の形成、生命の老化：</p> <p>配偶子形成から個体の発生機構、細胞間相互作用、幹細胞など、器官系の形成機構を理解する。(第5回重要事項復習テストの添削返還と第6回重要事項復習テスト)</p>
7 回	<p>生命体を構成する物質：</p> <p>水とミネラル、タンパク質、糖質、脂質、核酸などの種類、構造、機能の基本を理解する。(第6回重要事項復習テストの添削返還と第7回重要事項復習テスト)</p>
8 回	<p>消化と吸収</p> <p>消化器系を例にとり、一つの器官系を構成する多数の器官がそれぞれ独自の働きをして、器官系の共通の目的のために働いていることを知る。あわせて、消化器系の各器官と門脈の機能を理解する。(第7回重要事項復習テストの添削返還と第8回重要事項復習テスト)</p>

9 回	<p>生体における物質代謝（１）：          酵素とビタミン、糖質代謝、アミノ酸とタンパク質の代謝を理解する。          （第８回重要事項復習テストの添削返還と第９回重要事項復習テスト）</p>
10 回	<p>生体における物質代謝（２）：          脂質代謝、ヌクレオチド代謝を理解する。          （第９回重要事項復習テストの添削返還と第１０回重要事項復習テスト）</p>
11 回	<p>遺伝子の複製と発現（１）：          メンデル遺伝、遺伝子の実体、DNAの複製、テロメア伸長などの機構を理解する。          （第１０回重要事項復習テストの添削返還と第１１回重要事項復習テスト）</p>
12 回	<p>遺伝子の複製と発現（２）：          遺伝情報の転写、翻訳、発現調節、遺伝子の修復、変異、発癌等の機構を理解する。          この段階で、中間テストとしての総合小テストを行なう。          （第１１回重要事項復習テストの添削返還と第１２回重要事項復習テスト）</p>
13 回	<p>中間試験の答案返還と解説。          ホメオスタシス（内分泌系）：          ホルモンの種類と産生細胞および標的細胞との関連を知る。次いで、膵臓と肝臓、腎臓との関係プレーを例にとり、血中の糖濃度や血圧の制御のメカニズムを理解する。          更に、最近注目されている消化管ホルモンについて学ぶ。          （第１２回重要事項復習テストの添削返還と第１３回重要事項復習テスト）</p>
14 回	<p>ホメオスタシス（神経による調節）：          内分泌と連動した神経系による恒常性の維持機構を学ぶ。また、糖尿病や神経疾患、体温調節機構や消化器調節機構についても理解を深める。          （第１３回重要事項復習テストの添削返還と第１４回重要事項復習テスト）</p>
15 回	<p>生体防御・免疫系：          外敵から身を守る免疫機構とその反作用としてのアレルギーについて、分子機構や臨床応用、さらに自己免疫疾患について学ぶ。          （第１４回重要事項復習テストの添削返還と第１５回重要事項復習テスト）          第１５回分の重要事項復習テストは、別途回収、添削して返還する。</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	アクティブラーニング I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	内田雅子、岡田只士
質問受付の方法 (e-mail,OH 等) : e-mail : uchida @owc.ac.jp 授業後に受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である            大学で習得した学習成果を認識し、卒業後のキャリアで自信をもって能力発揮ができる道筋を学ぶ。社会人・管理栄養士としての信念、意見および責任を果たすことができる能力を、栄養マネジメントの演習活動を通して涵養する。</p> <p>学生の学習成果： 本演習では、2年生を対象とし、栄養マネジメントの演習活動「健康寿命延伸教室」に参加することにより、次の汎用的学習成果獲得を目指す。身体計測機器および SAT の機器が全て操作できるようになる。現場に即応できる管理栄養士にとって必要な対人コミュニケーション能力、チーム管理能力、データ収集能力、理論的思考力を意識し、これらの能力習得のために活動していることを理解する。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・<b>演習</b>・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業でのオリエンテーションの後、開始から第 6 回目までの授業は全員出席して、全ての身体計測機器および SAT の機器の操作練習を行う。</li> <li>2. 第 7 回目の授業では、全員が測定者役と対象者役に分れて「健康寿命延伸教室」の予行演習を行い、コミュニケーション力、機器測定力の習熟を行う。</li> <li>3. 「健康寿命延伸教室」は、年度中に 2 回予定されるので、参加する回ごとに、参加前日の授業で会場準備し、身体計測または SAT の測定確認を行う。参加当日は予定の作業を行い、終わりに互いに参加した会のフィードバックを行い、内容を次回担当者に渡す。</li> <li>4. 最後の授業において総合討論を行い、レポートにまとめる。これは次年度の活動の参考資料となる。</li> </ol>					
	予習・復習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習として「健康寿命延伸教室」において事前に習得すべき内容を理解し、授業に出席すること。予習時間 90 分。</li> <li>2. 復習として毎回、「健康寿命延伸教室」または自己について課題を発見し、考察した成果をまとめて、最後の授業においてレポート作成の資料とすること。復習時間 90 分。</li> </ol>					
	テキスト	「健康寿命延伸教室」の内容を記載した冊子を配布する。					
学習評価の方法	<p>「健康寿命延伸教室」の (1.2) 事前準備時 (3) 参加活動時 (4) 相互討論時において、以下①～③の観点からルーブリックで評価する</p> <p>身体計測・SAT の観点：</p> <p>①測定技術を身につける、②会話能力を身につける、③チーム力を身につける。</p> <p>評価の配分は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業で行う予行演習の実技評価 (40%)</li> <li>2. 健康寿命延伸教室における実技評価 (50%)</li> <li>3. 第 15 回授業で行う相互討論 (10%)</li> </ol> <p>とし、100 点法にて評価する。</p>						

注意 事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催される「健康寿命延伸教室」ごとに授業を開講しているが、学生が受講しなければならない授業の開講時期は、参加する時期により異なる。予め自分の担当時期を周知して授業に参加すること。</li> <li>・ 不測の事態等で欠席する場合は、必ず事前に担当教員に知らせておくこと。</li> </ul>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「健康寿命延伸教室」の説明、目標達成の為の行動について説明する。</li> </ul> <p>身体計測機器原理と結果の意味  予習事項：機器の操作方法をよく読んで理解する。  復習事項：機器の操作の注意点・測定結果の判定を理解する。</p>
2 回	<p>身体計測機器の測定操作の習得（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身長・体重、ヘモグロビン</li> </ul> <p>予習事項：機器の操作方法をよく読んで理解する。  復習事項：機器の操作の注意点・測定結果の判定を理解する。</p>
3 回	<p>身体計測機器の測定操作の習得（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体成分分析</li> </ul> <p>予習事項：機器の操作方法をよく読んで理解する。  復習事項：機器の操作の注意点・測定結果の判定を理解する。</p>
4 回	<p>身体計測機器の測定操作の習得（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食育SAT</li> </ul> <p>予習事項：機器の操作方法をよく読んで理解する。  復習事項：機器の操作の注意点・測定結果の判定を理解する。</p>
5 回	<p>身体計測機器の測定操作の習得（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血圧、加速度脈波計</li> </ul> <p>予習事項：機器の操作方法をよく読んで理解する。  復習事項：機器の操作の注意点・測定結果の判定を理解する。</p>
6 回	<p>身体計測機器の測定操作の習得（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨密度測定</li> </ul> <p>予習事項：冊子「健康寿命延伸教室」を読んで、内容を理解する。  復習事項：各種測定装置の測定原理について理解しておく。</p>
7 回	<p>身体計測機器の測定操作の習得（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機器操作実技テスト</li> <li>・ 役割分担</li> </ul> <p>予習事項：冊子「健康寿命延伸教室」を読んで、内容を理解する。  復習事項：各種測定装置の測定原理について理解しておく。</p>
8 回	<p>「健康寿命延伸教室」開催前日の準備【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体計測機器の準備と当日の流れ確認</li> </ul> <p>4年生との事前合同練習。参加者事前登録。  予習事項：「健康寿命延伸教室」をよく読んで作業の流れを理解する。  復習事項：健康寿命延伸教室の担当作業の流れについて理解する。</p>
9・10 回	<p>「健康寿命延伸教室」【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室に参加し、対象者とのコミュニケーションおよび身体計測等を行う。</li> <li>・ 反省会を行う。</li> </ul> <p>予習事項：健康寿命延伸教室の担当作業の流れについて確認する。  復習事項：健康寿命延伸教室の担当作業の問題点についてまとめておく。</p>

11回	<p>身体計測機器の測定操作の習得（7）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機器操作実技テスト</li> <li>・ 役割分担</li> </ul> <p>予習事項：冊子「健康寿命延伸教室」を読んで、内容を理解する。  復習事項：各種測定装置の測定原理について理解しておく。</p>
12回	<p>「健康寿命延伸教室」開催前日の準備【2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体計測機器の準備と当日の流れ確認</li> </ul> <p>4年生との事前合同練習。参加者事前登録。</p> <p>予習事項：「健康寿命延伸教室」をよく読んで作業の流れを理解する。  復習事項：健康寿命延伸教室の担当作業の流れについて理解する。</p>
13・14回	<p>「健康寿命延伸教室」【2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室に参加し、対象者とのコミュニケーションおよび身体計測等を行う。</li> <li>・ 反省会を行う。</li> </ul> <p>予習事項：「健康寿命延伸教室」をよく読んで作業の流れについて理解する。  復習事項：「健康寿命延伸教室」の担当作業の流れについて理解する。</p>
15回	<p>総括のグループ討論とレポート作成  総合討論、レポート提出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本講座から何を学び、何を発見したか。知識、技能等のレビュー。</li> <li>・ 今後の健康寿命延伸教室に何を学び、何を期待するかについて</li> </ul> <p>予習事項：健康寿命延伸教室の作業の流れの問題点・対象者の測定結果についてのレポートをまとめる。</p>

令和7年度教育計画

科目名	アクティブラーニングⅡ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	佐藤 幸枝 妹尾 良子
-----	-------------	------	----	-----	---	------	----------------

質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等)

佐藤：C棟研究室 水曜日 13時から14時30分 y\_sato@owc.ac.jp

妹尾：木曜日 15:00~16:00 金曜日 12:00~12:30

教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養(かんよう)し、職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を理解した上で主体的に業務を遂行できる能力・態度を育成する教育(キャリア教育)を行う。具体的には本学の主催する地域在住の高齢者を対象とした健康寿命延伸教室で行う栄養マネジメントおよび食事提供の実践を通して、対人およびチーム内でのコミュニケーション能力、および総合的な栄養ケア・マネジメント能力を涵養する。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt;専門的学習成果は、大学で修得した専門的学習成果を認識し、活用することで栄養管理・給食管理の知識・技術が身に付く。汎用的学習成果は、対象者およびチーム内で対話ができるリーダーシップ、チームワークが身に付く。また、栄養ケア・マネジメントと給食マネジメントのつながりを理解し総合的な栄養管理業務ができ、卒業後に自信をもって管理栄養士業務ができる。</p>
--------------	--

教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1. 健康寿命延伸教室等は、3年生後期から4年前期終了まで2回開催される。この中で、学生は健康寿命延伸教室等の「対象者とのコミュニケーションおよび栄養マネジメント」を1回、同じく「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」を1回参加し、担当する。</p> <p>2. 健康寿命延伸教室等の当日の参加に関しては、事前に配布される役割分担表に沿って参加する。</p>
	<p>予習・復習</p> <p>【予習】90分：事前に習得すべき内容を理解し、授業に出席する。</p> <p>【復習】90分：健康寿命延伸教室等または自己についての課題を発見し、考察した成果をまとめて、健康寿命延伸教室等毎に行う反省会で報告する</p>
	<p>ステキ</p> <p>健康寿命延伸教室等の内容を記載した冊子・講義資料(2年前期に配布済み)を用いる。</p>

学習評価の方法	<p>1. 健康寿命延伸教室等の参加を行うまでに小テストを実施する。合格に至らなかった者は補習への参加</p> <p>2. 評価の内容 ◎「対象者とのコミュニケーションおよび栄養マネジメント」の観点</p> <p>汎用的学習成果：①対象者への会話能力、②業務遂行能力専門的学習成果</p> <p>専門知識の学習成果：③栄養ケア・マネジメント能力、④総合的マネジメント能力。</p> <p>◎「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」の観点</p> <p>汎用的学習成果：①対象者へのコミュニケーション能力、②チームでのコミュニケーション能力。専門的学習成果：③対象者への総合的マネジメント能力、④チームとしての総合的マネジメント能力。</p> <p>○学習のフィードバックは、演習の終了時に解説を行う。</p> <p>3. 評価方法 栄養指導：50点 [栄養相談能力15 報告書提出15 準備作業10 その他汎用的能力10]</p> <p>食事提供：50点 [給食管理能力10 報告書提出10 準備作業20(献立・各種帳票・環境整備・パンフレット作成) コミュニケーション10 ]</p>
---------	--

注意事項	<p>注) 授業に欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡する。</p> <p>対象者の生の声を聴けるので参加することで栄養マネジメントのスキルアップにつながる。</p> <p>地域住民と合同での演習であるため、参加者に迷惑がかからないように欠席しないように心掛ける。</p>	
授 業 回 数 別 教 育 内 容		
<p>1 回</p> <p>9/26</p>	<p>健康寿命延伸教室等の概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「対象者とのコミュニケーションおよび栄養マネジメント」および</li> <li>・「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」の評価についての説明</li> <li>・役割分担の説明</li> <li>・高齢期の身体的特徴と栄養指導の要点</li> <li>・高齢期の食事提供の要点</li> </ul> <p style="text-align: right;">(妹尾) (佐藤)</p>	
<p>2 回</p> <p>10/24</p>	<p>地域住民を対象とした栄養指導の資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト（高齢期の身体的特徴と栄養指導の要点）の実施</li> <li>・対象者のアセスメントと栄養ケアの検討</li> <li>・対象者への栄養相談パンフレット作成</li> </ul> <p style="text-align: right;">(妹尾)</p>	
<p>3 回</p> <p>10/31</p>	<p>地域住民を対象とした給食提供の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・献立表の作成</li> <li>・栄養基準量の確認</li> </ul> <p style="text-align: right;">(佐藤)</p>	
<p>4 回</p> <p>11/7</p>	<p>地域住民を対象とした給食提供の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・献立の試作</li> </ul> <p style="text-align: right;">(佐藤)</p>	
<p>5 回</p> <p>11/14</p>	地域住民を対象とした栄養指導の資料作成	
	<p>栄養相談の資料作成 (妹尾)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養相談計画書の作成</li> <li>・栄養判定と改善行動計画表の作成</li> </ul>	<p>食事パンフレット作成 (12月分) (佐藤)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割</li> <li>・食事のつくり方</li> </ul>
<p>6 回</p> <p>11/28</p>	健康寿命延伸教室等の事前準備 ①	
	<p>栄養相談 (妹尾)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬栄養相談</li> <li>・パンフレット見直し製本</li> </ul>	<p>食事提供 (佐藤)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発注</li> <li>・パンフレット見直し製本</li> </ul>

		健康寿命延伸教室等の事前準備 ②	
7回	栄養相談 (妹尾)	食事提供 (佐藤)	
12/12	・会場の設置	・器具の準備 ・会場の設置	
8 ・ 9 回	「対象者とのコミュニケーションおよび栄養ケア・マネジメント」 健康寿命延伸教室等に参加し、栄養ケア・マネジメントを行う 「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」 健康寿命延伸教室等に参加し、食事提供を行う。		
12/13	集計とまとめ 健康寿命延伸教室の感想レポート（到達点）提出。		(妹尾) (佐藤)
		地域住民を対象とした栄養指導の資料作成	
10 回	栄養相談の資料作成 (妹尾)	食事パンフレット作成（5月分） (佐藤)	
4/	・栄養相談計画書の作成 ・栄養判定と改善行動計画表の作成	・食事の役割 ・食事のつくり方	
		健康寿命延伸教室等の事前準備 ①	
11 回	栄養相談 (妹尾)	食事提供 (佐藤)	
5/	・模擬栄養相談 ・パンフレット見直し製本	・発注 ・パンフレット見直し製本	
		健康寿命延伸教室等の事前準備 ②	
12回	栄養相談 (妹尾)	食事提供 (佐藤)	
5/	・会場の設置	・器具の準備 ・会場の設置	
13 ・ 14 ・ 15 回	「対象者とのコミュニケーションおよび栄養ケア・マネジメント」 健康寿命延伸教室等に参加し、栄養ケア・マネジメントを行う 「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」 健康寿命延伸教室等に参加し、食事提供を行う。		
5/	集計とまとめ 健康寿命延伸教室の感想レポート（到達点）提出。		(妹尾) (佐藤)

令和7年度教育計画

科目名	食文化論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	次田隆志
<p>質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail(tsugita@owc.ac.jp)および、授業終了後の教室、定められたオフィスアワー時間に研究室(A207)において質問等を受付ける。</p>							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終の教育目標とする。 一方、文化の形成は食にあるといわれており、食文化は人の生活形態にも大きな影響を及ぼしている。本科目においては、人類と食物、世界と日本の食、現代日本の食生活、食品産業の役割、食品の品質規格と表示、食情報と消費者保護など、食文化に関わるさまざまな知識について学習することにより、食の専門家として、より良き指導者となることを目標とする。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果：食文化に関するさまざまな知識を習得し、フードスペシャリストの資格を取得することができる能力を獲得する。 汎用的学習成果：インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集するとともに、与えられた課題に対し、授業で学んだ知識や各自が収集した知識・情報をもとにして、その内容を理解し、レポートの形でまとめることができる。</p>						
	教育	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技) ・教科書に基づいて、講義形式で授業を進める。 ・授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。 ・まとまった単元終了時に課題(宿題)を与え、それに対する解答をレポートの形で提出させる。その内容を評価したうえで、次回授業時に返却する。 ・シャトルカードと課題により、学習進行状況を逐次確認・改善しながら授業を進める。</p>				
	方法	予習・復習	<p>予習事項：講義の最後に次回講義内容を周知するので、教科書の対応箇所を前もって読んでおき、講義に臨む。(毎回60分) 復習事項：その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認したうえで、その日に習った内容を提出用ノートにまとめる。(毎回90分) 予習・復習を効果的に行っているかどうかについて、シャトルカードと課題提出により確認する。</p>				
	テキスト	<p>四訂フードスペシャリスト論 第7版 (日本フードスペシャリスト協会編) 建帛社</p>					
学習評価の方法	<p>上記の専門的学習成果と汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験、授業内容に関する課題、15回の授業終了後に提出させるノートの内容を総合的に判断して学習評価を行う。その割合は、定期試験80点満点、課題評価10点満点、ノート評価10点満点とする。</p>						
注意事項	<p>インターネット等を有効に活用して、食文化に関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。また、15回の授業のうち、3分の2以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	授業の進め方と食文化論の概要説明
2 回	人類の歩みと食物 狩猟採取時代、農耕・牧畜時代 狩猟採集とは、人類進化の歴史、農耕・牧畜とは、五大農耕文化、三大牧畜文化
3 回	食品加工・保存技術史 伝統的食品加工・保存技術の発展 乾燥、塩蔵、糖蔵、酢漬け、燻煙、油脂、発酵食品
4 回	食品加工・保存技術史 近代的食品加工・保存技術の発展、現代的加工食品の発展 びん詰・缶詰、冷蔵・冷凍、即席麺、イミテーションフーズ(コピー食品)
5 回	世界の食 食作法、食の禁忌と忌避、世界各地の食事情 世界三大食法、食の禁忌と忌避とは、宗教による食の禁忌の例、ヨーロッパ・東南アジア・南アジア・東北アジア・西アジア・北アメリカ・中南米・アフリカ・オセアニア・極北の食
6 回	現代日本の食生活① 戦後の食生活の変化(第二次世界大戦後～現代) 戦争直後の食料不足の時代、戦前水準への回復と食生活変化の時代、食生活の洋風化と高度経済成長の時代、環境・健康問題開始の時代
7 回	現代日本の食生活② 食生活の現状と消費生活 食の外部化、食形態の区分、食の平準化、食の周年化、3つのコ食、 食生活の現状における諸問題とそれに対する対策
8 回	現代日本の食生活③ 食生活の変化と食産業、食料の供給と食料自給率 食品産業の概要と変遷、5つの食料自給率、都道府県別食料自給率、主要国の食料自給率
9 回	現代日本の食生活④ 環境と食 地産地消、フードマイレージ、バーチャルウォーター、スローフード運動、食品ロス、食品リサイクル
10 回	食品産業の役割① フードシステムと食品産業、食品製造業 食品産業の分類、フードシステムとは、飲食費のフロー、食品製造業の規模・動向と目的・特徴
11 回	食品産業の役割② 食品卸売業、食品小売業、外食・中食産業 食品卸売業の存在意義、食品小売業の特徴と動向、外食・中食産業の特徴と動向
12 回	食品の品質規格と表示① 食品の品質規格・表示に関わる法律、JAS法による規格 JAS法、食品衛生法、健康増進法、食品表示法、景品表示法、計量法、不正競争防止法 JASマーク、JAS規格による有機農産物・有機畜産物・有機加工食品の定義
13 回	食品の品質規格と表示② 食品表示法による表示 食品表示法による食品表示基準の概要、生鮮食品・加工食品の分類と表示、栄養成分表示、アレルギー表示、遺伝子組換え食品の表示
14 回	食品の品質規格と表示③ 特別用途食品・保健機能食品の制度と表示 特別用途食品の分類と表示、保健機能食品の分類、栄養機能食品の制度と表示、機能性表示食品の制度と表示
15 回	食品の品質規格と表示④、食の安全と消費者保護の制度 特定保健用食品の制度と分類、特定保健用食品における許可成分とその機能、 リスク管理とリスク評価、食品安全基本法、食品安全委員会、消費者委員会

令和7年度教育計画							
科目名	フードコーディネーター	授業回数	15	単位数	2	担当教員	次田隆志、 氏峰栞里
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail(tsugita@owc.ac.jp, ujimine@owc.ac.jp)、授業後の教室、定められたオフィスアワー時間に研究室(次田:A207、氏峰:A108)において質問等を受付ける。							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終教育目標とする。</p> <p>一方、現代社会においては、食のコーディネーターを総合的に行い、消費者の食教育のサービスを行う専門家としてのフードスペシャリストが期待されている。これらの目標達成のために、本授業においては、おいしさの本質、世界の食事文化、食卓のコーディネーター、食卓のサービス・マナー、メニュープランニング、食空間のコーディネーター、日本の食事の歴史、フードサービスマネージメント等、フードコーディネーターに関わるさまざまな知識について学習することにより、食の専門家としてより良き指導者となることを目標とする。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果：フードコーディネーターに関するさまざまな知識を習得し、フードスペシャリストの資格を取得することができる能力を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果：インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集するとともに、与えられた課題に対し、授業で学んだ知識や各自が収集した知識・情報をもとにして、その内容を理解し、レポートの形でまとめることができる。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に基づいて、講義形式で授業を進め、必要に応じて補助教材としての資料を配付する。また、最新のフードコーディネーター情報を盛り込んだビデオを視聴させ、その内容についてレポートにまとめて提出させる。</li> <li>授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。</li> <li>シャトルカードと課題により学習進行状況を逐次確認・改善しながら授業を進める。</li> </ul>	<p>予習・復習</p> <p>予習事項：講義の最後に次回講義内容を周知するので、教科書の対応箇所を前もって読んでおき、講義に臨む。(30分)</p> <p>復習事項：その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認したうえで、その日に習った内容を提出用ノートにまとめる。(60分)</p> <p>予習・復習を効果的に行っているかどうかについて、シャトルカードと課題提出により確認する。</p>	<p>ステキ</p> <p>三訂フードコーディネーター論 (日本フードスペシャリスト協会編) 建帛社</p>			
学習評価の方法	<p>上記の専門的学習成果および汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験、授業内容に関する課題、15回の授業終了後に提出させるノートの内容を総合的に判断して学習評価を行う。その割合は、定期試験 80 点満点、課題評価 10 点満点、ノート評価 10 点満点とする。</p>						

注意事項	インターネット等を有効に活用して、フードコーディネートに関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。また、15回の授業のうち、3分の2以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	授業の進め方説明とフードコーディネートの基本理念（担当：次田） おいしさの本質、おいしさとフードコーディネート
2 回	日本の食事の歴史①（担当：次田） 縄文時代～古墳時代
3 回	日本の食事の歴史②（担当：次田） 飛鳥時代～平安時代
4 回	日本の食事の歴史③（担当：次田） 鎌倉時代～江戸時代
5 回	日本の食事の歴史④（担当：次田） 明治・大正時代～現代
6 回	世界の食事文化（担当：氏峰） 日本の特別な日の食事、外国の食事
7 回	食卓のコーディネート①（担当：氏峰） テーブルコーディネートの要点、日本料理の食卓のコーディネート
8 回	食卓のコーディネート②（担当：氏峰） 中国料理の食卓のコーディネート、西洋料理の食卓のコーディネート
9 回	食卓のサービスとマナー①（担当：氏峰） サービス・マナーの基本、日本料理・中国料理のサービスとマナー
10 回	食卓のサービスとマナー②（担当：氏峰） 西洋料理のサービスとマナー、パーティー、プロトコル
11 回	メニュープランニング（担当：氏峰） メニュープランニングの要件、料理様式とメニュー開発の基礎
12 回	食空間のコーディネート（担当：氏峰） 食空間のコーディネートの基礎、食事空間のコーディネート、キッチンのコーディネート
13 回	フードサービスマネジメント①（担当：次田） フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本
14 回	フードサービスマネジメント②（担当：次田） フードサービス（レストラン）の起業

15 回	フードサービスマネジメント③（担当：次田） 投資計画の作成、収支計画の作成
---------	--

令和 7 年 度 教 育 計 画

科目名	食料経済	授業回数	15	単位数	2	担当教員	次田隆志
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail (tsugita@owc.ac.jp) および、授業終了後の教室、定められたオフィスアワー時間に研究室 (A207) において質問等を受付ける。							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>人における健康の維持増進、疾病の予防を図るために、高度な専門知識・技能に基づいて食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終の教育目標とする。</p> <p>一方、人間生活にとって必須である食品の流通・消費の仕組みについての知識を習得することは食に関わる者にとって極めて重要である。本科目においては、食生活と食品消費の変化、フードマーケティングと食品流通、食品市場と食品流通、食品消費の課題など、食品の流通・消費に関わるさまざまな知識について学習することにより、食の専門家として、より良き指導者となることを目標とする。</p> <p>専門的学習成果 : 食品の流通・消費に関するさまざまな知識を習得し、フードスペシャリストの資格を取得することができる能力を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果 : インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集するとともに、与えられた課題に対し、授業で学んだ知識や各自が収集した知識・情報をもとにして、その内容を理解し、レポートの形でまとめることができる。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に基づいて、講義形式で授業を進め、必要に応じて、補助教材としての資料を配付する。また、食品の消費・流通に関するビデオを視聴させ、その内容についてレポートにまとめて提出させる。</li> <li>授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。</li> <li>シャトルカードと課題により、学習進行状況を逐次確認・改善しながら授業を進める。</li> </ul>				
		予習・復習	<p>予習事項 : 講義の最後に次回講義内容を周知するので、教科書の対応箇所を前もって読んでおき、講義に臨む。(毎回 60 分)</p> <p>復習事項 : その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認したうえで、その日に習った内容を提出用ノートにまとめる。(毎回 90 分)</p> <p>予習・復習を効果的に行っているかどうかについて、シャトルカードと課題提出により確認する。</p>				
	テキスト	四訂 食品の消費と流通 (日本フードスペシャリスト協会編) 建帛社					
学習評価の方法	上記の専門的学習成果と汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験、授業内容に関する課題、15 回の授業終了後に提出させるノートの内容を総合的に判断して学習評価を行う。その割合は、定期試験 80 点満点、ビデオ視聴のレポート 10 点満点、ノート評価 10 点満点とする。						
注意事項	インターネット等を有効に活用して、食品の流通・消費に関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。また、15 回の授業のうち、3 分の 2 以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	授業の進め方と食料経済の概要説明
2 回	食市場の変化① 食市場を支える食品産業、食生活形態の変化、食の外部化をもたらした要因、少子高齢化が変える食市場、食品産業の技術発展
3 回	食市場の変化② 品目別食品消費の変化、食品の価格決定と所得弾力性・価格弾力性、栄養バランスからみた食品消費の変化、加工食品の増加
4 回	食市場の変化③ 多様化をもたらす社会的要因、食における健康志向の高まり、食情報の多様化
5 回	食品の流通① 食品流通の役割、卸売流通の役割、小売流通の役割
6 回	食品の流通② 流通の社会的使命、生鮮食品の卸売市場流通
7 回	食品の流通③ 加工食品の間屋(卸売業者)流通、食品の小売流通
8 回	外食・中食産業のマーチャンダイジング① 外食産業の業態、外食産業の食材流通
9 回	外食・中食産業のマーチャンダイジング② 中食産業の業態、中食産業の食材流通
10 回	日本の食品産業の実態① 食品メーカー、食品流通・小売業
11 回	日本の食品産業の実態② ビデオ視聴(コンビニエンスストアについて)
12 回	主要食品の流通① 商品の分類、温度帯別食品流通
13 回	主要食品の流通② 米、小麦粉製品、鶏卵、飲用乳・乳製品の流通
14 回	フードマーケティング① フードビジネスの動向、フードマーケティングとは
15 回	フードマーケティング② 農業の6次産業化、フードマーケティングの基礎理論

令和7年度教育計画							
科目名	公衆衛生学 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	兼安貴子
質問受付の方法：e-mail：kaneyasu@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：            疾病の予防、寿命の延伸、生活の質の向上を目的として、公衆衛生・保健活動は展開される。こうした公衆衛生・保健活動に一定の科学的根拠を与える学問が疫学である。本授業では、公衆衛生活動に一定の科学的根拠を与える疫学的方法論について学ぶ。さまざまな健康問題を解決するために不可欠な公衆衛生学的・疫学的視点や知識、方法論を習得することを目標とする。</p> <p>学生の学習成果：保健・医療に関する統計情報を理解することができる。            専門的学習成果：健康問題を解決するための疫学的方法論を習得することができる。            汎用的学習成果：数的処理能力、論理的思考力、問題解決力を養成する。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業はテキストを中心に進める。別途資料が必要な際にはプリントを配布もしくは掲示する。            授業終了時にはシャトルカードに授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次の講義前には前回の振り返りを行う。</p>				
		予習・復習	<p>予習事項：次回のテキスト範囲を確認しておく、疑問点があればカードに記載するだけでなく、積極的に質問することを促す。予習時間は120分を目安とする。            復習事項：学習した内容は、適宜まとめておく。不明な点があれば、次回の講義で質問する機会を設ける。復習時間は120分を目安とする。</p>				
	テキスト	岸本 満ほか イラスト 社会・環境と健康-公衆衛生学- 2024/2025年版 東京教学社					
学習評価の方法	<p>試験の成績、授業への取り組み（積極性・提出物）を総合的に判断して評価する。            評価配分は試験（80%）、授業への取り組み（20%）とする。</p>						
注意事項	<p>【参考図書】            国民衛生の動向 厚生労働統計協会            日本疫学会 監修 「はじめて学ぶやさしい疫学」改訂第3版 南江堂</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	公衆衛生の定義と目標、歴史について解説する。 公衆衛生の定義と目標、歴史 健康の定義 予防の諸段階（1次、2次、3次予防） プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション
2 回	疫学の考え方について解説する。 疫学の定義と意義 疫学の対象と領域 曝露因子と健康
3 回	集団の罹患状況の記述に用いられる疫学指標について解説する。 有病割合（有病率） 罹患率と累積罹患割合（累積罹患率）
4 回	集団の死亡状況の記述に用いられる疫学指標について解説する。 死亡率 致命割合（致命率） 年齢調整死亡率（直接法と間接法）
5 回	罹患・死亡リスクの評価に用いられる疫学指標について解説する。 相対危険（レイト比、リスク比、死亡率比） オッズ比 寄与危険と寄与危険割合
6 回	観察研究の方法について解説する。 生態学的研究 記述疫学研究 横断研究・縦断研究
7 回	観察研究の方法について解説する。 コホート研究 症例対照研究

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	介入研究の方法について解説する。 臨床試験 地域介入試験 ランダム化比較試験
9 回	疫学研究の誤差と交絡因子、疫学研究の倫理について解説する 偶然誤差、系統誤差 交絡因子 疫学研究の倫理
10 回	スクリーニングについて解説する。 スクリーニングの意義 スクリーニングの評価 スクリーニングにおけるバイアス
11 回	エビデンスに基づく医療（EBM）の考え方と実践方法について解説する。 エビデンスのレベル 叙述的レビューと系統的レビュー メタアナリシス
12 回	人口統計について解説する。 人口静態統計 人口動態統計 生命表、平均余命と平均寿命 健康寿命
13 回	主要な保健統計、疾病統計について解説する。 患者調査 国民生活基礎調査 国民・健康栄養調査 食中毒統計調査 感染症発生動向調査
14 回	国民健康・栄養調査からみえるわが国の健康問題とその対策について解説する。 喫煙、飲酒、食生活・栄養と健康 身体活動・運動と健康 睡眠・休養、ストレスと健康
15 回	これまでの講義内容のまとめ 重要項目の確認と補足説明 

令和7年度教育計画							
科目名	公衆衛生学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	兼安貴子
質問受付の方法：e-mail：kaneyasu@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p><u>教育目標</u>：公衆衛生活動における疫学の役割と様々な保健施策に関する基礎知識の習得を目指す。</p> <p>特に本科目では、母子の健康増進に関わる母子保健、生活習慣病など各種疾患に対する施策、児童・生徒・学生の育成に関わる学校保健、労働環境のうち社会的側面や特定健診・特定保健指導の対策等についての理解を深める。また、生活維持の行政的本幹を担っている医療保険制度・介護保険制度についても、理解を深める。</p> <p><u>学生の学習成果</u>：本科目の修得により、公衆衛生分野における種々の課題・問題点を、栄養学の知識と関連付け、体系的に理解する事ができる。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>〔講義〕・演習・実験・実習・実技</p> <p>授業はテキストを中心に進めるが、更新情報等に関しては掲示資料等にて補足する。講義は用語の理解とその応用を目指すもので、適切な情報を見極める能力の向上も目的としている。</p> <p>授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次回の授業の冒頭では、前回の振り返りとともに、質問に対する回答や解説も行う。「シャトルカード」により学習進行状況を確認しながら授業を進める。</p>					
	予習・復習	<p>予習：次回のテキストの範囲を確認しておく、疑問点があればカードに記載するだけでなく、積極的に質問もすること。予習時間は120分程度を目安とする。</p> <p>復習：講義で掲示された資料の内容は、テキストでも確認しまとめておく。不明な点があれば、次回の質疑応答で質問すること。復習時間は120分程度を目安とする。</p>					
	テキスト	岸本満ほか イラスト 社会・環境と健康-公衆衛生学- 2024/2025年版 東京教学社					
学習評価の方法	<p>試験の成績、授業への取り組み（積極性・授業への意識）を総合的に判断して評価する。評価配分は、試験（80%）、授業への取り組み（20%）とする。</p>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <p>国民衛生の動向 厚生労働統計協会</p> <p>吉池信男/寶澤篤/栗木清典『社会・環境と健康 2024-2025』南江堂</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策（1） 健康に関する行動と社会 （健康と疾病の予防について説明できる）
2 回	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策（2） 食生活・食行動・食環境、身体活動・運動、喫煙・飲酒行動 （食生活と疾病の係わりが説明できる）
3 回	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策（3） 睡眠・休養、ストレス、歯科保健 （健康行政とその背景について理解できる）
4 回	主要疾患の現状と対策（1） がん （がんの概念と疾病の現状と動向が説明できる）
5 回	主要疾患の現状と対策（2） 循環器疾患、代謝疾患 （循環器疾患、代謝疾患に関する疫学と予防対策について説明できる）
6 回	主要疾患の現状と対策（3） 骨・関節疾患 （骨粗鬆症などの疾患についての疫学と予防対策について説明できる）
7 回	主要疾患の現状と対策（4） 感染症法、新興感染症と再興感染症、新しい感染症 （感染症の疫学と傾向について説明ができる）
8 回	主要疾患の現状と対策（5） 精神疾患 （精神疾患の疫学と予防対策について説明できる）
9 回	主要疾患の現状と対策（6） その他の疾患、外因（自殺、不慮の事故、虐待・暴力） （その他の疾患、外因について説明できる）

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
10 回	保健・医療・福祉の制度 社会保障の概念、行政のしくみ、医療制度、福祉制度 (国民の健康づくり対策について理解して説明できる)
11 回	地域保健 母子保健 母子保健法、母子保健施策 成人保健 生活習慣病の予防と管理、特定健康診査・特定保健指導 (母子保健、成人保健について説明ができる)
12 回	高齢者保健・介護 高齢者の健康の現状と対策、介護保険制度 (高齢者の健康の現状と対策について説明ができる)
13 回	産業保健 産業保健の制度、労働安全衛生対策 (労働者の健康の現状と問題について説明できる)
14 回	学校保健 学校保健の目的と制度、現状と対策 (児童・生徒の健康の現状と問題について説明できる。)
15 回	国際保健 (国際保健の現状と関連機関・組織について説明ができる) まとめと補足説明

令和7年度教育計画							
科目名	公衆衛生学Ⅲ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	兼安貴子
質問受付の方法：e-mail：kaneyasu@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：労働環境の多様化等により発生する様々な健康影響を紹介しながら、労働者の健康の保持増進を目的とした産業保健について学ぶ。大気の役割、水の重要性、廃棄物処理の問題、環境汚染と健康影響など人と環境の相互関係について学ぶ。</p> <p>学生の汎用的学習成果：産業保健の理解により職場での労働安全衛生、健康に対応する能力を身につけられる。環境汚染や廃棄物などの環境問題について知識を得ることにより、社会的責任への認識を高めることが出来る。</p> <p>学生の専門的学習成果：管理栄養士として必要な知識・考え方などの総合的能力、公衆衛生の理解により栄養・給食関連サービスのマネジメント能力、健康増進、疾病予防のための栄養指導を行う能力を高める。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業はテキストを中心に進める。更新情報等に関しては、掲示資料等により、補足する。授業終了時にはシャトルカードに授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次回の授業の冒頭では、前回の振り返りとともに、質問に対する回答や解説も行う。四年生後期であり、国家試験を想定した内容も加味しつつ進める。</p>					
	予習・復習	<p>予習事項：次回のテキストの範囲を確認しておく。疑問点があればカードに記載するだけでなく、積極的に授業で質問することを促す。予習時間は120分を目安とする。</p> <p>復習事項：講義で提示された資料の内容をテキストでも確認し、まとめておく。不明な点があれば、次回の講義で質問する機会を設ける。予習時間は120分を目安とする。</p>					
	テキスト	<p>編集 辻一郎/吉池信男. 社会・環境と健康 改訂第7版」2022-2023 (健康・栄養科学シリーズ). 南江堂</p>					
学習評価の方法	<p>試験の成績、授業への取り組み(積極性・提出物)を総合的に判断して評価する。評価配分は試験(80%)、授業への取り組み(20%)とする。</p>						
注意事項	<p>【参考図書】 国民衛生の動向 厚生労働統計協会</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション・公衆衛生の意義と目的            授業の目的・進め方についてシラバスを用いた説明をする。            公衆衛生を学ぶ大切さを理解する。</p> <p><b>「産業保健」</b>            産業保健の歩み、目的を説明する。</p>
2 回	<p>産業保健の制度            憲法に基づき制定された労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法などの法的枠組みについて説明する。労働衛生を担っている労働基準局、労働基準監督署などの行政組織と産業保健推進センターなどの関連組織について説明する。</p> <p>産業保健の現状と対策            業務上の負傷・疾病の発生状況、業務上疾病の認定状況について説明する。</p>
3 回	<p>労働安全管理体制と産業保健従事者について。            労働保健で特に重要な健康管理、作業環境管理、作業管理の3管理及び健康教育、総括管理について            労働者の健康増進を図る Total Health Promotion (THP) プランなどについても説明する。</p>
4 回	<p>職業と健康障害について            産業疲労は疲労の原因が労働であり、蓄積すると過労に至り重大事故の原因にもなる。作業関連疾患として次のようなものを取りあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働者の高齢化に伴う転倒災害</li> <li>・不適切なコンピューター労働による Visual Display Terminal (VDT) 障害</li> <li>・過労死として注目される循環器障害</li> <li>・改善が難しいメンタルヘルスへの対策</li> </ul>
5 回	<p>代表的な職業病について(1)            じん肺には珪肺や石綿肺などがあり、アスベストでは肺がんや中皮腫の発症が問題である。有機溶剤中毒は脂溶性、揮発性が富むため特に神経系に障害を生じやすい。化学物質や金属による健康被害に関しては特定化学物質障害予防規則や鉛中毒予防規則などにより規制されており、これらについて説明する。</p>
6 回	<p>代表的な職業病について (2)            職業がんは就業が原因となるもので、石綿やベンゼン、ヒ素などが有名であり、遅発性の重篤な疾病に対しては、健康管理手帳を交付して健康管理が行われている。物理的要因による職業病には温熱条件（熱中症）、気圧条件（潜函病）、電離放射線、非電離放射線、振動、有害騒音（騒音性難聴）などがあり、これらについても説明する。</p>
7 回	<p><b>「環境と健康」</b>            人間は自然の恩恵を受けて生活しているが、現代文明は、副産物として環境に様々な影響を与え、人々の健康にまで影響を及ぼすようになってきた。健康のためには、環境との関り方や環境因子がどのような健康影響を与えるかについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と環境の相互作用</li> <li>・環境基本法・環境基本計画</li> <li>・環境アセスメント</li> </ul>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>人間活動の副生成物が環境汚染を生じ健康に影響を及ぼすことを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大気汚染：代表的な汚染物質について環境基準が設定されており、監視がなされている。</li> <li>・水質汚濁：利水目的により類型、水質基準が設定されており、監視がなされている。</li> <li>・土壌汚染、地下水汚染、ダイオキシン類による汚染についてもそれぞれ基準が設置されており、監視がなされている。</li> </ul>
9 回	<p>人為的活動により環境汚染が生じて人の健康に被害を及ぼすことを公害と言う。旧第1種公害指定地域、第2種公害指定地域に関する説明と四大公害訴訟について説明する/</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イタイイタイ病：カドミウムが原因</li> <li>・水俣病（熊本、新潟）：有機水銀が原因</li> <li>・四日市ぜんそく：大気汚染（二酸化硫黄）</li> <li>・島根、宮崎慢性ヒ素中毒</li> </ul>
10 回	<p>環境問題は国境を越え、地球レベルでの検討が必要であり、地球サミットが開かれ、リオ宣言が採択された。地球環境問題のについて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化対策</li> <li>・オゾン層の保護</li> <li>・酸性雨対策</li> <li>・海洋汚染</li> </ul>
11 回	<p>人は大気中に生存しており大気の状態や、天気、気温などの影響を受けて生活している。これらが人に及ぼす影響について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候、季節</li> <li>・空気、圧力</li> <li>・温熱、低温</li> <li>・高所環境、無重力環境</li> </ul>
12 回	<p>人の生活のライフラインである上水道、下水道について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上水道：種類、普及率、浄水処理方法、水質基準、問題点</li> <li>・下水道：種類、普及率、処理方法、水質基準、問題点</li> <li>・浄化槽：合併浄化槽</li> </ul>
13 回	<p>住まいは最も身近な環境である。人々は家屋などの閉鎖空間で過ごす時間が多く、住居等の環境を整えておくことが重要視されてきており、このことについて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいと健康</li> <li>・室内空気汚染物質</li> <li>・ビル管理法</li> <li>・シックハウス症候群</li> <li>・生活用品と健康</li> </ul>
14 回	<p>廃棄物については循環型社会の形成が求められており、リデュース、リユース、リサイクル（3R）が提唱されている。生活に伴う一般廃棄物、事業に伴う産業廃棄物の現状・問題と対策について、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な環境問題である騒音や振動の状況、</li> <li>・紫外線などの非電離放射線や電離放射線の影響とともに取り上げる。</li> </ul>
15 回	<p>公衆衛生学Ⅲで学習した内容について総括する。</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	健康管理論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	山田 治来
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : メールアドレス haruki@owc.ac.jp (随時) 木曜日 12 : 20 ~ 13 : 00 (講義室または研究室)							
教育 目 標 と 学 生 の 学 習 成 果	<b>教育目標 :</b> 健康の概念、健康状態の歴史の理解。 健康増進の概念と具体的実践活動の理解。 健康管理の理論と具体的実践活動の理解 疾病予防の現状と今後の課題の理解 <b>学生の学習成果 :</b> 本科目においては、管理栄養士が地域、職域、学校等で公衆栄養実践活動のために必要な基礎科学を身につけることができる。						
	教 育 方 法	授 業 の 進 め 方	<b>(講義・演習・実験・実習・実技)</b> 授業はテキストを中心に進める。重要事項については板書し解説する。また、理解を深めるために必要時に資料を作成し、プリントして配布する。授業終了時にシャトルカードで授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次回の授業時に質問に対する答え、コメントを記入して返却する。質問内容の周知が全学生に必要であれば全員に説明する。シャトルカードにより学生の疑問点・理解度を把握し、授業に反映させる。四年生後期の配当であり、国家試験を想定した内容も加味しつつ進める。				
		予 習 ・ 復 習	予習事項 : 次回のテキストの範囲に目を通しておくこと。疑問点が出るのが当然であり、それを持って授業に臨む。その箇所を授業で質問すること。これを毎回実施する。 復習事項 : 学習した内容をテキスト、資料を見ながら整理し、ノートにまとめる。これを毎授業後実行する。不明な点があれば、「シャトルカード」で質問すること。 予習・復習時間は各 90 分程度とする。				
テ キ ス ト	朝山正己 他著「イラスト健康管理概論」東京教学社<第 6 版> 2,000 円 + 税						
学 習 評 価 の 方 法	本試験の成績で評価する。評価の配分は本試験 (100%) とする。						
注 意 事 項	<b>【参考図書】</b> 国民衛生の動向 厚生労働統計協会						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	授業の進め方についてシラバスを用いた説明 健康の概念 健康の定義、健康に及ぼす要因 (健康の定義について説明できる。)
2 回	健康の指標 包括的健康指標、特殊健康指標、罹患率、有病率、受診率、国際的疾患傷害死因統計分類 (主な保健統計指標について説明できる。)
3 回	疾病の予防 一次予防、二次予防、三次予防、感染症予防 (一次予防、二次予防、三次予防、感染症予防の違いについて説明できる。)
4 回	健康の現状 生命と寿命 死因、平均寿命、健康寿命、主な死因順位 (人口動態統計などで使用される用語及び疫学と予防対策について説明できる。)
5 回	傷病の現状 国民生活基礎調査、患者調査、健康水準の国際比較 (傷病統計による主要疾患の現状と動向が説明できる。)
6 回	健康増進の施策(1) 健康増進の考え方、健康増進の3要素、健康づくりの課題 (国民の健康づくり、医療費の現状について説明できる。)
7 回	健康づくり行政(2) 健康づくり行政、健康づくり事業、その他の事業 (健康増進施策について説明できる。)
8 回	健康づくり施策(3) 健康日本21、健康づくりの課題(喫煙、飲酒など) (健康づくり施策について説明できる。)

9 回	健康づくりの実際 運動、栄養、休養 (食生活指針などの背景を理解して説明できる。)
10 回	健康管理について 健康管理の目的、集団検診、特定健診、健康教育 (特定健診・特定保険指導制度などの目的、内容について説明できる。)
11 回	職域の健康管理 保健所、市町村保健センター、地方衛生研究所、健康管理行政 (現在の健康管理行政と現状について説明できる。)
12 回	学校における健康管理 保健管理、保健教育(保健学習、保健指導)、食育 (学校保健対策について説明できる。)
13 回	職場における健康管理(1) 健康管理の現状・実際、産業保健組織 (産業保健対策について説明ができる。)
14 回	職場における健康管理(2) 職業病と作業関連疾患、有害環境と健康障害、労働法規 (職場における健康障害について説明できる。)
15 回	講義内容のまとめ、重要項目の確認と補足説明

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	社会福祉概論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	松尾 冀
質問受付の方法：授業中に口頭で、及び右のメールにて可。 <matu6848no6707@docomo.ne.jp>							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>3. 社会福祉における相談援助について理解する。</li> <li>4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。</li> <li>5. 社会福祉の動向と課題について理解する。</li> </ol> <p>学生の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的学習成果：教育目標に掲げる5項目の社会福祉の基本を修得し、栄養士及び食育の専門職として不可欠の社会福祉に関する基礎知識と支援理念を獲得する。</li> <li>・汎用的学習成果：食育の専門職としてのみならず社会人としてもまた家庭人（子どもの親）としても、広い視野で社会を見据え社会の発展に寄与する人間として成長する。</li> <li>・課題のフィードバック：毎回の小テストで模範解答を紹介し、異論を含め質疑応答する。</li> </ul>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的にはテキストを中心に授業を進め、毎回の小テストで理解度を確認。</li> <li>・新聞やテレビ等の社会福祉欄に関心を持つよう、媒介物を実際に解説することによって学生の社会福祉への関心と意識を高める。</li> <li>・授業時間外に取り組むレポート2回（新聞の切り抜きとコメント）を課す。主立ったものを解説し、現代の社会福祉問題に対して関心を高めさせる。</li> </ul>					
	教育方法	<p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：次週の単元を示し、「授業回数別教育内容」に沿った予習を求め、課題意識を持って次回の授業に臨ませる。(毎回90分が目安)</li> <li>・復習：主として、小テストにて重要な専門用語の理解を深める。(毎回90分が目安) 提出物（新聞の切り抜きとコメント）を通じて社会問題を解説。</li> </ul>					
教育方法	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤木正典・平松正臣編著『改訂 社会福祉論』建帛社 &lt;ISBN:978-4-7679-3385-6&gt;</li> </ul>						
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習内容についての理解度を期末テストで評価する他、提出物も評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における食育の視点についての理解度。</li> <li>・社会福祉の制度や実施体系等についての理解度。</li> <li>・社会福祉における相談援助についての理解度。</li> <li>・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについての理解度。</li> <li>・社会福祉の動向と課題についての理解度。</li> </ul> <p>学習評価は①小テスト16点（授業態度、私語雑音・居眠り・遅刻などを加味する）  ②課題16点（新聞の切り抜きの提出期限及びレイアウト&amp;コメント内容）  ③学期末の筆記テスト68点 &lt;総合評価&gt;①+②+③=合計100点</p>						
注意事項	<p>参考図書等：  他の授業で使用の、福祉関係法令の解説書等は、本授業でも有用である。</p> <p>※授業の始めと終わりの挨拶励行、私語を慎む、遅刻をしない等のマナーを大切にする。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>第1章. 現代と社会福祉 (オリエンテーションの後に)</p> <p>&lt;講義&gt; 21世紀の福祉の目標は、高齢化が活力に結びつく明るい社会を構築するという基本理念のもとに、社会全体のシステムを少子高齢社会にふさわしいものにつくり替えていくこととなっている。このことを子どもの食育との視点で理解させる。</p> <p>&lt;復習&gt; 21世紀の福祉の課題である少子高齢化について、その本質と背景の理解を深める ・日常生活の中から、人権尊重の福祉社会実現の流れを見つける。(90分、以下同じ)</p> <p>&lt;予習&gt; 第1章を読み、脚注の用語を調べておく。(90分、以下同じ)</p>
2 回	<p>第2章. 社会福祉の基礎理解</p> <p>&lt;講義&gt; 憲法25条をもとに、生存権の保障に至る歴史や、広義の社会福祉と狭義の社会福祉の概念を解説する。</p> <p>&lt;学習成果&gt; 福祉の源は人間愛と連帯感であることを知り、各自が各自の優しさを育む。</p> <p>&lt;予習&gt; 第2章を読み、福祉理念の歴史に関心を持っておく。</p> <p>&lt;課題&gt; 社会福祉に関する新聞記事を切り抜き、コメントを加え、提出させる。</p>
3 回	<p>第3章. 社会福祉の歴史</p> <p>&lt;講義&gt; 我が国における社会福祉の歴史について解説し、欧米の福祉よりも古い歴史を知らせながら、近代の欧米の福祉から学んだ成果の定着過程を理解させる。</p> <p>&lt;学習成果&gt; 福祉という言葉は新しいが、福祉の精神は古くから息づいていたことを知り、現代社会での課題に目を向けることの大切さを学ぶ。</p> <p>&lt;復習&gt; 歴史的な福祉事業家の業績を整理し、郷里の偉人を調べてみる。</p> <p>&lt;予習&gt; 第3章を読み、福祉制度の歴史に関心を持っておく。</p>
4 回	<p>第4章. 社会福祉の法律と制度</p> <p>&lt;講義&gt; 福祉6法が制定された歴史的背景について解説し、それぞれの法律の意義を理解させる。また、法で定められたそれぞれの行政機関の役割を理解させる。</p> <p>&lt;学習成果&gt; 福祉6法が制定された順番こそが時代の緊急課題であったことを理解する。</p> <p>&lt;復習&gt; 福祉6法の名称とそれぞれの法に関係する援護制度の内容と背景を理解する。</p> <p>&lt;予習&gt; 第4章を読み、福祉従事者の職種と役割に関心を持っておく。</p>
5 回	<p>第5章. 貧困と社会福祉</p> <p>&lt;講義&gt; 貧困問題が福祉の中核であり、最近の生活保護制度の動向を説明し、制度の適正な実施の仕組みと課題を考えさせる。</p> <p>&lt;学習成果&gt; 貧困の連鎖を絶つことの難しさを知りながら、栄養士として、貧困家庭の実情に目を向けながらどのような支援に当たることができるかを考えさせる。</p> <p>&lt;復習&gt; 国家による公的扶助の代表が生活保護であるが、その動向と課題を考えて見る。</p> <p>&lt;予習&gt; 子どもの貧困という社会現象にはどんな具体例があるか関心を持っておく。</p>
6 回	<p>第6章①. 子どもと家庭の福祉①</p> <p>&lt;講義&gt; 児童福祉法制定の背景を戦後の歴史として学び、日本国憲法の生存権や基本的人権が子どもの福祉を支えていることを理解させる。そして、現代の子ども家庭福祉問題を社会病理としたとき、栄養士の果たす役割について考えさせる。</p> <p>&lt;学習成果&gt; 子ども家庭支援の法的根拠が児童福祉法にあることを知る。</p> <p>&lt;復習&gt; 子どもの最善の利益とは何か、各自の考えをまとめておく。</p> <p>&lt;課題&gt; 児童虐待や子どもの貧困など児童福祉をテーマの新聞の切り抜きを提出する。</p>

7 回	<p>第6章②. 子どもと家庭の福祉②</p> <p>&lt;講義&gt;子ども家庭福祉の実施機関の体制を説明し、そこで働く人々の役割を理解させる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;子ども家庭福祉の現場の状況を知ることは、食育活動にも貴重な情報である。</p> <p>&lt;復習&gt;身近にどのような福祉機関や児童福祉施設があるかを調べておく。</p> <p>&lt;予習&gt;児童福祉の行政機関や児童福祉施設の役割を考え常に関心を持っておく。</p>
8 回	<p>第7章. 高齢者の福祉</p> <p>&lt;講義&gt;高齢社会の進行状況と少子化との関連性を説明し、長期的展望で見ると日本が大変な状況であることを理解させる。やがては自分自身の問題となる高齢者の生活実態について説明し、健康や家族関係や経済面についての対策を考えさせる。</p> <p>&lt;学習成果&gt;老人福祉法のお世話になる割合を少しでも減らす努力は今からやらねばならないと気づく。社会の発展に貢献してきた老人を敬愛する精神を育て、実践する力をつける。同時に、家庭での子育てと家庭での老後が無関係でないと気づかせる。</p> <p>&lt;復習&gt;介護問題の現状と課題を身近な事例から考えてみる。</p> <p>&lt;予習&gt;50年後の自分の理想像を描き、今やるべきことを考える。</p>
9 回	<p>第8章①. 障害者の福祉①</p> <p>&lt;講義&gt;三障害の定義と概念を説明し、具体的な障害像をイメージさせ、障害の種類ごとにとられている福祉対策の現状と課題を理解させる。</p> <p>身体障害者福祉法制定の背景と援護制度について説明する。</p> <p>&lt;学習成果&gt;障害者の健康と栄養の視点から支援のあり方を考える力がつく。</p> <p>&lt;復習&gt;身体障害にどんな福祉支援があるか書き出してみる。</p>
10 回	<p>第8章②. 障害者の福祉②</p> <p>&lt;講義&gt;知的障害の定義や程度を説明し、知的障害者福祉制度の現状と課題を考えさせる。</p> <p>旧来の障害の三分類以外の、発達障害についても説明を加える。</p> <p>&lt;学習成果&gt;知的障害児や発達障害児の食育の大切さを理解する。</p> <p>&lt;予習&gt;子どもの発達に及ぼす大人（親）の関わり方の重要性について考えてみる。</p> <p>&lt;復習&gt;発達障害に関する専門書を一冊は読んでおきたい。</p>
11 回	<p>第9章. ひとり親家庭の福祉・女性福祉</p> <p>&lt;講義&gt;ひとり親家庭の現状を理解させ、円満な家庭の大切さを考えさせる。</p> <p>母子及び寡婦世帯への福祉施策について解説する。</p> <p>DVなどによる要保護女性の福祉と、婦人相談所の現代的使命を解説する。</p> <p>&lt;学習成果&gt;ひとり親になる原因は離婚が圧倒的に多く、ひとり親にならないような結婚の大切さを自覚する。</p> <p>&lt;復習&gt;DV被害者の連れている児童は、被虐待児であることの根拠を学ぶ。</p> <p>ひとり親となる原因を少なくするために自分自身ができることは何かを考える。</p>
12 回	<p>第10章. 社会福祉援助技術</p> <p>&lt;講義&gt;社会福祉における相談援助技術の種類とそれらの発展した歴史を説明し、社会福祉援助に関して利用者の保護と権利擁護に関わる仕組みを解説する。</p> <p>&lt;学習成果&gt;栄養士として福祉的支援に当たるとき、これらの援助相談技術は役立つ。</p> <p>&lt;予習復習&gt;今までのノートを読み直してみる。</p>

13 回	<p>第 11 章. 地域福祉</p> <p>&lt;講義&gt; 地域における篤志家の慈善事業が源流であった地域福祉が公的サービスとして日本に定着した経緯と、共生社会の実現への理念と課題を解説する。</p> <p>&lt;学習成果&gt; 地域福祉は行政を支える住民の活動があって初めて実を結ぶことを知る。</p> <p>&lt;予習・復習&gt; 身近な地域にどんな住民参加型の福祉活動があるかを考え調べてみる。</p>
14 回	<p>第 12 章. 医療福祉</p> <p>&lt;講義&gt; 医療福祉の概念説明をしながら、医療福祉の歴史を振り返り、現代社会にとってこの医療ケースワークの重要性を解説する。</p> <p>&lt;学習成果&gt; 医療内容が高度化してくれば、それに伴い医療技術以外の医療サービスが必要になり、その中で栄養指導の大切さに気づく。</p>
15 回	<p>&lt;総復習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全 15 回の授業内容の要点を再度説明し、各章や單元ごとに質疑応答。</li> <li>・ 法制度、理念等授業中に指摘したポイント及び小テストの正解を再解説し注意点を説明。</li> <li>・ 提出物の漏れがないように再度チェックさせる。</li> <li>・ 幼児教育・看護・福祉・栄養等々の専門家としての基礎的教養を身につけると同時に、ここでの学びを我が子の育児や家庭の幸せに活かしてもらいたい。</li> </ul>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	解剖生理学 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	清水 憲二
質問受付の方法（質問票、e-mail, オフィスアワー等）：シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp、 オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前 10 時～12 時が望ましい。							
教育目標と学生の学習成果	<b>教育目標：</b> 健康維持のための栄養指導を行うには、ヒトの体の仕組みをしっかりと理解する必要がある。解剖生理学はこの目的のために、正常なヒトの構造と機能を理解し、様々な生命現象を医学・生物学的に説明できるようになる事を目的とする。また、疾患がどのような機構で発症するかという点も重要な単元である。本科目はその前半部を担当する。						
	<b>学生の学習成果：</b> [専門的学習成果]：解剖生理学は、人体を“かたち”と“働き”という二つの面から眺めるという楽しい学問であることを知り、様々な生命現象について説明できる能力、特に各臓器の構造と機能を十分に理解し、栄養学の基礎となる能力を習得する。 [汎用的学成果習]：シャトルカードの質問提示による課題発見力、予習・復習の徹底による学習方法の確立を果たし、管理栄養士として要求される学力と思考力を身につけ						
教育方法	授業の進め方	<b>〔講義〕・演習・実験・実習・実技</b> 講義はテキストとプリントを併用して進める。また、講義に際しては、シャトルカードで毎回質問を提出してもらい、翌週にそれらの回答プリントを配布して、個人毎の疑問に答える。また、到達度を測る小テストおよび中間テストを適宜行ない、知識の自己点検と予習、復習の評価を行なう。					
	予習・復習	予習：シラバスまたは講義の進捗状況に従い、教科書の予定講義範囲を前もって読んでおき、シャトルカードに記入する質問を自力で発見して別紙に記録しておく。講義予定日の 3 日前から 1 日 30 分程度の予習を計 3 回、総計 90 分は実施する。 講義中：自らの手を動かし、ノートを作成するのが受講の基本である。予習および講義中に疑問点を発見したら、必ずシャトルカードに質問として提出する！ 復習：講義を受けたあとは、必ず教科書の該当部分を読み直し、講義で指摘された重要事項を「重要事項ノート」に記入しておく。具体的には、講義があった日から 3 日以内に、1 回 30 分程度、計 90 分をこれらの復習にあてる。復習は予習よりも重要である。復習の確認については、重要事項復習テストを数回行なう。このテストで誤答した事項は、ノートに特設する「間違い事項」ノートに記入し、苦手克服に役立てる。また、シャトルカードの質問箱に対する回答プリントを熟読し、他の学生の質問と回答も含めて、ノートを完全にしてお					
	テキスト	志村、岡、山田 編（2020）「解剖生理学（人体の構造と機能）」改訂第 3 版 羊土社、2,900 円＋税 場合によっては、基礎生物学で使用した「ZERO からの生命科学」テキストを本科目前半でも使用する。					
学習評価の方法	授業が 7～8 割進行した段階で、中間テストを実施する。これは自己点検を主な目的とするが、予習／復習を正確に反映するので成績評価にもある程度勘案する。また、数回の小テスト（重要事項復習テスト）の結果も成績評価に加える。 小テストの結果と中間テストを合わせて 20 点満点で評価し、試験期間中に期末試験を行ない（80 点）、合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。						

注 意 事 項	参考図書： 坂井建雄，岡田隆夫 監訳（2005）「ヒューマンバイオロジー」医学書院 （わかりやすい画像が多数あり，理解する上に役立つ。図書館に準備する。）
------------------	---

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	導入：シラバスの説明。 解剖生理学概論（栄養学のための解剖生理学） 基礎生物学の復習（復習試験を行なう場合がある）
2 回	復習試験の返却と解説 細胞と組織 細胞、細胞内小器官、組織、器官、器官系 上皮組織と結合組織を構成する細胞と細胞間質の構造と機能 軟骨・骨と筋組織を構成する細胞と細胞間質の構造と機能
3 回	消化器系-1 咀嚼，嚥下と食道の構造および機能、 胃と腸の構造と機能、消化管運動、消化と吸収、 （第1回重要事項復習テスト）
4 回	消化器系-2 消化管ホルモン、肝臓や胆嚢の構造と機能、膵臓の構造と機能、 および血糖値維持のメカニズム （第1回重要事項復習テストの添削返還）
5 回	血液・造血器・リンパ系 血液・造血器・リンパ系の構成と機能 血球の種類と分化、機能、血漿タンパク質、血液凝固と線溶系
6 回	循環器系 心臓の構造と機能、 血管とリンパ管の構造と機能，および組織液の働き、物質交換 （第2回重要事項復習テスト）
7 回	呼吸器系 気道の構造と機能，および嗅覚と発声、 呼気と吸気の仕組み，および肺でのガス交換 （第2回重要事項復習テストの添削返還）

8 回	<p>泌尿器系</p> <p>泌尿器系の器官の構造と機能及び尿の生成、 体液のバランス調節と血圧制御</p>
9 回	<p>骨格系</p> <p>骨の構造とリモデリング、骨代謝 (第3回重要事項復習テスト)</p>
10 回	<p>筋肉系と運動機能</p> <p>筋肉の種類と構造、筋収縮の機構、運動とエネルギー代謝系 (第3回重要事項復習テストの添削返還)</p>
11 回	<p>内分泌系と生殖器系</p> <p>ホルモンの働き、種類と作用機構、制御機構、生殖細胞の分化と発生機構、性周期</p>
12 回	<p>神経系</p> <p>中枢神経、末梢神経、神経細胞の構造と機能、神経伝達機構、 自律神経と体性神経、反射、学習、記憶、認知症 この段階で、中間テストとしての総合小テストを行なう。</p>
13 回	<p>中間試験の答案返還と解説。</p> <p>感覚器系と皮膚組織</p> <p>五感の認識機構、伝達機構、受容体、皮膚の構造および体温調節と皮膚感覚</p>
14 回	<p>免疫系</p> <p>生体防御、液性免疫、細胞性免疫、抗原と抗体、アレルギー、粘膜免疫、自己免疫疾患 (第4回重要事項復習テスト))</p>
15 回	<p>総合演習</p> <p>解剖生理学とヒトの疾患 (第4回重要事項復習テストの添削返還)</p>

令和7年度教育計画							
科目名	解剖生理学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	山田 治来
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : メールアドレス haruki@owc.ac.jp (随時) 木曜日 12:20~13:00 (講義室または研究室)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>管理栄養士には、人間の生存・活動を支える栄養や疾病についての高度な知識が求められる。当科目では、その知識を修得するための基礎となる人体の各臓器や組織の構造や機能について学ぶ。具体的には次の2点とする。</p> <p>①解剖生理学Ⅰで学んだ知識の確認。 ②管理栄養士として重要な臓器や組織についての理解を深めること。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 : 教育目標に記載した①②の修得。 汎用的学習成果 : ③職業上必要な幅広い知識を入手、活用するスキルの修得。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、テキストとともに、プリントを活用して進める。人体の構造や機能の理解を深めるためにイラスト等を積極的に利用する。</li> <li>・健康や疾病についての話題を取り入れ、栄養学を学ぶ上で重要な解剖生理学に興味をもてるよう配慮する。</li> <li>・授業終了時にシャトルカードを配布し、授業の感想、自己学習評価等の記入を求める。必要に応じてコメントを記し、次回授業時に返却する。</li> <li>・COVID-19感染状況により対面授業が困難と判断された場合は、遠隔授業として実施する。</li> </ul> <p>予習・復習</p> <p>予習事項 : 授業前にテキストを読み、理解する。不明な点があれば各自で調べて理解するよう努力する。解決できなかった事項については、授業時に質問する。 (各回2時間、合計30時間)</p> <p>復習事項 : テキストの該当する範囲を熟読する。授業中に指示した重要項目は重点的に復習し理解する。さらに関連書籍やインターネット等を自主的に活用し知識を深める。 (各回2時間、合計30時間)</p> <p>テキスト</p> <p>福島光夫編 Visual 栄養学テキスト 人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅠ 解剖生理学 中山書店 定価2,700円+税</p>					
学習評価の方法	<p>3項目の学習成果について、その修得度合を量的に評価する。</p> <p>①解剖生理学Ⅰで学んだ知識の確認。 ②管理栄養士として重要な臓器や組織についての理解を深めること。 ③職業上必要な幅広い知識を入手、活用するスキル。</p> <p>学習評価は、筆記試験100% (定期試験100%) で行う。 COVID-19感染状況により筆記試験が困難と判断された場合は学内の判断に従い評価を行う。</p>						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション、授業の進め方についての説明 第1章：細胞，組織，皮膚 1.細胞 2.組織 3.皮膚 P1～P11（テキストの該当ページ）
2 回	第2章：消化管 1.概要 2.口腔，咽頭 3.食道 4.胃 5.小腸 6.大腸 P12～P24
3 回	第3章：肝・胆・膵 1.肝臓 2.胆嚢・胆道 3.膵臓 P25～P30
4 回	第4章：心臓・血管系 1.心臓の形状・しくみとはたらき 2.血液の循環 3.血管の構造とはたらき 4.血圧 P31～P37
5 回	第5章：呼吸器 1.呼吸器の形状・しくみ 2.呼吸器のはたらき P38～P49
6 回	第6章：内分泌 膵臓 1.総論、視床下部・下垂体、松果体、副腎 2.甲状腺 3.性腺 4. 膵臓 5.骨・ミネラル代謝 P50～P65
7 回	第7章：代謝 1.代謝総論、糖代謝 2.脂質代謝 3.たんぱく質代謝、尿酸代謝 P66～77
8 回	第8章：腎臓 1.腎臓の形状・しくみ 2.腎臓のはたらき P78～P86
9 回	第9章：血液 1.血液の組成とはたらき，造血 2.赤血球 3.白血球 4.血小板 5.血漿たんぱく 6.凝固・線溶系 P87～P96

10 回	第10章：免疫 1. 概要 2. 自然免疫 3. 獲得免疫 P97～P105
11 回	第11章：神経 1. 神経系 2. 中枢神経系 3. 末梢神経系 P106～P120
12 回	第12章：骨格、筋肉系 1. 骨 2. 筋肉 3. 関節 P121～P133
13 回	第13章：感覚器 1. 総論 2. 聴覚 3. 平衡感覚 4. 味覚 5. 嗅覚 6. 視覚 P134～P148
14 回	第14章：尿管・膀胱・尿道、男性生殖器 1. 尿管・膀胱・尿道 2. 男性生殖器 P149～P156
15 回	第15章：女性生殖器、乳房 1. 外性器（外陰）の形状・しくみ 2. 内性器の形状・しくみ 3. 乳房 4. 妊娠と分娩 5. 月経のしくみ P157～P164

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	解剖生理学実験 I	授業回数	15	単位数	1	担当教員	清水 憲二
質問受付の方法：(質問票、e-mail, オフィスアワー等)：シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp、 オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前 10 時～12 時が望ましい。							
教育目標と学生の学習成果	<b>教育目標：</b> 基礎生物学と解剖生理学で学ぶ生理学の内容を、実験を通してより深く理解させ、生体内の各器官の解剖学的知識と生理学的知識を結びつけて総合的に身体機能を考える能力を養い、各班内での協力とコミュニケーションの大切さを実感させる。						
	<b>学生の学習成果：</b> [専門的学習成果]：身体機能のより深い理解と観察力を養う。自身を対象とした計測を行なうので、管理栄養士としての技術的な思考法を体得できる。 [汎用的学成果習]：班で実験を行なうために、相互の助け合いがいかに大切であるかを体得する。これは特に最後の 3 コマの「問題発見・自己解決型グループ学習 (チュートリアル)」において、重要なアクティブ・ラーニングの学習成果となる。						
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・ <b>実験</b> ・実習・実技) 1. 実験講義で実験の目的と内容の説明を行ない、実験の内容を十分に理解させる。実験がスムーズに進行するように、プリントを用いて計測器、記録器の使用方法的説明を行なう。 2. 実験の結果と講義内容が一致することを確認させる。 3. 実験の結果をレポートにまとめさせ提出させる。 4. 講義と実験結果との関連設問により理解の程度を確認する。 5. 最後の 3 コマは問題発見・自己解決型グループ学習 (チュートリアル) を導入し、グループ毎に独自のテーマを設定して自由に情報検索し、まとめと成果発表を行なう (アクティブ・ラーニング)。					
	予習・復習	前半 5 回の実習講義においては、通常の講義と同じく、原則として毎回、講義終了時に重要事項復習テストを提出し、添削を受ける。 実験を開始する前に、実験内容のプリントについて予習をしているか確認する。 実験講義の内容を再度確認させる。 レポートの考察を書かせる事によって、実験内容の復習をさせる。					
	テキスト	プリントを主な教材として用いる。 参考書：N ブックス実験シリーズ解剖生理学実験 (建帛社)、					
学習評価の方法	実験毎に個人レポートを提出させ、その実験と講義内容が一致し、理解ができているかどうかを確認する。また不明な点あるいは行なった実験の内容が参考書等にはどのように記述されているのか調べているかどうかについても評価の対象とする。 提出された実験毎のレポートに対し、実験講義あるいは解剖生理学で学習した内容・設問に全て答えてあれば実験点として学生に 75 点 (出席；15 点、レポート点；60 点) を与え、調べた内容により加点 (25 点まで) あるいは不備のある場合は減点 (15 点まで) を行ない、最低 60 点から最高 100 点までとする。レポート点には、前半の重要事項復習テストの成績状況も勘案して評価する。総合的な学習成果は実験点 5 種目の平均点で評価する。レポートの提出が無い場合は、熱意の欠如とみなし、相当の減点を行なう。						

注意事項	<p>参考図書等；実験の前にはプリント・解剖生理学実験をよく良く読んでおくこと。          実験のレポートは期限内に必ず提出しなければならない、指定した期限に遅れた場合は減点の対象とする場合がある。          実験を欠席した場合は空き時間を利用して必ず欠席をした日の実験を行ない、レポートを提出しなければならない。実験は講義と異なり、自習が不可能であることが特徴である。          従って、毎回出席が最も重要である。</p>
------	--

授業回数別教育内容	
1 回	<p>導入講義：シラバスの説明。          解剖生理学の教科書を用いて、実験の単元に該当する章を前もって詳細に講義する。          この講義を第5回授業まで継続する。          (第1回重要事項復習テスト)</p>
4 回	<p>実験講義：          解剖生理学の教科書に基づいて、基本的な事項を復習する。          (第3回重要事項復習テストの添削返還と第4回重要事項復習テスト)</p>
5 回	<p>実験講義：          人体解剖模型を用いて、ヒトの身体各部の解剖学的特徴や構造の詳細、機能との関連、などを講義する。          (第4回重要事項復習テストの添削返還と第5回重要事項復習テスト)</p>
6 回	<p>実験講義：          本実験で行なう5種類の実験項目について、具体的な説明を詳細に行なう。          7回から11回の実験は、各班が異なるテーマの実験を同時並行して行なう。          (第5回重要事項復習テストの添削返還と第6回重要事項復習テスト)</p>
7 回	<p>実 験：人の脈波測定          加速度脈波測定装置を使用して、各個人の脈波を測定する。その際、安静時、運動直後、などの条件で脈波のパターンがどのように変動するかを観察する。          (第6回重要事項復習テストの添削返還)</p>
8 回	<p>実 験：人の体温測定          口腔内、腋窩、膝窩、肘窩、手指先、足指先温の測定を行わせ、何故このように体温の分布に違いが起こるのかを考えさせ、レポートを提出させる。</p>
9 回	<p>実 験：人の血圧測定          安静時、深呼吸時、運動時(直後および5分後)並びに立位、仰臥位の血圧を測定し、人の血圧がどのような調節を受けているかを考察する。これらの情報を検索させ、レポートを提出させる。</p>
10 回	<p>実 験：皮膚感覚          身体各部位の単位面積当たりの触、痛、圧点の分布の割合、二点弁別、感覚の違いなどの結果をレポートで報告させると共に、感覚と神経伝達機構について考察させる。</p>
11 回	<p>実 験：視覚の実験(視神経乳頭の実測)          明視距離における盲点を観察し、盲点の大きさの実測から、実際の網膜における視神経乳頭の大きさを求める。また、単眼視、両眼視の双方において、盲点が意識されないのはなぜか?という問題について調査、考察し、それらの結果のレポートを提出させる。</p>

12 回	<p>チュートリアル：（問題発見・自己解決型グループ学習）</p> <p>解剖生理学に関連する50問の設問から、関連するテーマを各班で選び、分担を決めて情報検索を開始する。班長を決め、班員全員の討論で答えを出し、発表用の資料を作る。テーマは、与えられたテーマ以外に、自分たちが興味を持つ別の課題でも良い。</p>
13 回	<p>チュートリアル：</p> <p>上記を続行する。</p>
14 回	<p>チュートリアル：</p> <p>上記を続行する。各人の作成した資料を班員全員で共有し、結果発表のための準備を行なう。班ごとにA4レポート用紙1～3枚の要約レポートを提出する。</p>
15 回	<p>チュートリアル：</p> <p>各班の作成した資料をクラス全員で共有し、結果発表（全員）と討論を行なう。</p> <p>総合討論：レポートを返却し、実験の内容とその結果について解説を行ない、各自のレポートの点検を行わせる。以上の結果とチュートリアルの結果を基にして、総合的な討論を行なう。（注：レポートの評価、返却は年度末まで遅れる可能性もある）</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	解剖生理学実験Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	清水 憲二
質問受付：（質問票、e-mail, オフィスアワー等）： シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp、 オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前10時～12時が望ましい。							
教育目標	<p><b>教育目標：</b> 解剖生理学で学習する内容と各組織の正常と病態（機能異常）との違いを、組織を観察することにより、具体的に実感させる。また、生体内の各器官の生理学的知識と解剖学的知識を結びつけ、総合的に身体機能を考える能力を養う。さらに、グループでの実験は班内でのコミュニケーションと協力の大切さを実感させ、将来役立つ社会性を養う。</p> <p><b>学生の学習成果：</b> [専門的学習成果]：身体を構成している諸器官の機能のより深い理解と観察力が身につけていること。様々な疾患状態の臓器や細胞を観察し、病理学的な特徴を体得する。 [汎用的学成果習]：班で実験を行うために相互のコミュニケーションと助け合いがいかに大切であるかを体得する。呼吸、代謝、エネルギー代謝、視覚、味覚、循環機能、臓器の機能不全、悪性腫瘍、等の基本的な仕組みを体得し、最終的には、実験で得た知識についての質問に対して、具体的に説明ができること。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・<b>実験</b>・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験講義で観察する組織の内容を説明し、組織の内容を十分に理解させる。実験がスムーズに進行するように、プリントを用いて計測器、記録器の使用方法的説明を行なう。</li> <li>2. 実験の結果と講義内容が一致することを確認させる。</li> <li>3. 実験の結果をレポートにまとめ、提出させる。</li> <li>4. 講義と実験結果との関連設問により、理解の程度を確認する。</li> <li>5. 組織観察のレポートは授業時間内に提出させる。</li> </ol>					
学習評価の方法	テキスト	授業でのプリント、					
	参考図書	日本生理学会 編・新生理学実習書, 2001年, 南江堂; 岡田泰伸 編集・生理学展望, 2002年, 丸善; 青峰正裕・藤田 守 編著 Nブックス実験シリーズ解剖生理学実験, 2009年, 建帛社					
注意事項	到達基準	各器官の組織像（腺組織、結合組織、筋組織、上皮組織、神経組織、など）がおおよそ判別できること。正常と病的状態の組織像の区別ができる。 呼気中の二酸化炭素濃度等を指標にして、安静時エネルギー代謝や死腔量の測定ができる原理を理解する。データの処理ができる。味覚の個人差を実感する。					
	認定方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験結果のレポート（A4サイズ）を提出していること。</li> <li>2. 実験中の態度・レポートを評価し、総合点が合格水準（60点）以上であること。</li> </ol> レポートの提出が無い場合は、相当の減点を行なう。					
注意事項	組織についての説明、実験関連以外の私語はしないこと。再三の注意を行っても止めない場合は2点の減点を行なう。実験は講義と異なり、自習が不可能であることが特徴である。 従って、毎回出席が最も重要である。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション：シラバスの説明。</li> <li>データの処理及びレポートの記載方法についての説明。</li> </ul> 人体解剖模型を用いて、ヒトの身体各部の解剖学的特徴や構造の詳細、機能との関連、などを講義する。解剖生理学全体の復習のための初講試験を行う。
2 回	初講試験の結果解説。組織観察とスケッチ法の説明 正常組織観察 1 細胞, 上皮, 唾液腺組織の観察
3 回	正常組織観察 2 脂肪, 骨, 血液, 筋, 神経組織の観察
4 回	正常組織観察 3 心筋線維, 脈管, 造血組織の観察
5 回	正常組織観察 4 胃, 回腸, 虫垂組織の観察
6 回	病理組織の観察 1 肝臓, 胆嚢, 膵臓, 呼吸器系組織の観察
7 回	病理組織の観察 2 腎臓, 尿管, 生殖器, 内分泌器官, 動脈硬化, 心筋梗塞の組織の観察
8 回	病理組織の観察 3 動脈瘤, 肺塞栓症, 消化器系癌, 肝臓・炎症性腸疾患の組織観察
9 回	病理組織の観察 4 肺癌, 乳癌, 子宮癌などの組織像観察
10 回	実験：加速度脈波の説明と実際の測定 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機器の操作法、運動の影響、立位での測定</li> <li>2. 加速度脈波と血管年齢についての説明、1年次の結果との比較と討論</li> </ol>
11 回	実験：安静時代謝量、呼吸商の測定の説明 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マスクとフィルターの清掃と消毒</li> <li>2. 安静時代謝量、呼吸商の求め方について説明</li> </ol> (実際の実験は、4種類の実験を各班別に同時並行して行なう)
12 回	実験：安静時代謝量、呼吸商の測定 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マスクとフィルターの清掃と消毒</li> <li>2. 安静時代謝量、呼吸商の実験結果の計算</li> </ol>
13 回	実験：死腔量の測定 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Bohr の式による安静時、死腔換気量の算出</li> <li>2. ダグラスバッグによる終末呼気中の酸素、二酸化炭素量測定</li> </ol>
14 回	実験：PROP テイスター（味覚）の実験に関する説明と実験 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試薬の秤量及び試料の調整</li> <li>2. visual analog scale による判定、全員のデータ共有による遺伝的分布の解析</li> </ol>
15 回	総合討論 各班の結果を基に、実験の意義、データの意味、生理学的な原理、病態との関連、などについて、総合的に討論する。

令和7年度教育計画							
科目名	運動生理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	清水 憲二
質問受付の方法（質問票、e-mail, オフィスアワー等）：シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp、 オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前10時～12時が望ましい。							
教育目標と学生の学習成果	<p><b>教育目標：</b> この科目では生理学を基本に、身体運動に関連する「からだのしくみ」を学ぶ。この目的のため、最初は運動に関与する細胞・組織レベルの知識習得から始め、次いで、運動と身体諸器官の関連について学習し、ヒトの健康を維持するための運動の役割を理解する。</p> <p><b>学生の学習成果：</b> [専門的学習成果]：現在は飽食の時代であると言われ、身体活動量が減少したため、生活習慣病が劇的に増加している。このため、管理栄養士にとっては食事や栄養だけでなく、運動についての正しい知識と理解が求められている。本科目では、有病者、高齢者等を含めた広い対象者に健康づくりのための具体的運動指導ができる基礎知識を身につける。 [汎用的学成果習]：シャトルカードの質問提示による課題発見力、予習・復習の徹底による学習方法の確立を果たし、管理栄養士として必要な学力と思考力、応用力を身につける。</p>						
	授業の進め方	<p><b>（講義）・演習・実験・実習・実技</b> 講義はテキストを中心にして進める。基礎生物学と解剖生理学で学んだ知識と生物・医学的な考え方を基に、運動による身体諸機能の生理反応を理解できるようにする。講義に際しては、シャトルカードで毎回質問を提出してもらい、翌週にそれらの回答プリントを配布して、個人毎の疑問に答える。定期試験以外にも到達度を測る小テストを適宜行ない、知識の自己点検と予習、復習の評価を行なう。なお、本科目は3年生後期に設定されているが、この教科書が終了しなかった場合は、4年生前期の「運動栄養学」で引き続き講義する。これらは共に応用栄養学の分野である。</p>					
教育方法	予習・復習	<p>予習：シラバスまたは講義の進捗状況に従い、教科書の予定講義範囲を前もって読んでおき、シャトルカードに記入する質問を自力で発見して別紙に記録しておく。講義予定日の3日前から1日30分程度の予習を計3回、総計90分は実施する。 講義中：自らの手を動かし、ノートを作成するのが受講の基本である。予習および講義中に疑問点を発見したら、必ずシャトルカードに質問として提出する！ 復習：講義を受けたあとは、必ず教科書の該当部分を読み直し、講義で指摘された重要事項を「重要事項ノート」に記入しておく。具体的には、講義があった日から3日以内に、1回30分程度、計90分をこれらの復習にあてる。復習は予習よりも重要である。復習の確認については、重要事項復習テストを数回行なう。このテストで誤答した事項は、ノートに特設する「間違い事項」ノートに記入し、苦手克服に役立てる。また、シャトルカードの質問箱に対する回答プリントを熟読し、他の学生の質問と回答も含めて、ノートを完全にしておく。</p>					
	テキスト	樋口、湊、寺田 著 (2018)「栄養・スポーツ系の運動生理学」南江堂、 2,800円＋税					

学習評価の方法	<p>授業が7～8割進行した段階で、中間テストを実施する。これは自己点検を主な目的とするが、予習／復習を正確に反映するので成績評価にもある程度勘案する。</p> <p>不定期に行なう重要事項復習テストと中間テストを合わせて20点満点で評価し、試験期間中に期末試験を行ない(80点)、合計100点満点中60点以上を合格とする。</p>
注意事項	<p>参考図書：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○志村、岡、山田 編(2014)「解剖生理学(人体の構造と機能)」羊土社、2,900円+税(解剖生理学Iで使用したテキスト)</li> <li>○坂井建雄, 岡田隆夫 監訳(2005)「ヒューマンバイオロジー」医学書院(わかりやすい画像が多数あり, 理解する上に役立つ。図書館に準備する。)</li> </ul>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1回	<p>オリエンテーション：シラバスの説明。</p> <p>初講試験(2年次までの学習成果の確認、特に解剖生理学と生化学)</p> <p>恒常性維持を図る人体と運動</p> <p>運動生理学を学ぶ上で重要な解剖生理学とホメオスタシスの概念を復習する。</p>
2回	<p>初講試験の解説</p> <p>運動生理学の化学的基礎：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 炭水化物、脂質、タンパク質の役割を完全に理解する。</li> <li>2) 全ての細胞のエネルギー源となるATPの産生機構を大局的に理解し、そのために酸素と栄養素の摂取が必要であることを再確認する。</li> </ol>
3回	<p>安静時と運動時のエネルギー代謝：基礎代謝量と活動時代謝量、測定法など。</p>
4回	<p>運動と身体組成：肥満とやせ、身体組成測定法、脂肪組織と体重コントロール</p>
5回	<p>運動と呼吸・循環器系の機能：呼吸・循環系の構造、呼吸の役割、ガス交換、換気量、心臓血管系の理解、酸素借と酸素負債</p>
6回	<p>運動と骨格筋・神経系の機能：運動を担う骨格筋の微細構造と機能、エネルギー供給系、遅筋と速筋の構造と機能の違い、骨格筋の収縮機構とそれを調節するニューロン(神経細胞)の構造と機能、及びシナプスでの興奮伝達のメカニズムや筋疲労の機構などを理解する。</p>

7 回	運動と中間代謝・内分泌の機能：糖質、脂質、たんぱく質の代謝とエネルギー(ATP)産生、エネルギー産生システムにおけるホルモンの役割、などを詳細に学ぶ。
8 回	環境と運動・栄養：運動とストレス、休養、運動と温度や気圧および無重力との関わり、災害時の栄養、避難生活と運動
9 回	運動と栄養摂取-1：運動と糖質、脂質、たんぱく質、特にトレーニングとの関係 予習・復習プリント（第7回分の添削返還、第8回分の回収、第9回分の配布）
10 回	運動と栄養摂取-2：ビタミンとミネラル（特にカルシウムと鉄）、水分、サプリメント、運動前、中、後の食事
11 回	体力・運動能力の性差：体格、組成、筋力、持久力、柔軟性などにおける性差、成人女性のやせと健康、女性の運動における注意点
12 回	体力・運動能力の加齢変化：出生から成人まで、及び成人期以降の運動能力の加齢変化 中間テスト（小テスト）を実施する。
13 回	中間試験の答案返還と解説。 健康と運動能力に及ぼすトレーニングと遺伝の影響：トレーニングの効果、運動能力の遺伝率、運動能力と遺伝子多型、生活習慣病関連の遺伝子多型、健康維持とスポーツトレーニングの実際を学ぶ。
14 回	身体活動・運動の指導法-1：健康作りと身体活動基準、メディカルチェック、有疾患者に対する運動指導の実際（生活習慣病患者を中心に）
15 回	身体活動・運動の指導法-2：高齢者への運動指導；フレイル、骨粗鬆症、認知症などを予防するための運動

令和7年度教育計画									
科目名	生化学 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	岡田只士		
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : C棟101研究室 教員在室時は随時可									
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本学科では、高度な専門知識や技能を修得した栄養のスペシャリストである管理栄養士を育成することを目標とする。生化学は生命現象を化学的に明らかにする学問であり、栄養学と表裏一体となって発展してきた。従って、管理栄養士を育成するために、生化学教育は不可欠である。本講は、栄養素の代謝とそのはたらきの入門編として、各種栄養素の構造とその性質について基礎的な知識を涵養することを目的とする。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果：①代謝の場である細胞の構造と機能、②アミノ酸・たんぱく質の構造と機能、③酵素と補酵素のはたらき、④糖質の構造と機能、⑤脂質の構造と機能、⑥ヌクレオチドと核酸の構造と機能について理解し、「管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力」、「管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力」を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果：「栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解する能力」を獲得する。</p>								
	教育方法	授業の進め方	<p>( 講義・演習・実験・実習・実技 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、テキスト及びプリントを用いて行う。</li> <li>・各章終了後に、「小テスト」を行う。</li> <li>・毎授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想など、自由記述形式での記入を求める。その記載内容に対する回答、コメント等を記載して次回の授業で返却する。</li> <li>・小テストに対するフィードバックの方法：採点后、返却して解説する。</li> </ul>						
		予習・復習	<p>予習事項：各回の授業で学習する内容についてテキストを読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト、授業で配付されたプリント、ノートを読み、授業内容を理解する。各回の予習・復習の時間はそれぞれ90分、あるいは合計180分とする。</p> <p>また、各回の予習・復習事項は「授業回数別教育内容」に示す。</p>						
テキスト		<p>新スタンダード栄養・食物シリーズ2 生化学 (大塚 譲、脊山洋右、藤原葉子、本田善一郎編集)</p> <p>東京化学同人 2500円 (税別) 2014年</p>							
学習評価の方法	<p>学習成果：以下の項目について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 細胞の構造と機能について理解している。</li> <li>② アミノ酸・たんぱく質の構造と機能について理解している。</li> <li>③ 酵素と補酵素のはたらきについて理解している。</li> <li>④ 糖質の構造と機能について理解している。</li> <li>⑤ 脂質の構造と機能について理解している。</li> <li>⑥ ヌクレオチドと核酸の構造と機能について理解している。</li> </ol> <p>学習評価は、授業態度 (遅刻をしない、質問に答えるなど) (20%)、小テスト(30%)、および期末試験の結果に50%の重みをつけて100点満点とする。</p>								

注 意 事 項	【参考図書】 特に、指定しない。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	細胞の構造と機能(1) 講義内容：人体の構成 1)組織；2)細胞；3)細胞の構造と機能 (a)核，(b)細胞小器官 予習事項：テキスト pp. 6-9 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 6-9、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
2 回	細胞の構造と機能(2) 講義内容：3)細胞の構造と機能 (c)細胞骨格，(d)細胞質ゾル，(e)細胞膜；4)植物細胞の特徴； 5)生体成分；6)水分子(溶媒)の極性；7)細胞の増殖と分化；8)減数分裂と体細胞分裂 予習事項：テキスト pp. 9-15 & pp. 70-76 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 9-15 & pp. 70-76、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
3 回	アミノ酸・たんぱく質の構造と機能(1) 講義内容：1)アミノ酸；2)アミノ酸の光学異性体；3)体たんぱく質構成アミノ酸；4)必須アミノ酸；5)疎水性アミノ酸と親水性アミノ酸；6)ペプチド 予習事項：テキスト pp. 19-28 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 19-28、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
4 回	アミノ酸・たんぱく質の構造と機能(2) 講義内容：7)たんぱく質の構造；8)たんぱく質の分類；9)たんぱく質の形状；10)たんぱく質の機能；11)たんぱく質の性質；12)たんぱく質の分子量測定；13)たんぱく質の定量；14)たんぱく質の定性 予習事項：テキスト pp. 29-36 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 29-36、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
5 回	酵素と補酵素(1) 講義内容：1)酵素の種類；2)酵素および酵素反応の性質；3)補因子と補酵素 予習事項：テキスト pp. 37-40 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 37-40、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
6 回	酵素と補酵素(2) 講義内容：4)ミカエリス・メンテンの式；5)ラインウイーバー・バークの式；6)酵素の活性調節； 7)阻害物質；8)アイソザイム；9)律速酵素 予習事項：テキスト pp. 41-46 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 41-46、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
7 回	糖質の構造と機能(1) 講義内容：1)糖質の特徴；2)単糖類 予習事項：テキスト pp. 47-51 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 47-51、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。

8 回	糖質の構造と機能(2) 講義内容：3)誘導糖；4)二糖類 予習事項：テキスト pp. 51-53 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 51-53、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
9 回	糖質の構造と機能(3) 講義内容：5)多糖類；6)複合糖質 予習事項：テキスト pp. 53-60 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 53-60、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
10 回	脂質の構造と機能(1) 講義内容：1)脂質の役割；2)脂質の分類；3)単純脂質 予習事項：テキスト pp. 61-62, pp. 66, pp. 68-69 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 61-62, pp. 66, pp. 68-69、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
11 回	脂質の構造と機能(2) 講義内容：4)複合脂質 予習事項：テキスト pp. 63-65, pp. 67-68, pp. 69-70 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 63-65, pp. 67-68, pp. 69-70、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
12 回	脂質の構造と機能(3) 講義内容：5)誘導脂質；6)その他の脂質 予習事項：テキスト pp. 64-65, pp. 121-123 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 64-65, pp. 121-123、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
13 回	ヌクレオチドと核酸(1) 講義内容：1)ヌクレオチドと核酸の構造；2)デオキシリボヌクレオチド、リボヌクレオチドの構成成分；3)デオキシリボヌクレオチドの合成；4)DNA ポリヌクレオチド鎖の重合反応 予習事項：テキスト pp. 77-80 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 77-80、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
14 回	ヌクレオチドと核酸(2) 講義内容：5)DNA の二重らせん構造と RNA のヘアピンループ構造；6)ヌクレオチドのはたらき；7)糖ヌクレオチド 予習事項：テキスト pp. 80-82 を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト pp. 80-82、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。
15 回	まとめ

令和7年度教育計画							
科目名	生化学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	岡田只士
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : C棟101研究室 教員在室時は随時可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本学科では、高度な専門知識や技能を修得した栄養のスペシャリストである管理栄養士を育成することを目標とする。生化学は生命現象を化学的に明らかにする学問であり、栄養学と表裏一体となって発展してきた。従って、管理栄養士を育成するために、生化学教育は不可欠である。本講は、生化学Ⅰで学習した各種栄養素について、その代謝とはたらき、また、遺伝子の発現と調節について分子レベルの知識を涵養することを目的とする。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果：①糖質の代謝、②脂質の代謝、③たんぱく質・アミノ酸の代謝、④生体エネルギーと代謝、⑤ヌクレオチド代謝、遺伝子発現および遺伝子操作、⑥受容体と細胞内情報伝達を理解し、「管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力」、「管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力」を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果：「栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解する能力」を獲得する。</p>						
	教育方法	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、テキスト及びプリントを用いて行う。</li> <li>・各章終了後に、「小テスト」を行う。</li> <li>・毎授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想など、自由記述形式での記入を求める。その記載内容に対する回答、コメント等を記載して次回の授業で返却する。</li> <li>・小テストに対するフィードバックの方法：採点后、返却して解説する。</li> </ul>	予習・復習	<p>予習事項：各回の授業で学習する内容についてテキストを読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト、授業で配付されたプリント、ノートを読み、授業内容を理解する。各回の予習・復習の時間はそれぞれ90分、あるいは合計180分とする。</p> <p>また、各回の予習・復習事項は「授業回数別教育内容」に示す。</p>			
学習評価の方法	<p>学習成果：以下の項目について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。</p> <p>①糖質の代謝について理解している。</p> <p>②脂質の代謝について理解している。</p> <p>③たんぱく質・アミノ酸の代謝について理解している。</p> <p>④生体エネルギーと代謝について理解している。</p> <p>⑤ヌクレオチド代謝、遺伝子発現および遺伝子操作について理解している。</p> <p>⑥受容体と細胞内情報伝達について理解している。</p> <p>学習評価は、授業態度（遅刻をしない、質問に答えるなど）(20%)、小テスト(30%)、および期末試験の結果に50%の重みをつけて100点満点とする。</p>						
テキスト	<p>新スタンダード栄養・食物シリーズ2 生化学 (大塚 譲、脊山洋右、藤原葉子、本田善一郎編集)</p> <p>東京化学同人 2500円 (税別) 2014年</p>						

注 意 事 項	<p>【参考図書】 特に、指定しない。</p>
------------------	-----------------------------

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>糖質代謝(1) 講義内容：(a)解糖系；(b)糖新生；(c)ペントースリン酸回路 予習事項：テキスト第11章 (pp. 91-104)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第11章 (pp. 91-104)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
2 回	<p>糖質代謝(2) 講義内容：(a)クエン酸回路；(b)電子伝達系と酸化的リン酸化；(c)脱共役たんぱく質(UCP) 予習事項：テキスト第11章 (pp. 105-114)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第11章 (pp. 105-114)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
3 回	<p>糖質代謝(3) 講義内容：(a)グリコーゲンの合成と分解；(b)ガラクトースおよびフルクトースの代謝；(c)食後および空腹時の血糖調節 予習事項：テキスト第11章 (pp. 115-120)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第11章 (pp. 115-120)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
4 回	<p>脂質代謝(1) 講義内容：(a)脂質の吸収と体内動態；(b)脂肪酸の貯蔵と動員；(c)脂肪酸の分解 (<math>\beta</math>酸化)；(d)ケトン体の生成 予習事項：テキスト第11章 (pp. 121-127)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第11章 (pp. 121-127)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
5 回	<p>脂質代謝(2) 講義内容：(a)脂肪酸の合成；(b)多価不飽和脂肪酸の代謝と機能；(c)トリアシルグリセロールと複合脂質の合成 予習事項：テキスト第12章 (pp. 127-132)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第12章 (pp. 127-132)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
6 回	<p>脂質代謝(3) 講義内容：(a)コレステロールの合成；(b)胆汁酸の生合成；(c)ステロイドホルモンの合成 予習事項：テキスト第12章 (pp. 132-135)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第12章 (pp. 132-135)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
7 回	<p>アミノ酸・たんぱく質代謝(1) 講義内容：(a)食物たんぱく質および体たんぱく質の分解；(b)アミノ基転移反応 予習事項：テキスト第13章 (pp. 136-138)を読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキスト第13章 (pp. 136-138)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>

8 回	<p>アミノ酸・たんぱく質代謝(2)</p> <p>講義内容：(a)酸化的脱アミノ反応；(b)尿素回路；(c)アミノ酸炭素骨格の代謝</p> <p>予習事項：テキスト第13章 (pp. 138-142)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第13章 (pp. 138-142)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
9 回	<p>アミノ酸・たんぱく質代謝(3)</p> <p>講義内容：(a)非必須アミノ酸の合成；(b)アミノ酸由来の生理活性ペプチドと特殊生成物</p> <p>予習事項：テキスト第13章 (pp. 142-145)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第13章 (pp. 142-145)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
10 回	<p>生体エネルギーと代謝</p> <p>講義内容：(a)生体エネルギー；(b)エネルギー産生と利用；(c)食後の代謝；(d)空腹時の代謝</p> <p>予習事項：テキスト第13章 (pp. 85-90)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第13章 (pp. 85-90)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
11 回	<p>ヌクレオチド代謝、遺伝子発現および遺伝子操作(1)</p> <p>講義内容：(a)プリンヌクレオチドの合成と分解；(b) プリン塩基の再利用経路；(c) ピリミジンヌクレオチドの合成と分解</p> <p>予習事項：テキスト第14章 (pp. 146-150)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第14章 (pp. 146-150)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
12 回	<p>ヌクレオチド代謝、遺伝子発現および遺伝子操作(2)</p> <p>講義内容：(a)染色体と遺伝情報；(b)DNAの複製；(c)テロメア；(d)DNAの修復と突然変異</p> <p>予習事項：テキスト第16章 (pp. 163-167)、テキスト第17章 (pp. 168-173)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第16章 (pp. 163-167)、テキスト第17章 (pp. 168-173)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
13 回	<p>ヌクレオチド代謝、遺伝子発現および遺伝子操作(3)</p> <p>講義内容：(a)転写；(b)翻訳；(c)たんぱく質の分泌と品質管理（ユビキチン・プロテアソーム系）；(d)遺伝子組換え；(e)PCR法；(f)RT-PCR</p> <p>予習事項：テキスト第18章 (pp. 174-181) 第19章 (pp. 182-186)、第20章 (pp. 187-197)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第18章 (pp. 174-181) 第19章 (pp. 182-186)、第20章 (pp. 187-197)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
14 回	<p>受容体と細胞内シグナル伝達</p> <p>講義内容：(a)Gたんぱく質共役型受容体と細胞内情報伝達；(b)核内受容体と遺伝子発現調節；(c)脂溶性ビタミンAおよびDによる遺伝子発現調節</p> <p>予習事項：テキスト第21章 (pp. 201-212)を読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキスト第21章 (pp. 201-212)、授業で配付されたプリントおよびノートを読み、授業内容を理解する。</p>
15 回	<p>まとめ</p>

令和7年度教育計画							
科目名	生化学実験	授業回数	15	単位数	1	担当教員	岡田只士
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : C棟101研究室 教員在室時は随時可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 : 本学科では、高度な専門知識や技能を修得した栄養のスペシャリストである管理栄養士を育成することを目標とする。生化学は生命現象を化学的に明らかにする学問であり、栄養学と表裏一体となって発展してきた。従って、管理栄養士を育成するために、生化学教育は不可欠である。この授業は生化学の講義を通して得た知識を実験で確かめるとともに、本授業が終了した時点で簡単な定量実験を自分で行うことができるようになることを目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 : 生体材料や食品中のたんぱく質、脂質、糖質、核酸、ビタミンなどを定量し、それらをまとめてレポートを作成するなど「管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力」、「管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力」を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果 : 「栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解する能力」、「チームワーク能力」、「コミュニケーション能力」、「論理的思考力」、「問題解決力」を獲得する。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、実験前に、課題プリントを配布して実験の進め方と注意点について説明する。</li> <li>・少人数のグループに別れて実験を行う。</li> <li>・各グループの全員が正確に実験操作できるように指導する。</li> <li>・毎授業終了時に、「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想など自由記述形式での記入を求める。その記載内容に対する回答、コメント等を記載して次回の授業で返却する。「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。</li> <li>・実験終了後1週間以内に、レポート(課題プリントおよび実験考察)を提出する。</li> <li>・レポートに対するフィードバックの方法 : レポートは、添削して返却する。</li> </ul>					
	予習・復習						
	テキスト	生化学実験(田代 操編著)化学同人 2000円(税別)2021年					
学習評価の方法	<p>到達基準 : 実験を正しく、積極的に行動できること。および実験レポートが所定の書式により書かれ、かつ専門的な知識および記述能力がついていること。</p> <p>評価方法 : ○実験態度(よく聞く、正しく行動する、積極的に行動する)については、毎回の授業ごとに評価する。○実験レポートについては、レポートごとに、所定の書式で書かれているか、実験の目的や方法を理解しているか、結果を理解しているか、科学的な考察がなされているかなどを指標に評価する。なお、提出期限に遅れたレポートは減点する。</p> <p>成績は、実験態度の評価(30%)とレポートの評価(70%)を合計して、その得点率を総合評価とする。</p>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <p>特に、指定しない。</p> <p>実験室内では白衣で動きやすい靴を着用すること。</p> <p>欠席すると、レポートが作成できず、その回のレポート点が0となります。やむを得ず欠席しなければならない場合は、必ず連絡をいれるようにしてください。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	生化学実験のガイダンス 1) 実験の心得 2) 実験の概要 について学習する。
2 回	基礎実験(1) 水素イオン濃度と pH 1) 強酸（塩酸）、強塩基（水酸化ナトリウム）の水溶液およびリン酸緩衝液の調製 2) 強酸水溶液、強塩基水溶液の pH 測定および計算値との比較 3) リン酸緩衝液の pH 測定および緩衝液のはたらき について学習する。
3 回	基礎実験(2) 容量分析 1) シュウ酸標準液および水酸化ナトリウム水溶液の調製 2) 水酸化ナトリウム水溶液の濃度標定 3) 中和滴定による食酢中の酢酸のモル濃度の測定および質量%濃度の計算 について学習する。
4 回	基礎実験(3) Lowry 法による食品たんぱく質の定量 1) 測定試料（卵白、ゼラチン、豆乳、牛乳、脱脂粉乳）の調製 2) 検量線の作成および食品たんぱく質の定量 について学習する。
5 回	基礎実験(4) ゲルろ過クロマトグラフィー 1) ゲルろ過クロマトグラフィーによるアルブミンと食用色素の分離 2) Lowry 法による分離・回収たんぱく質の定量と回収率の計算 3) 分離・回収した食用色素の吸光度測定 について学習する。
6 回	基礎実験(1)～(4)のまとめ
7 回	応用実験(1) 絶食時の肝グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定 1) 24 時間絶食ラットおよび対照ラットの肝臓の粗酵素液の調製 2) 絶食および対照ラットの肝粗酵素液中のグルコース-6-ホスファターゼ活性の測定とそ の比較 について学習する。
8 回	応用実験(2) 絶食時の肝グリコーゲンの抽出と定量 1) 24 時間絶食ラットおよび対照ラットの肝グリコーゲンの抽出 2) 抽出した肝グリコーゲンの定量とその比較 について学習する。

9 回	<p>応用実験(3) 絶食時の血糖値の測定</p> <p>1) 24時間絶食ラットおよび対照ラットの血清の分離</p> <p>2) 同上ラットの血清中のグルコース濃度の測定とその比較について学習する。</p>
10 回	<p>応用実験(4) 絶食時の血中遊離脂肪酸の測定</p> <p>1) 24時間絶食ラットおよび対照ラットの精巣周囲脂肪組織の分離、重量測定とその比較</p> <p>2) 同上ラットの血中遊離脂肪酸の測定とその比較について学習する。</p>
11 回	<p>応用実験(1)～(4)のデータ整理と考察</p>
12 回	<p>応用実験(5) 核酸の分離・抽出</p> <p>1) 核酸の分離・抽出用の試薬の調製</p> <p>2) ラット肝臓組織の核酸(DNAおよびRNA)の分離・抽出について学習する。</p>
13 回	<p>応用実験(5) 核酸の定量</p> <p>1) DNAおよびRNA定量用の試薬の調製</p> <p>2) ジフェニルアミン法によるDNA比色定量およびオルシノール法によるRNA比色定量について学習する。</p>
14 回	<p>応用実験(6) 食品中のビタミンC(アスコルビン酸)の定量</p> <p>1) アスコルビン酸の比色定量用試薬の調製</p> <p>2) 測定試料(レモン、みかん、リンゴ汁など)の作成</p> <p>3) アスコルビン酸の検量線の作成および試料中のアスコルビン酸量の比色定量について学習する。</p>
15 回	<p>応用実験(1)～(6)のまとめ</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画

科目名	病理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	山田 治来
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : メールアドレス haruki@owc.ac.jp (随時) 木曜日 12 : 20 ~ 13 : 00 (講義室または研究室)							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 : 健康の保持増進および傷病者や要介護者に対する個人、集団、地域を対象とした栄養管理や医療チーム Nutritional support team (NST) の一員としての役割を果たす上で基礎となる疾病について学ぶ。具体的には、次の 2 点とする。 ①加齢や疾患に伴う変化、疾患診断や治療の概要についての理解。 ②各臓器の主要疾患について病因、病態、診断、症状、合併症、治療、予後等の理解。 学生の学習成果 : 専門的学習成果 : 教育目標に記載した①②の修得。 汎用的学習成果 : ③職業上必要な幅広い知識を入手活用するスキルの修得。						
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・テキストやプリントなどを活用し、栄養管理・予防の観点から疾患を理解できるように授業を進める。 ・健康・医療に関する話題も取り入れ、疾患の理解を深めるよう配慮する。 ・講義終了時にシャトルカードを配布し、授業の感想、自己学習評価等の記入を求める。必要に応じてコメントを記し、次回授業時に返却する。 ・COVID-19 感染状況により対面授業が困難と判断された場合は、遠隔授業として実施する。					
	予習・復習	予習事項 : 学習範囲の臓器について解剖生理学のテキストを読み、構造および機能を確認した後、テキストを読み、理解する。不明な点があれば各自で調べて理解するよう努力する。解決できなかった事項については、授業時や授業後に質問する。 (各回 2 時間、合計 30 時間) 復習事項 : テキストの該当する範囲を熟読する。授業中に指示した重要項目は重点的に復習し理解する。さらに関連書籍やインターネット等を自主的に活用し知識を深める。 (各回 2 時間、合計 30 時間)					
	テキスト	田中清編 Visual 栄養学テキスト 人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅢ 疾病の成り立ち 中山書店 定価 2,700 円+税					
学習評価の方法	3 項目の学習成果について、その修得度合を量的に評価する。 ①加齢や疾患に伴う変化、疾患診断や治療の概要についての理解。 ②各臓器の主要疾患について病因、病態、診断、症状、合併症、治療、予後等の理解。 ③職業上必要な幅広い知識を入手活用するスキル。 学習評価は、筆記試験 100% (定期試験 100%) で行う。 COVID-19 感染状況により筆記試験が困難と判断された場合は学内の判断に従い評価を行う。						
注意事項							

授業回数別教育内容	
1 回	オリエンテーション 1章 個体の恒常性：恒常性とフィードバック機構、体液・電解質バランス、酸塩基平衡、体温調節、ストレス応答 P1～P9（指定テキストの該当ページ）
2 回	2章 加齢・疾患に伴う変化：老化、疾患に伴う変化、腫瘍、個体の死、脳死と植物状態 P10～P18
3 回	3章 疾患診断の概要①：問診（医療面接）、診察、主な症候 P19～P30
4 回	3章 疾患診断の概要②：臨床検査（基準値の考え方、尿・便・喀痰検査、血液学的検査、生化学検査、免疫血清学的検査、病原体検査、生理機能検査、画像検査） P30～P41
5 回	4章 疾患治療の概要：原因療法、対症療法、保存療法、根治療法、特殊療法、治療計画と実施・評価、栄養・食事療法、薬物療法、輸液、輸血、血液浄化療法、手術療法、臓器・組織移植、人工臓器、放射線療法、リハビリテーション、再生医療、救急救命医療、緩和ケア、終末期医療、尊厳死 P42～P49
6 回	5章 栄養障害と代謝疾患①：栄養・代謝にかかわるホルモン・サイトカイン、栄養障害、肥満、メタボリックシンドローム P50～P63
7 回	5章 栄養障害と代謝疾患②：糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、痛風、先天代謝異常症 P63～P76
8 回	6章 消化器系：口腔疾患、食道・胃・十二指腸疾患、腸疾患、肝・胆・膵疾患 P77～P94
9 回	7章 循環器系：循環障害、動脈硬化、高血圧、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、不整脈、心不全、肺塞栓症、脳血管疾患（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血） P95～P107

10 回	8章 腎・尿路系、男性生殖器：腎疾患（急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急性・慢性腎不全、CKD（慢性腎臓病）、糖尿病性腎症、末期腎不全（透析））、尿路結石、前立腺肥大症、前立腺がん P108～P120
11 回	9章 内分泌系：下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患 P121～P127
12 回	10章 神経系：摂食障害、アルコール依存症、アルツハイマー病、血管性認知症、パーキンソン病 P128～P135
13 回	11章 呼吸器系：気管支喘息、肺炎、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、肺がん 12章 運動器（筋・骨格系）：骨粗鬆症、くる病、骨軟化症、変形性関節症、サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム P136～P148
14 回	13章 女性生殖器系：妊娠高血圧症候群、糖代謝異常合併妊娠、更年期障害、腫瘍性疾患 14章 血液・造血器・リンパ系：貧血（鉄欠乏性、巨赤芽球性、溶血性、再生不良性、腎性）、白血病、悪性リンパ腫、出血性疾患 P149～P161
15 回	15章 免疫・アレルギー：食物アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症 16章 感染症：細菌・ウイルス・真菌感染症、クラミジア・リケッチア・マイコプラズマ感染症、寄生虫症、性行為感染症、新興・再興感染症、院内感染症 P162～P176

令和7年度教育計画							
科目名	微生物学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	狩山玲子
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : <a href="mailto:rkariyama@owc.ac.jp">rkariyama@owc.ac.jp</a> ; A303 在室時は何時でも可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：微生物の形態と分類及びこれら微生物の増殖条件を理解し、ヒトに病原性を有する微生物の食品等における増殖制御法の理解を深める。また、ヒトに役立つ微生物とその役割についても理解する。一方、病原微生物による感染症の成立には免疫機能の強弱が大きく関わってくる。そこで、生活習慣病の有病者や易感染性宿主における免疫機能の低下と感染症発症リスクの関係が十分理解できることを目指す。</p> <p>学生の学習成果：            専門的学習成果：感染症の原因となる病原体を理解し、感染症の成り立ちを理解する。また、感染防御に関与する免疫系の理解と免疫系が関与する疾患を理解する。            汎用的学習成果：“様々な感染症”に関する報道・情報を適切に判断して対応できること。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>教科書および配布資料を教材とする。また、各授業内容に関連する報道記事などを取り上げ、事例から学ぶ。毎回、予習事項と復習事項を記載した「宿題」を配布する。</p> <p>「授業に取り組む姿勢」については、第1回の授業において説明する。「宿題」、「宿題テスト」、「シャトルカード」などによって学習進行状況を確認し、次回以降の授業に反映させる。重要項目については、中間テストなどを適宜実施して理解度を確認する。授業中の質問や発言は積極的に行うように求める。</p>	<p>予習事項：毎回配布する「宿題」に予習事項を記載する。            次回の授業に関連する部分の教科書を通読すること。</p> <p>復習事項：毎回配布する「宿題」に復習事項を記載する。</p> <p>【予習および復習：毎回90分以上（合計180分以上）】</p> <p>次回の授業開始時に「宿題」の提出を求め、「宿題テスト」を行う。</p>	<p>テキスト</p> <p>大橋典男 編 (2023) 「微生物学 改訂第2版」 羊土社            定価 2,900 円 (税別)</p>			
学習評価の方法	<p>定期試験 (60%)、中間テスト (10%)、「宿題」&amp;「宿題テスト」(20%) の成績に加えて、授業に取り組む姿勢 (10%) を評価し、総合的に評価する。質問や日々の学習への取り組みを高く評価するので、「宿題」に記載している予習事項・復習事項などに積極的に取り組むことが重要である。「中間テスト」の採点結果 (得点分布など) は、返却時に講評する。「宿題」&amp;「宿題テスト」の評点は、毎回シャトルカードに記入し、学習意欲の向上や学習方法の改善につなげる。私語などの授業受講態度についても評価対象とする。</p>						
注意事項	<p>【参考図書】            授業中に適宜紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>授業の進め方についてシラバスを用いた説明</p> <p>微生物の生物界における位置づけと微生物学の歴史 (ヒトと微生物の関わりについて理解する)</p>
2 回	<p>微生物学の基礎 (1)</p> <p>微生物の分類と特徴、微生物の増殖と培養 (微生物の特徴と増殖機構を理解する)</p>
3 回	<p>微生物学の基礎 (2)</p> <p>微生物の増殖制御(「滅菌・消毒」「食品の保存」を含む) (微生物の増殖制御法を理解する)</p>
4 回	<p>微生物学の基礎 (3)</p> <p>微生物の代謝機構(「食品の腐敗・発酵」を含む)、微生物の遺伝学 (微生物の代謝機構と遺伝学を理解する)</p>
5 回	<p>病原微生物学 (微生物と感染症)</p> <p>感染成立の過程、感染・感染源・感染経路の種類と特徴 (感染症の成り立ちを理解する)</p>
6 回	<p>ヒト感染症の種類 (1)</p> <p>感染症法による感染症の分類、各種感染症の分類 (感染症法、新興感染症、再興感染症、性行為感染症、院内感染症などを理解する。)</p>
7 回	<p>ヒト感染症の種類 (2)</p> <p>病原微生物による感染症の分類 (病原体と感染症の関係を理解する)</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	ヒト感染症の種類（3） 器官別感染症（全身性、呼吸器系、消化器系、泌尿器系など） （感染症と病原体の関係を理解する）
9 回	感染症の診断・治療・予防・対策 （感染症の治療と予防について理解する）
10 回	免疫学（1） 自己と非自己の認識、① 自然免疫と獲得免疫 （免疫の基本原理を理解する）
11 回	免疫学（2） ② 体液性免疫と細胞性免疫、免疫系のネットワーク （感染防御における免疫の関わりを理解する）
12 回	免疫と病気 アレルギーの分類と発症機構、食物アレルギー、自己免疫疾患 （アレルギー疾患、自己免疫疾患などを理解する）
13 回	食品微生物学 微生物利用食品、微生物の産業利用 （酵母、カビ、細菌を利用する発酵食品、ヒトに役立つ微生物とその役割について理解する）
14 回	微生物と健康 常在細菌叢、腸内細菌叢、プロバイオティクス・プレバイオティクス（「特定保健用食品等の保健機能食品」を含む） （ヒトの健康に関与する微生物を理解する）
15 回	講義全体のまとめ

令和7年度教育計画

科目名	食品学総論 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	次田隆志
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail (tsugita@owc.ac.jp) および、授業終了後の教室、定められたオフィスアワー時間に研究室 (A207) において質問等を受付ける。							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士の育成を最終的教育目標とする。この目標達成のために、本科目においては、人間と食べ物の関わり、食品成分の分類とはたらき、食品中の主要な栄養成分の化学構造と機能・特性について学習することにより、食品に関する正しい知識を有し、食品成分の健康に対する働きを理解できる管理栄養士育成のために必要な基本的知識を習得する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 : 人間と食べ物の関わりと、食品中の三大栄養成分 (炭水化物、脂質、たんぱく質) の化学構造と機能・特性を理解できる。</p> <p>汎用的学習成果 : インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集するとともに、与えられた課題に対し、授業で学んだ知識や各自が収集した知識・情報をもとにして、その内容を理解し、レポートの形でまとめることができる。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に基づいて、講義形式で授業を進める。</li> <li>・授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。</li> <li>・まとまった単元終了時に課題 (宿題) を与え、それに対する解答をレポートの形で提出させる。その内容を評価したうえで、次回授業時に返却する。</li> <li>・シャトルカードと課題により、学習進行状況を逐次確認・改善しながら授業を進める。</li> </ul>				
	予習・復習	<p>予習事項 : 講義の最後に次回講義内容を周知するので、教科書の対応箇所を前もって読んでおき、講義に臨む。(毎回 60 分)</p> <p>復習事項 : その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認したうえで、その日に習った内容を提出用ノートにまとめる。(毎回 90 分)</p> <p>予習・復習を効果的に行っているかどうかを、シャトルカードと課題提出により確認する。</p>					
テキスト	種村安子ら、イラスト食品学総論 (第 9 版)、東京教学社						
学習評価の方法	上記の専門的学習成果と汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験、授業内容に関する課題、15 回の授業終了後に提出させるノートの内容を総合的に判断して学習評価を行う。その割合は定期試験 80 点満点、課題評価 10 点満点、ノート評価 10 点満点とする。						
注意事項	インターネット等を有効活用して、食品学に関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。また、15 回の授業のうち、3 分の 2 以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	授業の進め方と食品学総論 I の概要説明に加え人間と食べ物の関わりについて
2 回	食品成分とその働き 食品と食物の違い、食品の分類、食品の一次・二次・三次機能
3 回	水分 水の分類と水分活性について 自由水と結合水の違い、水分活性と食品の保存性、中間水分食品
4 回	炭水化物（その1） 炭水化物の分類・構造について 炭水化物の定義と構造、炭水化物の分類(単糖類、少糖類、多糖類)と構造
5 回	炭水化物（その2） 単糖類の分類・構造・特性について 食品中に存在する主な単糖類とその構造、アルドースとケトース
6 回	炭水化物（その3） 単糖類の環状構造について グルコース・ガラクトース・マンノース・フルクトースの環状構造( $\alpha$ 型と $\beta$ 型)
7 回	炭水化物（その4） 少糖類の分類・構造と特性について 二糖類(マルトース・ラクトース・スクロース)の構造、還元糖と非還元糖
8 回	炭水化物（その5） 多糖類の分類・構造と特性について 消化性多糖類の分類と構造・性質、難消化性多糖類の分類と構造・性質
9 回	脂質（その1） 脂質の分類・構造と単純脂質の分類・構造について 脂質の分類、単純脂質(中性脂肪、ろう、ステロールエステル)の構造と性質
10 回	脂質（その2） 複合脂質、誘導脂質の分類・構造・特性について 複合脂質(リン脂質・糖脂質)の構造と性質、誘導脂質の誘導脂質の分類と構造
11 回	脂質（その3） 脂肪酸の分類・構造・特性について 主な飽和脂肪酸・不飽和脂肪酸の名称・構造・略号、トランス脂肪酸、必須脂肪酸
12 回	脂質（その4） 油脂の分類と脂肪酸組成について 油と脂の違い、植物性油脂と動物性油脂の分類・脂肪酸組成
13 回	たんぱく質（その1） たんぱく質の分類とアミノ酸の種類・構造について たんぱく質の分類と生体内での役割、アミノ酸の分類・構造、必須アミノ酸
14 回	たんぱく質（その2） たんぱく質の構造と単純たんぱく質の種類・特性について たんぱく質の一次・二次・三次構造、単純たんぱく質の分類・溶解性・名称・所在
15 回	たんぱく質（その3） 複合たんぱく質、誘導たんぱく質の種類・特性について 複合たんぱく質の分類・結合成分・名称・所在、誘導たんぱく質の性状

令和7年度教育計画

科目名	食品学総論Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	次田隆志
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail(tsugita@owc.ac.jp)および、授業終了後の教室、定められたオフィスアワー時間に研究室(A207)において質問等を受けける。							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士の育成を最終的教育目標とする。この目標達成のために、本科目においては、食品学総論Ⅰで学んだ食品成分に関する基礎的知識に基づき、食品中の炭水化物、脂質、たんぱく質の貯蔵・調理・加工に伴う食品成分の化学的・物理的变化および、食品の色・香り・味成分について学ぶことにより、食品に関する正しい知識を有し、食品成分の健康に対する働き、食品の栄養特性、物性等について理解できる管理栄養士育成のために必要な基本的知識を習得する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 : 食品成分の機能・特性および食品の貯蔵・調理・加工に伴う成分変化を理解できる。</p> <p>汎用的学習成果 : インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集するとともに、与えられた課題に対し、授業で学んだ知識や各自が収集した知識・情報をもとにして、その内容を理解し、レポートの形でまとめることができる。</p>						
	教育	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に基づいて、講義形式で授業を進める。</li> <li>授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。</li> <li>まとまった単元終了時に課題(宿題)を与え、それに対する解答をレポートの形で提出させる。その内容を評価したうえで、次回授業時に返却する。</li> <li>シャトルカードと課題により学習進行状況を逐次確認・改善しながら授業を進める。</li> </ul>					
	方法	<p>予習・復習</p> <p>予習事項 : 講義の最後に次回講義内容を周知するので、教科書の対応箇所を前もって読んでおき、講義に臨む。(毎回60分)</p> <p>復習事項 : その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認したうえで、その日に習った内容を提出用ノートにまとめる。(毎回90分)</p> <p>予習・復習を効果的に行っているかどうかを、シャトルカードと課題提出により確認する。</p>					
	テキスト	種村安子ら、イラスト食品学総論(第9版)、東京教学社					
学習評価の方法	上記の専門的学習成果および汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験、授業内容に関する課題、15回の授業終了後に提出させるノートの内容を総合的に判断して学習評価を行う。その割合は定期試験80点満点、課題評価10点満点、ノート評価10点満点とする。						
注意事項	インターネット等を有効に活用して、食品学に関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。また、15回の授業のうち、3分の2以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	授業の進め方と食品学総論Ⅱの概要説明に加え、食品の栄養特性、物性等について全般的解説
2 回	炭水化物の特性（その1）炭水化物の分類・構造、単糖類の種類と構造 炭水化物の定義と構造、食品中に存在する単糖類の分類・構造・特性
3 回	炭水化物の特性（その2）単糖類の環状構造、少糖類の種類と構造 グルコース・ガラクトース・マンノース・フルクトースの環状構造 マルトース・ラクトース・スクロースの構造
4 回	炭水化物の特性（その3）多糖糖の種類と構造、誘導糖の種類と構造 消化性多糖類・難消化性多糖類の構造・性質 食品中に存在する主な誘導糖の種類・名称・構造・所在
5 回	炭水化物の変化 生でんぷん・糊化でんぷんの構造、でんぷんの糊化と老化
6 回	脂質の特性（その1）脂質の分類と構造、中性脂肪の分類と構造 脂質の分類、単純脂質(中性脂肪、ろう、ステロールエステル)の構造と性質
7 回	脂質の特性（その2）脂肪酸の分類と構造 主な飽和脂肪酸・不飽和脂肪酸の名称・構造・略号、トランス脂肪酸、必須脂肪酸
8 回	脂質の変化 油脂の酸敗と酸化防止法 油脂の自動酸化、熱酸化、酵素による酸化、酸化促進因子と酸化防止法
9 回	たんぱく質の特性（その1）たんぱく質の構造、アミノ酸の分類と構造 たんぱく質の一次・二次・三次構造、アミノ酸の分類・構造、必須アミノ酸
10 回	たんぱく質の特性（その2）たんぱく質の分類と性質 単純たんぱく質、複合たんぱく質、誘導たんぱく質の分類・名称・所在
11 回	たんぱく質の変化 たんぱく質の変性とその他の変化 等電点沈殿による凝集、リシノアラニンの生成、加熱による変異原性物質の生成、 たんぱく質の変性を利用した食品、食品に含まれる酵素とその働き
12 回	食品の色素成分（その1）食品の色素成分の分類と性質 クロロフィル、カロテノイド、フラボノイド、アントシアニン、ヘム色素、天然着色料
13 回	食品の色素成分（その2）酵素的褐変反応と非酵素的褐変反応 ポリフェノールオキシダーゼ・チロシナーゼによる褐変反応、酵素的褐変反応の防止法 アミノカルボニル反応の主要経路、アミノカルボニル反応に影響する要因
14 回	食品の香気成分 食品の香気成分の分類と性質 野菜類・果実類・魚・畜肉の香気・におい成分、食品の調理・加工・貯蔵により生じる匂い成分 アミノカルボニル反応による生じる香気成分とその生成経路
15 回	食品の呈味成分 食品の呈味成分の種類と味の相互作用、種々の呈味成分の性質 5つの基本味、呈味成分の閾値、味の相乗・対比・相殺効果 甘味・酸味・塩味・苦味・うま味・渋味・えぐ味成分の種類と性質

令和7年度教育計画

科目名	食品学総論実験	授業回数	15	単位数	1	担当教員	次田隆志
<p>質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail(tsugita@owc.ac.jp)および、授業終了後の教室、定められたオフィスアワー時間に研究室(A207)において質問等を受けける。</p>							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士の育成を最終的教育目標とする。この目標達成のために、本科目においては、化学実験に関わる基礎的知識を理解し、管理栄養士に必要とされる食品成分に関する基本的知識と、糖質、たんぱく質、アミノ酸、脂質、ビタミン、ミネラル、食物繊維等の抽出・定量実験に関わる基本操作技術を習得する。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果：化学実験に関わる基礎的知識各種食品に関する実験技術を習得するとともに、食品に含まれる各種成分とその変化について、実験を通じて理解することができる。 汎用的学習成果：チームの一員として、他のメンバーと協力し合って仕事を遂行することができる。また、実験で行った内容を理解するとともに、インターネット等を活用して実験に関わる知識・情報を収集し、これらの内容をレポートの形でまとめることができる。</p>						
	授業の進め方	<p>(講義・演習・<b>実験</b>・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験に先立ち、実験を実施するために必要な基礎知識、実験の原理、方法、まとめ方などについて実験講義を行う。さらに、各回の実験の前には、その回の実験の進め方と注意点について説明の後、3～4人程度のグループに別れて実験し、データを記録させる。また、まとまった実験の終了後、各実験の方法、結果、考察等を記載したレポートを各人にまとめさせ、ほぼ2週間後を締め切りとして提出させる。</li> <li>・授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。</li> <li>・シャトルカードと提出レポートにより、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら授業を進める。</li> </ul>					
教育方法	予習・復習	<p>予習事項：実験で使用する食品の種類や成分について、配布プリントや食品学総論の教科書の対応箇所を前もって読んでおき講義に臨む。 復習事項：実験終了後には、その実験内容について、参考書やインターネット等で詳細な情報を収集し、レポートに反映させる。</p>					
	テキスト	<p>実験の目的、方法などを記載したプリントを配布する。</p>					
学習評価の方法	<p>実験内容についてのレポートの内容を評価し、以下の基準で採点する。ただし、提出期限を過ぎたレポートについては減点の対象とする。 A:90点、B:80点、C:70点、D:60点 試験は実施せず、何回か提出されたレポートの平均点(90点満点)を算出し、これに15回の授業終了後に提出するノート内容の評価(10点満点)を加算し評価点とする。</p>						
注意事項	<p>実験は危険を伴うものであり、常に集中して事故を起こさないように注意すること。また、15回の授業のうち、3分の2以上出席しなければ学習評価を得ることができなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	食品学総論実験の概要説明 実験における注意事項 実験に必要な基礎知識① 物質の分類、有機化合物と無機化合物
2 回	実験に必要な基礎知識② 有機化合物の構造と命名法（その1） 炭化水素とその異性体（アルカン）
3 回	実験に必要な基礎知識③ 有機化合物の構造と命名法（その2） 炭化水素とその異性体（アルケン、環状炭化水素）
4 回	実験に必要な基礎知識④ 有機化合物の構造と命名法（その3） 種々の官能基をもつ化合物
5 回	実験に必要な基礎知識⑤ 有機化合物の構造と命名法（その4） 食品成分に関与する種々の結合
6 回	実験に必要な基礎知識⑥ 百分率濃度
7 回	実験に必要な基礎知識⑦ モル数とモル濃度
8 回	実験に必要な基礎技術① メスフラスコ、ホールピペット、電子天秤の使用方法、レポートの書き方
9 回	実験に必要な基礎技術② 一定モル濃度の塩化ナトリウム水溶液調製と密度測定
10 回	中和滴定実験① 中和滴定の原理
11 回	中和滴定実験② 中和滴定実験の実験講義、0.1モル濃度水酸化ナトリウム水溶液の調製
12 回	中和滴定実験③ 中和滴定による0.1モル濃度水酸化ナトリウム水溶液の力価測定
13 回	各種でんぷんの分離と顕鏡実験① 顕微鏡の使い方、写真撮影の練習
14 回	各種でんぷんの分離と顕鏡実験② 各種でんぷんの顕微鏡観察と写真撮影
15 回	まとめ

令和7年度教育計画							
科目名	食品学各論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	津村哲司
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 研究室 (時間割決定後通知) ・シャトルカードによる受付 e-mail : tsumura@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終の教育目標とする。食品学各論においては、食品をその材料起源に基づいて分類し、それぞれの食品について、分類・種類、栄養成分の各面から解説することによって、食品に関する体系的知識を習得することにより、管理栄養士に必要とされる基本的知識を習得することを目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 : 植物性食品、動物性食品および調味料について食材ごとの種類・分類、成分・化学変化について、理解できる。</p> <p>汎用的学習効果 : 食品および加工食品の成分を理解することはもちろんのこと、本学習が栄養指導の現場で有効活用出来るように食品と五大栄養素を結びつけて理解することができる。Society 5.0時代の現場に、即応できる管理栄養士になるため常に情報収集を心がけ、マスコミ等で話題になっている食品については本講義で学習した知識を基に的確に解説できる能力の習得をもって学習成果とする。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>日常利用している植物性食品 (米、小麦、豆類、イモ類、野菜・果実) および動物性食品 (食肉及びその加工品、魚介類及びその加工品、牛乳及び乳製品、鶏卵及びその加工品) および調味料に関する最新情報を盛り込んで系統的に講義する。</p> <p>毎講義の最後に前回の講義内容から汎用的内容について5分程度の小テストを行い、理解度をチェックする。さらに7回目の講義で到達度判定試験を行い、それまでの学生の理解度をチェックする。</p> <p>講義では、プリント配布およびMoodleを併用し、重要箇所を記入式にすることで、重要箇所の明確化を図る。</p>				
		予習・復習	<p>次回講義までにMoodleで講義ノートをアップロードするので、キーワードをマークし、その内容について参考書等で調べるなど、2時間以上の予習を課す。また、講義時に配布するノートやMoodleの太字や穴埋め箇所を確認するなど2時間以上の復習をしておくこと。</p>				
テキスト		<p>瀬口 正晴、八田 一 編 新食品・栄養科学シリーズ 食品学各論 (化学同人)</p>					
学習評価の方法	<p>定期試験の得点 (70点満点) + 小テストの得点 (20点満点) + 平常点 (10点満点) の合計点を算出し、これから、社会人として必要な倫理観、自己管理能力を有しているかどうかを評価するという観点から、小テストは汎用的学習成果の評価とする。また、携帯電話など講義の妨げとなる行為と判断した場合は、平常点の評価対象とする。</p> <p>遠隔授業になった場合、採点の公正性の観点から小テストは行わず、定期試験の得点 (90点満点) に平常点を合算し評価する。出欠席は指定の課題の提出をもって出席とする。ただし、社会的諸事情の変化により適宜変更の可能性はあるものとする。</p>						
注意事項	<p>第1回オリエンテーションでは、講義方法や評価方法を解説するので必ず出席すること。シャトルカードには必ず質問を記入すること。質問の内容は講義に関する内容に限る。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション：授業の進め方と食品学各論の概要説明
2 回	米： 米の種類、米の栄養成分について 米に含まれるでんぷんの種類と性質について理解すること
3 回	小麦：小麦粉の種類、小麦の栄養成分について 小麦粉に含まれるたんぱく質の種類と利用分野について理解すること
4 回	イモ類：イモ類の種類、栄養成分について イモ類以外も含めてでんぷんの構造・性質・特徴について理解すること
5 回	豆類：豆類の種類、豆類の栄養成分について 大豆に含まれるたんぱく質の性質と微量成分について理解すること
6 回	果実類：果実類の栄養成分について 個々の果実類の特徴的な成分について理解すること
7 回	到達度判定試験 野菜類（その1）：野菜類の分類、野菜類の栄養成分について ポリフェノール類・硫黄化合物などについて理解すること
8 回	野菜類（その2）：野菜類の栄養成分について 個々の野菜類の特徴的な成分について理解すること
9 回	魚介類：魚介類の栄養成分について 魚介類の種類とそれらに含まれる栄養成分の 有効性について理解すること
10 回	到達度判定試験解説 食肉（その1）：食肉の分類について 食肉の種類と筋肉組織の構造および色素変化について理解すること
11 回	食肉（その2）：食肉の熟成および代表的な食肉について 食肉の熟成に伴う成分変化と牛・豚・鶏肉について理解すること
12 回	鶏卵：鶏卵の構造・栄養成分について 卵白・卵黄中の成分の特性について理解すること
13 回	牛乳及び乳製品：牛乳の生産・栄養成分とについて 牛乳及び乳製品の分類と、牛乳中のたんぱく質の性質について 理解すること
14 回	調味料：調味料の分類と栄養成分について 調味料の種類とそれらの利用例について理解すること
15 回	まとめ 試験対策を含め、講義全体を総括する

令和7年度教育計画							
科目名	食品学各論実験 I	授業回数	15	単位数	1	担当教員	津村哲司
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 研究室 (時間割決定後通知) ・シャトルカードによる受付 e-mail : tsumura@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>人における健康の維持増進、疾病の予防を図るために、高度な専門知識・技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終的教育目標とする。食品学各論実験 I においては、食品学総論 I 食品学各論等で学んだ基礎的知識と技術に基づき、食品中の糖質、脂質、たんぱく質、色素、呈味・香氣成分の定量・分離や官能検査に関する実験により、管理栄養士に必要な基本的知識を習得することを目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習効果 : 各種食品に関する実験技術を習得するとともに、管理栄養士が常に留意しておかなければならない点として、食品に含まれる各種成分と加工・調理による成分変化が疾病に及ぼす影響について、実験を通じて理解することができる。</p> <p>汎用的学習効果 : 実験から得られる分量や成分変化が市場に並ぶ数多くの食品の製造・保蔵・品質変化にどのように影響しているのか、また、どの様な製造原理で作られているのかを理解できる。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・<b>実験</b>・実習・実技)</p> <p>糖質、脂質、たんぱく質、色・味・香りなど、まとまった実験の前に、実験の原理、方法、まとめ方などを記載したプリントを配布し、全体的な実験講義を行う。さらに、各回の実験の前には、実験の進め方と注意点について説明後、3～4人程度のグループに別れて実験し、データを記録させる。この際、実験に用いる試薬等は、とくに危険なものを除き原則として学生自身に調製させ、また実験装置についても、できるだけ学生に準備させる。項目毎2～3回の実験の終了後、各実験の方法、結果、考察等を記載したレポートを各人にまとめさせ、ほぼ1週間後を締め切りとして提出させる。レポートの考察には実験で理解した内容が人間生活に生かされている例を記載した内容を汎用的考察として通常の考察と分けて記載する。</p>				
予習・復習		<p>予習については、実験で使用する食品の種類や成分を食品学各論のテキストや食品成分表で調べておくこと。</p> <p>復習については、参考書やインターネットで詳細な情報を収集し、レポートに反映させること。</p>					
テキスト		<p>毎回、実験の目的、方法などを記載したプリントを配布する。</p>					
学習評価の方法	<p>実験内容についてのレポートの内容を評価し、以下の基準で採点する。 A:90点、B:80点、C:70点、D:60点 ただし、提出期限を過ぎたレポートについては減点の対象とする。試験は実施せず、何回か提出されたレポートの点数の平均値(90点満点)を算出し、これに汎用例の評価(10点満点)を加算して学習成果を評価する。</p> <p>社会人として必要な倫理観、自己管理能力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話等実験を妨げる行為と判断した場合等汎用例の評価の対象とする。</p>						
注意事項	<p>第1回オリエンテーションでは、レポートの書き方や評価方法を解説するので必ず出席すること。実験は危険を伴うものであり、常に集中して事故を起こさないように注意すること。実験に供する試料を持参する場合があるので注意すること。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション 授業の進め方と食品学各論実験 I の概要説明 およびレポートの書き方 (1)
2 回	食品の味と官能検査に関する実験 (その 1) 味覚修飾植物を用いた甘味消失実験と甘味誘導実験
3 回	食品の味と官能検査に関する実験 (その 2) 食品の味と官能検査に関する実験講義 食品中に含まれる呈味成分の種類・性質と、官能検査の原理について理解すること
4 回	食品の味と官能検査に関する実験 (その 3) 極限法を用いた甘味、塩味の閾値測定
5 回	レポートの書き方 (2) 実際のレポートを添削しながら、完全なレポートを完成すること
6 回	糖質に関する実験 (その 1) 糖質に関する実験講義 糖質の種類と性質について理解すること
7 回	糖質に関する実験 (その 2) 試薬調製と力価測定 清涼飲料中の還元糖の定量実験に関わる試薬の調製法と、 滴定法について理解すること
8 回	糖質に関する実験 (その 3) 清涼飲料中の還元糖の定量実験 清涼飲料水に含まれる還元糖の定量法を修得し、その性質について理解すること
9 回	油脂食品に関する実験 実験講義と試薬調製 乳化の原理と性質について理解すること
10 回	油脂食品に関する実験 (その 2) 色素法による乳化の型の判定試験 種々の食品における乳化の型の違いについて理解すること
11 回	たんぱく質に関する実験 (その 1) たんぱく質に関する実験講義と試薬調製 たんぱく質の種類と性質について理解すること
12 回	たんぱく質に関する実験 (その 2) 小麦粉中のたんぱく質の分離 小麦粉に含まれるたんぱく質の分離法について理解すること
13 回	食品の色と香りに関する実験 (その 1) 食品の色と香りに関する実験の試薬調製と匂いに関する実験 食品等に含まれる香気成分の識別
14 回	食品の色と香りに関する実験 (その 2) 植物性色素を抽出し、酸とアルカリによる色の変化を理解する。また、糖とアミノ酸の反応による加熱香気の種類について理解すること食品中に含まれる香気成分の種類・性質と食品成分の反応によって生成する色素と香気成分について理解すること
15 回	まとめ 食品の色と香りに関する実験講義

令和7年度教育計画							
科目名	食品学各論実験Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	津村哲司
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 研究室 (時間割決定後通知) ・シャトルカードによる受付 e-mail : tsumura@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終の教育目標とする。食品学各論実験Ⅱにおいては、食品学総論、食品学各論、食品学各論実験Ⅰで学んだ知識をさらに深くするために、植物性食品、動物性食品、油脂食品、調味料等の特性を理解し、各種成分の加工・貯蔵への応用および管理栄養士に必要とされる基本的知識を習得することを目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習効果 : 各種食品に関する実験技術を習得するとともに、管理栄養士が常に留意しておかなければならない点として、食品に含まれる各種成分と加工・調理による成分変化が疾病に及ぼす影響について、実験を通じて理解することができる。</p> <p>汎用的学習効果 : 実験から得られる分量や成分変化が市場に並ぶ数多くの食品の製造・保蔵・品質変化にどのように影響しているのか、また、どの様な製造原理で作られているのかを常に喫食者の立場に立って理解できる。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・<b>実験</b>・実習・実技)</p> <p>糖質、脂質、たんぱく質、色・味・香りなど、まとまった実験の前に、実験の原理、方法、まとめ方などを記載したプリントを配布し、全体的な実験講義を行う。さらに、各回の実験の前には、実験の進め方と注意点について説明後、3～4人程度のグループに別れて実験し、データを記録させる。この際、実験に用いる試薬等は、とくに危険なものを除き原則として学生自身に調製させ、また実験装置についても、できるだけ学生に準備させる。項目毎2～3回の実験の終了後、各実験の方法、結果、考察等を記載したレポートを各人にまとめさせ、ほぼ1週間後を締め切りとして提出させる。レポートの考察には実験で理解した内容が人間生活に生かされている例を汎用的考察として通常の考察と分けて記載する。</p> <p>予習・復習</p> <p>予習については、実験で使用する食品の種類や成分を食品学各論のテキストや食品成分表で調べておくこと。復習については、参考書やインターネットで詳細な情報を収集し、レポートに反映させること。</p> <p>テキスト</p> <p>毎回、実験の目的、方法などを記載したプリントを配布する。</p>					
学習評価の方法	<p>実験内容についてのレポートの内容を評価し、以下の基準で採点する。 A:90点、B:80点、C:70点、D:60点 ただし、提出期限を過ぎたレポートについては減点の対象とする。試験は実施せず、何回か提出されたレポートの点数の平均値(90点満点)を算出し、これに汎用例の評価(10点満点)を加算して学習成果を評価する。</p> <p>社会人として必要な倫理観、自己管理能力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話等実験を妨げる行為と判断した場合等汎用例の評価の対象とする。</p>						
注意事項	<p>第1回オリエンテーションでは、レポートの書き方や評価方法を解説するので必ず出席すること。実験は危険を伴うものであり、常に集中して事故を起こさないように注意すること。実験に供する試料を持参する場合があるので注意すること。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション 授業の進め方と食品学各論実験Ⅱの概要説明 植物性食品に関する実験（その1）でんぷんに関する実験講義
2 回	植物性食品に関する実験（その2）主なでんぷんの糊化温度の測定 でんぷんの種類による糊化温度の違いを確認すること
3 回	植物性食品に関する実験（その3）新米・古米と、うるち米・もち米の鑑別試験 新米・古米の鑑別試験と、うるち米・もち米の鑑別試験の原理を理解すること
4 回	動物性食品に関する実験（その1）動物性食品のたんぱく質に関する実験講義と試薬調製 動物性食品中のたんぱく質の種類と性質について理解すること
5 回	動物性食品に関する実験（その2）牛乳中のたんぱく質分離と熱凝固実験 牛乳中のたんぱく質の性質と分離法およびラムゼン現象について理解すること
6 回	動物性食品に関する実験（その3）動物性食品の色に関する実験講義と試薬調製 動物性食品中の色素の種類と性質について理解すること
7 回	動物性食品に関する実験（その4）亜硝酸塩添加による肉色素の安定化試験 亜硝酸塩添加による肉色素の変化について理解すること
8 回	脂質に関する実験（その1）脂質に関する実験講義 脂質の種類と性質について理解すること
9 回	脂質に関する実験（その2）新鮮な油と古い油の酸価測定実験 油の劣化に伴う酸価の変化について理解すること
10 回	調味料に関する実験（その1）各種食品の呈味成分に関する実験講義と試薬調製 調味料・嗜好食品に含まれる呈味成分の性質について理解すること
11 回	調味料に関する実験（その2）つゆ・スープに含まれる塩分の測定と官能評価 調味料に含まれる塩分と官能評価の方法について理解すること
12 回	調味料に関する実験（その3）味覚の相互作用 MSGとIMPの味の相乗効果について理解すること
13 回	食品の物性に関する実験（その1）食品の物性に関する実験講義と試料の調整 各種食品に特徴的な物性と原理について理解すると共に、実験に供する試料を調整する。
14 回	食品の物性に関する実験（その2）レオメーターによるうどんの物性測定試験 レオメーターを用いた、食品の物性測定法を理解すること
15 回	食品の物性に関する実験講義：レオロジーについて まとめ

令和7年度教育計画							
科目名	食品加工学 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	津村哲司
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 時間割決定後通知、シャトルカードによる受付 e-mail : tsumura@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>元来、食品加工学は採取・収穫した食品を美味しく、安全に保存する方法を習得する学問である。食品学の基礎となる植物性食品、動物性食品の加工品について、Society 5.0時代の現場に即応できる管理栄養士になるため、より幅広い知識、技術が習得できる。特に、加工中、貯蔵中の成分変化について理解できる。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 : 1) 加工食品の原材料が何であるかを理解できる。2) 各加工食品の製造工程を正しく理解できる。3) 食品成分の変化に関して理解できる。</p> <p>汎用的学習成果 : クリエイティブ力、マネジメント力及びホスピタリティ力を獲得するために 1) 加工食品の製造工程が理解し、製造できる。2) 食品の生産、加工、流通における栄養成分、栄養価の変化が理解しコントロールできる。3) 加工食品の原材料・食品添加物を理解し、喫食者に喜ばれる献立作りができる。以上食品加工学の知識の習得により、Society 5.0時代の現場で活躍できる管理栄養士に必要な能力の習得をもって学習成果とする。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>日常利用している植物性食品(米、小麦、豆類、イモ類、野菜・果実)の加工食品および動物性食品(食肉、魚介類、牛乳、鶏卵)の加工食品について加工中、貯蔵中の成分変化について系統的に講義する。特に国家試験に頻出の項目については時間を取って講義する。講義では、プリント配布およびMoodleを併用し、重要個所を記入式にすることで、重要個所の明確化を図る。</p> <p>毎講義の最後に前回の講義内容から5分程度の小テストを行い、理解度をチェックする。さらに、8回目の講義で到達度判定試験を行い、それまでの学生の理解度をチェックする。</p>	<p>予習・復習</p> <p>次回講義までにMoodleで講義ノートを上アップロードするので、キーワードをマークし、その内容について参考書等で調べるなど、2時間以上の予習を課す。また、講義時に配布するノートやMoodleの太字や穴埋め個所を確認するなど2時間以上の復習をしておくこと。</p>	<p>テキスト</p> <p>森孝夫 食品加工学 (化学同人)</p>			
学習評価の方法	<p>定期試験の得点(70点満点) + 小テストの得点(20点満点) + 平常点(10点満点)の合計点を算出し、小テストは汎用的学習成果の評価とする。これから、社会人として必要な倫理観、自己管理能力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話など講義の妨げとなる行為と判断した場合は、平常点の評価対象とする。</p> <p>遠隔授業になった場合、採点の公正性の観点から小テストは行わず、定期試験の得点(90点満点)に平常点を合算し評価する。出欠席は指定の課題の提出をもって出席とする。ただし、社会的諸事情の変化により適宜変更の可能性はあるものとする。</p>						
注意事項	<p>第1回オリエンテーションでは、講義方法や評価方法を解説するので必ず出席すること。</p> <p>2回程度ビデオ学習を取り入れるため教室変更があるので、掲示等注意しておくこと。</p> <p>シャトルカードには必ず質問を記入すること。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション：授業の進め方と食品加工学Ⅰの概要説明
2 回	歴史と定義：食品加工発展の歴史的背景 食品加工の定義
3 回	米：米の種類、米の栄養成分と加工・貯蔵について 米に含まれるでんぷんの性質と加工中の成分変化について理解すること
4 回	小麦：小麦粉の種類、小麦の栄養成分と加工・貯蔵について 小麦粉に含まれるたんぱく質の性質と加工中の成分変化について理解すること
5 回	イモ類：イモ類の種類、栄養成分と加工について イモ類に含まれる成分と加工品としてのでんぷんについて理解すること
6 回	豆 類1：豆類の種類、栄養成分について 大豆に含まれるたんぱく質の性質と豆腐について理解すること
7 回	豆 類2：豆類の加工品について 豆腐・植物性たんぱく等の製造原理
8 回	到達度判定試験 野菜類：野菜類の栄養成分と加工について 野菜に含まれる成分と加工・貯蔵中の成分変化について理解すること
9 回	果実類：果実類の栄養成分と加工について 果実類に含まれる成分と加工・貯蔵中の成分変化について理解すること
10 回	嗜好品（アルコールを除く）：嗜好品の種類と加工について 茶の分類と製造方法
11 回	到達度判定試験（解説） 魚介類：魚介類の栄養成分と加工について 魚介類の加工食品について加工・貯蔵中の成分変化を理解すること
12 回	食 肉：食肉の栄養成分と加工・貯蔵について 食肉の熟成に伴う成分変化について理解すること 食肉加工品について理解すること
13 回	鶏 卵：鶏卵の栄養成分と加工・貯蔵について 鶏卵中の成分の性質とその性質を利用した加工品について理解すること
14 回	牛乳及び乳製品：乳製品の栄養成分と加工について 乳製品の分類と、牛乳中のたんぱく質の性質について理解すること
15 回	まとめ 試験対策を含め、全体を総括する。

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	食品加工学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	津村哲司
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 研究室 (時間割決定後通知) ・ シャトルカードによる受付 e-mail : tsumura@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>元来、食品加工学は採取・収穫した食品を美味しく、安全に保存する方法を習得する学問である。これら歴史の変遷を踏まえ、食品学の基礎となる植物性食品、動物性食品の加工品について、Society 5.0時代の現場に即応できる管理栄養士になるため、より幅広い知識、技術が習得できる。また、保健機能食品など新規食品や成分が健康に与える影響、それらの疾病予防に対する役割を理解する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 : 1) 食品の生産、加工、流通における栄養成分の変化が理解できる。2) 各加工食品の製造工程を正しく理解できる。3) 食品の加工法による食品の安全性、保存性について理解できる。</p> <p>汎用的学習成果 : クリエイティブ力、マネジメント力及びホスピタリティ力を獲得するために 1) 加工食品の製造工程が理解し、製造できる。2) 食品加工機器の知識を習得することで食品製造現場での業務にも反映できる。3) 加工食品の原材料・食品添加物を理解し、喫食者に喜ばれる献立作りができる。以上食品加工学の知識の習得により、Society 5.0時代の現場で活躍できる管理栄養士に必要な能力の習得をもって学習成果とする。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>食品加工学Ⅰで講義した植物性食品の加工食品および動物性食品以外の加工食品について加工中、貯蔵中の成分変化について系統的に講義する。また、いわゆる健康食品に関する最新情報を盛り込んで講義する。なお、講義の前半では、食品加工学Ⅰの内容についても復習を兼ねて講義する。</p> <p>講義では、プリント配布およびMoodleを併用し、重要個所を記入式にすることで、重要個所の明確化を図る。</p>					
学習評価の方法	授業の進め方	<p>次回講義までにMoodleで講義ノートをアップロードするので、キーワードをマークし、その内容について参考書等で調べるなど、90分以上の予習を課す。また、講義時に配布するノートやMoodleの太字や穴埋め個所を確認するなど90分以上の復習をしておくこと。</p>					
	予習・復習	<p>森孝夫 食品加工学 (化学同人)</p>					
テキスト							
学習評価の方法	<p>定期試験の得点 (90 点満点) および平常点 (10 点) の合計から算出する。ただし、今後社会人として必要な倫理観、自己管理能力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話など講義の妨げとなる行為と判断した場合や受講態度等について、平常点の評価対象とする。</p> <p>遠隔授業になった場合、定期試験の得点 (90 点満点) に平常点を合算し評価する。平常点は指定の課題の提出をもって評価する。ただし、社会的諸事情の変化により適宜変更の可能性はあるものとする。</p>						
注意事項	<p>第1回オリエンテーションでは、講義方法や評価方法を解説するので必ず出席すること。</p> <p>2回程度ビデオ学習を取り入れるため教室変更があるので、掲示等注意しておくこと。</p> <p>シャトルカードには必ず質問を記入すること。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション：授業の進め方と食品加工学Ⅱの概要説明
2 回	穀類の加工品の復習。 上記項目の重要ポイントの確認と復習。
3 回	イモ類・豆類の加工品の復習。 上記項目の重要ポイントの確認と復習。
4 回	野菜類・果実類の加工品の復習。 上記項目の重要ポイントの確認と復習。
5 回	水産・畜産品の加工品の復習。 上記項目の重要ポイントの確認と復習。
6 回	鶏卵・乳製品の加工品の復習。 上記項目の重要ポイントの確認と復習。
7 回	冷凍食品：歴史、凍結方法、解凍方法、凍結中の成分変化、組織変化等について理解する。 (ビデオ学習)
8 回	嗜好品（アルコール飲料）：アルコール飲料の定義・分類（蒸留酒、醸造酒、混成酒）と特性および製造方法について理解すること。
9 回	嗜好品および油脂類：アルコール飲料の各論について 日本酒、ビール、ウイスキーなどの定義や製造工程の違いについて理解できる。
10 回	油脂類1：油脂類の定義および製造方法と成分の特性について理解すること。
11 回	油脂類2：油脂類の化学的評価法およびトランス脂肪酸について理解すること
12 回	食品の保蔵：低温による貯蔵、Awの低下による貯蔵、pHの低下による貯蔵くん煙による貯蔵、殺菌・滅菌による貯蔵、CA・MA貯蔵について理解できる
13 回	包装資材：食品の包装材料についてその特性・実用例等について理解すること
14 回	保健機能食品：特定保健用食品と栄養機能食品と機能性表示食品 食品表示法施工に伴う変更点を中心に保健機能食品の特徴を理解すること。
15 回	まとめ 試験対策を含め、全体を総括する。

令和7年度教育計画							
科目名	食品加工学実習	授業回数	15	単位数	1	担当教員	津村哲司
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 研究室 (時間割決定後通知)・シャトルカードによる受付 e-mail : tsumura@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 食品加工学Ⅰ・Ⅱ、食品学各論等で学んだ基礎的知識に基づき、現在一般に流通している各種加工食品を製造する。学生自らの感覚で考察してゆき、創意工夫する能力を身につける。また、実際の加工が栄養面、安全面、嗜好面の各特性をどのように高めたかを理解できる。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果：加工食品の加工原理と加工法を学び、給食管理現場で頻りに利用される加工食品の製造過程を理解することで栄養管理・衛生管理に必要な知識を身につける。 汎用的学習成果：試作した加工品の特性を生かした調理・献立作りが出来る。新製品開発を行うことにより、給食の現場で既存の献立を組み合わせるだけの単純作業では無く、献立の創意工夫が出来るようにして、患者・入所者等の満足度の向上を目指す意識の涵養をもって学習成果とする。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>各回とも加工の原理、実習の方法などを記載したプリントを配布し、まず、それぞれの食品の加工に関わる食品成分と加工原理について講義を行い、ついで実習の進め方について説明した後、実習に移る。実習は少人数のグループで行う。実習後には、出来あがったものを他の班と比較しながら試食し、結果を評価する。レポートは試作中の創意工夫と試食の結果を総合して考察を仕上げるように指導する。実習の終了後、各実習の方法、結果、考察等を記載したレポートを各人にまとめさせ、1週間後を締め切りとして提出させる。考察には課題加工品が健康に与える影響、それらの疾病予防に対する役割を考察することにより汎用的学習成果の評価とする。</p>				
予習・復習		<p>日頃から市場などを訪問し、加工食品が何から作られているのか成分表示をチェックするように心がける。 復習に関してはレポートでまとめ整理し仕上げる。</p>					
テキスト		<p>食品加工用の自作プリントを使用 参考図書等 森孝夫 食品加工学 化学同人</p>					
学習評価の方法	<p>実験内容についてのレポートの内容を評価し、以下の基準で採点する。 A:90点、B:80点、C:70点、D:60点 ただし、提出期限を過ぎたレポートについては減点の対象とする。 試験は実施せず、何回か提出されたレポートの点数の平均値(90点満点)を算出し、これに汎用例の評価(10点満点)を加算して学習成果を評価する。 社会人として必要な倫理観、自己管理能力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話等実験を妨げる行為と判断した場合等汎用例の評価の対象とする。</p>						
注意事項	<p>第1回オリエンテーションでは、レポートの書き方や評価方法を解説するので必ず出席すること。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション：授業の進め方と食品加工学実習の概要説明 食品製造機器についての解説：実習室内の食品製造機器について使用方法などを解説
2 回	野菜加工品：こんにゃく 予習 こんにゃくの試作方法 復習と課題 こんにゃくの試作上の品質の変化
3 回	野菜加工品：トマトピューレ 予習 トマトピューレの試作方法 復習と課題 トマトピューレの試作上の品質の変化
4 回	野菜加工品：トマトケチャップ 予習 トマトケチャップの試作方法 復習と課題 トマトケチャップの試作上の品質の変化
5 回	官能検査：順位法による官能検査 第4回の実習で製造したトマトケチャップの客観的評価を行う。
6 回	果実加工品：リンゴジャム（仕入れによってマーマレード） 予習 ジャムの試作方法 復習と課題 ジャムの品質の変化測定
7 回	大豆加工品：豆腐 予習 豆腐の試作方法 復習と課題 豆腐の品質の変化測定、木綿と絹ごしの違い
8 回	小麦粉加工品：中華麺 予習 小麦粉の分類 復習と課題 中華麺の色調変化
9 回	小麦粉加工品：うどん 予習 小麦粉の製法 復習と課題 うどんの物性変化
10 回	水産加工品：アイスクリーム 予習 アイスクリームの試作方法 復習と課題 アイスクリームの分類と品質の変化
11 回	水産加工品：カマボコ 予習 カマボコの試作方法 復習と課題 水産練り製品の試作上の品質の変化
12 回	畜肉加工品：ソーセージ 予習 ソーセージの試作方法 復習と課題 ソーセージの試作上の品質の変化
13 回	嗜好飲料：固定化菌体によるアルコール発酵 予習 アルコール発酵原理 復習と課題 固定化酵素の特性
14 回	新商品開発：企画会議 これまで習得した食品加工の知識・技術を活用して市場に無い新しい加工食品を開発する。最後には企画書を作成する。
15 回	新商品開発：サンプル試作 前回、作成した企画書をもとに、サンプルを試作し、問題点・改善点を明確にし、企画・製造工程の最終案を作り上げる。

令和7年度教育計画							
科目名	食品品質管理論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	次田隆志、狩山玲子、津村哲司
質問受付の方法(e-mail、オフィスアワー等)： e-mail(tsugita@owc.ac.jp, rkariyama@owc.ac.jp, tsumura@owc.ac.jp)および、授業後の教室、定められたオフィスアワー時間に研究室(次田:A207、狩山:A303、津村:A307)において質問等を受付ける。							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>生鮮食材や加工食品の品質は様々な条件下で時間の経過とともに変化する。本教科においては、食品の生物学的・化学的・物理的変化の客観的評価法、殺菌の種類と方法、品質の官能評価法などについて学習することにより、食品の品質劣化の要因と安全性を理解し、食品の劣化を阻止あるいは遅延させるための適正な品質管理の手法を習得して、食品衛生管理者・食品衛生監視員など食品の品質管理に関する専門家になることを最終教育目標とする。</p> <p>専門的学習成果：</p> <p>この教科では、食品の生物学的・化学的・物理的変化の客観的評価法、殺菌の種類と方法、品質の官能評価法などについての知識を習得し、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格を取得できる能力を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果：</p> <p>コンピュータを用いた統計処理法を習得するとともに、インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集し、食品品質管理に活かすことができる。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>食品品質管理に関する知識とその方法、食品の加工・貯蔵過程における生物学的・化学的・物理的変化とその評価法・防止法、官能評価と統計処理による食品の品質管理の手法等について、教科書に基づき講義形式で授業を進め、必要に応じて補助教材としての資料を配付する。</p> <p>授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。重要と考えられる質問等については、次回授業時、全員に解説する。</p> <p>シャトルカードや小テストによって、学生の授業理解度と学習進行状況を逐次確認し、教授内容を改善しながら授業を進める。</p>	<p>予習事項：講義の最後に次回講義内容を周知するので、教科書の対応箇所を前もって読んでおき、講義に臨む。(毎回60分)</p> <p>復習事項：その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認し、その日に習った内容を提出用ノートにまとめる。(毎回90分)</p> <p>予習・復習を効果的に行っているかどうかについて、シャトルカードと課題提出により確認する。</p>	<p>テキスト</p> <p>五訂 食品の官能評価・鑑別演習 (日本フードスペシャリスト協会編) 建帛社</p> <p>三訂 食品の安全性 第3版 (日本フードスペシャリスト協会編) 建帛社</p>			
学習方法評価	<p>上記の専門的学習成果および汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験の得点に加えて、授業に取り組む姿勢を平常点として評価し、これらの合計を学習評価とする。平常点は、ノートを含めた提出物、受講態度等により評価する。その割合は、定期試験80点満点、平常点20点満点とする。</p>						

事 注 項 意	インターネット等を有効に活用して、食品の品質評価に関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。また、15回の授業のうち、3分の2以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。
------------------	---

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	授業の進め方と食品品質管理論の概要説明（担当：次田）
2 回	食品の品質管理概要（担当：次田） 食品に求められる特性、食品の品質とは、品質管理の目的
3 回	食品成分と品質① 食品中の水（担当：次田） 水分活性と食品の保存性、食品の保存と水分の制御
4 回	食品成分と品質② 食品の色素成分の変化（担当：次田） クロロフィル・ミオグロビン・カロテノイド・フラボノイド・アントシアニンの変化、
5 回	食品成分と品質③ 食品の褐変反応と油脂の変化（担当：次田） 酵素的褐変、非酵素的褐変、油脂の変化
6 回	食品の安全管理①（担当：狩山） 生物学的、化学的、物理的ハザード
7 回	食品の安全管理②（担当：狩山） 食品別（食肉・食肉加工品、生鮮魚介類・水産加工品、野菜・果実類、牛乳・乳製品、その他）
8 回	食品の安全管理③（担当：狩山） HACCP
9 回	食品の安全管理④（担当：狩山） 一般衛生管理プログラム、ISO22000
10 回	個別食品の鑑別①（担当：津村） 穀類、イモ類、野菜・果物類等に適用される個別の鑑別方法
11 回	個別食品の鑑別②（担当：津村） 魚介類、畜肉類、乳及び卵類等に適用される個別の鑑別方法
12 回	官能評価による食品の品質評価①（担当：津村） 官能評価とは、パネルの構成、内部的・外部的条件とその管理
13 回	官能評価による食品の品質評価②（担当：津村） 官能評価の種類と実践例
14 回	品質管理における統計的手法①（担当：次田） 統計に用いられるデータの種類、基本統計量、ヒストグラム、偏差値
15 回	品質管理における統計的手法②（担当：次田） 帰無仮説と有意水準、各種データによる統計解析の実例

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	食品分析学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	津村 哲司
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 研究室 (時間割決定後通知) ・シャトルカードによる受付 e-mail : tsumura@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 : 流通されている食品は栽培方法や加工方法により、栄養素の含有量に変化が起こる。食品利用に際して、このような食品中の栄養素量の変化を知った上で、食品成分表に掲載されている栄養成分の数値を理解する必要がある。食品成分表に掲載されている各種の栄養成分の分析法について講義し理解力を向上させる。近年、食品偽装表示が問題となり、遺伝子検査が頻繁に行われるようになった。これを受け、本講義では遺伝子の分析方法についても理解することを目的とした。 学習成果 : 専門的学習成果 : 基礎知識と実験手法に基づいた食品の分析法を理解する事が出来る。そして、食品の栄養価、食品の嗜好性の評価に役立つ分析値を得る方法を習得出来る。 汎用的学習成果 : 食品成分表に記載されている栄養素の成分値を単にエネルギー計算の数値として理解するのではなく、どのような分析・解析に基づき算出されているかを理解する。						
	教育方法	(講義・演習・実験・実習・実技) 授業は講義形式で行うが、分析機器・器具等は実際に機器を見せて講義することを心掛ける。本講義で解説した実験方法・機器を食品加工学実習、食品学総論実習、食品衛生学実習等と関連付けながら講義し、実験実習での学生の理解度が高まるようにする。 汎用的学習成果を把握するために5大栄養素の分析方法の講義が終了した段階でレポート課題を出し、評価の対象とする。そのため、食品成分表を携帯し、成分値の算出方法を理解させる。					
学習評価の方法	予習・復習	毎回の授業の際に次週の講義の内容を明示するので、成分表を熟読するなど2時間以上の予習を課す。また、その日の講義内容をノートにまとめるなどして2時間以上の復習をしておくこと。					
	テキスト	参考図書等 原色食品加工図鑑：健パク社 日本標準食品成分表 2020年版 (八訂)					
学習評価の方法	評価は定期試験 (80点満点) およびレポート (20点) の合計を評価点とする。ただし、これから、社会人として必要な倫理観、自己管理能力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話など講義の妨げとなる行為と判断した場合や受講態度等について、評価の対象とする。レポートの課題には市販の食品の栄養成分表示の成分値を考察させ、汎用的学習の成果の評価とする。						
注意事項	第1回オリエンテーションでは、講義方法や評価方法を解説するので必ず出席すること。シャトルカードには必ず質問を記入すること。質問・記載が無い場合は評価の対象とする。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	授業の進め方と食品分析学の概要説明 (オリエンテーション) 食品分析の目的、知識と方法
2 回	食品分析の基礎 1、実験器具の使い方                      2、分析機器の使い方
3 回	食品分析の基礎 1、化学的基本量と濃度                      2、容量分析と重量分析
4 回	食品成分の定量分析 水分の定量 (常圧加熱乾燥法、赤外線水分計ほか) について理解できる。
5 回	食品成分の定量分析 灰分の定量 (直接灰化法) について理解できる。
6 回	食品成分の定量分析 粗タンパク質の定量分析 ケールダール窒素分析法とたんぱく質-窒素換算係数について理解できる。
7 回	食品成分の定量分析 ソックスレー抽出法による粗脂肪の定量分析について理解する。
8 回	食品成分の定量分析 炭水化物の定量分析 (差し引き法、アンスロン硫酸法) について理解できる。
9 回	食品成分の定量分析 ビタミンの分析: 水溶性ビタミン (ビタミンC, B, 及びナイアシン) と 脂溶性ビタミンの分析 (ビタミンA, D, 及びE) レチノール当量ほか実験値の取り扱いについて理解する
10 回	食品成分の定量分析 無機質の分析 (カルシウム、リン、鉄、ナトリウム、カリウム)、原子吸光法の原理
11 回	その他の成分の定量分析 食物繊維など五大栄養素以外の成分の分析方法について理解する。
12 回	エネルギーの算出方法 数値の表示方法について、また、2020 年に変更されたエネルギーの算出方法について理解する。
13 回	遺伝子解析 1 遺伝子の構造・分析方法をグループワークを通じて理解する。
14 回	遺伝子解析 2 サンガー法によるDNAの塩基配列の決定方法について理解できる。 DNAの断片化とクローニングおよび電気泳動
15 回	まとめ レポート課題についての解説

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	調理学 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	氏峰 菜里
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : ujimine@owc.ac.jp、 OH: 随時							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>: 調理とは、食品素材をおいしく、すぐに食べられるように調整することであり、衛生面で安全な食べ物に調整し、食品素材の栄養効率を高め嗜好特性を高めることを目的とする。食事計画に基づいた献立作成とそれに伴う食材の選択、調理・供食までの工程について学習する。</p> <p>学生の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的学習成果           <p>: 管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力を養う。また、管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度および考え方の総合的能力を獲得する。</p> </li> <li>・ 汎用的学習成果           <p>: 調理学で習得した基礎的な知識を確実に身につけるとともに、実習等の場において十分発揮できるよう、与えられた課題に対して、授業で学んだことや自ら調査した情報をもとにその内容を理解し、まとめることができる。</p> </li> </ul>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>○授業はテキスト、プリントなどを利用する。</p> <p>○中間テストを行い、学習進行状況を確認する。</p> <p>中間テストのフィードバックは、添削後、個人または全体に行う。</p>	<p>予習・復習</p> <p>予習事項：毎授業前に、授業回数別教育内容に記載された内容に該当する教科書の項目に目を通し、疑問点を明らかにする。(基本 90 分)</p> <p>復習事項：学習した内容をノート等にまとめ授業内容を復習する。(基本 90 分)</p>	<p>テキスト</p> <p>調理学の基本 第 5 版 (同文書院)</p>			
学習評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習態度 20%</li> <li>・ ノート提出 10%</li> <li>・ 中間テスト 20%</li> <li>・ 定期試験 50%</li> </ul>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <p>メニューコーディネートのための食材別料理集 第 2 版 (同文書院)</p> <p>調理のためのベーシックデータ 第 6 版 (女子栄養大学出版社)</p> <p>日本食品成分表 2025 八訂 (医歯薬出版)</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	調理学の基本的理解およびオリエンテーション 授業内容および授業の進め方・シラバスの説明 ①予習復習の説明 ②中間テストについての説明 ○調理学の基本 ○食事設計の基礎
2 回	○調理操作の分類① ・非加熱調理操作と非加熱調理器具 ・加熱調理操作と加熱用器具 ○調理による栄養学的・機能的利点
3 回	○調理操作の分類② ・非加熱調理操作と非加熱調理器具 ・加熱調理操作と加熱用器具 ○調理による栄養学的・機能的利点
4 回	○調理操作の分類③ ・非加熱調理操作と非加熱調理器具 ・加熱調理操作と加熱用器具 ○調理による栄養学的・機能的利点
5 回	○食品成分表の理解と活用 ・食品成分表の役割 ・食品成分表の構成と内容 ・食事設計における食品成分表の活用
6 回	○食品の特徴に応じた調理の特性 1. 植物性食品の成分特性・栄養特性・調理特性 ・穀類 ・イモ類

7 回	○食品の特徴に応じた調理の特性 1. 植物性食品の成分特性・栄養特性・調理特性 ・豆類 ・種実類
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	○栄養価計算と献立作成の基礎 ・栄養価計算の基礎 ・食品成分表の活用 ・献立作成の基礎
9 回	○食品の特徴に応じた調理の特性 1. 植物性食品の成分特性・栄養特性・調理特性 ・野菜類 ・香辛料
10 回	○食品の特徴に応じた調理の特性 1. 植物性食品の成分特性・栄養特性・調理特性 ・果実類 ・きのこ類 ・藻類
11 回	中間テスト
12 回	○調理による栄養学的・機能的利点 ・嗜好飲料 ○おいしさの評価 ・嗜好調査,官能評価の方法
13 回	○味わいの要素 ・水 ・旨味 ・調味料
14 回	○食事を演出する要素 ・日本酒 ・和菓子 ・器
15 回	○食事設計の実際 ・食生活指針からの提言 ・食事摂取基準 ・食事バランスガイド

令和7年度教育計画							
科目名	調理学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	氏峰 栞里
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : ujimine@owc.ac.jp、 OH: 随時							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>: 調理は、経験と習熟度が要求される技術であるが、近年においては調理を行うことによる食品の栄養成分の変化や食品の物性の変化についても考慮することが要求されている。食事により生活の質を高めることができることを考慮に入れ、健康あるいは疾病時の食生活を豊かなものにするための調理のあり方を習得することを目的とする。</p> <p>学生の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的学習成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>: 管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力を養う。また、管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度および考え方の総合的能力を獲得する。</li> </ul> </li> <li>・ 汎用的学習成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>: 調理学で習得した基礎的な知識や調理現場での衛生管理手法などを確実に理解し、実習等の場において十分発揮できるように習得する。</li> </ul> </li> </ul>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>○授業はテキスト、プリントなどを利用する。</p> <p>○中間テストを行い、学習進行状況を確認する。</p> <p>中間テストのフィードバックは、添削後、個人または全体に行う。</p>	<p>予習・復習</p> <p>予習事項：毎授業前に、授業回数別教育内容に記載された内容に該当する教科書の項目に目を通し、疑問点を明らかにする。(基本 90 分)</p> <p>復習事項：学習した内容をノート等にまとめ授業内容を復習する。(基本 90 分)</p>	<p>テキスト</p> <p>調理学の基本 第5版 (同文書院)</p>			
学習評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習態度 20%</li> <li>・ ノート提出 10%</li> <li>・ 中間テスト 20%</li> <li>・ 定期試験 50%</li> </ul>						
注意事項	<p>【参考図書】</p> <p>メニューコーディネートのための食材別料理集 第2版 (同文書院)</p> <p>調理のためのベーシックデータ 第6版 (女子栄養大学出版部)</p> <p>日本食品成分表 2025 八訂 栄養計算ソフト・電子版付 (医歯薬出版)</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	調理学の基本的理解およびオリエンテーション 授業内容および授業の進め方・シラバスの説明  ○和食の文化 ・行事食 ・地域の食材と郷土料理①
2 回	○和食の文化 ・地域の食材と郷土料理②
3 回	○献立作成と料理様式 ・献立とは ・献立作成条件 ・献立の組み立て方
4 回	○献立作成と料理様式① ・献立表,レシピの作成 ・供食,供食形式の特徴
5 回	○献立作成と料理様式② ・献立表,レシピの作成
6 回	○和食の文化 ・行事食(正月料理)
7 回	○食品の特徴に応じた調理の特性 2. 動物性食品の成分特性・栄養特性・調理特性 ・食肉類

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	○食品の特徴に応じた調理の特性 2. 動物性食品の成分特性・栄養特性・調理特性 ・魚介類
9 回	○食品の特徴に応じた調理の特性 2. 動物性食品の成分特性・栄養特性・調理特性 ・卵類
10 回	○食品の特徴に応じた調理の特性 2. 動物性食品の成分特性・栄養特性・調理特性 ・牛乳,乳製品
11 回	○食品の特徴に応じた調理の特性 3. 成分抽出素材の成分特性・栄養特性・調理特性 ・でんぷん ・油脂類 ・ゲル化素材
12 回	中間テスト
13 回	○調理操作による食品の組織・物性と栄養成分の変化 ・食品の組織,物性の変化 ・食品の栄養成分などの変化とアク成分
14 回	○摂食機能に対応した調理のポイント ・ライフステージによる調理形態 ・摂食機能に対応した調理上の工夫
15 回	○食事におけるマナー ・会席作法 ・振舞,マナー

令和7年度教育計画															
科目名	調理学実習 I	授業回数	15	単位数	1	担当教員	氏峰 菜里								
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : ujimine@owc.ac.jp、 OH: 随時															
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>: 基本的な調理器具の使用法、調理法を習得し、調理操作による食品の栄養、物性の変化を理解した調理操作が行える能力を身につけることを目的とする。</p> <p>学生の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的学習成果           <p>: 調理の基本を習得し、調理技術の向上をはかる。</p> </li> <li>・ 汎用的学習成果           <p>: 自作レシピの計画、調理、プレゼンテーションを通し、調理に必要な発注計算、調理工程を学ぶ。</p> </li> </ul>														
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・<b>実験・実習・実技</b>)</p> <p>テキストはプリントを使用し、必要に応じて教科書を利用する。</p> <p>○科学的、理論的な裏付けによる調理実習に加えて、実験形式による実習を行う。</p> <p>○自主的な学習の場を設定し、質問や研究討議の活性化を図り、積極的な実習になるようにする。</p> <p>○毎実習後に自己評価を行い、知識および技術の向上を目指す。</p> <p>○必要に応じて、実技テストおよび筆記テストを行う。</p>												
		予習・復習	<p>予習事項：次回実習内容の確認</p> <p>復習事項：毎実習後に自己評価を行う</p>												
	テキスト	随時配布													
学習評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>・ 学習態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・ 実習後の自己評価カード</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>・ 調理技術実技テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・ 自作レシピ(計画・プレゼンテーション)</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>(発注、計画等の作成協力・献立の想定・調理作業効率・味)</p>							・ 学習態度	20%	・ 実習後の自己評価カード	30%	・ 調理技術実技テスト	20%	・ 自作レシピ(計画・プレゼンテーション)	30%
・ 学習態度	20%														
・ 実習後の自己評価カード	30%														
・ 調理技術実技テスト	20%														
・ 自作レシピ(計画・プレゼンテーション)	30%														
注意事項	<p>【参考図書】</p> <p>調理学の基本 -おいしさと健康を目指す- (同文書院)</p>														





令和 7 年度 教育 計画																	
科目名	調理学実習 II	授業回数	15	単位数	1	担当教員	氏峰 菜里										
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : ujimine@owc.ac.jp、 OH: 随時																	
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>: 調理学実習 I や調理学で学習した知識を基に、さらに食品を衛生的・栄養的・嗜好的に発展させ、その技術を習得することを目的とする。</p> <p>学生の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的学習成果           <p>: 調理学実習 I で習得した調理技術を実習に生かし、管理栄養士に必要とされる難易度の高い調理技術を習得する。与えられた課題を、条件に沿って作成することができる。</p> </li> <li>・汎用的学習成果           <p>: 自作レシピの計画、調理、プレゼンテーションを通し、調理に必要な発注計算、調理工程を学ぶ。</p> </li> </ul>																
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・<b>実験・実習・実技</b>)</p> <p>テキストはプリントを使用し、必要に応じて教科書を利用する。</p> <p>○日常食に加えて、行事食や国際料理の調理技術を習得する。</p> <p>○科学的、理論的な裏付けによる調理実習に加えて、実験形式による実習を行う。</p> <p>○自主的な学習の場を設定し、質問や研究討議の活性化を図り、積極的な実習になるようにする。</p> <p>○毎実習後に自己評価を行い、知識および技術の向上を目指す。</p> <p>○必要に応じて、実技テストおよび筆記テストを行う。</p>														
予習・復習		<p>予習事項：次回実習内容の確認</p> <p>復習事項：毎実習後に自己評価を行う</p>															
テキスト		随時配布															
学習評価の方法	<table> <tbody> <tr> <td>・学習態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・実習後の自己評価カード</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・自作献立</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・自作献立(調理・プレゼンテーション)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・研究献立(レポート・プレゼンテーション)</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>							・学習態度	20%	・実習後の自己評価カード	20%	・自作献立	20%	・自作献立(調理・プレゼンテーション)	20%	・研究献立(レポート・プレゼンテーション)	20%
・学習態度	20%																
・実習後の自己評価カード	20%																
・自作献立	20%																
・自作献立(調理・プレゼンテーション)	20%																
・研究献立(レポート・プレゼンテーション)	20%																

<p>注 意 事 項</p>	<p>【参考図書】 調理学の基本 -おいしさと健康を目指す- (同文書院)</p>
<p>授 業 回 数 別 教 育 内 容</p>	
<p>1 回</p>	<p>調理学実習の基本的理解およびオリエンテーション 実習内容および授業の進め方・シラバスの説明  &lt;献立名&gt; 彩り冷やし素麺・胡麻和え・葛饅頭</p>
<p>2 回</p>	<p>&lt;献立名&gt; ばらずし・茶碗蒸し・きゅうりとみょうがの浅漬け</p>
<p>3 回</p>	<p>&lt;献立名&gt; とうもろこしご飯・天ぷら・味噌汁</p>
<p>4 回</p>	<p>自作献立①(計画) 調理学で得た知識を基に、各自が意図を明確にした献立を作成する。 班で検討し、決定した献立を実際に調理する。 ※価格・調理時間等を充たすよう計画すること。</p>
<p>5 回</p>	<p>ドウの実験 配合の違いによるクッキー生地の変化</p>
<p>6 回</p>	<p>国際料理①中華料理 &lt;献立名&gt; 涼拌麺・古老肉・ない乳豆腐</p>

7 回	自作献立②(調理) 調理学で得た知識を基に、各自が意図を明確にした献立を作成する。 班で検討し、決定した献立を実際に調理する。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	卵の実験(ポーチドエッグの調理) <献立名> エッグベネディクト・浮雲スープ
9 回	<献立名> 炊き込みご飯・白和え・すまし汁
10 回	国際料理②スペイン料理 <献立名> パエリア・豆のスープ・マセドニア
11 回	正月料理 <献立名> 雑煮・伊達巻・紅白なます・蒲鉾の飾り切り
12 回	クリスマス行事食 <献立名> スパゲティナポリタン・かぼちゃのポタージュ・ブッシュドノエル
13 回	研究献立(レポート作成・プレゼンテーション) テーマ：我が家の正月料理「雑煮+正月料理2品」 課題：我が家(もしくは興味のある地域)の雑煮および正月料理2品以上について、作り方や工夫点などをレポートにまとめ、発表する。
14 回	自作献立③(プレゼンテーション) 実際に調理した献立について、考案のポイントや意図をプレゼンテーションする。
15 回	1年間の振り返り ・これまでに行った調理を振り返り、自らの知識、技術の向上について分析しまとめる。 ・調理室の清掃

令和7年度教育計画							
科目名	調理学実習Ⅲ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	石高優子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A棟 405 研究室 水曜日 13時から 14時 30分							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：調理操作による食品素材の栄養特性と物性の変化について理解し、調理器具の使い方、調理法、献立の立て方、多様化した食品素材の選択と組み合わせ方に配慮し、安全性と嗜好性を満足させる調理方法を探求する。またおいしい料理を作るには、各食品の調理性を理解した調理操作が必要であるので、手法を中心とした調理技術を修得し、日常食、行事食、伝承料理、客膳料理の調製に対応できるようにする。</p> <p>専門的学習成果：安全性と嗜好性を満足させる調理方法を身につける。 病態別の献立作成や調理のポイントを理解し、食生活の重要性を理解する。</p> <p>汎用的学習成果：チームワーク・自己管理能力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・<b>実習</b>・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的食品や新しく開発された食品材料の調理法を習得させ、各自献立作成が出来るようにする。</li> <li>2. 日常における疾病の予防、回復のために役立つ調理法を修得し、生活習慣病の予防食や疾病の治療食に対応できるようにする。</li> <li>3. 行事食を取り込み、日本の食習慣も実習に加える。</li> <li>4. 実習はグループ制で行い、研究討議もグループ毎で取り組む。</li> <li>5. 授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次回の授業の時に質問に対する答え、またはコメントを記入して返却する。「シャトルカード」により学習進行状況を確認しながら授業を進める。</li> </ol>	<p>予習事項：献立作成にともなう栄養計算や調理工程の確認を行う (30分)</p> <p>復習事項：授業中におこなった調理の振り返りおよび調理技術の向上を行う (30分)</p>	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「臨床調理」小林ゆき子 市川菜々編 第8版 医歯薬出版株式会社</li> <li>・プリント</li> </ul>			
学習評価の方法	<p>以下に示す学習成果について、その獲得度合いを評価する。</p> <p>○専門的学習成果は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 食品素材の栄養特性と物性の変化について理解ができること。</li> <li>② 調理器具の使い方、調理法が理解できること。</li> <li>③ 治療食の献立の作成ができること。</li> <li>④ 日常食、行事食、伝承料理、客膳料理が調製できること。</li> </ol> <p>○汎用的学習成果は、チームワークや自己管理能力が獲得できること。</p> <p>○学習評価は、専門的学習成果 (実習の技術：60点)、汎用的学習成果 (実習中の提出物：20点、グループ学習での対話・意欲・態度：20点) の結果を総合して行う。</p> <p>○学習のフィードバックは、課題の返却時に解説を行う。</p> <p>なお、過度な私語や授業参加意欲が極端に低い場合、汎用的学習成果から減点を行う。</p>						

<p>注 意 事 項</p>	<p>【参考図書】 献立の立案に関しては、書籍およびインターネットを使用し検討するが、自作していただくことを推奨する。</p>
<p>授 業 回 数 別 教 育 内 容</p>	
<p>1 回</p>	<p>授業の進め方についての説明 ・ 臨床栄養学実習について概説し、授業計画を説明する。 ・ 味の感じ方：食塩濃度の違いについて体験する。</p>
<p>2 回</p>	<p>流動食の調整 ・ 種類と適応 ・ 調理法と摂取時の工夫 ・ 濃厚流動食の試飲と固形化 ・ 半消化態流動食の試飲</p>
<p>3 回</p>	<p>乳・幼児疾患の調理および栄養補給 ・ 離乳期の栄養：離乳の開始→離乳の進行→離乳の完了 ・ 離乳食の調理と形態の変化の比較 ・ ベビーフードの試食 ・</p>
<p>4 回</p>	<p>軟菜食の調理 ・ 五分粥食と全粥食の調理と食形態の比較 ・ 各分粥の濃度の比較</p>
<p>5 回</p>	<p>嚥下障害の介護食とケアに関する調理 ・ ゼリー食の調理と工夫 ・ 造粘剤の特性と活用 ・ 自助具を使用して食事介助の実践</p>
<p>6 回</p>	<p>常食（和食）の献立作成・・・① ・ 対象者：40歳 女性 身体活動レベルⅡ ・ 1日エネルギー2000kcalの献立を2日分作成（各自） 基準：たんぱく質エネルギー比 20%未満、脂肪エネルギー比 20%以上 25%未満 炭水化物エネルギー比 50%以上 60%未満</p>

7 回	<p>常食（和食）の献立作成・・・②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者：40歳 女性 身体活動レベルⅡ</li> <li>・1日エネルギー2000kcalの献立を2日分作成（各自）エクセル栄養君を使用する。</li> <li>・実施献立の発表、材料の発注表作成（グループ）</li> </ul>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>常食（和食）の献立作成・・・③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日エネルギー2000kcalの実施・評価</li> </ul>
9 回	<p>エネルギーコントロール食の献立作成・・・①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病食：1食当たりエネルギー550kcal～600kcal、食塩2～3gの献立作成（各自）糖尿病の交換表を使用する。</li> <li>・材料の発注表作成（グループ）</li> </ul>
10 回	<p>たんぱく質コントロール食・減塩食の献立作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性腎不全食の調理と工夫</li> <li>・減塩調味料の活用</li> <li>・カリウム・リン制限の調理の工夫</li> <li>・治療用特殊食品の種類と適応と試食</li> </ul>
11 回	<p>エネルギーコントロール食の献立作成・・・②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病食：1食当たりエネルギー550kcal～600kcalの実施・評価</li> <li>・治療用特殊食品の低甘味料の活用</li> </ul>
12 回	<p>小児食物アレルギー食の調理実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代替食品の種類と適応</li> <li>・米・小麦アレルギーの主食とおやつの対応と調理</li> </ul>
13 回	<p>在宅高齢者の宅配弁当・・・①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1食500kcalの弁当の献立作成（1日分の献立より昼食を弁当とする）栄養君を使用する。</li> <li>・メッセージカードの作成</li> <li>・レシピの作成</li> </ul>

14 回	在宅高齢者の宅配弁当・・・② ・ 1食 500kcal の弁当の献立作成 ・ メッセージカードの作成 ・ 実施献立の発表 レシピの作成
15 回	在宅高齢者の宅配弁当・・・③ ・ 1食 500kcal の弁当の調理をし、弁当容器に盛り付ける ・ 写真を撮ってレシピに貼る

令和7年度教育計画							
科目名	食品衛生学 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	狩山玲子
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : rkariyama@owc.ac.jp; A303 在室時は何時でも可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：人が健康に生きる上で食生活の占める割合は非常に大きい。また、近年は“食品の安全性”に関する問題も多く、その問題の種類も多岐にわたるようになっている。本講義では健全な食生活を維持するために重要な食品衛生関連法規の理解と多様な食品安全対策の立案・実施に必要な基礎的事項の理解を深める。</p> <p>学生の学習成果：            専門的学習成果：給食施設や食品企業などにおける衛生管理を実効あるものとして行える知識を蓄えていることを最大の達成目標としているので、食品衛生関係用語が理解でき、給食経営管理論関連の実習などで十分知識を発揮できることを学習の成果とする。            汎用的学習成果：“食品の安全性”に関する報道・情報を適切に判断して対応できること。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>教科書および配布資料を教材とする。また、各授業内容に関連する報道記事などを取り上げ、事例から学ぶ。毎回、予習事項と復習事項を記載した「宿題」を配布する。「授業に取り組む姿勢」については、第1回の授業において説明する。「宿題」、「宿題テスト」、「シャトルカード」などによって学習進行状況を確認し、次回以降の授業に反映させる。重要項目については、中間テストなどを適宜実施して理解度を確認する。授業中の質問や発言は積極的に行うように求める。</p>					
	予習・復習	<p>予習事項：毎回配布する「宿題」に予習事項を記載する。            次回の授業に関連する部分の教科書を通読すること。            復習事項：毎回配布する「宿題」に復習事項を記載する。  <b>【予習および復習：毎回90分以上（合計180分以上）】</b>            次回の授業開始時に「宿題」の提出を求め、「宿題テスト」を行う。</p>					
	テキスト	<p>小塚 諭 編著 (2024) 「イラスト 食品の安全性 (第4版)」 東京教学社            定価 2,500 円 (税別)</p>					
学習評価の方法	<p>定期試験 (60%)、中間テスト (10%)、「宿題」 &amp; 「宿題テスト」 (20%) の成績に加えて、授業に取り組む姿勢 (10%) を評価し、総合的に評価する。質問や日々の学習への取り組みを高く評価するので、「宿題」に記載している予習事項・復習事項などに積極的に取り組むことが重要である。「中間テスト」の採点結果 (得点分布など) は、返却時に講評する。「宿題」 &amp; 「宿題テスト」の評点は、毎回シャトルカードに記入し、学習意欲の向上や学習方法の改善につなげる。私語などの授業受講態度についても評価対象とする。</p>						
注意事項	<p><b>【参考図書】</b>            授業中に適宜紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	授業の進め方についてシラバスを用いた説明 食品衛生学 I の授業で取り上げる項目についての全体的解説
2 回	食品衛生行政と法規 食品衛生行政のしくみ、食品衛生関連法規（食品安全基本法と食品衛生法など） （食品衛生行政を理解する）
3 回	食品の変質（1） 微生物に関する基本的事項 （微生物の種類、形態、増殖様式、増殖に影響を及ぼす要因について理解する）
4 回	食品の変質（2） 食品の腐敗、油脂の酸敗、食品の変質防止法 （食品の変質（腐敗・酸敗）および変質防止について理解する）
5 回	食中毒の定義と種類、食中毒の発生状況 （食中毒を起こす要因についての理解を深める）
6 回	自然毒（植物性・動物性）食中毒、化学性食中毒 （微生物以外の食中毒の原因物質を理解する）
7 回	微生物による食中毒（1） ① 食中毒の原因微生物の特徴 （細菌性食中毒を理解する）

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	微生物による食中毒（2） ② 食中毒の原因微生物の特徴 （細菌性・ウイルス性食中毒を理解する）
9 回	食品による感染症・寄生虫症 消化器系感染症、人獣共通感染症、食品から感染する寄生虫症 （経口感染症を理解する）
10 回	食品衛生管理 （HACCP システムの概要について理解する）
11 回	食品中の汚染物質（1） カビ毒（マイコトキシン）、化学物質（農薬、ダイオキシン類など） （汚染物質の種類と性質を理解する）
12 回	食品中の汚染物質（2） 重金属、食品成分の変化により生じる有害物質、異物混入 （汚染物質の種類と性質を理解する）
13 回	食品添加物とは 食品添加物の概念、メリットとデメリット、安全性評価 （食品添加物の使用について理解を深める）
14 回	食品添加物の種類と用途 （食品添加物の使用について理解を深める）
15 回	講義全体のまとめ

令和7年度教育計画							
科目名	食品衛生学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	狩山玲子
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : rkariyama@owc.ac.jp; A303 在室時は何時でも可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：現代の食生活における食品の安全性や健全性を確保するために必要な知識の理解力や説明能力を高めることを目指す。特に、食品や食品の器具・容器包装中に存在する物質による発がん促進や、食品等に混入の危険性が高い物質の種類とその作用に関する理解を深める。将来起こりうる食料危機に関連して、わが国における食料自給率の現状と食品の有効利用や輸入食品にも関連する遺伝子組換え食品や放射線照射食品等についての解説を加え、食品の安全性の正しい理解と食品の有効利用に関連した知識の蓄積を求める。</p> <p>学生の学習成果：            専門的学習成果：給食施設や食品企業などにおける衛生管理を実効あるものとして行える知識を蓄えていることを最大の達成目標としている。            汎用的学習成果：“食品の安全性”に関する報道・情報を適切に判断して対応できること。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>教科書および配布資料を教材とする。また、各授業内容に関連する報道記事などを取り上げ、事例から学ぶ。毎回、予習事項と復習事項を記載した「宿題」を配布する。「授業に取り組む姿勢」については、第1回の授業において説明する。「宿題」、「宿題テスト」、「シャトルカード」などによって学習進行状況を確認し、次回以降の授業に反映させる。重要項目については、中間テストなどを適宜実施して理解度を確認する。授業中の質問や発言は積極的に行うように求める。</p>				
予習・復習		<p>予習事項：毎回配布する「宿題」に予習事項を記載する。            次回の授業に関連する部分の教科書を通読すること。            復習事項：毎回配布する「宿題」に復習事項を記載する。  <b>【予習および復習：毎回90分以上（合計180分以上）】</b>            次回の授業開始時に「宿題」の提出を求め、「宿題テスト」を行う。</p>					
テキスト		<p>食品衛生学Ⅰで使用した教科書            小塚 諭 編著 (2023) 「イラスト 食品の安全性 (第4版)」 東京教学社            定価 2,500 円 (税別)</p>					
学習評価の方法	<p>定期試験 (60%)、中間テスト (10%)、「宿題」&amp;「宿題テスト」(20%) の成績に加えて、授業に取り組む姿勢 (10%) を評価し、総合的に評価する。質問や日々の学習への取り組みを高く評価するので、「宿題」に記載している予習事項・復習事項などに積極的に取り組むことが重要である。「中間テスト」の採点結果 (得点分布など) は、返却時に講評する。「宿題」&amp;「宿題テスト」の評点は、毎回シャトルカードに記入し、学習意欲の向上や学習方法の改善につなげる。私語などの授業受講態度についても評価対象とする。</p>						
注意事項	<p><b>【参考図書】</b>            授業中に適宜紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>授業の進め方についてシラバスを用いた説明</p> <p>食品衛生と法規 (食品衛生行政について理解を深める)</p>
2 回	<p>新しい食品等の安全性問題</p> <p>遺伝子組換え食品 (ゲノム編集食品を含む)、放射線照射食品 (食料政策と食品の安全性問題について理解を深める)</p>
3 回	<p>食品添加物の有用性と安全性①</p> <p>食品添加物の安全性評価、健康障害 (食品添加物の安全性評価と使用基準・成分規格を理解する)</p>
4 回	<p>食品添加物の有用性と安全性②</p> <p>食品添加物の種類と用途 (食品添加物の使用について理解を深める)</p>
5 回	<p>食品の変質と有害物質</p> <p>腐敗 (微生物による変質)、油脂酸敗 (化学的変質)、食品衛生管理 (食品の変質機構と食品衛生管理について理解を深める)</p>
6 回	<p>食品汚染と有害物質</p> <p>食品の器具・容器包装中に存在する有害物質、食品中の有害物質 (食品中の危害要因について理解する)</p>
7 回	<p>食品汚染と健康障害 (1)</p> <p>食品汚染物質・食品中の有害物質 (自然毒を含む) による健康障害 (食品汚染がもたらす健康障害を理解する)</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>食品汚染と健康障害（2）</p> <p>① 食品等に含まれる長期的健康障害物質（発がん物質、内分泌かく乱物質（環境ホルモン）など）</p> <p>② 食品成分の変化により生じる有害物質や劣化食品による健康障害（食品汚染がもたらす健康障害を理解する）</p>
9 回	<p>食品汚染と健康障害（3）</p> <p>① 微生物による汚染（細菌性食中毒） （微生物による食品汚染の実態と健康障害を理解する）</p>
10 回	<p>食品汚染と健康障害（4）</p> <p>② 微生物による汚染（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒） （微生物による食品汚染の実態と健康障害を理解する）</p>
11 回	<p>食品汚染と健康障害（5）</p> <p>① 食品による感染症・寄生虫症（感染症法、消化器系感染症、人獣共通感染症） （微生物・寄生虫による食品汚染がもたらす健康障害を理解する）</p>
12 回	<p>食品汚染と健康障害（6）</p> <p>② 食品から感染する寄生虫症 （微生物・寄生虫による食品汚染がもたらす健康障害を理解する）</p>
13 回	<p>食品と薬物の相互作用（1）</p> <p>食品が薬物に及ぼす影響 （食品と薬物との関わりを理解する）</p>
14 回	<p>食品と薬物の相互作用（2）</p> <p>異物代謝機構、相互作用による薬効の変化 （食品と薬物との関わりを理解する）</p>
15 回	<p>講義全体のまとめ</p>

令和7年度教育計画							
科目名	食品衛生学実験	授業回数	15	単位数	1	担当教員	狩山玲子
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : <a href="mailto:rkariyama@owc.ac.jp">rkariyama@owc.ac.jp</a> ; A303 在室時は何時でも可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：食品の衛生学的監視に関係した職場等で必要とされる基礎的手技を習得および生活習慣病者等での食事・栄養指導時における説明能力を高めることを目的とする。このため衛生試験法に基づく微生物の分離・同定を行い、さらに理化学試験（水質検査、遺伝子組換え食品の分析、食品添加物の検出等）に用いる分析機器の原理を学び実験を行うことで、検査材料から原因因子を見つけ出す検査等についての考察能力を高める。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果：食の安全に関わる検査における基本操作、及び関連知識を理解し、給食施設や食品企業などの現場での衛生管理に応用できる技能を習得している事を学習の成果とする。</p> <p>汎用的学習成果：“食品の安全性”に関する報道・情報を適切に判断して対応できること。</p>						
教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>（講義・演習・実験・実習・実技）</p> <p>授業は主として配布資料を用いて説明を行うが、詳細な事項や実験原理等については教科書を使用する。実験においては、授業参加者全員が必ず実験操作を行うように実験項目を組み立てているので、全員が主体的に実験に参加することを求めている。</p> <p>特に、病原細菌を取り扱う実験では、細心の注意を払う必要がある。</p> <p>食品衛生法施行規則第 50 条第 4 号で規定された機械器具を用いた授業のほとんどは、機器の充実している倉敷市水道局浄水課水質試験センターの協力の基、授業の 1 回分を利用して、午後半日を用いた見学・研修授業を実施する。</p>						
	<p>予習・復習</p> <p>予習事項：毎回配布する「宿題」に予習事項を記載する。          次回の授業に関連する部分の教科書を通読すること。          復習事項：毎回配布する「宿題」に復習事項を記載する。  <b>【予習および復習：毎回 60 分以上（合計 120 分以上）】</b>          次回の授業開始時に「宿題」の提出を求める。</p>						
	<p>テキスト</p> <p>後藤政幸・熊谷優子 編著（2023）          「N ブックス実験シリーズ 三訂〔第 2 版〕 食品衛生学実験」 建帛社          定価 2,300 円（税別）</p>						
学習評価の方法	<p>実験・実習の 1～3 回分をまとめて計 6 回のレポートとして提出、1 回当りのレポートを 10% (6 回のレポートの総計 60%) の成績評価とする。レポートの評価基準は、返却時に講評する。また、各回の実験内容・実習内容、それらの関連事項をノートにまとめ、第 15 回授業終了時にノートを提出、ノートの記載内容を 20% の成績評価とする。これに毎回提出する「宿題」の成績 (10%) を加える。さらに、「授業受講態度」、「グループ学習」や「実験・片付けなど」への取り組み、「レポート作成」・「ノート作成」への努力・工夫も評価対象 (10%) とする。</p>						

<p>注意事項</p>	<p>【参考図書】          小塚 諭 編著 (2022)「イラスト 食品の安全性」 東京教学社          (食品衛生学Ⅰおよび食品衛生学Ⅱで使用したテキスト)          日本フードスペシャリスト協会 編 (2023)「三訂 食品の安全性 (第3版第2刷)」          (食品品質管理論で使用するテキスト)          【授業回数別教育内容 (実験・実習) の順番】          実験用資材の入手状況や水質試験センターの状況などにより変更することがある。</p>
<p>授業回数別教育内容</p>	
<p>1 回</p>	<p>授業の進め方についてシラバスを用いた説明          1) 実験を安全に行うための注意事項の説明          2) 実験ノート・レポートの取りまとめ方の説明</p>
<p>2 回</p>	<p>(1) 食品添加物検査、亜硝酸塩の検出と定量          (添加物について理解する)</p>
<p>3 回</p>	<p>(2) 微生物実験の基本操作・無菌操作          液体培地・平板培地の作製、無菌操作、光学顕微鏡の使用          方法 (微生物取り扱いの基本技術を理解する)</p>
<p>4 回</p>	<p>(3) 細菌の観察          液体培地・平板培地での培養、単染色、光学顕微鏡での観察          (実験器具の取り扱い方法を理解する)</p>
<p>5 回</p>	<p>(4) 細菌の観察          平板培地での培養、細菌増殖曲線の作成、グラム染色、光学顕微鏡での観察、          (細菌の特徴と増殖速度について理解する)</p>

6 回	(5) 鼻腔及び皮膚の細菌検査、環境調査 (人体・環境と微生物の関わりを理解する)
7 回	(6) 手指の細菌検査 グローブ・ジュース法による手指の細菌数測定と手洗い効果の判定 (人体と微生物の関わりと消毒法の問題点を理解する)
授業回数別教育内容	
8 回	(7) 細菌の培養・検査法 選択培地の原理と調製法、大腸菌群の検査法、生菌数測定の準備 (食品衛生分野における細菌検査法を理解する)
9 回	(8) 食品からの細菌の分離 食品材料からの細菌の分離 (食材中における微生物の特徴を理解する)
10 回	(9) 食品検査のまとめ、HACCP による衛生管理 (食品中の危害要因について理解を深める)
11 回	(10) HACCP システムに関するシミュレーション実習 ① 基本計画書の作成 (HACCP について理解を深める)
12 回	(11) HACCP システムに関するシミュレーション実習 ② 危害要因分析、食中毒事件対応 (現場における衛生管理を理解する)

13 回	(12) 理化学試験（水質検査、遺伝子組換え食品の分析、食品添加物の検出等）に用いる分析機器の原理と使用の実際（見学・機器講習のための予習を含む）
14 回	倉敷市水道局水質試験センターでの検査技術に関する見学・機器講習（午後半日を使用して実施）
15 回	実験、実習、講習等、全体の取りまとめ

令和7年度教育計画							
科目名	基礎栄養学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	岡田只士
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : C棟101研究室 教員在室時は随時可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： あなたたちが管理栄養士として活動（栄養評価や食事指導）するためには、正しい栄養学を身につけることが大切です。この授業では栄養の知識を体系的に理解し、身の回りに栄養に関連した問題があることに気付いてもらうことが目標です。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習効果： 管理栄養士として必要な栄養の基本（栄養と栄養素、エネルギーの考え方、食べ物の消化・吸収、体内での栄養素の変化と役割および栄養と遺伝の関係など）を概説できる。</p> <p>汎用的学習成果： 栄養に関連した諸問題（生活習慣病や食の安全など）が現代人に身近なものであることが理解できるようになる。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1. 授業はテキストの各章毎に要点を拾いだして説明する。</p> <p>2. 各章終了後にその章の確認問題を課す。確認問題は解答後に提出する。 (遅れて提出された物は減点する。)</p> <p>3. シャトルカードを利用して学生の疑問点に対して答える。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>予習項目：授業までにテキストを読んで、1回分（または1章分）の大筋を把握しておく。 毎回の予習時間に90分。</p> <p>復習項目：授業後、テキストで授業内容を復習する。各章終了後にその章の確認問題に解答し、提出物として提出する。 毎回の復習時間に90分。</p>					
	テキスト	<p>「サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 基礎栄養学」 鈴木 和春 他著、第一出版</p>					
学習評価の方法	<p>到達基準： 栄養素の基本的な働きや、体内での栄養素相互の関係と健康との関連性が体系的に理解できていること。</p> <p>評価基準： 授業態度（遅刻をしない、自分の意見を述べる、質問に答えるなど）(20%)、提出物(30%)、および期末試験の結果に50%の重みを付けて100点満点とする。</p>						
注意事項	<p>学習する上で参考となる図書等：</p> <p>○「イラスト基礎栄養学」田村 明 他著、東京教学社 本書は初学者が栄養学の概略を学ぶのに適していて、それ以降から卒業まで役立つ情報が書かれています。</p> <p>○新聞や雑誌、インターネット上に掲載されるさまざまな栄養関連記事を読んで、ある程度理解しておくことを勧めます。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>・オリエンテーション</p> <p><b>第1章 第2章 ①</b>            栄養の概念、食物の摂取について学習する①。            予習事項：第1章および第2章            復習事項：第1章および第2章</p>
2 回	<p><b>第1章 第2章 ②</b>            栄養の概念、食物の摂取について学習する②。            予習事項：第1章および第2章            復習事項：第1章および第2章</p>
3 回	<p><b>第3章 栄養素の消化・吸収と体内動態①</b>            栄養素の消化・吸収と体内動態について学習する①。            予習事項：第3章            復習事項：第3章</p>
4 回	<p><b>第3章 栄養素の消化・吸収と体内動態②</b>            栄養素の消化・吸収と体内動態について学習する②。            予習事項：第3章            復習事項：第3章</p>
5 回	<p><b>第4章 炭水化物の栄養①</b>            炭水化物の栄養について学習する①            予習事項：第4章            復習事項：第4章</p>
6 回	<p><b>第4章 炭水化物の栄養②</b>            炭水化物の栄養について学習する②            予習事項：第4章            復習事項：第4章</p>
7 回 6/3	<p><b>第5章 脂質の栄養①</b>            脂質の栄養について学習する①            予習事項：第5章            復習事項：第5章</p>
8 回	<p><b>第5章 脂質の栄養②</b>            脂質の栄養について学習する②            予習事項：第5章            復習事項：第5章</p>
9 回	<p><b>第6章 たんぱく質の栄養①</b>            たんぱく質の栄養について学習する①            予習事項：第6章            復習事項：第6章</p>
10 回	<p><b>第6章 たんぱく質の栄養②</b>            たんぱく質の栄養について学習する②            予習事項：第6章            復習事項：第6章</p>
11 回	<p><b>第7章 第8章 ビタミン・ミネラルの栄養①</b>            ビタミン・ミネラルの栄養について学習する①            予習事項：第7章および第8章            復習事項：第7章および第8章</p>

12 回	<b>第7章 第8章 ビタミン・ミネラルの栄養②</b> ビタミン・ミネラルの栄養について学習する② 予習事項：第7章および第8章 復習事項：第7章および第8章
13 回	<b>第9章 水・電解質の栄養学的意義</b> 水・電解質の栄養学的意義について学習する 予習事項：第9章 復習事項：第9章
14 回	<b>第10章 エネルギー代謝①</b> エネルギー代謝について学習する① 予習事項：第10章 復習事項：第10章
15 回	定期試験の内容について <b>第10章 エネルギー代謝②</b> エネルギー代謝について学習する② 予習事項：第10章 復習事項：第10章

令和7年度教育計画							
科目名	基礎栄養学実験	授業回数	15	単位数	1	担当教員	岡田只士
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : C棟101研究室 教員在室時は随時可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>基礎栄養学において栄養に関して学んだことを基に、本実験を通して栄養の知識を深め、論理的な考え方およびその記述能力を習得すること、また基本的な実験手技およびデータの処理技術を習得することを目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 : 管理栄養士に必要とされる知識 (栄養素の性質、消化、代謝に対する理解) が深まり、栄養のテーマに対して論理的に考え、記述説明する能力があがる。</p> <p>汎用的学習成果 : 基本的な実験手技およびデータ処理ができる。加えてグループワークによりコミュニケーション能力が養われる。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・<b>実験</b>・実習・実技)</p> <p>実験は少人数のグループに分けてローテーションまたは分担して行う。人任せにせず、積極的に実験に参加し、自分の手を動かすことが重要です。実験前にグループ内で実験内容を確認し合い、実験は間違わずに慎重に行なうこと。実験結果をノートや携帯写真などの証拠に残すこと。</p> <p>実験テーマ毎に実験レポートを、各々個人で完成させて指定日に提出してもらう。提出されたレポートは評価後に後日返却する。</p>					
法	予習・復習	予習 : 実験の流れを確認してから授業に臨むこと。					
	テキスト	印刷物を配布する					
学習評価の方法	<p>到達基準 : 実験を正しく、積極的に行動できること。および実験レポートが所定の書式により書かれ、かつ専門的な知識および記述能力がついていること。</p> <p>評価方法 : ○実験態度 (よく聞く、正しく行動する、積極的に行動する) については、毎回の授業ごとに評価する。○実験レポートについては、レポートごとに、所定の書式で書かれているか、実験の目的や方法を理解しているか、結果を理解しているか、科学的な考察がなされているかなどを指標に評価する。なお、提出期限に遅れたレポートは減点する。</p> <p>成績は、実験態度の評価 (30%) とレポートの評価 (70%) を合計して、その得点率を総合評価とする。</p>						
注意事項	<p>参考図書等 : 基礎栄養学実験 (建帛社)</p> <p>実験室内では白衣で動きやすい靴を着用すること。</p> <p>欠席すると、レポートが作成できず、その回のレポート点が0となります。やむを得ず欠席しなければならない場合は、必ず連絡をいれるようにしてください。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><b>I. オリエンテーション</b> レポートなど一般的な注意事項や、基礎的な数字の取り扱い方の説明をする。</p> <p><b>II. ミニ実験①</b> 実験器具・機器の安全な取り扱いに慣れる。(溶液の定量技術の定着) 予習項目：数字の取り扱い方、実験器具・機器の安全な取り扱い 復習項目：数字の取り扱い方、実験器具・機器の安全な取り扱い</p>
2 回	<p>レポート提出 (ミニ実験)</p> <p><b>III. 栄養素の実験 (糖質①)</b> 糖質のいろいろな定性実験を通して糖質の性質を理解する。(試薬の調製) 予習項目：糖質の定性実験、糖質の性質 復習項目：糖質の定性実験、糖質の性質</p>
3 回	<p>レポート提出</p> <p><b>III. 栄養素の実験 (糖質②)</b> 糖質の定性実験を行う。 (ヨウ素デンプン反応、ベネディクト反応、セリワノフ反応、色素との反応) 予習項目：ヨウ素デンプン反応、ベネディクト反応、セリワノフ反応、色素との反応 復習項目：ヨウ素デンプン反応、ベネディクト反応、セリワノフ反応、色素との反応</p>
4 回	<p>レポート提出</p> <p><b>III. 栄養素の実験 (糖質③)</b> 唾液によるでんぷん消化に及ぼす pH の影響。(糖の加水分解反応) 予習項目：唾液によるでんぷん消化 復習項目：唾液によるでんぷん消化</p>
5 回	<p>レポート提出</p> <p><b>III. 栄養素の実験 (糖質④)</b> 唾液によるでんぷん消化に及ぼす pH、温度の影響。 予習項目：唾液によるでんぷん消化に及ぼす pH、温度の影響 復習項目：唾液によるでんぷん消化に及ぼす pH、温度の影響、</p>
6 回	<p>レポート提出</p> <p><b>IV. 栄養素の実験 (脂質①)</b> 脂質の定性実験を通して脂質の性質を理解する。 (溶解度、乳化試験、リーベルマン・ブルハルト反応) 予習項目：溶解度、乳化試験、リーベルマン・ブルハルト反応 復習項目：溶解度、乳化試験、リーベルマン・ブルハルト反応</p>
7 回	<p>レポート提出</p> <p><b>IV. 栄養素の実験 (脂質②)</b> 脂質の定性実験を通して脂質の性質を理解する。 (溶解度、乳化試験、リーベルマン・ブルハルト反応) 予習項目：リーベルマン・ブルハルト反応 復習項目：リーベルマン・ブルハルト反応</p>

8 回	<p>レポート提出</p> <p><b>IV. 栄養素の実験（脂質③）</b></p> <p>脂質についての定性実験を行う。</p> <p>リパーゼによる脂肪の消化実験を行う。消化物（抽出脂質）は次回の実験に使う。</p> <p>予習項目：リパーゼによる脂肪の消化実験、脂質の抽出</p> <p>復習項目：リパーゼによる脂肪の消化実験、脂質の抽出</p>
9 回	<p>レポート提出</p> <p><b>IV. 栄養素の実験（脂質④）</b></p> <p>前回行った脂肪の消化物を薄層クロマトグラフィーにより分析する。</p> <p>予習項目：脂肪消化物の薄層クロマトグラフィーによる分析</p> <p>復習項目：脂肪消化物の薄層クロマトグラフィーによる分析、レポート作成</p>
10 回	<p>レポート提出</p> <p><b>V. 栄養素の実験（たんぱく質①）</b></p> <p>たんぱく質のいろいろな定性実験を通してたんぱく質の性質を理解する。</p> <p>たんぱく質の定性反応（等電点沈殿）</p> <p>予習項目：等電点沈殿</p> <p>復習項目：等電点沈殿</p>
11 回	<p>レポート提出</p> <p><b>V. 栄養素の実験（たんぱく質②）</b></p> <p>たんぱく質の呈色反応（ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、ホプキンス・コーレ反応、酸凝固、沈殿反応など）</p> <p>予習項目：ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、ホプキンス・コーレ反応、酸凝固、沈殿反応</p> <p>復習項目：ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、ホプキンス・コーレ反応、酸凝固、沈殿反応</p>
12 回	<p>レポート提出</p> <p><b>V. 栄養素の実験（たんぱく質③）</b></p> <p>たんぱく質の呈色反応（ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、ホプキンス・コーレ反応、酸凝固、沈殿反応など）</p> <p>予習項目：酸凝固、沈殿反応</p> <p>復習項目：酸凝固、沈殿反応</p>
13 回	<p>レポート提出</p> <p><b>V. 栄養素の実験（たんぱく質④）</b></p> <p>ペプシンによるたんぱく質消化に及ぼす pH の影響</p> <p>予習項目：ペプシンによるたんぱく質消化</p> <p>復習項目：ペプシンによるたんぱく質消化、レポート作成</p>
14 回	<p>レポートの提出</p> <p><b>VI. 実験動物を用いた実験</b></p> <p>動物実験の説明、実験動物の解剖、消化管の観察など</p> <p>予習項目：実験動物の解剖、消化管の観察など</p> <p>復習項目：実験動物の解剖、消化管の観察など</p>
15 回	<p>レポート提出</p> <p>実験の後始末、整理、総まとめ</p>

令和7年度教育計画

科目名	運動栄養学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	清水 憲二
質問受付の方法：(質問票、e-mail, オフィスアワー等)：シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp、 オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前10時～12時が望ましい。							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 運動・トレーニングに伴う栄養所要量とエネルギー代謝、運動と栄養素の関係、運動と栄養補給との関係、並びに運動選手とのコミュニケーションおよび栄養管理について学習する。身体組成と食事の関連性や健康維持を目標とする際の運動の重要性が理解できることを目標とする。 学生の学習成果： [専門的学習成果]：運動を行なっている人の身体的状況判断、状況判断に対応できる基礎知識と思考力、および判断に基づいた考えを伝えるコミュニケーション能力が身につけていること。 [汎用的学習成果]：シャトルカードの質問提示による課題発見力、予習・復習の徹底による学習方法の確立を果たし、管理栄養士として必要な学力と思考力、応用力を身につける。						
	授業の進め方	(講義)・演習・実験・実習・実技 教科書(「運動生理・栄養学」建帛社)に沿って講義形式で授業を行う。重要項目は理解を助けるために重点的にプリントあるいは板書を行ない、説明をする。 講義に際しては、シャトルカードで毎回質問を提出してもらい、翌週にそれらの回答プリントを配布して、個人毎の疑問に答える。また、その他にも到達度を測る小テストを適宜行ない、知識の自己点検と予習、復習の評価を行なう。					
教育方法	予習・復習	予習：シラバスまたは講義の進捗状況に従い、教科書の予定講義範囲を前もって読む でおき、シャトルカードに記入する質問を自力で発見して別紙に記録しておく。講義予定日の3日前から1日30分程度の予習を計3回、総計90分は実施する。 講義中：自らの手を動かす、ノートを作成するのが受講の基本である。予習および講義中に疑問点を発見したら、必ずシャトルカードに質問として提出する！ 復習：講義を受けたあとは、必ず教科書の該当部分を読み直し、講義で指摘された重要事項を「重要事項ノート」に記入しておく。具体的には、講義があった日から3日以内に、1回30分程度、計90分をこれらの復習にあてる。復習は予習よりも重要である。復習の確認については、重要事項復習テストを					
	テキスト	高松薫、山田哲雄 編集・Nブックス「運動生理・栄養学(第3版)」, 建帛社、2.200円+税 必要に応じて3年次の運動生理学の教科書：樋口、湊、寺田 著(2018)「栄養・スポーツ系の運動生理学」南江堂、も講義資料として使用する。					
成績評価の方法	運動と栄養との相関概念、運動不足による生理機能低下が如何に健康に影響を与えるか、運動による身体の生理機能の向上について理解ができていることを単位の認定基準とする。運動の意義について理解をしている事を前提とし、授業が7～8割進行した段階で、中間テストを実施する。これは自己点検を主な目的とするが、予習/復習を正確に反映するので成績評価にもある程度勘案する。また、年度内に数回行なう重要事項復習テストの結果も成績評価に加える。重要事項復習テストの結果と中間テストを合わせて20点満点で評価し、試験期間中に期末試験を行ない(80点)、合計100点満点中60点以上を合格とする。						

注 意 事 項	<p>参考図書：</p> <p>Fred Brouns・(1997)・スポーツ栄養の科学的基礎・(樋口満監訳)・杏林書院</p> <p>小林修平(1995) スポーツ指導者のためのスポーツ栄養学, 南江堂</p> <p>授業中の私語は固く禁じる(退室を命じることもある)。</p>
------------------	--

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション：シラバスの説明</p> <p>授業の進め方、予習および復習の必要性と重要事項復習テストの実施方法などを説明する。</p> <p>運動・トレーニングにおける栄養学とは何なのか、大まかに全体像を把握する。</p> <p>3年次後期で学習した「運動生理学」の復習テストを行なう。</p>
2 回	<p>復習テストの解説と確認</p> <p>健康・体力づくりの意義と運動の効用：</p> <p>栄養、運動、休養、運動不足の悪影響、運動とQOLなどについて学習する。</p>
3 回	<p>復習内容の確認</p> <p>運動・トレーニングと身体の応答：</p> <p>健康・体力と身体諸機能、生体内代謝との関係について学習する。</p> <p>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化(1)</p> <p>神経と感覚器系、骨格と筋肉系、呼吸と循環器系</p>
4 回	<p>復習内容の確認</p> <p>運動・トレーニングと身体の応答：</p> <p>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化(2)</p> <p>内分泌系、消化器系、泌尿器系、体温調節機能、免疫系</p>
5 回	<p>復習内容の確認</p> <p>運動・トレーニングと身体の応答：</p> <p>運動・トレーニングによる生体内代謝の変化(1)</p> <p>エネルギー、炭水化物、脂質</p>
6 回	<p>復習内容の確認</p> <p>運動・トレーニングと身体の応答：</p> <p>運動・トレーニングによる生体内代謝の変化(2)</p> <p>タンパク質、ビタミン、無機質</p>
7 回	<p>復習内容の確認</p> <p>トレーニングと食生活：トレーニングの基本的な考え方</p> <p>トレーニングの定義・原則および手順について学習する。</p> <p>トレーニングの実際：</p> <p>トレーニングの目標、運動の作り方(筋力運動、パワー運動、エアロビック運動、計画の立て方、体力水準、効果の評価の仕方等)について学習する。特に、運動によるエネルギー消費量の計算法を修得し、減量や増量の目標設定と検証に役立てる。</p>
8 回	<p>復習内容の確認</p> <p>食生活の基本的な考え方</p> <p>公衆栄養学の範囲ではあるが「食生活と健康日本 21」、「食生活指針」、「食事バランスガイド」</p> <p>「食事摂取基準」について簡潔に再度復習する。</p> <p>健康増進・競技力向上のための食生活について学習する。</p>

9 回	<p>復習内容の確認</p> <p>成長期のトレーニング：  健常者：成長期（幼児期、学童期、思春期）の身体的特性について学習する。  健常者：幼児期、学童期、思春期の身体的特性と体力に合わせたトレーニングの方法について学習する。</p> <p>成長期の食生活：  幼児期、学童期、思春期の身体的特性と運動に必要なエネルギー摂取とその方法を学ぶ。</p>
10 回	<p>復習内容の確認</p> <p>成人期の機能的特性：  成人の食生活（特徴、問題点、留意事項）について学習する。</p> <p>成人期の機能的特性：  身体的、精神的、社会的特性とトレーニングについて学習する。  トレーニングの方法（筋力、エアロビック、ストレッチ、コーディネーション運動）について学習する。</p>
11 回	<p>復習内容の確認</p> <p>高齢期の機能的特性：  高齢期の身体的、精神的、社会的特性について学習する。</p>
12 回	<p>復習内容の確認</p> <p>高齢期の機能的特性：  高齢期のトレーニング・運動の行い方（筋力、エアロビック、ストレッチ等）を学習する。  高齢期の食生活（特徴、問題点、留意事項）について学習する。  この段階で、中間テストとしての総合小テストを行なう。</p>
13 回	<p>復習内容の確認；中間試験の答案返還と解説。</p> <p>競技者の機能的特性：  トレーニングの種類（トレーニングの種類による違い）とその効力（トレーニングで得た能力のフィールドへのフィードバック）について学習する。</p>
14 回	<p>復習内容の確認</p> <p>競技者の機能的特性  トレーニング期、試合期における食事内容、食事の摂取タイミングなどを学ぶ。</p>
15 回	<p>復習内容の確認</p> <p>有疾患者への運動・食事療法  （高血圧症、糖尿病、虚血性心疾患に対する食事および運動療法について学習する（重要）。</p>

令和7年度教育計画

科目名	応用栄養学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	妹尾良子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 木曜日 15:00~16:00 金曜日 12:00~12:30							
教育目標と学生の学習成果	<p><b>教育目標</b> : 応用栄養学では、人間が誕生してから死に至るまでのさまざまなライフステージに加え、運動および特殊環境 (ストレス、低温高温・低圧高圧環境など) における人体の生理的特徴を理解するとともに各ステージの身体状況や栄養状態に応じた栄養ケア・マネジメントのあり方を身につけることを教育目標とする。</p> <p><b>学生の学習成果</b> : 専門的学習成果 : ライフステージおよび運動・特殊環境下における身体的特性や栄養特性、栄養ケア・マネジメントのあり方について理解することができる。</p> <p>汎用的学習成果 : さまざまなライフステージや栄養ケア・マネジメントのあり方について個々の特徴をとらえ、柔軟に発想ができる。</p>						
	教育	<p><b>授業の進め方</b></p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業は、ライフステージおよび運動・特殊環境下における身体的特性や栄養特性、栄養ケア・マネジメントのあり方について理解を求める。授業の開始時に前回授業についての小テストを行い、問題に解説を捕捉する。</p> <p>専門用語が多いので、講義で出てきた用語を十分理解していること。難解な用語については、授業中・またはシャトルカードなどで積極的に質問するなどして解決を図ること。</p>					
方法	予習・復習	<p>予習 : シラバスに記載してある予習内容について、教科書をよく目を通しておく。毎回の授業の予習を行う (90分)。</p> <p>復習 : 講義で出てきた用語を十分理解するために、必ずノートを作って知識を整理して小テストに備えておくこと。(90分)。</p>					
	テキスト	「イラスト 応用栄養学」、田村 明ら著、東京教学社					
学習評価の方法	<p><b>到達基準</b> : 教育目標 : 応用栄養学では、人間が誕生してから死に至るまでのさまざまなライフステージに加え、運動および特殊環境 (ストレス、低温高温・低圧高圧環境など) における人体の生理的特徴を理解するとともに各ステージの身体状況や栄養状態に応じた栄養ケア・マネジメントのあり方を理解する</p> <p>評価の方法 : 期末試験結果を70%と、日頃からの学習 (練習問題に解答する等) 20%と、授業態度10%とする。</p>						
注意事項	<p>「日本人の食事摂取基準&lt;2025年版&gt;」、第一出版</p> <p>「応用栄養学実習ワークブック」みらい</p>						
授 業 回 数 別 教 育 内 容							

1 回	授業の進め方についての説明とシラバス解説 1) 成長・発達・加齢 成長、発達、加齢の概念 次回までに教科書の妊娠期・授乳期の生理的特徴を読んでおく
2 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 2) 妊娠期・授乳期の生理的特徴① 次回までに教科書の妊娠期・授乳期の栄養ケア・マネジメントを読んでおく
3 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 2) 妊娠期・授乳期の栄養ケア・マネジメント② 次回までに教科書新の生児期・乳児期の生理的特徴と 栄養ケア・マネジメントを読んでおく
4 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 3) 新生児期・乳児期の生理的特徴と栄養ケア・マネジメント 次回までに教科書の成長期（幼児期）生理的特徴と栄養ケア・マネジメント P7 を読んでおく
5 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 4) 成長期（幼児期）生理的特徴と栄養ケア・マネジメント 次回までに教科書の成長期（学童期）生理的特徴と栄養ケア・マネジメントを読んでおく
6 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 5) 成長期（学童期）生理的特徴と栄養ケア・マネジメント 次回までに教科書の成長期（思春期）生理的特徴と栄養ケア・マネジメントを読んでおく
7 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 6) 成長期（思春期）生理的特徴と栄養ケア・マネジメント 次回までに教科書の成人期の生理的特徴を読んでおく
8 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 7) 成人期の生理的特徴① 次回までに教科書の成人期の栄養ケア・マネジメントを読んでおく
9 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 7) 成人期の栄養ケア・マネジメント② 次回までに教科書の高齢期生理的特徴を読んでおく

コメントの追加 [良妹1]:

10 回	<p>前回授業内容の小テストで理解の確認</p> <p>8) 高齢期生理的特徴①</p> <p>次回までに教科書の高齢期栄養ケア・マネジメントを読んでおく</p>
11 回	<p>前回授業内容の小テストで理解の確認</p> <p>8) 高齢期栄養ケア・マネジメント②</p> <p>次回までに教科書の運動時の生理的特徴と栄養ケア・マネジメントを読んでおく</p>
12 回	<p>前回授業内容の小テストで理解の確認</p> <p>9) 運動時の生理的特徴と栄養ケア・マネジメント</p> <p>次回までに教科書のストレス時における栄養ケア・マネジメントを読んでおく</p>
13 回	<p>前回授業内容の小テストで理解の確認</p> <p>10) 環境と栄養管理①</p> <p>ストレス時における栄養ケア・マネジメント</p> <p>次回までに教科書の特殊環境における栄養ケア・マネジメントを読んでおく</p>
14 回	<p>前回授業内容の確認と問題解決案を作成する</p> <p>10) 環境と栄養管理②</p> <p>特殊環境における栄養ケア・マネジメント・</p> <p>次回までに1回～14回までの授業の復習をしておく</p>
15 回	<p>まとめ ライフステージ別の特徴と栄養ケア・マネジメントのポイントと</p> <p>1回～14回までのまとめと質問</p>

令和7年度教育計画

科目名	栄養アセスメント	授業回数	15	単位数	2	担当教員	妹尾良子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 木曜日 15:00~16:00 金曜日 12:00~12:30							
教育目標と学生の学習成果	<p><u>教育目標</u> : 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>より良い栄養管理を実践するために栄養アセスメントの意義を理解し、アセスメントに必要な基礎力を高める知識と技術を修得する。「日本人の食事摂取基準」から各栄養素についての指標と算出方法を理解し、対象者に応じた栄養指標の選択と栄養評価・判定から問題解決策の作成について学ぶ。</p> <p><u>学生の学習成果</u> : 栄養アセスメントの意義を理解し栄養管理の流れを知る。「日本人の食事摂取基準」を理解し、対象者の栄養状態を各項目別に評価・判定することによって問題点を抽出できる知識の蓄積ができています。また、情報を総合的に判定し問題解決策の作成に関する汎用的学習成果が向上している。</p>						
	教育方法	<p><u>授業の進め方</u></p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業は、「日本人の食事摂取基準 (2025年版)」がアセスメントのベースになっているので、各栄養素について指標の算定方法について概説する。また人体や栄養についての医学・栄養基礎知識の追加と栄養状況把握法の理解を求める。授業の開始時に前回授業についての小テストを行い、問題に解説を捕捉する。</p> <p>専門用語が多いので、講義で出てきた用語を十分理解していること。難解な用語については、授業中・またはシャトルカードなどで積極的に質問するなどして解決を図ること。</p>	<p><u>予習・復習</u></p> <p>予習：シラバスに記載してある予習内容について、教科書をよく目を通しておく。毎回の授業の予習を行う (90分)。</p> <p>復習：講義で出てきた用語を十分理解するために、必ずノートを作って知識を整理して小テストに備えておくこと。(90分)。</p>	<p><u>テキスト</u></p> <p>「日本人の食事摂取基準&lt;2025年版&gt;」、第一出版 「栄養管理の基本 栄養ケア・マネジメントと食事摂取基準の理解」医歯薬出版</p>			
学習評価の方法	<p><u>到達基準</u> : 日本人の食事摂取基準を理解し、栄養評価 (栄養スクリーニング、身体計測、生化学検査、免疫能検査、尿検査、栄養・食事摂取状況調査) の成績に基づいた個々人に適した栄養管理 (栄養ケア・マネジメント) を行うための理論と方法についての基礎力を修得している。</p> <p>学習評価の方法は、期末試験結果を 70%と、日頃からの学習 (練習問題に解答する等) 12%とし、汎用的学習成果に関しては症例検討総合討論 (話をよく聞く、質問に答えるなど) 8%と授業態度 10%して評価する。</p>						
注意事項							

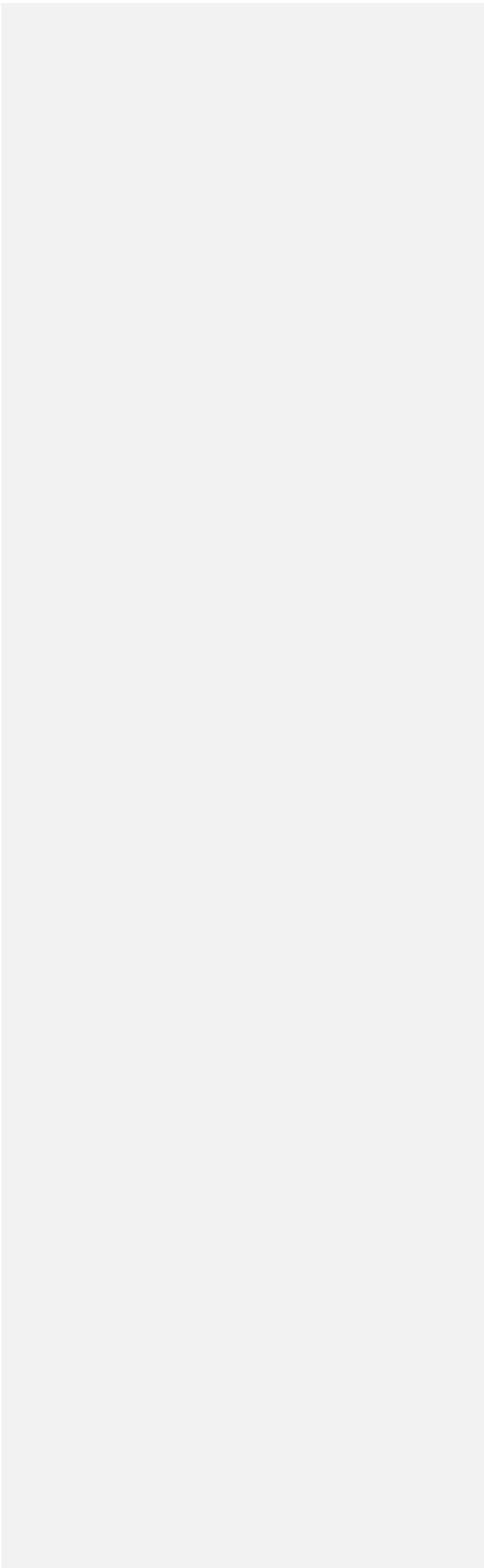
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	授業の進め方についての説明とシラバス解説 1. 栄養管理 の流れ 1) 栄養アセスメントの意義と方法 栄養ケア・マネジメントと栄養管理プロセス 次回までに教科書 P37～55、「日本人の食事摂取基準 2020 年版」P1～46 を読んでおく
2 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 II. 食事摂取基準 (1) 策定方針及び基本事項 活用にに関する基本事項 次回までに教科書 P56～65 「日本人の食事摂取基準 2020 年版」P51～105 を読んでおく
3 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 II. 食事摂取基準 (2) エネルギー必要量の推定と体重管理 推定エネルギー必要量の算定方法 次回までに教科書 P66～69 「日本人の食事摂取基準 2020 年版」P106～170 を読んでおく
4 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 II. 食事摂取基準 (3) エネルギー産生栄養素の指標設定の基本的な考え方 エネルギー産生栄養素バランス 次回までに教科書 P70～75 「日本人の食事摂取基準 2020 年版」P171～375 を読んでおく
5 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 II. 食事摂取基準 (4) ビタミン・ミネラル・水分の指標設定の基本的な考え方 健康の保持・増進 生活習慣病の重症化予防 活用に当たっての留意事項 対象特性 (妊婦・授乳婦/乳児・小児/高齢者) 次回までに教科書 P7 を読んでおく
6 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 III. 栄養評価 1) 栄養障害のスクリーニング 主観的包括的アセスメント (SGA) その他: MUST MNA NRS 成長曲線 次回までに教科書 P121～129 を読んでおく
7 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 III. 栄養評価 2) 客観的栄養アセスメント (ODA) ①身体計測アセスメント項目 身長と体重 / 体脂肪 / 骨格筋 / その他 (間接熱量測定機 身体所見) 次回までに教科書 129～134 を読んでおく
8 回	前回授業内容の小テストで理解の確認 III. 栄養評価 2) 客観的栄養アセスメント (ODA) ②-1 臨床生化学的検査項目 血液検査 (タンパク質・アミノ酸 糖質 脂質) 次回までに教科書 P129～140 を読んでおく

9 回	<p>前回授業内容の小テストで理解の確認</p> <p>Ⅲ. 栄養評価</p> <p>2) 客観的栄養アセスメント (ODA)</p> <p>②-2 臨床生化学的検査項目</p> <p>血液検査 (ビタミン・ミネラル)</p> <p>次回までにもう一度教科書 P129~140 読んでおく</p>
10 回	<p>前回授業内容の小テストで理解の確認</p> <p>Ⅲ. 栄養評価</p> <p>3) 免疫能アセスメント</p> <p>侵襲反応と免疫能 免疫能検査 SIRS の診断基準</p> <p>4) 尿検査 (窒素出納、尿中クレアチニン、3-メチルヒスチジン)</p> <p>次回までに教科書 P91~120 を読んでおく</p>
11 回	<p>前回授業内容の小テストで理解の確認</p> <p>Ⅲ. 栄養評価</p> <p>5) 栄養・食事摂取状況調査</p> <p>次回までに教科書 P7 を読んでおく</p>
12 回	<p>前回授業内容の小テストで理解の確認</p> <p>Ⅳ. 目的別栄養指標</p> <p>① 静的栄養指標</p> <p>② 動的栄養指標</p> <p>③ 予後判定栄養指標</p> <p>次回までに 3 回~8 回、11 回、12 回の授業の復習をしておく</p>
13 回	<p>前回授業内容の小テストで理解の確認</p> <p>Ⅴ. 健康寿命延伸教室への栄養アセスメント活用</p> <p>①次世代からすべての世代に繋がる栄養状態の評価項目からの判定基準</p> <p>②問題点を抽出し健康づくり (生活習慣形成、疾病予防・重症化予防、介護予防・フレイル予防) へのプランニング</p> <p>③アセスメント項目</p> <p>食事摂取状況調査/身体活動量 (生活+運動) /喫煙/ 既往歴</p> <p>身長・体重、体成分分析 / 骨密度 / 血圧、脈波 / ヘモグロビン濃度</p> <p>④ 症例について問題解決策をグループごとで作成する。</p> <p>次回までに 13 回の問題解決策のまとめをしておく</p>
14 回	<p>前回授業内容の確認と問題解決策を作成する</p> <p>Ⅵ. 健康寿命延伸教室への問題解決策の提案をグループごとに発表する</p> <p>互いのグループ間の解決策を聞き栄養アセスメントの理解を深める。</p> <p>次回までに 1 回~12 回までの授業の復習をしておく</p>
15 回	<p>栄養管理 (栄養ケア・マネジメント) 1 回~12 回までのまとめと質問</p>

令和7年度教育計画							
科目名	応用栄養学実習	授業回数	15	単位数	1	担当教員	妹尾良子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) :							
教育目標と学生の学習成果	<p><b>教育目標</b> : 応用栄養学で学んだ各ライフステージにおける栄養管理の基本的な考え方を理解したうえで、妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養ケア・マネジメントの具体的な基本技能を習得することを目的とする。健康寿命延伸のためには、疾病予防・重症化予防、介護予防など広い範囲の知識が重要である。多様化する対象者のライフステージやライフスタイルに応じた健康課題について論理的思考により最適な栄養管理を目指した総合力を養う。</p> <p><b>学生の学習成果</b> : 各ライフステージの栄養管理を理解し、計測値、食事調査から栄養状態を客観的に評価・判定できる。 (多様性理解の育成)            栄養状態の改善に向け対象者に適切な栄養ケア計画を作成し、モニタリングによる改善指標を設定できる。 (問題解決力・論理的思考力の育成)</p> <p>汎用的学習成果 : 作成したケア計画をグループ協議し、内容をプレゼンテーションできる。</p>						
	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>毎授業後の最初に簡単に実習内容を説明する。その後、実習テーマに沿って栄養評価に必要なデータ収集をし、評価判定を行い栄養計画を立てる。グループ内で協議し、最後に栄養ケア・マネジメントをプレゼンテーションする。チーム単位のディスカッションとプレゼンテーションの内容をまとめて各人が提出する。</p>					
教育方法	予習・復習	<p>予習 : シラバスに記載してある予習内容について、教科書をよく目を通しておく。毎回の授業の予習を行う (90分)。            復習 : 実習後早期に、内容を振り返りポイントを押さえて科学的視点で論理的にレポートにまとめる。(90分)。</p>					
	テキスト	<p>「応用栄養学実習ワークブック」山本由紀子ライフステージ編 みらい            「イラスト 応用栄養学」田村 明ら著 東京数学社</p>					
学習評価の方法	<p>到達基準 : ①各ライフステージの栄養管理を理解し、計測値、食事調査から栄養状態を客観的に評価・判定できる。            ②栄養状態の改善に向け対象者に適切な栄養ケア計画を作成し、モニタリングによる改善指標を設定できる。            ③作成したケア計画をグループ協議し、内容をプレゼンテーションできる。</p> <p>学習評価の方法 : ①栄養計画書のレポート6件分提出 60%            ②授業内での計測記録等提出物 10%            ③汎用的学習成果としてグループディスカッション、プレゼンテーション力 (話をよく聞く、質問に答えるなど3件分) 30%</p>						
注意事項	<p>参考図書「日本人の食事摂取基準&lt;2025年版&gt;」第一出版            日本食品成分表 2022 八訂 栄養計算ソフト・電子版付 (医歯薬出版)</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>I. 授業の進め方についての説明とシラバス解説</p> <p>1. 栄養ケア・マネジメントと実習の進め方</p> <p>2. 栄養アセスメント（身体計測1） 身長、指極（上腕両翼長）、膝高、体重 課題：身体計測データをレポート提出する</p>
2 回	<p>3. 栄養アセスメント（身体計測2） 上腕三頭筋皮下脂肪厚、肩甲骨下部皮下脂肪厚、上腕周囲長、下肢周囲長、腹囲 T-scan PLUS（体成分分析装置）による計測 課題：身体計測データをレポート提出する</p>
3 回	<p>II. ライフステージ別栄養マネジメント</p> <p>1. 成人期（壮年・中年期）の栄養管理実習① 生活習慣病予防のための栄養アセスメントを学ぶ。 予習：教科書P169～181を読んでおく 課題：次回までに栄養アセスメント実習ワークシートにまとめる</p>
4 回	<p>成人期（壮年・中年期）の栄養管理実習② 栄養状態の総合的評価と食生活改善の計画案をグループで協議 予習：教科書P181を読んでおく。実習ワークシートをまとめておく 課題：グループディスカッションの内容をまとめ、プレゼンテーションの準備をする。</p>
5 回	<p>成人期（壮年・中年期）の栄養管理実習③ 成人期の栄養マネジメントについてプレゼンテーションを行う。 他グループとの討論・評価を行う。 予習：プレゼンテーションの準備をする。 課題：他グループとの討論・評価の後、成人期の栄養マネジメントについてまとめる。</p>
6 回	<p>2. 妊娠期・授乳期の栄養管理① 妊婦の栄養アセスメントを学ぶ 予習：教科書P58～76を読んでおく 課題：次回までに栄養アセスメント実習ワークシートにまとめる</p>
7 回	<p>妊娠期・授乳期の栄養管理② 栄養状態の総合的評価と食生活改善の計画案をグループで協議 予習：教科書P64～68を読んでおく。実習ワークシートをまとめておく 課題：グループディスカッションの内容をまとめ、プレゼンテーションの準備をする。</p>

8 回	<p>妊娠期・授乳期の栄養管理③          妊娠期の栄養マネジメントについてプレゼンテーションを行う。          他グループとの討論・評価を行う。          予習：プレゼンテーションの準備をする。          課題：他グループとの討論・評価の後妊娠期・授乳期の栄養マネジメントについてまとめる。</p>
9 回	<p>3. 乳児期の栄養管理演習          発育状況の評価方法と食生活の支援方法について学ぶ          予習：教科書 P89～106 を読んでおく          課題：乳児期の食生活支援についてレポートにまとめる。</p>
10 回	<p>4. 幼児期栄養管理演習          身体発育曲線を使用したアセスメントとアレルギー対応食について学ぶ。          保育園のアレルギー代替食の作成          予習：教科書 P107～126 を読んでおく          課題：アレルギー代替食の献立作成</p>
11 回	<p>5. 高齢期の栄養管理演習①          低栄養状態の高齢者（1人暮らし・自立）に対するアセスメントと栄養改善計画について学ぶ。          栄養不足を改善する献立例を1食考える。          予習：教科書 P190～198 を読んでおく          課題：献立例を1食作成する。</p>
12 回	<p>高齢期の栄養管理演習②          高齢者栄養改善計画の食事計画についてグループ討議し、栄養不足を改善する献立例を1食決定する。          予習：実習ワークシートから、栄養状態の総合的評価と食生活改善の計画案を考える。          課題：他グループとの討論・評価の後、高齢期の栄養マネジメントについてまとめる。</p>
13 回	<p>高齢期の栄養管理演習③          高齢期の栄養マネジメントについてプレゼンテーションを行う。          他グループとの討論・評価を行う。          予習：プレゼンテーションの準備をする。          課題：他グループと評価の後、高齢期の栄養ケア・マネジメントについてまとめる。</p>
14 回	<p>6. 運動・スポーツ時の栄養管理          身体組成の評価、健康状態の評価、生活活動から食事量の評価を行う。          予習：教科書 P199～221 を読んでおく。          課題：運動・スポーツ時のアセスメントワークシートをまとめる。</p>
15 回	<p>運動・スポーツ時の栄養管理          栄養状態の総合的評価と食生活改善の計画案をグループで協議          予習：運動・スポーツ時のアセスメントワークシートをまとめる。          課題：運動・スポーツ時の食生活支援についてレポートにまとめる。</p>



令和7年度教育計画							
科目名	栄養教育論 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	石高優子
質問受付の方法 e-mail uchida@owc.ac.jp, オフィスアワー等： 在室時はいつでも受け付けます							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である          個々人の健康・栄養状態、食行動、食環境等の評価・判定に基づいて栄養教育プログラムの作成、実施、評価を総合的にマネジメントする能力を養う。そのために必要な健康・栄養教育に関する理論と方法について基礎的な知識を修得する。          また、その知識を応用し、ライフステージ毎の特徴の理解、適した栄養教育方法の選択ができるようになる。</p> <p>学生の学習成果：          専門的学習成果：①栄養教育の目的と意義を説明できる。②管理栄養士としての倫理と態度を説明できる。③栄養教育マネジメントについて理解し、実践できる。④集団、組織、地域に関わる理論や概念が説明できる。          汎用的学習成果：管理栄養士としての倫理観の獲得。栄養教育マネジメントを組み立てる中で論理的思考力を養う。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方          (講義)・演習・実験・実習・実技          ・授業は、講義を中心にテキスト、プリントなどを利用して進める。          ・授業中に疑問点があれば、積極的に質問を行うように求める。          ・授業開始時に定期的に「小テスト」を行う。          ・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。          ・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。</p> <p>予習・復習          ・予習：「授業回数別教育内容」にある講義範囲に目を通し予習プリントを埋めておく          ・復習：予習プリント、授業で学んだ用語、教科書の内容をまとめてノートに整理。          学習時間の目安：予習・復習各90分</p> <p>テキスト          ・visual 栄養学テキスト 栄養教育論/中山書店</p>					
学習評価の方法	<p>以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。</p> <p>① 栄養教育の目的、目標を説明できる。          ② 栄養教育マネジメントの流れを説明できる。          ③ 栄養マネジメントに用いる理論を説明できる。          ④ 集団、組織、地域にかかわる理論や概念を説明できる。</p> <p>学習評価は、定期試験および小テスト、提出課題の結果を総合して行う。          評価の割合は、定期試験 70 点、小テスト 20 点。提出課題 10 点          小テストは点数をつけて授業内に返却し解説する。提出課題は次回講義時に得点をつけて返却し、講評を行う。          なお、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）についての評価は全授業を通して行う。</p>						
注意事項	<p>参考資料          授乳・離乳の支援ガイド</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1回	<p>栄養学総論（1）</p> <p>■学習目標 管理栄養士の仕事、栄養教育を行うために必要な管理栄養士の資質が説明できる。</p> <p>■講義内容 ・栄養教育論の内容、進め方、評価方法について説明 ・プロフェッショナルとしての管理栄養士</p> <p>■予習・復習事項 復習 テキストの該当箇所、ノートを見ながら本時の内容を整理する</p>
2回	<p>栄養学総論（2）</p> <p>■学習目標 栄養教育に関連の深い歴史について説明できる。栄養教育の役割を説明できる。</p> <p>■講義内容 ・栄養教育の歴史 ・栄養教育の定義</p> <p>■予習・復習事項 教科書の確認とノートの整理</p>
3回	<p>栄養学総論（3）</p> <p>■学習目標 栄養教育と健康教育、ヘルスプロモーション、食育の関係が説明できる。</p> <p>■講義内容 ・ヘルスプロモーション、食育 ・生態学的モデル</p> <p>■予習・復習事項 教科書の確認とノートの整理</p>
4回	<p>栄養教育マネジメント（1）</p> <p>■学習目標 PDCA サイクルと各段階の内容を理解する。情報収集、アセスメント法が説明できる。</p> <p>■講義内容 ・栄養マネジメントサイクルについて ・アセスメントと情報収集の方法</p> <p>■予習・復習事項 アセスメント方法について整理する</p>
5回	<p>栄養教育マネジメント（2）</p> <p>■学習目標 目標の種類と設定方法を理解する。評価を考えた具体的な目標が設定できる。</p> <p>■講義内容 ・優先課題の見つけ方 ・目標の種類について</p> <p>■予習・復習事項 目標の種類を整理する。</p>
6回	<p>栄養教育マネジメント（3）</p> <p>■学習目標 計画書の作成方法を理解する。対象者に応じた学習教材が選択できる。</p> <p>■講義内容 ・計画書の種類と作成方法 ・対象者に応じた学習媒体</p> <p>■予習・復習事項 学習媒体の具体例を探し、自分が覚えやすいようにまとめる。</p>

7回	<p>栄養教育マネジメント（4）</p> <p>■学習目標 プログラムや対象者のライフステージにあわせた学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 ・対象者に応じた学習形態 ・実施と記録</p> <p>■予習・復習事項 学習形態をまとめる。</p>
8回	<p>栄養教育マネジメント（5）</p> <p>■学習目標 評価の種類と方法を理解する。適切な評価を行い、プログラムの見直し改善を行うことができる。</p> <p>■講義内容 ・企画評価、経過評価、影響評価、結果評価</p> <p>■予習・復習事項 評価の種類を整理する</p>
9回	<p>栄養教育マネジメント（6）</p> <p>■学習目標 評価結果から改善案を見つけ出すことができる。</p> <p>■講義内容 ・事業改善 ・評価のマネジメント</p> <p>■予習・復習事項 評価計画の手順をまとめる</p>
10回	<p>栄養教育マネジメント（7）</p> <p>■学習目標 栄養教育マネジメントで音痴いる理論、モデルが理解できる。</p> <p>■講義内容 ・プリシード・プロシードモデル ・ソーシャルマーケティング</p> <p>■予習・復習事項 各理論の重要ワードを整理し覚える</p>
11回	<p>栄養教育マネジメントの実践</p> <p>■学習目標 課題抽出から評価の指標の設定までを行うことができる。</p> <p>■講義内容 ・事例を用いて、栄養教育計画書を作成する</p> <p>■予習・復習事項 栄養教育マネジメントの流れを確認する</p>
12回	<p>食環境整備と栄養教育</p> <p>■学習目標 食環境整備が食行動の変容に必要であることを理解する。個人の食行動に影響を及ぼす環境要因を説明することができる。</p> <p>■講義内容 ・食物へのアクセスと情報へのアクセス ・食環境整備の政策と栄養教育</p> <p>■予習・復習事項 身近な食環境整備を調べる</p>

13回	<p>栄養教育の対象と機会（1）</p> <p>■学習目標 ライフステージの特徴を説明できる。</p> <p>■講義内容 ・ライフステージの特徴と栄養教育</p> <p>■予習・復習事項 ライフステージ別の特徴を整理する。</p>
14回	<p>栄養教育の対象と機会（2）</p> <p>■学習目標 管理栄養士の働く場と栄養教育の特徴を理解できる。</p> <p>■講義内容 ・組織、地域のレベルでみた対象と機会</p> <p>■予習・復習事項 地域社会での栄養教育の場をまとめる</p>
15回	<p>まとめ</p> <p>■学習目標 定期試験に向けて栄養教育論Ⅰの内容を理解することができる</p> <p>■講義内容 ・栄養教育論Ⅰのまとめ</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	栄養教育論Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	石高優子
質問受付の方法 e-mail:uchida@owc.ac.jp, オフィスアワー等： 在室時はいつでも受け付けます							
教育目標と学生の学習成果	<p><u>教育目標</u>：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>栄養教育論Ⅰの知識を応用してライフステージ別の特徴、健康課題を理解し、それに適したアセスメント、教材選択ができる。</p> <p>そのために、栄養教育で用いる行動科学の各理論とモデルの特徴及び、行動変容の技法について理解し、また、栄養カウンセリングの目的、基本的技法を身に着け、行動変容理論等を使い、対象者の食行動変容支援に応用することができる。</p> <p><u>学生の学習成果</u>：①行動科学の理論とモデルを説明できる。②栄養カウンセリングの基本技法を実践できる。③ライフステージ別の栄養教育が計画できる。</p> <p><u>汎用的学習成果</u>：対象者に応じた栄養教育を実施するため、論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション力をつける。</p>						
	教育方法	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、講義を中心にテキスト、プリントなどを利用して進める。</li> <li>・授業中に疑問点があれば、積極的に質問を行うように求める。</li> <li>・授業開始時に定期的に「小テスト」を行う。</li> <li>・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。</li> <li>・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：「授業回数別教育内容」にある講義範囲に目を通す。</li> <li>・復習：復習プリントを中心に、教科書、ノートをあわせて授業内容を整理する。</li> </ul> <p>学習時間の目安：予習・復習各 90 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・visual 栄養学テキスト 栄養教育論/中山書店</li> </ul>			
学習評価の方法	<p>学習評価は、定期試験および小テスト、予復習の取り組み、課題提出の結果を総合して行う。評価の割合は、定期試験 60%、小テスト 20%、予復習の取組 10%、課題提出 10%とする。小テストは点数をつけて授業内に返却し解説する。</p> <p>予復習の取組は、復習テストで評価し、点数をつけ、次回講義時に解説する。</p> <p>提出課題は次回講義時に得点をつけて返却し、講評を行う。</p> <p>なお、受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。</p>						
注意事項	参考図書 ・ 栄養教育・指導実習ワークブック／みらい						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1回	<p>栄養教育論Ⅱの概要</p> <p>■学習目標</p> <p>栄養教育論Ⅰの内容を復習</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育論Ⅱの内容、進め方、評価方法について説明</li> <li>・栄養教育論Ⅰでの学びを振り返る</li> </ul>
2回	<p>行動科学の理論とモデル（1）</p> <p>■学習目標</p> <p>行動科学の栄養教育への活用、意義を説明できる。行動科学の各理論とモデルの特徴を説明できる。</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・刺激反応理論</li> <li>・社会的認知理論</li> </ul>
3回	<p>行動科学の理論とモデル（2）</p> <p>■学習目標</p> <p>行動科学の栄養教育への活用、意義を説明できる。行動科学の各理論とモデルの特徴を説明できる。</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスビリーフモデル</li> <li>・計画的行動理論</li> </ul>
4回	<p>行動科学の理論とモデル（3）</p> <p>■学習目標</p> <p>行動科学の栄養教育への活用、意義を説明できる。行動科学の各理論とモデルの特徴を説明できる。</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トランスセオレティカルモデル</li> </ul>
5回	<p>行動科学の理論とモデル（4）</p> <p>■学習目標</p> <p>行動科学の栄養教育への活用、意義を説明できる。行動科学の各理論とモデルの特徴を説明できる。</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルサポート</li> <li>・ストレスマネジメント</li> <li>・コミュニケーション理論</li> <li>・ヘルスリテラシー</li> </ul>
6回	<p>行動変容技法</p> <p>■学習目標</p> <p>各種行動変容理論から派生する行動変容技法を理解し、対象者支援に応用できる</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動変容技法</li> </ul>
7回	<p>栄養カウンセリング（1）</p> <p>■学習目標</p> <p>栄養カウンセリングの目的と管理栄養士としての倫理と態度を理解できる。</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養カウンセリングとは</li> <li>・ラポールの形成とコミュニケーション</li> </ul>
8回	<p>栄養カウンセリング（2）</p> <p>■学習目標</p> <p>カウンセリングの基本、カウンセリング技法を理解することができる。</p> <p>■講義内容 テキスト 42 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリングの基本技法</li> <li>・5AS モデル</li> </ul>

9回	<p>ライフステージ別栄養教育（妊娠期・授乳期）</p> <p>■学習目標 妊娠期・授乳期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあったアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 ・妊婦・授乳婦の食生活指針について ・母乳育児について</p>
10回	<p>ライフステージ別栄養教育（乳児期）</p> <p>■学習目標 乳時期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあったアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 ・授乳・離乳の支援について</p>
11回	<p>ライフステージ別栄養教育（幼児期）</p> <p>■学習目標 幼児期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあったアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 ・幼稚園・保育園での食育推進を参考に幼児期の栄養教育について学ぶ</p>
12回	<p>ライフステージ別栄養教育（学童期・思春期）</p> <p>■学習目標 学童期・思春期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあったアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 ・学校における食育の推進を参考に学童期・思春期の栄養教育について学ぶ</p>
13回	<p>ライフステージ別栄養教育（成人期）</p> <p>■学習目標 成人期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあったアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 ・勤労者の栄養教育</p>
14回	<p>ライフステージ別栄養教育（高齢期）</p> <p>■学習目標 高齢期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあったアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 ・フレイル ・ロコモティブシンドローム</p>
15回	<p>まとめ</p> <p>■学習目標 行動変容の理論やモデルを理解し、栄養教育に応用できる。</p> <p>■講義内容 ・栄養教育論Ⅱのまとめ</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画									
科目名	栄養教育管理	授業回数	15	単位数	2	担当教員	石高優子		
質問受付の方法 e-mail:uchida@owc.ac.jp, オフィスアワー：在室時はいつでも受け付けます									
教育 目 標 と 学 生 の 学 習 成 果	<p><u>教育目標</u>：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>栄養教育論及び栄養教育論実習で習得した健康・栄養教育に関する理論と方法、行動科学やカウンセリング理論と技術等を活用して、適正な栄養教育を行う能力を養う。</p> <p>健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報を収集、分析して、それらを総合的に評価、判定する能力及び対象に応じた栄養プログラムの作成、実施、評価を総合的にマネジメントする能力を養う。</p> <p><u>学生の学習成果</u>：</p> <p>専門的学習成果：①カウンセリング手法の習得。②集団、地域、組織を対象にした栄養教育の理解③多様な場におけるライフステージ別の栄養教育が展開できる。</p> <p>汎用的学習成果：対象者の特徴を捉え健康・栄養改善行動の支援に必要な問題解決力、論理的思考、倫理観を獲得する。</p>								
	教 育 方 法	授 業 の 進 め 方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、講義を中心にテキスト、プリントなどを利用して進める。</li> <li>・授業中に疑問点があれば、積極的に質問を行うように求める。</li> <li>・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。</li> <li>・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。</li> </ul>						
		予 習 ・ 復 習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：「授業回数別教育内容」にある講義範囲に目を通しておく。</li> <li>・復習：授業で学んだ用語はノートに整理し、今後使えるようにしておく。</li> </ul> <p>学習時間の目安：各 90 分</p>						
テ キ ス ト		<ul style="list-style-type: none"> <li>・visual 栄養学テキスト 栄養教育論/中山書店</li> </ul>							
学 習 評 価 の 方 法	<p>以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。</p> <p>①行動変容に繋がるカウンセリングやコミュニケーションを理解する。</p> <p>②集団、地域、組織での栄養教育の特徴と理論を理解する。</p> <p>③多様な場におけるライフステージ別の栄養教育が計画できる。</p> <p>学習評価は、定期試験および受講態度の結果を総合して行う。</p> <p>評価の割合は、定期試験 80 点、小テスト 20 点とする。</p> <p>小テストは点数をつけて授業内に返却し解説する。なお、受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。</p>								
注 意 事 項	参考テキスト								

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>栄養教育管理</p> <p>■学習目標</p> <p>1, 2 年で学んだ内容を説明できる。</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育管理の内容、進め方、評価方法について説明</li> <li>・栄養教育論 I・II の振り返り</li> </ul>
2 回	<p>栄養カウンセリングの手法 (1)</p> <p>■学習目標</p> <p>対象者の行動変容を促すカウンセリングの方法が理解できる</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知行動療法 ・コーチング</li> </ul> <p>■予習・復習事項</p> <p>栄養カウンセリング技法を確認しておく</p>
3 回	<p>栄養カウンセリングの手法 (2)</p> <p>■学習目標</p> <p>対象者の行動変容を促すカウンセリングの方法が理解できる</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動機づけ面接</li> </ul> <p>■予習・復習事項</p> <p>各カウンセリング手法の重要語句をまとめておく</p>
4 回	<p>組織づくり・地域づくりと栄養教育 (1)</p> <p>■学習目標</p> <p>集団・組織・地域にかかわる理論と概念について理解できる</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルキャピタル ・エンパワメント ・グループダイナミクス</li> <li>・コミュニティーオーガニゼーション ・イノベーション普及理論</li> </ul> <p>■予習・復習事項</p> <p>組織づくりに関連するワードを整理する</p>
5 回	<p>組織づくり・地域づくりと栄養教育 (2)</p> <p>■学習目標</p> <p>行動を促す仕組みや環境づくり、それにかかわる理論を理解できる。</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動経済学</li> </ul> <p>■予習・復習事項</p> <p>授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p>
6 回	<p>性格タイプ別栄養カウンセリング</p> <p>■学習目標</p> <p>性格タイプを見極め、栄養カウンセリングを実施できる。</p> <p>■講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性格タイプと支援方法</li> </ul> <p>■予習・復習事項</p> <p>対象者の特徴と栄養教育のポイントを整理する</p>

7回	<p>保育所・認定こども園・幼稚園における栄養教育の展開（1）</p> <p>■学習目標 乳幼児期の栄養管理の特徴を理解し栄養教育を計画できる。</p> <p>■講義内容 ・保育の場での栄養教育 ・幼児健診での栄養教育</p> <p>■予習・復習事項 保育所保育指針を確認する</p>
8回	<p>保育所・認定こども園・幼稚園における栄養教育の展開（2）</p> <p>■学習目標 離乳食の進め方を説明できる。</p> <p>■講義内容 ・離乳食のすすめかた</p> <p>■予習・復習事項 離乳食の進め方を覚える</p>
9回	<p>小・中・高等学校・大学での栄養教育の展開（1）</p> <p>■学習目標 学童期・思春期の特性を知り、食生活の問題点をとらえ栄養教育が計画できる。</p> <p>■講義内容 ・学童期・思春期の栄養評価</p> <p>■予習・復習事項 学童期・思春期の特徴を確認する。</p>
10回	<p>小・中・高等学校・大学での栄養教育の展開（2）</p> <p>■学習目標 小・中・高等学校での栄養教育の方法を理解する</p> <p>■講義内容 ・学校での栄養教育の特徴 ・支援学校での栄養教育</p> <p>■予習・復習事項 学校現場での栄養教育について整理する。</p>
11回	<p>地域における栄養教育の展開（1）</p> <p>■学習目標 妊娠・授乳期の栄養管理の特徴を理解し、地域における栄養教育を計画することができる</p> <p>■講義内容 妊娠・授乳期の特徴と栄養教育</p> <p>■予習・復習事項 妊娠・授乳期の特徴と栄養管理のポイントを整理する</p>
12回	<p>地域における栄養教育の展開（2）</p> <p>■学習目標 高齢期の栄養管理の特徴を理解し、地域における栄養教育を計画することができる。</p> <p>■講義内容 ・高齢期の栄養評価と栄養教育</p> <p>■予習・復習事項 高齢期の特徴と栄養管理のポイントを整理する</p>

13 回	<p>職域における栄養教育の展開</p> <p>■学習目標 職域での栄養教育の特徴と特定健診、特定保健指導を理解し、栄養教育を計画できる。</p> <p>■講義内容 ・特定健診、特定保健指導                      ・食環境整備</p> <p>■予習・復習事項 特定保健指導の階層化の方法を覚える。</p>
14 回	<p>高齢者福祉施設や在宅介護の場における栄養教育の展開</p> <p>■学習目標 高齢者福祉施設での栄養教育の特徴を理解できる。</p> <p>■講義内容 ・高齢者福祉施設での栄養教育 ・介護保険と栄養教育</p> <p>■予習・復習事項 高齢者施設での栄養教育の特徴を整理する</p>
15 回	<p>栄養教育管理のまとめ</p> <p>■学習目標 今までに学んだ理論、モデルを使い、ライフステージに応じた栄養教育計画ができる。</p> <p>■講義内容 ・1回～14回のまとめ</p> <p>■予習・復習事項 テストに向けて復習する</p>

令和7年度教育計画

科目名	栄養教育論実習 I	授業回数	15	単位数	1	担当教員	石高優子
質問受付の方法 e-mail : uchida@owc.ac.jp オフィスアワー等：在室時はいつでも受け付けます							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。栄養教育対象者の栄養、食生活状況のアセスメント方法を習得する。アセスメント結果から課題を抽出し優先順位をつけ、課題を解決するための具体的な目標設定を行い、目標達成できるような栄養教育案を作成する方法を習得する。指導案に基づいた栄養教育を発表することで、対象者に伝わるのコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を体得する。教育内容の評価を行い、次の計画に活用する方法を修得する。</p> <p>学生の学習成果：                  専門的学習成果：対象の課題抽出、具体的な目標設定、対象者に適した学習方法選択、評価・見直しといった栄養教育マネジメントの基礎を獲得する。作成した栄養教育指導案を互いに発表・評価することで、ライフステージに応じた栄養教育を行うことができるようになる。                  汎用的学習成果：対象集団の情報を分析する論理的思考力、そこから課題を見つけ解決策を導き出す問題解決力、また班で共同作業するなかでチームワーク力を身に着ける。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・<b>実習</b>・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は実習形式で行う。実習を数回ごとにセクション分けし、各セクションの初めにそのセクションで行う内容の説明を行い、各人あるいはグループでの作業に移る。途中説明が必要なときは、その都度説明を入れる。各セクションでは個人あるいはグループで発表を行う。実習レポートに関しては実習中に指示する。</li> <li>・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。</li> <li>・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。</li> </ul>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>栄養教育計画、実施に必要な理論の確認、疾病等に関する知識について前期に修得した内容を予習し、授業後は実習内容を復習確認する。</p>					
	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育・指導実習ワークブック／みらい</li> <li>・ヴィジュアル栄養学テキスト 栄養教育論/中山書店</li> </ul>					
注意	<p>以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①栄養アセスメント方法を理解し、実践できる。</li> <li>②対象者に応じた栄養教育計画を作成できる。</li> <li>③対象者に応じた媒体を作成し、作成した媒体を用いて栄養教育が実施できる。</li> <li>④栄養教育実施後の評価、改善が適正にできる。</li> </ol> <p>課題提出 50点                  発表 20点                  グループ作業30点 (参加状況、チームワーク、リーダーシップ等)                  課題の内容評価等については授業内で行う                  なお、課題の提出遅れは-5点で計算する。受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。</p>						
事項	<p>発表・媒体作成において必要と考える資料を各自準備する。</p>						
授 業 回 数 別 教 育 内 容							

1 回	<p>栄養教育論実習</p> <p>■学習目標 栄養教育マネジメントの流れを理解できる。コミュニケーションスキルが向上する。</p> <p>■実習内容 ・栄養教育論実習で何を学ぶのか、進め方、評価方法について ・栄養教育マネジメントの流れについて</p>
2 回	<p>栄養教育マネジメント ～アセスメント1～</p> <p>■学習目標 栄養教育マネジメントの流れを理解できる。食事調査法を理解できる。</p> <p>■実習内容 ・食事調査法について ・活動量の計算方法</p> <p>■予習・復習事項 食事調査法について教科書を読み、それぞれの特徴を確認する。</p>
3 回	<p>栄養教育マネジメント ～アセスメント2～</p> <p>■学習目標 半定量食物摂取頻度調査を理解できる。対象者から食事状況を聞き取ることができる</p> <p>■実習内容 ・FFQによる栄養調査</p> <p>■予習・復習事項 ・FFQの実施方法を調べる。</p>
4 回	<p>栄養教育マネジメント～アセスメント3～</p> <p>■学習目標 アセスメント結果をもとに、対象者の課題を見つけ、改善策を考えることができる。</p> <p>■実習内容 ・アセスメントデータの評価 ・日本人の食事摂取基準</p> <p>■予習・復習事項 ・優先課題の設定～目標設定の流れを確認しておく</p>
5 回	<p>学習形態・学習媒体 1</p> <p>■学習目標 栄養教育の方法と技術及び効果的な学習媒体作成方法を習得する。</p> <p>■実習内容 ・k j 法 ・3分間スピーチ</p> <p>■予習・復習項目 学習形態について教科書を読んでおく</p>
6 回	<p>学習形態・学習媒体 2</p> <p>■学習目標 知識や情報を正しく対象者に伝えるプレゼンテーション技術を習得する。</p> <p>■実習内容 ・バスセッション ・野菜のプレゼンテーション</p> <p>■予習・復習項目 学習形態について教科書を読んでおく</p>

7 回	<p>学習形態・学習媒体 3</p> <p>■学習目標 学習教材、媒体の特徴を理解し、対象者に応じた教材を選択できる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習教材の種類と特徴</li> <li>・市販教材の利用法を考える</li> </ul> <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習教材について教科書を読んでおく</li> </ul>
8 回	<p>学習教材の作成</p> <p>■学習目標 教材作成方法を習得し、効果的なコンテンツを考案できる。学習教材を作成できる。</p> <p>■実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学童期を対象にした栄養クイズの企画</li> <li>・青年期を対象にした卓上メモの企画</li> </ul> <p>■予習・復習項目</p> <p>学童期、青年期の特徴を理解</p>
9 回	<p>学習教材の作成</p> <p>■学習目標 教材作成方法を習得し、効果的なコンテンツを考案できる。学習教材を作成できる。</p> <p>■実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学童期を対象にした栄養クイズの完成</li> <li>・青年期を対象にした卓上メモの完成</li> </ul> <p>■予習・復習項目</p> <p>教材作成に必要な資料の入手</p>
10 回	<p>集団栄養教育の企画と実践（1）</p> <p>■学習目標 対象のライフステージの健康課題を理解できる</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の現状・課題を調べる</li> <li>・対象集団の問題点の明確化</li> <li>・優先課題、目標設定の方法</li> </ul> <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージの課題を整理する</li> </ul>
11 回	<p>集団栄養教育の企画と実践（2）</p> <p>■学習目標 指導案の作成方法を理解できる。手順に基づいて指導案を作成できる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導に必要な媒体の作成計画をつくる</li> <li>・シナリオを作成する</li> </ul> <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案を読み返し、指導に必要な知識、情報を整理する。</li> </ul>
12 回	<p>集団栄養教育の企画と実践（3）</p> <p>■学習目標 指導案に基づいた栄養教育ができる。評価結果を次の計画に活用できる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画した栄養教育の発表</li> <li>・発表内容を評価し、改善点を見つけ修正する</li> </ul> <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表練習</li> </ul>

1 3 回	<p>集団栄養教育の企画と実践（4）</p> <p>■学習目標 指導案に基づいた栄養教育ができる。</p> <p>■実習内容 ・栄養教育の完成</p> <p>■予習・復習項目 ・発表練習</p>
1 4 回	<p>集団栄養教育の企画と実践（5）</p> <p>■学習目標 改善後の指導案に基づいた栄養教育ができる。</p> <p>■実習内容 ・栄養教育の発表 ・教育内容の評価、改善</p> <p>■予習・復習項目 ・発表の練習</p>
1 5 回	<p>まとめ</p> <p>■学習目標 栄養教育マネジメントを理解し、実践できる</p> <p>■実施内容 栄養教育実習 I のまとめ</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	栄養教育論実習Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	石高優子
質問受付の方法 e-mail:uchida@owc.ac.jp, オフィスアワー等： 在室時はいつでも受け付けます							
教育目標と学生の学習成果	<p><u>教育目標</u>：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>対象者の健康・栄養状態，食行動等に関する情報の収集・分析，それらを総合的に評価・判定する能力を養う。対象のライフスタイル、ライフステージに応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる技術を修得し，食行動変容のための行動科学を踏まえた栄養カウンセリング能力，コミュニケーション能力を体得する。</p> <p><u>学生の学習成果</u>：</p> <p>専門的学習成果：栄養教育論Ⅰ・Ⅱ，栄養教育論実習Ⅰで得た専門的学習成果を実習で理解を深めることで，健康・栄養教育の基礎を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果：対象者の情報を分析する論理的思考力、そこから課題を見つけ解決策を導き出す問題解決力、コミュニケーション力、また班で共同作業するなかでチームワーク力を身に着ける</p>						
	教育方法	<p>（講義・演習・実験・<b>実習</b>・実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業は実習形式で行う。実習を数回ごとにセクション分けし，各セクションの初めにそのセクションで行う内容の説明を行い，各人あるいはグループでの作業に移る。途中説明が必要なときは，その都度説明を入れる。各セクションでは個人あるいはグループで発表を行う。実習レポートに関しては実習中に指示する。</li> <li>毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。</li> <li>上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。</li> </ul>	<p>予習・復習</p> <p>栄養教育に必要な技術、知識について今まで修得した学習内容を予習しておく。実習後は、授業内容について復習確認する。</p>	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育・指導実習ワークブック／みらい</li> <li>・ヴィジュアル栄養学テキスト 栄養教育論/中山書店</li> </ul>			
学習評価の方法	<p>以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。</p> <p>ライフステージ、ライフスタイル、病態のケース等、対象者に応じた栄養教育を展開できる。カウンセリングでは、行動変容ステージを理解し，コミュニケーションをとり，栄養教育を実施することができる。</p> <p>学習評価は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出 50点</li> <li>・実技 30点</li> <li>・参加状況、取り組み姿勢、チームワーク、リーダーシップ 20点</li> </ul> <p>で行う。</p> <p>課題内容、評価については授業内で行う。</p> <p>なお、課題の提出遅れは-5点で計算する。受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。</p>						
注意事項	発表・媒体作成において必要と考える資料を各自準備する。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>栄養情報の収集とアセスメント（1）</p> <p>■学習目標 対象の情報を収集するための質問紙調査法を習得し、調査データを集計できる。</p> <p>■講義・実習内容 ・栄養教育論実習Ⅱの内容、進め方、評価方法について ・情報収集について</p>
2 回	<p>栄養情報の収集とアセスメント（2）</p> <p>■学習目標 対象の情報を収集するための質問紙調査法を習得し、調査データを集計できる。</p> <p>■講義・実習内容 ・調査票の作成 ・アンケート調査データの集計</p>
3 回	<p>栄養情報の収集とアセスメント（2）</p> <p>■学習目標 対象の情報を収集するための質問紙調査法を習得し、調査データを集計できる。</p> <p>■講義・実習内容 ・アンケート調査データの解析</p>
4 回	<p>栄養情報の収集とアセスメント（4）</p> <p>■学習目標 対象の情報を収集するための質問紙調査法を習得し、調査データを集計できる。</p> <p>■講義・実習内容 ・フォーカスグループインタビュー</p>
5 回	<p>テーマ別栄養教育の実施（1）</p> <p>■学習目標 栄養教育の計画、教材作成を行い、わかりやすい栄養教育ができる。</p> <p>■講義・実習内容 ・計画立案、指導内容の検討</p>
6 回	<p>テーマ別栄養教育の実施（2）</p> <p>■学習目標 栄養教育の計画、教材作成を行い、わかりやすい栄養教育ができる。</p> <p>■講義・実習内容 ・教材作成 ・発表準備</p>
7 回	<p>テーマ別栄養教育の実施（3）</p> <p>■学習目標 栄養教育の計画、教材作成を行い、わかりやすい栄養教育ができる。</p> <p>■講義・実習内容 ・栄養教育の実施 ・改善</p>
8 回	<p>カウンセリング技法の実践（1）</p> <p>■学習目標 対象者が言いたいことを自由に言えるとともに、気づきを促す質問を行うことができる</p> <p>■講義・実習内容 ・DVD 視聴 ・実践 傾聴、要約、受容</p>

9 回	<p>カウンセリング技法の実践 (2)</p> <p>■学習目標 対象者やメンバーを良好な意思疎通を図り、信頼関係を築く会話ができる</p> <p>■講義・実習内容 ・質問の仕方、共感の仕方 ・実技試験</p>
10 回	<p>栄養カウンセリング (1)</p> <p>■学習目標 カウンセリング技法を用いて対象者の問題行動を聞き出すことができる。</p> <p>■講義・実習内容 ・面接計画 ・事例を用いたロールプレイ</p>
11 回	<p>栄養カウンセリング (2)</p> <p>■学習目標 対象者の準備性に応じた食生活のアドバイスができる。</p> <p>■講義・実習内容 ・行動変容段階の把握 ・課題抽出、優先順位決定、行動目標の設定</p>
12 回	<p>栄養カウンセリング (3)</p> <p>■学習目標 対象者の背景を整理し、準備性に応じたカウンセリング計画を立てることができる。</p> <p>■講義・実習内容 カウンセリング技法と行動変容技法をもちいたカウンセリングシナリオの作成</p>
13 回	<p>栄養カウンセリング (4)</p> <p>■学習目標 ロールプレイの実施や観察を通じて、カウンセリング技法が向上する</p> <p>■講義・実習内容 ・作成したシナリオを用いてロールプレイ ・全体討議</p>
14 回	<p>グループカウンセリング (1)</p> <p>■学習目標 グループダイナミクスを利用した支援方法を理解する。</p> <p>■講義・実習内容 ・グループダイナミクスの育て方 ・アイスブレイクの実践</p>
15 回	<p>グループカウンセリング (2)</p> <p>■学習目標 対象者の行動変容ステージを判断できる。グループカウンセリングができる</p> <p>■講義・実習内容 ・グループカウンセリングの実践 ・準備性に応じた栄養カウンセリング計画の作成</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	臨床栄養学 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	平野 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A 棟 405 研究室 水曜日 13 時から 14 時 30 分 hirano@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>臨床栄養学 I は、栄養学総論で学んだ栄養素の人体内での吸収と働きや、解剖学、生理学および生化学で学んだ代謝の基礎にたつて、疾病時における人体の変化 (病態生理) を理解して、それぞれの症状または原因に対応した治療と食事療法の考え方を総論的に学ぶ。主な講義内容は、代謝異常症、栄養の摂取に関する病気、内分泌疾患、消化器・循環器疾患、腎臓・血液疾患、免疫・神経系疾患、感染症などである。それぞれの疾患について、その原因、病型、病態、経過を概説し、治療における食事療法の役割を、講義する。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt;</p> <p>専門的学習成果は、管理栄養士業務において必要となる疾患や病態に関連した食事療法の総合的理解を図ることとする。</p> <p>汎用的学習成果は、チーム医療の一員として参加できる能力とし、論理的思考力、問題解決力、自己管理能力を身に付けることとする。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1. 授業は、テキスト、サブテキスト (配布資料) に沿って進める。</p> <p>2. 授業開始時に前回習った内容の「小テスト」の解説を行う。</p> <p>3. 授業終了時「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想の記入を求める。</p> <p>4. 上記の質問、感想に対し、コメントを次回の授業で説明する。</p> <p>5. 「小テスト」、「シャトルカード」により、理解度を確認しながら授業を進める。</p> <p>【予習】90 分：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された課題をレポートで提出する。</p> <p>【復習】90 分：毎授業後に「授業回数別教育内容」に記された課題をレポートで提出する。</p> <p>また、「授業回数別教育内容」の確認用、小テストを自宅課題にて実施する。</p> <p>テキスト 佐藤和人編著 エssenシャル「臨床栄養学 第 10 版」医歯薬出版</p>					
学習評価の方法	<p>学習成果は、以下の獲得度合いを評価する。</p> <p>○専門的学習成果は、</p> <p>①疾患ごとの病態および食事療法を理解している。</p> <p>②病態別の栄養管理計画の作成に必要な知識を理解している。</p> <p>③病態別の栄養指導計画の作成に必要な知識を理解している。</p> <p>④傷病者及び高齢者を対象に栄養ケア・プロセスを行う総合的知識を獲得している。</p> <p>○汎用的学習成果は、予習・復習の課題レポート (7 回目、14 回目に提出を予定する授業時のレポートとテスト) が提出・理解できている。</p> <p>○学習評価は、専門的学習成果 (定期試験 80 点) の内訳は①30 点、②20 点、③20 点、④30 点、汎用的学習成果 (授業時のレポートとテスト：20 点) を総合して行う。</p> <p>○学習のフィードバックは、課題の返却時に解説を行う。</p> <p>なお、過度な私語や授業参加意欲が低い場合、汎用的学習成果から減点を行う。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>初回、授業時に配付するサブテキストを必ず持参してください。</p> <p>基礎栄養学・生化学・解剖生理学を復習してください。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>授業の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床栄養学Ⅰの授業内容について概説し、授業計画を説明する。</li> <li>・臨床栄養学における栄養ケア・プロセスの概要と構造について説明する。</li> </ul>
2 回	<p>医療保険制度・介護保険制度 医療保険制度・介護保険制度における基本概念 管理栄養士が主に関わる診療報酬・介護報酬についての解説</p>
3 回	<p>糖尿病の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
4 回	<p>脂質異常症の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
5 回	<p>高血圧症の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
6 回	<p>心臓病の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
7 回	<p>摂食嚥下障害の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> <li>・小テストの実施とレポート提出</li> </ul>
8 回	<p>貧血の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
9 回	<p>骨粗鬆症の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>

10 回	<p>膵炎の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
11 回	<p>肝硬変の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
12 回	<p>腎臓病の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
13 回	<p>透析の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
14 回	<p>胃潰瘍の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> <li>・小テストの実施とレポート提出</li> </ul>
15 回	<p>小児における先天性代謝異常症の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>

令和7年度教育計画									
科目名	臨床栄養学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	平野 聡		
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A棟 405 研究室 水曜日 13時から 14時 30分 hirano@owc.ac.jp									
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>臨床栄養学Ⅱは、臨床栄養学Ⅰで学んだ基礎知識に加えて、それぞれの症状または原因に対応した治療と食事療法の考え方をより専門的に追及する。主な講義内容は、代謝異常症、栄養の摂取に関する病気、内分泌疾患、消化器・循環器疾患、腎臓・血液疾患、免疫・神経系疾患、感染症などである。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt;</p> <p>専門的学習成果は、チーム医療、在宅医療、診療報酬・介護報酬、栄養ケア・プロセスの概要、栄養補給法（経口栄養、経腸栄養、静脈栄養）、栄養評価指標を総合的に理解する。また、疾患別の栄養管理計画のプランニングができる実践的能力を獲得することとする。</p> <p>汎用的学習成果は、チーム医療の一員として参加できる能力とし、論理的思考力、問題解決力、自己管理能力を身に付けることとする。</p>								
	教育	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業は、テキスト、サブテキスト（配布資料）に沿って進める。</li> <li>2. 授業開始時に前回習った内容の「小テスト」の解説を行う。</li> <li>3. 授業終了時「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想の記入を求める。</li> <li>4. 上記の質問、感想に対し、コメントを次回の授業で説明する。</li> <li>5. 「小テスト」、「シャトルカード」により、理解度を確認しながら授業を進める。</li> </ol>					方法	予習・復習
	テキスト	佐藤和人編著 エssenシャル「臨床栄養学 第10版」医歯薬出版							
学習評価の方法	<p>学習成果は、以下の獲得度合いを評価する。</p> <p>○専門的学習成果は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①疾患ごとの病態および食事療法を理解している。</li> <li>②病態別の栄養管理計画の作成に必要な知識を理解している。</li> <li>③病態別の栄養指導計画の作成に必要な知識を理解している。</li> <li>④傷病者および高齢者を対象に栄養ケア・プロセスを行う総合的知識を獲得している。</li> </ol> <p>○汎用的学習成果は、予習・復習の課題レポート（7回目、14回目に提出を予定する授業時のレポートとテスト）が提出・理解できている。</p> <p>○学習評価は、専門的学習成果（定期試験80点）の内訳は①30点、②20点、③20点、④30点、汎用的学習成果（授業時のレポートとテスト：20点）を総合して行う。</p> <p>○学習のフィードバックは、課題の返却時に解説を行う。</p> <p>なお、過度な私語や授業参加意欲が低い場合、汎用的学習成果から減点を行う。</p>								

<p>注意事項</p>	<p>参考図書等  初回、授業時に配付するサブテキストを必ず持参してください。  基礎栄養学・生化学・解剖生理学の復習をしてください。  教科書が同じ版数でも、ページ番号が異なることがあるので留意してください。</p>
<p>授 業 回 数 別 教 育 内 容</p>	
<p>1 回</p>	<p>授業の進め方について  ・臨床栄養学Ⅱの授業内容を説明する。  摂食障害（神経性食欲不振症・神経性大食症）の栄養ケア・プロセス  ・対象疾患の診断基準および病態について  ・生化学検査および身体症状  ・栄養状態の評価項目</p>
<p>2 回</p>	<p>老年症候群および褥瘡の栄養ケア・プロセス  ・対象疾患の診断基準および病態について  ・生化学検査および身体症状  ・栄養状態の評価項目</p>
<p>3 回</p>	<p>動脈硬化性疾患の栄養ケア・プロセス  ・対象疾患の診断基準および病態について  ・生化学検査および身体症状  ・栄養状態の評価項目</p>
<p>4 回</p>	<p>虚血性心疾患およびうっ血性心不全の栄養ケア・プロセス  ・対象疾患の診断基準および病態について  ・生化学検査および身体症状  ・栄養状態の評価項目</p>
<p>5 回</p>	<p>クローン病、潰瘍性大腸炎、短腸症候群の栄養ケア・プロセス  ・対象疾患の診断基準および病態について  ・生化学検査および身体症状  ・栄養状態の評価項目</p>
<p>6 回</p>	<p>慢性閉塞性肺疾患（COPD）の栄養ケア・プロセス  ・対象疾患の診断基準および病態について  ・生化学検査および身体症状  ・栄養状態の評価項目</p>

7 回	<p>経静脈栄養の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経静脈栄養法の目的・適応</li> <li>・末梢静脈栄養法と中心静脈栄養法の違い</li> <li>・経静脈栄養法の合併症 リフィーディング症候群・バクテリアルトランスロケーション</li> </ul> <p>小テストの実施とレポート提出</p>
8 回	<p>脂肪肝の栄養ケア・プロセス</p> <p>過栄養に伴う脂肪肝、アルコール性脂肪肝、代謝機能障害関連脂肪性肝疾患（MASLD） 代謝機能障害関連脂肪肝炎（MASH）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準および病態について</li> <li>・生化学検査および身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
9 回	<p>肝硬変非代償期の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準および病態について</li> <li>・生化学検査および身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
10 回	<p>慢性腎臓病（CKD）の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準および病態について</li> <li>・生化学検査および身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
11 回	<p>透析の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準および病態について</li> <li>・生化学検査および身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
12 回	<p>術前・術後の栄養ケア・プロセス（胃全摘術）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準および病態について</li> <li>・生化学検査および身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
13 回	<p>血液疾患における栄養ケア・プロセス（鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準および病態について</li> <li>・生化学検査および身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> </ul>
14 回	<p>内分泌疾患の栄養ケア・プロセス（甲状腺機能亢進症・低下症）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準および病態について</li> <li>・生化学検査および身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> <li>・小テストの実施とレポート提出</li> </ul>

15 回	妊娠期の栄養ケア・プロセス（妊娠糖尿病・妊娠高血圧症） <ul style="list-style-type: none"><li>・対象疾患の診断基準および病態について</li><li>・生化学検査および身体症状</li><li>・栄養状態の評価項目</li></ul>
---------	--



授業回数別教育内容	
1 回	授業の進め方について ・臨床栄養学Ⅲの授業内容を説明する。 ・管理栄養士国家試験に関して解説する。
2 回	管理栄養士国家試験の臨床栄養学分野に準拠したテスト ・現在までの学習状況を確認する目的とし、当該科目の成績評価には含まない。
3 回	大項目 1. 臨床栄養学の概念 A 意義と目的 B 医療・介護報酬の基本 C 医療と臨床栄養
4 回	大項目 2. 傷病者・要介護者の栄養ケア・マネジメント A 栄養アセスメントの意義と方法 B 栄養ケアの目標設定と計画作成 C 栄養・食事療法と栄養補給法
5 回	大項目 2. 傷病者・要介護者の栄養ケア・マネジメント D 傷病者、要支援者・要介護者の栄養教育 E モニタリングと再評価 F 薬と栄養・食事の相互作用 G 栄養ケアの記録
6 回	大項目 3. 疾患・病態別栄養ケア・マネジメント A 栄養障害の栄養アセスメントと栄養ケア B 肥満と代謝疾患の栄養アセスメントと栄養ケア C 消化器疾患の栄養アセスメントと栄養ケア D 循環器疾患の栄養アセスメントと栄養ケア
7 回	管理栄養士国家試験の臨床栄養学分野に準じた小テストと解説（成績評価に含む） ・範囲：3回目から6回目までの学習
8 回	大項目 3. 疾患・病態別栄養ケア・マネジメント E 腎・尿路疾患の栄養アセスメントと栄養ケア F 内分泌疾患の栄養アセスメントと栄養ケア G 神経疾患の栄養アセスメントと栄養ケア H 摂食障害の栄養アセスメントと栄養ケア

9 回	大項目 3. 疾患・病態別栄養ケア・マネジメント I 呼吸器疾患の栄養アセスメントと栄養ケア J 血液系の疾患の栄養アセスメントと栄養ケア K 筋・骨格疾患の栄養アセスメントと栄養ケア L 免疫・アレルギー疾患の栄養アセスメントと栄養ケア
10 回	大項目 3. 疾患・病態別栄養ケア・マネジメント M 感染症の栄養アセスメントと栄養ケア N がんの栄養アセスメントと栄養ケア O 手術・周術期患者の栄養アセスメントと栄養ケア P クリティカルケアの栄養アセスメントと栄養ケア
11 回	大項目 3. 疾患・病態別栄養ケア・マネジメント Q 摂食機能障害の栄養アセスメントと栄養ケア R 身体・知的障害の栄養アセスメントと栄養ケア S 乳幼児・小児疾患の栄養アセスメントと栄養ケア T 妊産婦・授乳婦疾患の栄養アセスメントと栄養ケア U 老年症候群の栄養アセスメントと栄養ケア
12 回	管理栄養士国家試験の臨床栄養学分野に準じた小テストと解説（成績評価に含む） ・ 範囲：8 回目から 11 回目までの学習
13 回	医療現場での管理栄養士の業務について ・ 臨床栄養臨地実習における注意点 ・ 研究課題の考え方・作成方法 ・ 臨床栄養臨地実習における課題事例
14 回	医療現場での管理栄養士の業務について ・ 医療現場における献立の作成方法 ・ 臨床栄養臨地実習の報告会における倫理的配慮の重要性
15 回	医療現場での管理栄養士の業務について ・ 研究課題の提出 臨床栄養学Ⅲの授業のまとめ

令和 7 年 度 教 育 計 画

科目名	臨床栄養学実習	授業回数	15	単位数	1	担当教員	平野 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A 棟 405 研究室 水曜日 13 時から 14 時 30 分 hirano@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解させ、具体的な症例を基に、身体計測、生化学検査、臨床診査、食事摂取調査から栄養状態の評価判定を行い、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について修得する。特に身体計測による評価・判定方法やベッドサイドでの栄養指導技術を学ぶ。また、医療・介護制度やチーム医療の重要性を理解させ、他の職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める方法を学ぶ。更に、ライフステージ別、疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法も実習する。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt; 専門的学習成果は、身体計測の測定方法と評価方法、栄養スクリーニングの実施と評価、食事摂取調査の実施と評価、疾患に応じた食事内容の立案、集団栄養食事指導の実施ができる能力を獲得する。 汎用的学習成果は、チーム医療をおこなうためのチームワーク、リーダーシップ、数量的スキル・情報リ</p>						
	教育方法	<p>( 講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ <b>実習</b> ・ 実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回、実習前にプリントを配布して実習の進め方と注意点を説明する。</li> <li>2. 少人数のグループに分かれて、授業回数別教育内容に沿って実習を行う。</li> <li>3. 各グループの全員が正確に実技・実演できるように指導する。</li> <li>4. 授業終了時「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想の記入を求める。</li> <li>5. 上記の質問、感想に対し、コメントを次の授業で説明する。</li> <li>6. 「小テスト」、「シャトルカード」により、理解度を確認しながら授業を進める。</li> </ol>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>【予習】30分：授業回数別教育内容で取り扱う疾患を事前に教科書を読んでおく。 【復習】30分：授業時に提示された課題を期日までに提出できるよう準備する。 なお、授業時間内に出た課題が時間内にできない場合は、自宅課題として取り組む。</p>					
	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本田佳子, 曾根博仁編 栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 基礎編 第3版</li> <li>・ 日本糖尿病学会編 「糖尿病食事療法のための食品交換表第7版」 文光堂</li> <li>・ 佐藤和人編著 エッセンシャル「臨床栄養学 第10版」 医歯薬出版</li> </ul>					
学習評価の方法	<p>以下に示す学習成果について、その獲得度合いを評価する。</p> <p>○専門的学習成果は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①身体計測の測定と栄養評価ができること。</li> <li>②食事摂取調査と栄養評価ができること。</li> <li>③治療食の食事計画の作成ができること。</li> <li>④機器・器具の扱いが正しくできること。</li> <li>⑤集団栄養食事指導の実習ができること。</li> </ol> <p>○汎用的学習成果は、コミュニケーション能力 (チームワーク) や社会人としての倫理観・自己管理能力が獲得できること。</p> <p>○学習評価は、専門的学習成果 (実習の技術：60点)、汎用的学習成果 (実習中の提出物：20点、グループ学習での対話・意欲・態度：20点) の結果を総合して行う。</p> <p>○学習のフィードバックは、課題の返却時に解説を行う。 なお、過度な私語や授業参加意欲が極端に低い場合、汎用的学習成果から減点を行う。</p>						

注 意 事 項	参考図書等 集団栄養指導実習の際には、図書館で糖尿病関連の書籍を借りてください。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	授業の進め方についての説明 ・臨床栄養学実習について概説し、授業計画を説明する。 ・病院での管理栄養士の役割とその業務内容を映像にて概説する。 ・画像診断A I による食事摂取調査の説明とその活用
2 回	栄養スクリーニングの実習① ① ベッドサイドでの主観的包括的評価（SGA）の方法説明 ② 簡易栄養状態評価表（MNA）の方法説明と実践 （患者役、管理栄養士役、見学者に分かれて実践する。） （持参物：白衣）
3 回	栄養スクリーニングの実習② 実技テスト：簡易栄養状態評価表（MNA）の実践 （持参物：白衣 備考：身だしなみを整えて来てください。）
4 回	食事摂取調査のうち、食事記録法と24時間思い出し法についての実習① ① 食事記録法は、患者役が事前に3日間の食事内容を記録し、持参する。 ② 24時間思い出し法は管理栄養士役が問診し、記録する。 （持参物：白衣）
5 回	食事摂取調査のうち、食事記録法と24時間思い出し法についての実習② 前回の授業内容で得た調査結果から栄養価計算を行い、エネルギー・産生栄養素バランスを評価・判定する。 （持参物：白衣）
6 回	糖尿病交換表の使用方法についての実習① 在宅での糖尿病患者を想定し、7日間の献立を糖尿病交換表に基づき作成する。 外来患者用の食事計画を作成する実習（パソコンを使用） （課題：3日間の食事計画と1日分の食事を試作し提出する。） （持参物：USB）
7 回	糖尿病交換表の使用方法についての実習② 在宅での糖尿病患者を想定し、7日間の献立を糖尿病交換表に基づき作成する。 外来患者の食事計画を作成する実習（パソコンを使用） （持参物：USB）

8 回	<p>身体計測の実習①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体計測の意義の説明</li> <li>・立位での身体計測の実施</li> </ul> <p>身長計・体重計・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・上腕周囲・下腿周囲・体脂肪・握力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいを持たれている方の身体計測における評価方法</li> <li>四肢欠損を考慮しての計算</li> </ul> <p>(持参物：白衣、電卓 備考：袖が捲れる服装)</p>
9 回	<p>身体計測の実習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横臥位での身体計測の実施</li> </ul> <p>身長・上腕三頭筋皮下脂肪厚・上腕周囲・膝高計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体計測値からみた栄養状態の評価法・膝高から身長・体重を求める方法</li> </ul> <p>(持参物：白衣、電卓 備考：袖が捲れる服装)</p>
10 回	<p>身体計測の実習③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技テストの実施</li> <li>・横臥位での身体計測の実施</li> </ul> <p>身長・上腕三頭筋皮下脂肪厚・上腕周囲・膝高計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体計測値からみた栄養状態の評価法・膝高から身長・体重を求める方法</li> </ul> <p>(持参物：白衣、電卓 備考：袖が捲れる服装)</p> <p>(4回目に提示した課題の締め切り)</p> <p>(持参物：USB)</p>
11 回	<p>情報通信機器を用いた外来栄養食事指導の実習①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬制度における情報通信機器を用いた栄養食事指導</li> <li>・オンライン会議システムの使用方法 (Zoom・Goole Meet)</li> <li>・遠隔での血糖管理技術の理解</li> </ul>
12 回	<p>食事摂取方法についての実習①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体模型を使って経腸栄養法の説明</li> <li>・経鼻経管栄養法と経腸栄養法の構造を説明</li> </ul> <p>・ベッド上での食事介助の実習</p> <p>体位：ベッド上でのセミファーラ位 (15～30度挙げた状態)</p> <p>食事：プリン、ゼリー状の水</p> <p>器具：小スプーン</p> <p>(持参必須：白衣、プリン、手が拭ける程度のサイズのタオル)</p>
13 回	<p>糖尿病患者を対象とした糖尿病教室の開催①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病の栄養管理についての解説</li> <li>・糖尿病の症例を用いた栄養ケア・マネジメントの実践</li> </ul> <p>(持参物：USB)</p>
14 回	<p>糖尿病患者を対象とした糖尿病教室の開催②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病教室の準備</li> <li>・糖尿病教室の指導案の作成</li> <li>・糖尿病教室のパワーポイントの作成</li> </ul> <p>(持参物：USB)</p>

15 回	<p>糖尿病患者を対象とした糖尿病教室の開催③</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実技テストの実施</li><li>・糖尿病教室の発表</li></ul> <p>グループごとに発表する。 (持参物：白衣・USB)</p>
---------	--

令和 7 年 度 教 育 計 画

科目名	臨床栄養学演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	平野 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A 棟 405 研究室 水曜日 13 時から 14 時 30 分 hirano@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うために、栄養状態の評価判定、栄養ケアプランの作成、栄養補給法の選択、栄養指導等が実際の場面で展開できる技術を習得する。さらに指導カリキュラム (回数、スタッフ、場所、教材など) を作成して指導教材の作成を行なうとともにスタッフの役割分担による指導の演習や評価を行う。特に身体計測、臨床データによる評価・判定方法やベッドサイドでの栄養指導などについても演習を通して学ぶ。さらにライフステージ別、疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法も演習する。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt; 専門的学習成果は、疾患別に栄養状態の評価ができ、その内容をよく理解し、それに基づく、栄養管理計画書又は栄養ケア計画書を作成する能力が獲得できていることとする。また、それに基づいた栄養指導を行えることとする。</p> <p>汎用的学習成果は、管理栄養士としての自覚を持ち積極的に任務に取り組むことができることとする。 具体的には、発表を通じて、チームワーク、リーダーシップ、数量的スキル・情報リテラシーを獲得する</p>						
	教育方法	<p>( 講義 ・ <b>演習</b> ・ 実験 ・ 実習 ・ 実技)</p> <p>1. 各種疾患の症例に基づく栄養ケア・プロセスについて演習をする。 ①栄養スクリーニングの実施 ②疾患ごとの栄養評価の実施 ③栄養管理計画又は栄養ケア計画書の作成 ④疾患によって栄養指導案の作成及び栄養指導の演習を行う。 ⑤演習の過程では、個別のアドバイスを適宜行う。</p> <p>2. SOAP 形式による経過記録の作成をする。</p> <p>3. 授業終了時「シャトルカード」に質問、感想の記入を求め、内容によっては次回の授業で説明する。</p> <p>予習・復 【予習】90分：授業回数別教育内容で取り扱う疾患を事前に教科書を読んでおく。 【復習】90分：授業時に提示された課題を期日までに提出できるよう準備する。 なお、授業時間内に出た課題が時間内にできない場合は、自宅課題として取り組む。</p> <p>テキスト 佐藤和人編著 エssenシャル「臨床栄養学 第10版」医歯薬出版</p>					
学習評価の方法	<p>学習成果は、以下の獲得度合いを評価する。</p> <p>○専門的学習成果 ①症例患者に適した栄養管理計画書の作成ができ、その内容が理解できる能力・技術を獲得していること。 ②症例患者にカウンセリングを取り入れた栄養指導ができる技術を獲得していること。 ③栄養指導後の SOAP による栄養指導記録の作成ができていること。</p> <p>○汎用的学習成果 管理栄養士としての自覚を持ち積極的に任務に取り組むことができていること。チームワーク、パートナーシップ、対話能力の能力として自己表現力・他者理解力が取れていること。</p> <p>○学習評価は、専門的学習成果として、①栄養評価：20点、②栄養管理計画書の作成：20点、③SOAP 式での記録作成：20点とする。汎用的学習成果③チームワーク・論理的思考力、自己管理能力 40点を総合して行う。</p> <p>○学習のフィードバックは、課題の返却時に解説を行う。 なお、過度な私語や授業参加意欲が極端に低い場合、汎用的学習成果から減点を行う。</p>						
注意事項	<p>参考図書等 基礎栄養学・生化学・解剖生理学の教科書を読み、これまでの授業を復習してください。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>授業の進め方について 臨床栄養学演習について概説し、授業計画を説明する。 医療現場で使用する書類の説明をする。 臨床栄養学で使用される用語の説明をする。 遠隔での外来栄養食事指導の方法を説明する。</p>
2 回	<p>糖尿病の栄養ケア・プロセスについて症例を通じての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> <li>・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成</li> </ul>
3 回	<p>糖尿病の栄養ケア・プロセスについて症例を通じての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> <li>・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成</li> </ul>
4 回	<p>脂質異常症の栄養ケア・プロセスについて症例を通じての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> <li>・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成</li> </ul>
5 回	<p>脂質異常症の栄養ケア・プロセスについて症例を通じての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> <li>・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成</li> </ul>
6 回	<p>代謝疾患及び循環器疾患の栄養指導を通じての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の指導内容の検討</li> <li>・栄養指導用の媒体作成</li> <li>・栄養ケア・プロセスに関するテスト</li> </ul> <p>【持参物：保存可能な記録媒体（U S B等）】</p>
7 回	<p>代謝疾患及び循環器疾患の栄養指導を通じての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の指導内容の検討</li> <li>・栄養指導用の媒体作成</li> <li>・栄養ケア・プロセスに関するテストの解説</li> </ul> <p>【持参物：保存可能な記録媒体（U S B等）】</p>
8 回	<p>代謝疾患及び循環器疾患の栄養指導を通じての演習③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団栄養食事指導の演習</li> </ul> <p>【持参物：白衣】</p>

9 回	<p>肝硬変の栄養ケア・プロセスについて症例を通じての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> <li>・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成</li> </ul>
10 回	<p>肝硬変の栄養ケア・プロセスについて症例を通じての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> <li>・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成</li> </ul>
11 回	<p>腎臓病の栄養ケア・プロセスについて症例を通じての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> <li>・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成</li> </ul>
12 回	<p>腎臓病の栄養ケア・プロセスについて症例を通じての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の診断基準及び病態について</li> <li>・生化学検査及び身体症状</li> <li>・栄養状態の評価項目</li> <li>・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成</li> </ul>
13 回	<p>消化器疾患・腎疾患の栄養指導を通じての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の指導内容の検討</li> <li>・栄養指導用の媒体作成</li> <li>・栄養ケア・プロセスに関するテスト</li> </ul> <p>【持参物：保存可能な記録媒体（USB等）】</p>
14 回	<p>消化器疾患・腎疾患の栄養指導を通じての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患の指導内容の検討</li> <li>・栄養指導用の媒体作成</li> <li>・栄養ケア・プロセスに関するテストの解説</li> </ul> <p>【持参物：保存可能な記録媒体（USB等）】</p>
15 回	<p>消化器疾患・腎疾患の栄養指導を通じての演習③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団栄養食事指導の演習</li> </ul> <p>【持参物：白衣（必須）】</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	公衆栄養学 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	内田 雅子
質問受付の方法 (e-mail, uchida@owc. ac. jp) : オフィスアワー : 在室時はいつでも受け付けます							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 : 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 国民、地域住民、職域などのさまざまな集団を対象に、食と健康の関係を明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動を推進するための基本的な知識と技術の習得を目指す。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果—地域や職域等における保健、医療、福祉、介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成、実施、評価を総合的に実行できる能力の獲得</p> <p>汎用的学習成果—健康・栄養改善行動の支援に必要な問題解決力、論理的思考、倫理観を獲得する。</p>						
	教育方法	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は教科書およびプリントを教材として行うが、新聞などの最新の報道記事等も活用する。</li> <li>・各授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を記入、提出すること。個々へのフィードバックとしてはシャトルカードへの返信により対応するが、全体への理解度の向上のためには次回の授業で解説・補足を行う。</li> <li>・各単元の終了後の「小テスト」を実施、返却後、理解不足の箇所については、補足解説を行い、確実に知識が修得できるようフィードバックする。</li> </ul>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>食生活に関わる報道記事などは常に興味を持っておくこと。</p> <p>予習事項 : 次回の学習内容・教科書の範囲を示すので、教科書を必ず読み、興味のある箇所や授業で理解すべき点に下線を引いておくこと。</p> <p>復習事項 : キーワードを中心に授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。 キーワード集を作成し、整理しておく。</p> <p>予習・復習は各 90 分が必要である。</p>					
	テキスト	<p>カレント 公衆栄養学 由田克士・荒井裕介 編著 建帛社 日本人の食事摂取基準 (2025年版) 第一出版</p>					
注意事項	<p>上記学習成果の獲得のため、以下の項目について理解度を評価する。</p> <p>①公衆栄養の概念、行政栄養士の役割 ②国内外の健康・栄養問題の現状と課題 ③公衆栄養に関する制度・施策や健康増進計画について</p> <p>学習評価は、定期試験成績(70%)および単元ごとの小テスト(30%)によって行う。</p>						
注意事項	<p>15回授業の2/3以上の出席により定期試験の受験資格が得られる。遅刻や欠席がないように受講すること</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法について 公衆栄養の概念1</p> <p>■本時の目標：公衆栄養は国民や地域住民といった集団を対象とし、多様な集団の健康・栄養問題を効果的に解決する方策について学ぶものであることを理解する</p> <p>■講義内容：・公衆栄養の考え方 ・公衆栄養活動の歴史</p> <p>■予習及び復習事項 予習：教科書（P1-8）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
2 回	<p>公衆栄養の概念2</p> <p>■本時の目標：公衆栄養活動は生態系、健康・医療・福祉・介護などの広い分野で行われていることを理解し、広範囲の視点から市町村、都道府県や国または世界の栄養問題を展望できるようになる</p> <p>■講義内容：・疾病予防の公衆栄養活動 ・ヘルスプロモーション</p> <p>■予習および復習事項 予習：教科書（P9-14）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
3 回	<p>日本の健康・栄養問題の現状と課題1</p> <p>■本時の目標：国民健康・栄養調査結果の推移と関連付けて現状課題、疾病構造の推移が説明できる</p> <p>■講義内容：国民健康・栄養調査から見る経年的な栄養摂取状況の変化</p> <p>■予習および復習事項 予習：教科書（P15-21）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
4 回	<p>日本の健康・栄養問題の現状と課題2</p> <p>■本時の目標：我が国における栄養問題の要因としての食事・食生活の現状と経年的変化を説明できる</p> <p>■講義内容：・食行動の変化 ・国民健康・栄養調査結果の見方</p> <p>■予習および復習事項 予習：教科書（P21-30）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
5 回	<p>日本の健康・栄養問題の現状と課題3</p> <p>■本時の目標：最新の国民健康・栄養調査結果の概要が説明できる</p> <p>■講義内容：国民健康・栄養調査の概要</p> <p>■予習および復習事項 予習：直近の「国民健康栄養調査の概要」を調べておく。 復習：食事・食生活の現状と経年的変化をまとめる</p>
6 回	<p>日本の健康・栄養問題の現状と課題4</p> <p>■本時の目標：我が国における栄養問題と食環境の変化との関連について説明できる。</p> <p>■講義内容：・食環境の現状と経年的な変化 ・食料自給率</p> <p>■予習および復習事項 予習：教科書（P31-35）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>

7 回	<p>諸外国における健康・栄養問題の現状と課題</p> <p>■本時の目標：諸外国の健康・栄養問題の概要を説明できる。</p> <p>■講義内容：・開発途上国の健康、栄養問題 ・先進国の健康、栄養問題</p> <p>■予習および復習事項 予習：教科書（P36-41）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
8 回	<p>栄養政策 1</p> <p>■本時の目標：公衆栄養活動の根拠となっている主な法律の目的を説明できる</p> <p>■講義内容：・栄養行政組織と業務内容 ・地域保健法 ・健康増進法</p> <p>■予習および復習事項 予習：教科書（P43-49）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
9 回	<p>栄養政策 2</p> <p>■本時の目標：公衆栄養関連法規と制定の経緯・意義について説明できる 管理栄養士・栄養士の社会的役割を説明できる</p> <p>■講義内容：・食育基本法、その他関連法規 ・栄養士法 ・栄養士の職業倫理</p> <p>■予習および復習事項 予習：教科書（P49-53）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
10 回	<p>健康づくり施策</p> <p>■本時の目標：「健康日本 21」「食育推進基本計画」の目的、対象、概要を説明できる。</p> <p>■講義内容：・健康増進計画 ・食育推進計画</p> <p>■予習および復習事項 予習：教科書（P68-80）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
11 回	<p>国民健康・栄養調査</p> <p>■本時の目標：国民健康・栄養調査の目的や方法を学び、これらの結果が国や地方自治体の関連施策にどのように反映しているか説明できる。</p> <p>■講義内容：国民健康・栄養調査の目的、内容、方法</p> <p>■予習および復習事項 予習：教科書（P54-58）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
12 回	<p>実施に関連する指針・ツール 1</p> <p>■本時の目標：健康づくり活動に用いる指針、ツールの内容を理解し、栄養教育に活かせるようになる。</p> <p>■講義内容：・食事バランスガイド ・食生活指針</p> <p>■予習および復習事項 予習：教科書（P58-68）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>

13 回	<p>実施に関連する指針・ツール2</p> <p>■本時の目標：健康づくり活動に用いる指針、ツールの内容を理解し、栄養教育に活かせるようになる。</p> <p>■講義内容：・身体活動基準 2023 ・休養指針 ・睡眠ガイド</p> <p>■予習および復習事項 予習：配布した資料を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
14 回	<p>諸外国の健康・栄養施策</p> <p>■本時の目標：栄養に関わる国際機関の名称とその概要を説明できる 国際的な栄養・健康政策の概要を説明できる</p> <p>■講義内容：・国際的な栄養行政組織 ・諸外国の栄養関連計画、栄養士制度</p> <p>■予習および復習事項 予習：教科書（P80-86）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
15 回	<p>健康づくり地方施策の実際</p> <p>■本時の目標：健康増進、食育推進計画にそった公衆栄養活動を、倉敷市を例に説明できる。</p> <p>■講義内容：・健康増進及び食育推進地方計画の策定状況 ・倉敷市地方計画 ・公衆栄養学 I のまとめ</p> <p>■予習および復習事項 予習：倉敷市健康増進計画の内容を調べておく 復習：整理したキーワードを覚える</p>

令和7年度教育計画							
科目名	公衆栄養学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	内田 雅子
質問受付の方法 (e-mail:uchida@owc.ac.jp, オフィスアワー等：在室時はいつでも受け付けます)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 国民、地域住民、職域などのさまざまな集団を対象に、食と健康の関係を明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動を推進するための基本的な知識と技術の習得を目指す</p> <p>学生の学習成果：            専門的学習成果—地域や職域等における保健、医療、福祉、介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成、実施、評価を総合的に実行できる能力の獲得            汎用的学習成果—公衆栄養マネジメントを組み立てる中で論理的思考力、食事調査結果の分析を行うための情報処理能力を養う。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は教科書およびプリントを教材として行うが、新聞などの最新の報道記事等も活用する。</li> <li>・各授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を記入、提出すること。個々へのフィードバックとしてはシャトルカードへの返信により対応するが、全体への理解度の向上のためには次回の授業に解説・補足を行う。</li> <li>・各単元の終了後の「小テスト」を実施、返却後、理解不足の箇所については、補足解説を行い、確実に知識が修得できるようフィードバックさせる。</li> </ul>					
教育方法	予習・復習	<p>食生活に関わる報道記事などは常に興味を持っておくこと。            予習事項：次回の学習内容・教科書の範囲を示すので、教科書を必ず読み、興味のある個所や授業で理解すべき点に下線を引いておく。            復習事項：キーワード集を作成し、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。            予習・復習は各90分が必要である。</p>					
	テキスト	<p>カレント 公衆栄養学 由田克士・荒井裕介 編著 建帛社            日本人の食事摂取基準(2025年版) 第一出版</p>					
学習評価の方法	<p>上記学習成果の獲得のため、以下の項目について理解度を評価する。            ①栄養疫学を理解している            ②公衆栄養マネジメントを理解している            ③公衆栄養プログラムを理解している            学習評価は、定期試験成績(70%)および単元ごとの小テスト(30%)によって行う。</p>						

<p>注意事項</p>	<p>参考図書等 参考図書は新書程度の本を授業内容に合わせて紹介する。</p>
<p>授 業 回 数 別 教 育 内 容</p>	
<p>1 回</p>	<p>オリエンテーション 授業の概要と評価法について 栄養疫学の概要 ■本時の目標：公衆疫学の役割を説明できる。 食事調査における変動、誤差の影響について説明できる。 ■講義内容：・栄養疫学の役割 ・曝露情報としての食事摂取量（食事調査における変動と誤差） ■予習・復習事項 予習：教科書（P87-94）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
<p>2 回</p>	<p>食事摂取量の測定方法 ■本時の目標：食事摂取量の調査方法の種類と概要を説明できる。 ■講義内容：・食事記録法と24時間思い出し法 ・食物摂取頻度調査 ■予習・復習事項 予習：教科書（P94-100）を読んでおく 復習：キーワード集をまとめる</p>
<p>3 回</p>	<p>食事摂取量の評価方法1 ■本時の目標：日本人の摂取基準を用いて食事摂取量の評価ができる。 ■講義内容：・食事摂取基準の活用 ■予習・復習事項 予習：教科書（P101-104）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
<p>4 回</p>	<p>食事摂取量の評価方法2 ■本時の目標：総エネルギーを調整栄養素摂取量が計算できる。 ■講義内容：・残差法 ・密度法 ■予習・復習事項 予習：教科書（P105-107）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
<p>5 回</p>	<p>データの処理と解析 ■本時の目標：データ解析に必要な用語の説明ができる。 ■講義内容：・データの種類 ・データの分布 ■予習・復習事項 予習：教科書（P107-108）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
<p>6 回</p>	<p>栄養疫学研究の種類 ■本時の目標：栄養疫学研究の種類と方法を説明できる。 ■講義内容：・観察研究、介入研究、系統的レビュー、統合解析 ・研究の信頼性 ■予習・復習事項 予習：教科書（P108-111）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>

7 回	<p>公衆栄養マネジメント</p> <p>■本時の目標：公衆栄養マネジメントの基本的な考え方やその必要性を学び、マネジメントサイクルを適切に回せるようになる。</p> <p>■講義内容：・地域診断 ・プリシードプロシードモデル</p> <p>■予習・復習事項 予習：教科書（P114-116）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
8 回	<p>公衆栄養マネジメント ～アセスメント～</p> <p>■本時の目標：公衆栄養アセスメントの目的、その方法を説明できる。</p> <p>■講義内容：・アセスメントの目的と方法、種類 ・地域診断の実践</p> <p>■予習・復習事項 予習：教科書（P116-121）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
9 回	<p>公衆栄養マネジメント ～目標設定～</p> <p>■本時の目標：公衆栄養活動において優先順位を考えた目標設定ができる。</p> <p>■講義内容：・課題の抽出 ・目標の種類 ・目標設定の優先順位</p> <p>■予習・復習事項 予習：教科書（P121-125）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
10 回	<p>公衆栄養マネジメント ～プログラムの計画、実施～</p> <p>■本時の目標：公衆栄養プログラムの計画・実施において対象者、地域、社会資源などの組織化、活用、連携などの重要性と方法について説明できる</p> <p>■講義内容：・計画策定 ・住民参加      ・関連機関の役割</p> <p>■予習・復習事項 予習：教科書（P126-132）読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
11 回	<p>公衆栄養マネジメント ～プログラムの評価～</p> <p>■本時の目標：公衆栄養プログラムの実施中、実施後の評価方法について説明できる</p> <p>■講義内容：・評価の意義と方法 ・評価の種類      ・評価の実際</p> <p>■予習・復習事項 予習：教科書（P133-136）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
12 回	<p>公衆栄養プログラムの展開 ～母子保健・食育～</p> <p>■本時の目標：妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期の現状と課題を理解した上で公衆栄養活動がどのように展開されているか説明できる。</p> <p>■講義内容：・母子保健対策 ・食育推進</p> <p>■予習・復習事項 予習：教科書（P139-151、185-195）を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>

13 回	<p>公衆栄養プログラムの展開 ～成人保健、介護予防～</p> <p>■本時の目標：成人期、高齢期の現状を理解した上で、公衆栄養活動がどのように展開されているか説明できる。</p> <p>■講義内容：・特定健診、保健指導 ・地域包括ケアシステム</p> <p>■予習・復習事項 予習：教科書(P145-151、195-209)を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
14 回	<p>公衆栄養プログラムの展開 ～危機管理～</p> <p>■本時の目標：災害時における栄養・食生活支援の意義と方法について説明できる。</p> <p>■講義内容：・災害時の食支援 ・地域ネットワーク</p> <p>■予習・復習事項 予習：教科書(P152-165)を読んでおく 復習：キーワードをまとめる</p>
15 回	<p>公衆栄養プログラムの展開 ～食環境づくり～</p> <p>■本時の目標：食環境整備を推進することで、どのような効果が期待できるか言える健康づくりに関する情報を適切に選び活用できる。</p> <p>■講義内容：・食物、食情報へのアクセス ・栄養成分表示の活用 ・公衆栄養学Ⅱのまとめ</p> <p>■予習・復習事項 予習：教科書(P166-184)を読んでおく 復習：今までまとめてきたキーワードを覚える</p>

令和7年度教育計画							
科目名	公衆栄養学実習	授業回数	15	単位数	1	担当教員	内田 雅子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー) : <a href="mailto:uchida@owc.ac.jp">uchida@owc.ac.jp</a> 在室時はいつでも受け付けます							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 地域集団を対象とした公衆栄養マネジメントの流れや手法について理解を深め、エビデンスに基づく地域の現状把握および改善計画の立案から、対象者に応じた栄養教育までの一連の流れが実践できるようになる。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果—公衆栄養活動や栄養問題に関する情報収集・整理・分析力 地域における健康・栄養活動のマネジメント力。 住民を対象にした栄養教育の実践力。</p> <p>汎用的学習成果—公衆栄養マネジメントを実践することによる問題解決力 住民、関連機関との関係を築くコミュニケーション力</p>						
	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・<b>実習</b>・実技) 集団の健康状態、生活習慣、食行動等に関するアセスメントの方法、改善すべき優先課題の選択、事業計画の作成などの公衆栄養マネジメントの一連の過程について、学生を対象とした身体状況調査、食事調査、食生活状況調査。 調査対象者に興味関心が深まる食育SATシステムの活用。 調査後のデータを処理。 得られた結果と既存資料を利用して、対象集団へ健康教育の模擬授業。 を通して学んでいく。 公衆栄養活動を模擬体験するとともに、学生自らの食生活改善を促すことも目的とする。</p>					
教育方法	予習・復習	<p>公衆栄養活動に関連するキーワードについて、公衆栄養学(講義)と関連づけて予習・復習をすること。 発表内容の整理や媒体の作成など、予習・復習として積極的に行うこと。</p>					
	テキスト	<p>公衆栄養学実習 第4版 上田信夫編 化学同人 日本人の食事摂取基準(2025年版) 第一出版 参考図書は新書程度の本を授業内容に合わせて紹介する。</p>					
学習評価の方法	<p>以下に示す学習成果についてその獲得具合を評価する。</p> <p>①食事調査・データ収集・統計解析を行うための基本的な技能が身についている。 ②食事調査結果の評価、判定ができる。 ③公衆栄養マネジメントのPDCA(地域の課題把握、事業計画の立案、実施、評価)を実践的に検討することができる</p> <p>学習評価は、課題提出(60%) 各提出課題の平均点で評価する。 期限を過ぎた提出は減点対象とする。 フィードバックは課題の返却時に行う。</p> <p>実技(健康教育)(30%) 実習態度(10%) 出席状況、グループ活動への参加状況</p>						

注 意 事 項	15回の授業のうち、3分の2以上出席しなければ学習評価を得ることができない。 ペアワーク、グループワークが多いため、遅刻なく出席することはとても重要である。
------------------	---

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション（実習の概要について） 公衆栄養学の情報の検索方法</p> <p>■本時の目標 EBNに基づいた情報収集ができるようになる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の検索方法</li> <li>・栄養、食品、食行動に関する情報の検索</li> </ul>
2 回	<p>栄養状態の判定と評価 ① ー身体状況調査と評価（個人）</p> <p>■本時の目標 栄養状態を評価するための身体計測の方法と判定・評価を身に付ける。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生同士による身体計測。結果の評価、判定。</li> <li>・個人の栄養摂取状況の評価</li> </ul>
3 回	<p>栄養状態の判定と評価 ② ー集団のデータ解析</p> <p>■本時の目標 集団の食事調査データの解析ができる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の栄養摂取状況の評価</li> </ul>
4 回	<p>栄養状態の判定と評価 ③ ー集団のデータ解析</p> <p>■本時の目標 集団の食事調査データの解析ができる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の栄養摂取状況の評価</li> <li>・エクセルによるデータ解析</li> </ul>
5 回	<p>栄養状態の判定と評価 ④ ー個人の栄養評価</p> <p>■本時の目標 食事内容の評価、判定ができる。対象者に栄養教育できる。 食育SATシステムが使える。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育SATシステムによる栄養素摂取量の推定</li> <li>・結果の評価、改善点の栄養教育</li> </ul>
6 回	<p>国民健康栄養調査の実践①</p> <p>■本時の目標 国民健康栄養調査で用いられている、食物摂取状況の把握と栄養素摂取量の算出、評価方法を身に着ける。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康栄養調査の内容</li> <li>・食事記録法による栄養素摂取量の計算</li> </ul>
7 回	<p>国民健康栄養調査の実践②</p> <p>■本時の目標 国民健康栄養調査で用いられている、食物摂取状況の把握と栄養素摂取量の算出、評価方法を身に着ける。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査当時と想定し、国民健康栄養調査の一連の流れを実施</li> </ul>

8 回	<p>地域診断①</p> <p>■本時の目標 対象手段の特性を把握するための方法知り、それに必要な情報を収集することができる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域診断の進め方</li> <li>・地域の既存資料収集</li> </ul>
9 回	<p>地域診断②</p> <p>■本時の目標 地域のアセスメント結果から、地域診断をすることができる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の抽出</li> <li>・診断結果の発表</li> </ul>
10 回	<p>公衆栄養プログラム①</p> <p>■本時の目標 公衆栄養マネジメントサイクルに沿って目的、目標に近づいていく公衆栄養活動が展開できる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養活動の企画立案に関するグループ討議</li> <li>・プリシード、プロシードモデルの活用</li> </ul>
11 回	<p>公衆栄養プログラム②</p> <p>■本時の目標 公衆栄養マネジメントサイクルに沿って目的、目標に近づいていく公衆栄養活動が展開できる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養プログラム計画書の作成</li> </ul>
12 回	<p>地域における健康診査の実施</p> <p>■本時の目標 母子保健事業の目的を理解し、乳幼児の発育に適した食事指導、栄養教育を行うことができる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健康診査における指導方法</li> <li>・指導計画、教材作成</li> </ul>
13 回	<p>地域における健康診査の実施</p> <p>■本時の目標 母子保健事業の目的を理解し、乳幼児の発育に適した食事指導、栄養教育を行うことができる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健康診査における指導（実践発表）</li> </ul>
14 回	<p>地区組織育成、支援</p> <p>■本時の目標 公衆栄養プログラムを効果的に進めるための、住民参加による健康づくり活動を展開できる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養プログラムにおける住民参加</li> <li>・ワールドカフェ</li> </ul>
15 回	<p>災害時の公衆栄養活動</p> <p>■本時の目標 平常時の栄養・食生活活動を学び、健康危機管理業務の一連の流れを習得する</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康、食生活の危機管理</li> <li>・家庭備蓄の推進</li> </ul>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	給食経営管理論 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	佐藤 幸枝
質問受付の方法：(e-mail, オフィスアワー等)： <a href="mailto:y_sato@owc.ac.jp">y_sato@owc.ac.jp</a> ：在室時は何時でも可							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>給食経営管理 I では、栄養学や食品衛生学の知識を基に学校・病院・福祉施設などの特定給食施設における利用者の身体状況や栄養状態、その他の利用目的にあわせた給食サービスの方法について「栄養・食事管理」と「経営管理」を学習し、給食経営管理業務に必要な基礎知識を習得する。また、各項目の目的や意義を理解し給食経営管理の流れを理解する。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt;</p> <p>給食経営管理業務の基本となる専門知識を習得する。給食管理には、コミュニケーションによる良好な人間関係を築くことが重要であることを理解する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業は、テキスト、プリントなどを利用して進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始時に「小テスト」を行う。また、授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。</li> <li>・上記の質問に答え、また、コメントを記載して次回の授業で返却する。</li> <li>・「小テスト」および「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。</li> </ul>					
成績評価の方法	予習・復習	<p>予習事項:授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習をする。(90分)</p> <p>復習事項:毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。(90分)</p> <p>「小テスト」および「シャトルカード」により、予習・復習を効果的に行っているかどうかを確かめる。問題がある場合は、学習の仕方等について指導する。</p>					
	テキスト	<p>管理栄養士テキストブック 給食経営管理論 片山直美・原正美 (株) 未来</p>					
注意事項	<p>15回授業の2/3以上の出席により定期試験の受験資格が得られる。遅刻や欠席がないように受講すること。予習・復習を行うこと。</p>						

	授 業 回 数 別 教 育 内 容
1 回	オリエンテーション（シャトルカードの記入方法） 給食の概念 P14～30 1）給食の概要 2）給食システム 3）給食施設の特徴と関連法規 給食経営管理の概念内容予告
2 回	給食の経営管理の概念（小テストによる復習①）P31～52 1）給食経営と献立 2）経営管理の概要 3）給食とマーケティング 4）給食経営と組織 栄養・食事管理内容予告
3 回	栄養・食事管理（小テストによる復習②）P54～81 1）栄養・食事のアセスメント 2）食事の計画(栄養目標量の設定) 3）食事計画の実施、評価、改善 給食経営における品質管理内容予告
4 回	給食経営における品質管理（小テストによる復習③）P82～99 1）品質と標準化 2）原価 食材・生産調理内容予告
5 回	給食経営における品質管理（小テストによる復習④）P100～125 3）食材 4）生産(調理)と提供 給食の安全・衛生内容予告
6 回	給食の安全・衛生（小テストによる復習⑤）P126～144 1）安全・衛生の概要 2）安全・衛生の実際(大量調理施設衛生管理マニュアル) 給食の施設・設備内容予告
7 回	給食の施設・設備（小テストによる復習⑥）P160～183 1）生産(調理)設計・設備設計 2）食事環境の設計と設備 給食の人事管理内容予告
8 回	給食の人事管理（小テストによる復習⑦）P184～193, 1）人事 2）給食業務従事者の教育・訓練 3）人事考課 給食の安全・衛生 P145～159 4）事故・災害対策 医療施設内容予告
9 回	医療施設（小テストによる復習⑧）P194～202 1）給食の目的 4）栄養・食事管理の特徴 2）施設の種類 5）生産管理の特徴 3）経営管理の特徴 6）安全・衛生管理の特徴 7）施設・設備管理の特徴 高齢者・介護福祉施設内容予告
10 回	高齢者・介護福祉施設（小テストによる復習⑨）P203～214 1）給食の目的 4）栄養・食事管理の特徴

	2) 施設の分類                    5) 生産管理の特徴 3) 経営管理の特徴            6) 安全・衛生管理の特徴   7) 施設・設備管理の特徴 児童福祉施設・障害者福祉施設内容予告
11 回	児童福祉施設（小テストによる復習⑩） P215～230 1) 給食の目的                    4) 栄養・食事管理の特徴 2) 施設の分類                    5) 生産管理の特徴 3) 経営管理の特徴            6) 安全・衛生管理の特徴   7) 施設・設備管理の特徴 障害者福祉施設 1) 給食の目的                    4) 栄養・食事管理の特徴 2) 施設の分類                    5) 生産管理の特徴 3) 経営管理の特徴            6) 安全・衛生管理の特徴   7) 施設・設備管理の特徴 学校内容予告
12 回	学校（小テストによる復習⑪） P231～242 1) 学校給食の目的類                    4) 栄養・食事管理の特徴 2) 学校給食の運営形態による分類    5) 安全・衛生管理の特徴 3) 経営管理の特徴                    6) 施設・設備管理の特徴 事業所・その他給食施設内容予告
13 回	事業所（小テストによる復習⑫） P243～258 1) 施設・設備の基準と関係法規 2) 食事環境の設計と設備 その他給食施設 給食サービス事業所内容予告
14 回	給食サービス事業所（小テストによる復習⑬） P259～272 1) 給食運営の委託事業 2) 院外給食 3) 配食事業 4) 大量調理施設衛生管理マニュアルについて
15 回	まとめ（小テストによる復習⑭） 全体のまとめ

令和7年度教育計画							
科目名	給食経営管理論Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	佐藤 幸枝
質問受付の方法：C棟201研究室で授業以外の時間で対応							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標：&gt; <u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</u></p> <p>給食経営管理論Ⅰで習得した基礎知識を基に、各種給食施設の運営形態を理解し経営管理の実際を学ぶ。関連の資源（食品流通、給食に関わる組織や経費など）の総合的な判断力、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力、マーケティングの原理や応用の理解及び組織管理などマネジメント能力を総合的に理論付けて応用力を養う。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt;</p> <p>給食経営管理業務の総合的な能力を養う。特定給食施設での栄養・給食関連サービスのマネジメントや良好な経営管理継続のための応用力や実践的な総合能力を養う。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業は、テキスト、プリントなどを利用して進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始時に「小テスト」を行う。また、授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。</li> <li>・上記の質問に答え、また、コメントを記載して次回の授業で返却する。</li> <li>・「小テスト」学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。</li> </ul> <p>(課題に対するフィードバックの方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は提出後、添削し返却する。全体又は必要に応じて個人指導を行う。</li> </ul>					
	予習・復習	<p>予習事項:授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習をする。(90分)</p> <p>復習事項:毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。(90分)</p> <p>「小テスト」および「課題」により、予習・復習を効果的に行っているかどうかを確かめる。問題がある場合は、学習の仕方等について指導する。</p>					
	テキスト	<p>給食経営管理論 片山直美・原正美 編 (株)みらい</p> <p>Plan-Do-See にそった 給食運営・経営管理実習のてびき 西川貴子、深津智恵美ら 医歯薬出版株式会社</p>					
成績評価の方法	<p>小テスト7回 (7点:1点/回)</p> <p>レポート8回 (8点:1点/回)</p> <p>定期試験 (85点)</p> <p>加点合計 100点</p>						
注意事項	<p>15回授業の2/3以上の出席により定期試験の受験資格が得られる。遅刻や欠席がないように受講すること。</p>						



10 回	給食における栄養管理の実際④（レポート・小テストによる復習） P45～50（経営管理実習の手引き） 1）食品流通 食材の購入方法 2）在庫管理と発注 給食の品質管理の実際の内容について予告
11 回	給食の品質管理の実際（レポート・小テストによる復習） P82～96（給食経営管理論） 1）栄養・食事管理と総合品質 2）栄養出納表の算出 3）品質改善とPDCAサイクル 原価管理の実際の内容について予告
12 回	原価管理の実際（レポート・小テストによる復習） P145～148（経営管理実習の手引き） 1）原価計算 2）ABC分析 会計・原価管理の実際の内容について予告
13 回	原価管理の実際（レポート・小テストによる復習） P149～151（経営管理実習の手引き） 1）給食における収入と原価・売上 2）損益分岐点作成 衛生管理の実際の内容について予告
14 回	衛生管理の実際（小テストによる復習） P126～143（給食経営管理論） 1）大量調理マニュアル 2）衛生管理の実際の流れ 給食の生産管理の実際の内容について予告
15 回	給食の生産管理の実際（レポート・小テストによる復習） P160～182（給食経営管理論） 1）生産ラインと作業動線 2）施設・設備のレイアウト 3）新調理システム 4）労働生産性 5）作業工程の分析、工程表の作成

令和7年度教育計画							
科目名	給食経営管理実習 I	授業回数	15	単位数	1	担当教員	佐藤 幸枝
質問受付の方法：(e-mail, オフィスアワー等)： <a href="mailto:y_sato@owc.ac.jp">y_sato@owc.ac.jp</a> ：在室時は何時でも可							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>給食経営管理論 I・IIでの学びが実践の場で生かせるよう、対象者に見合った食事計画や献立、作業計画を作成し、発注・調理・試食を行い、大量調理を想定した大型機器を使用し調理方法の習得や衛生管理の実際を体験する。HACCPの概念の衛生管理を実習で熟知させる。また、給食を活用した栄養教育・情報提供を行う。</p> <p>給食経営の関わりは対象者の目的に合った、おいしく安全な食事提供ができたか、作業の時間配分や衛生面で問題はなかったかなど、業務全体のマネジメントの評価が行え、栄養士と調理従事者の業務内容や役割を理解し、協力体制の重要性を学び、問題点を見つける目やその改善策を考える力を身につける。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt;</p> <p>衛生管理の方法を理解する。大量調理技術、新調理技術の習得。給食業務のマネジメントの流れを習得する。給食経営管理業務に必要な応用力、リーダーシップ、コミュニケーション</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・<b>実習</b>・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者に見合った献立を SAT システムを活用しながら作成する。</li> <li>大量調理や衛生管理技術の実習は7グループ(管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係)に分けて7回ローテーションを行いすべての作業を体験する。体験を通して大量調理器具使用方法や管理方法も学ぶ。</li> <li>給食経営管理の基本である計画・実施・評価の流れは管理帳票を作成することで、実務能力を身につける。</li> </ul> <p>(課題に対するフィードバックの方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題は提出後、添削し返却する。全体又は必要に応じて個人指導を行う。</li> </ul>					
成績評価の方法	予習・復習	<p>毎回の授業に対しては予習、復習を必要とする。</p> <p>予習事項:授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習をする。(90分)</p> <p>復習事項:毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。(90分)</p>					
	テキスト	<p>西川貴子、深津智恵美ら Plan-Do-See にそった 給食運営・経営管理実習のてびき 第4版：医歯薬出版株式会社</p> <p>メニューコーディネーターのための食材別料理集第三版：同文書院</p> <p>NEX 献立作成の基本と実践：講談社サイエンティフィック</p>					
成績評価の方法	<p>衛生管理 (15点：5点/回) (衛生的な服装・検便・手洗い)</p> <p>課題レポート7回 (35点：5点/回)</p> <p>(献立、調理衛生、指導案、大量調理、発注書、給食日誌、実習改善案)</p> <p>実習内容 (50点) 検収作業・衛生的作業 (10点：5点/各)</p> <p>調理技術 (20点)</p> <p>グループ作業 (20点：リーダーシップ、チームワーク)</p> <p>加点合計 100点</p> <p>実習ファイル未提出 10点減点とする。期限より遅れた場合は5点減点とする。</p>						

注意事項	<p>多人数での実習で作業が分担されることもあるが、各自がそれぞれの役割を担い、責任を持って遂行すること。また、互いが協力し、チームワークを意識し、常に「報告」「連絡」「相談」の原則を忘れないようにすること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は連絡をすること。休むと役割が理解できなくなるので体調を整え遅刻や欠席がないようにする。</p>
------	---

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション 実習のグループ編成、 学校給食の栄養・食事計画を立て、実習テーマを決定する</p>
2 回	<p>栄養・食事計画に基づいた献立作成 SAT システムを活用し献立作成を行う (献立表の提出)</p>
3 回	<p>給食施設見学 給食を活用した指導案の作成、 (指導案提出)</p>
4 回	<p>衛生管理 衛生帳票の記入方法 手洗いチェック (3段階で評価)</p>
5 回	<p>大量調理について 器具の使用法、下処理方法、調理方法、盛り付け方法について 給食帳票の記入方法 野菜カットテスト</p>
6 回	<p>課題実習打合せ 献立、調理、作業工程表説明、食器衛生検査説明 (次回実習のための予習を必ず行う)</p>
7 回	<p>予備実習 (管理栄養士役は給食日誌作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループに分かれて、実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係)</li> <li>・ 学校給食実習の準備</li> </ul>
8 回	<p>課題献立①：真空調理の実習 (管理栄養士役は給食日誌提出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 真空調理の<b>仕込み</b>実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係)</li> <li>・ 学校給食実習の準備</li> </ul>
9 回	<p>課題献立① (魚)：真空調理の実習 (管理栄養士役は給食日誌提出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 真空調理の<b>再加熱</b>実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係)</li> <li>・ 学校給食実習の準備</li> </ul>

10 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題献立②（肉）：真空調理の実習（管理栄養士役は給食日誌提出） <ul style="list-style-type: none"> <li>・真空調理の「仕込み」実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係）</li> <li>・学校給食実習の準備</li> </ul> </li> </ul>
11 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題献立②（肉）：真空調理の実習（管理栄養士役は給食日誌提出） <ul style="list-style-type: none"> <li>・真空調理の「再加熱」実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係）</li> <li>・学校給食実習の準備</li> </ul> </li> </ul> <p>（課題実習終了後大量調理、真空調理のレポート提出）</p>
12 回	<p>実習「学校給食」準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業工程表、作業動線、献立指示書作成</li> <li>・発注書、作業工程表の作成</li> <li>・作業計画のプレゼンテーション</li> <li>・作業グループでの打合せ</li> </ul> <p>（発注書、作業工程提出）</p>
13 回	<p>実習「学校給食」（管理栄養士役は給食日誌提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業工程表、作業動線、献立指示書作成</li> <li>・発注書、作業工程表の作成</li> <li>・作業計画のプレゼンテーション</li> <li>・作業グループでの打合せ</li> <li>・給食時指導の媒体作成</li> </ul>
14 回	<p>グループ B 班献立の実習「学校給食」（管理栄養士役は給食日誌提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係）</li> <li>・給食時指導の媒体作成</li> </ul>
15 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の給食時の指導を行う。</li> <li>・給食の原価計算</li> <li>・学校給食実習についてグループでまとめ、学校給食実習の評価、改善点についてプレゼンテーションを行う。</li> </ul> <p>（実習評価・改善表提出）</p>

令和7年度教育計画							
科目名	給食経営管理実習Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	佐藤 幸枝
質問受付の方法：C棟201研究室で授業以外の時間で対応							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>給食経営管理実習Ⅰで修得する内容をさらに深め、給食運営や関連の資源を総合的に判断し病院、福祉施設、事業所などでの給食業務を想定して栄養・食事管理およびマーケティングの視点に立った経営管理を実習する。</p> <p>給食施設の種類によるニーズや提供方法の違いを理解し実践することで、様々な給食施設でのマネジメント能力を養い、応用力や判断力を習得する。施設ごとの組織管理や給食を活用した栄養教育、情報提供方法を学習し、理論と実践を統合させる実習を行う。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt;</p> <p>個別対応を含む大量調理技術の習得。嚥下調整食の習得。病院、福祉施設、事業所のマネジメント能力を養う。給食経営管理におけるマーケティングの基本を理解する。給食経営管理</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・<b>実習</b>・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院、福祉施設、事業所での給食業務を実習する。</li> <li>・各施設の違いや特色を取り入れた献立をSATシステムを活用しながら作成する。</li> <li>・大量調理や衛生管理技術の実習は7グループ(管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係)に分けて7回ローテーションを行いすべての作業を体験する。体験を通して大量調理器具使用方法や管理方法も学ぶ。</li> <li>・給食経営管理の基本である計画・実施・評価の流れは管理帳票を作成することで、実務能力を身につける。</li> </ul> <p>(課題に対するフィードバックの方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は提出後、添削し返却する。全体又は必要に応じて個人指導を行う。</li> </ul>					
予習・復習	<p>毎回の授業に対しては予習、復習を必要とする。</p> <p>予習事項:授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習をする。(90分)</p> <p>復習事項:毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。(90分)</p>						
テキスト	<p>西川貴子、深津智恵美ら Plan-Do-See にそった 給食運営・経営管理実習のてびき 第4版・医歯薬出版株式会社</p> <p>メニューコーディネイターのための食材別料理集第三版：同文書院</p> <p>NEX 献立作成の基本と実践：講談社サイエンティフィック</p>						
成績評価の方法	<p>衛生管理 (10点：5点/回) (衛生的な服装・検便)</p> <p>課題レポート8回 (40点：5点/回)</p> <p>(給与栄養目標量計算表、献立作成、病院給食、高齢者福祉施設、事業所、給食日誌、ヘルシー弁当宣伝媒体案、実習まとめ改善シート)</p> <p>実習内容 (50点) 検収作業・衛生的作業 (10点：5点/各)</p> <p>調理技術 (20点)</p> <p>グループ作業 (20点：リーダーシップ、チームワーク)</p> <p>加算合計100点</p> <p>実習ファイル未提出10点減点とする。期限より遅れた場合は5点減点とする。</p>						

注 意 事 項	<p>多人数での実習で、作業が分担されることもあるが、各自がそれぞれの役割を担い、責任を持って遂行すること。また、互いが協力し、チームワークを意識し、常に「報告」「連絡」「相談」の原則を忘れないようにすること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は連絡をすること。休むと役割が理解できなくなるので体調を整え遅刻や欠席がないようにする。</p>
------------------	--

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション グループ実習（病院、福祉施設、事業所）の栄養・食事計画の作成 各施設の給与栄養目標量算出 栄養・食事計画に基づいた献立作成 SAT システムを活用し献立作成を行う （給与栄養目標量算出表提出）</p>
2 回	<p>グループ実習（各施設）の献立作成 課題実習の説明、打ち合わせ （献立表提出）</p>
3 回	<p>課題（嚥下調整食 1）実習（管理栄養士役は給食日誌提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係）</li> <li>・ 施設実習の準備</li> </ul>
4 回	<p>課題（嚥下調整食 2）実習（管理栄養士役は給食日誌提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係）</li> <li>・ 施設実習の準備</li> </ul>
5 回	<p>課題（嚥下調整食 3）実習（管理栄養士役は給食日誌提出） （摂食嚥下困難食レポート提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習を役割に分かれて行う （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係）</li> <li>・ 施設実習の準備</li> </ul>
6 回	<p>グループ実習「各施設給食」準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業工程表、作業動線、献立指示書作成</li> <li>・ 発注書、作業工程表の作成</li> <li>・ 作業計画のプレゼンテーション</li> <li>・ 作業グループでの打合せ</li> </ul>
7 回	<p>ヘルシー弁当のテーマ決定 SAT システムを活用し献立作成を行う</p>
8 回	<p>① 病院給食実習（治療食・食事形態）（管理栄養士役は給食日誌提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院給食実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係）</li> <li>・ ヘルシーメニューの準備 （病院給食レポート提出）</li> </ul>
9	<p>② 高齢者福祉施設給食実習（管理栄養士役は給食日誌提出）</p>

回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者福祉施設給食実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係)</li> <li>・ ヘルシーメニューの準備 (高齢者福祉施設給食レポート提出)</li> </ul>
10回	<p>③ 事業所給食実習 (管理栄養士役は給食日誌提出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所給食実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係)</li> <li>・ ヘルシーメニューの準備 (事業所給食レポート提出)</li> </ul>
11回	各施設給食実習のまとめ ヘルシー弁当選考会準備
12回	ヘルシー弁当選考会 (グループでプレゼンを行う⇒弁当決定)、材料発注、食券販売計画打ち合わせ 野菜カッティングテスト
13回	ヘルシー弁当の実習準備 弁当の販売促進用媒体を作成する。 実習作業計画のプレゼンテーション 作業グループでの打ち合わせ  (宣伝媒体提出)
14回	ヘルシー弁当実習 (管理栄養士役は給食日誌提出) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係)</li> </ul>
15回	実習の評価、反省会ヘルシー弁当のまとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヘルシー弁当実習についてグループでまとめる</li> <li>・ 実習の評価、改善点についてプレゼンテーション。</li> </ul> 実習室の清掃  (実習評価・改善表提出)

令和7年度教育計画							
科目名	総合演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	佐藤幸枝、内田雅子、平野聡、妹尾良子、石高優子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 各担当教員研究室にて行なうこと							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：<u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</u></p> <p>応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論の専門科目の知識及び技術を修得した後に、これらの専門分野の知識及び技術を統合して、管理栄養士業務である栄養評価や管理が適正に行える総合的な能力を養うために、専門分野を横断した演習を行なう。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的な学習成果としては、学校、病院、高齢者福祉施設、および地域における管理栄養士の果たす役割が理解できる。</p> <p>汎用的な学習成果としては、教員や児童、地域の方とのコミュニケーションを通して、卒業後社会人として求められるコミュニケーション能力、態度（心構え）協力する力の向上、職業に対する知識、理解、価値、意見を獲得する。</p>						
	教育の進め方	<p>(講義・<b>演習</b>・実験・実習・実技)</p> <p>教育内容の「管理栄養士が果たす役割」の「I」～「IV」において、学生はそれぞれ関連教員による説明および演習内容を理解した後、グループに分かれて演習を行う。</p> <p>また、学生の理解度のチェックのために課題、まとめレポート、アンケート提出を課することがある。</p>					
方法	予習・復習	<p>授業で行なう内容については、必ず事前準備および復習を行なうことが次の授業につながる。予習・復習の内容および時間に関しては授業回数別教育内容に記す。書かれている時間を学習の目安として、自分で計画を立てて勉強すること。予習・復習の時間にそれぞれ90分をかけること。</p>					
	テキスト	<p>現在までに学習した専門基礎分野および専門分野のテキストと参考書のすべて</p>					
成績評価の方法	<p>上記の学習成果が達成できているかについて、授業に関わった教員が100点満点で採点して平均して総合評価とする。</p> <p>専門的学習成果60点、汎用的学習成果40点の比率で評価する。</p> <p>専門的学習成果では、学校、病院、高齢者福祉施設、地域における管理栄養士の役割の理解度および栄養評価や管理業務の統合的な実践力を測定する。</p> <p>具体的には、課題(20点)、事例検討を中心としたケーススタディ演習(20点)、施設別管理栄養士の役割に関する業務の理解度(20点)を総合的に評価する。</p> <p>汎用的学習成果では、教員や児童、地域住民とのコミュニケーションを通じて育成される社会人基礎力や職業観の形成、問題を発見して解決する力を評価する。</p> <p>具体的には、グループワークにおける協働性(10点)、授業やフィールドワークでの積極的な発言や態度、時間管理等を含むコミュニケーション能力(10点)、授業への取り組み姿勢(10点)、ならびに振り返りシート(10点)を評価項目とする。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>グループワークを円滑に進行するために、出席は重要である。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回 9/18 3限	<p>オリエンテーション：シラバスによる説明（担当：内田・佐藤）</p> <p>管理栄養士が果たす役割Ⅰ（担当：内田、佐藤、平野、妹尾、石高） （ライフステージ別栄養教育①：ライフステージ別教育学童期の特徴）</p> <p>学習目標：学習形態の種類と方法を理解し、実践できる。</p> <p>復習事項：学童期のライフステージについて考える。</p>
2 回 9/25 3限	<p>管理栄養士が果たす役割Ⅰ（担当：内田、妹尾） （ライフステージ別栄養教育②：学童期の特徴）</p> <p>学習目標：学童期の特徴を理解する。</p> <p>予習事項：学童期の特徴を確認しておく</p> <p>復習事項：学童期の栄養管理の問題点を考える</p>
3 回 10/1水 1限	<p>管理栄養士が果たす役割Ⅰ（担当：内田、佐藤）</p> <p>A班（ライフステージ別栄養教育③：学童期の給食施設について）</p> <p>学習目標：共同調理場の特性について知る。</p> <p>予習事項：倉敷市の給食について必要な情報を調べておく。</p> <p>復習事項：どのような管理がなされているか考える。</p> <p>B班（ライフステージ別栄養教育④：対象者の行動変容を支援する媒体作成）</p> <p>学習目標：小学生が調理できる献立を考えられる。</p> <p>予習事項：献立を調べておく。</p> <p>復習事項：適した献立か検証する。</p>
4 回 10/8水 1限	<p>管理栄養士が果たす役割Ⅰ（担当：内田、佐藤）</p> <p>B班（ライフステージ別栄養教育③：学童期の給食施設について）</p> <p>学習目標：共同調理場の特性について知る。</p> <p>予習事項：倉敷市の給食について必要な情報を調べておく。</p> <p>復習事項：どのような管理がなされているか考える。</p> <p>A班（ライフステージ別栄養教育④：対象者の行動変容を支援する媒体作成）</p> <p>学習目標：小学生が調理できる献立を考えられる。</p> <p>予習事項：献立を調べておく。</p> <p>復習事項：適した献立か検証する。</p>
5 回 10/16	<p>管理栄養士が果たす役割Ⅱ（担当：妹尾・平野・佐藤）</p> <p>（医療・福祉施設等における管理栄養士の栄養管理業務）</p> <p>ライフステージ別栄養教育⑤：高齢者の栄養管理について</p> <p>学習目標：対象者の特性を理解し、栄養管理業務を習得する。</p> <p>予習事項：栄養管理に必要な情報を調べておく。</p> <p>復習事項：高齢者の栄養管理の問題点を考える。</p>
6 回 10/23	<p>管理栄養士が果たす役割Ⅱ（担当：平野、妹尾、佐藤）</p> <p>（医療・福祉施設等における管理栄養士の栄養管理業務）</p> <p>介護保険における栄養ケア・マネジメントの症例検討</p> <p>予習事項：介護保険における栄養管理計画書を確認する。</p> <p>復習事項：授業で担当した症例を再度、確認する。</p>

7 回 11/30	<p>管理栄養士が果たす役割Ⅱ（担当：平野、妹尾、佐藤） （医療・福祉施設等における管理栄養士の栄養管理業務） 介護保険における栄養ケア・マネジメントの症例検討 予習事項：医療保険における栄養管理計画書を確認する。 復習事項：授業で担当した症例を再度、確認する。</p>
8 回 11/6	<p>管理栄養士が果たす役割Ⅳ（担当：内田、佐藤、平野、妹尾、石高） （地域における管理栄養士のしごと：公衆栄養活動の実際①） 料理教室で用いる指導媒体の作成 予習事項：小学生に分かりやすく伝える方法を考えておく 復習事項：小学生に伝えることを整理する</p>
9 回 11/13	<p>管理栄養士が果たす役割Ⅳ（担当：内田、佐藤、平野、妹尾、石高） （地域における管理栄養士のしごと：公衆栄養活動の実際②） 子ども料理教室の準備 調理室にて試作 予習事項：実習献立の手順を確認しておく 復習事項：調理手順の説明ができるようにしておく</p>
10・11回 11/15(土) 11/22(土)	<p>管理栄養士が果たす役割Ⅳ（担当：内田、佐藤、平野、妹尾、石高） （地域における管理栄養士のしごと：公衆栄養活動の実際③） 子ども料理教室を開催し、児童・保護者にわかりやすく食育を行う。 11月15日A班 11月22日B班 予習事項：料理教室の流れ、料理手順を確認しておく 復習事項：より効果的な食育活動にするにはどうすればよいか考える</p>
12 回 11/27	<p>管理栄養士が果たす役割（担当：佐藤） （福祉施設における管理栄養士のしごと：高齢者に適した食事形態を考える） 高齢者への食事介助の説明および具体的な動作の解説 高齢者向きのおやつ献立を作る 予習事項：食事介助について高齢者向きのおやつ献立を考えておく 復習事項：作り方、分量の検討</p>
13 回 12/4	<p>管理栄養士が果たす役割Ⅲ（担当：佐藤、平野、石高） （医療・福祉施設等における管理栄養士の栄養管理業務） 献立の展開について（常食から腎臓病食・糖尿病食への展開） 予習事項：腎臓病食・糖尿病食について調べておく 復習事項：常食の展開について方法を確認する</p>
14・15 回 12/17	<p>管理栄養士が果たす役割Ⅲ（担当：佐藤、内田、平野、妹尾、石高） （福祉施設等における管理栄養士のしごと：高齢者に適した食事形態を考える） 高齢者施設に適したおやつ作り 予習事項：おやつの分量を決定し、作り方をシュミレーションしておく。 復習事項：おやつを作成し評価する 予習事項：高齢者の食べる機能を考える 復習事項：高齢者に適したおやつの献立を考える</p>

令和7年度教育計画																			
科目名	給食経営管理実習事前事後	授業回数	15	単位数	1	担当教員	佐藤 幸枝												
質問受付の方法：C棟201研究室で授業以外の時間で対応																			
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 給食経営管理臨地実習（給食栄養管理Ⅰ・Ⅱ）の準備段階として、よりよい効果を上げるために行うものである。実践活動の場での「課題発見や問題解決」に必要な専門知識と技術の習得を行うとともに、実習を円滑に進めるための心得や基本マナー、事務手続きに至るまできめ細かく指導する。</p> <p>実習後は、各臨地実習で学んだ管理栄養士の実践業務を再復習し、学生が相互に実習結果を発表し、他所の経験と比較検討及び理論と実践の結果を纏める。「専門的知識と技術」を統合させ、マネジメント能力の高い管理栄養士の育成を目指す。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt; 各臨地実習の実践業務での課題を見つけ、課題研究を行い結果がまとめられ、発表することができる。社会人としての自己管理能力を身につけ実習に臨むことができる。実習に必要な知識をまとめ、積極的な態度で実習に臨むことができる。</p>																		
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前指導では、臨地実習に関わる知識の復習と実践現場を想定した技術の演習を中心に行う。</li> <li>社会人、医療人としての資質、感性を身につける。</li> <li>事後指導では、臨地実習で取り組んだ課題や習得した知識・技術をまとめ、実践業務の気づきや問題点、反省点などをプレゼンテーションする。</li> <li>管理栄養士として今後期待される点や取り組んでいかなければならない課題を明らかにし、管理栄養士の資質向上へ向けた指導を行う。</li> </ul> <p>予習・復習 毎回の授業に対しては予習、復習を必要とする。 予習事項:授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習をする。(90分) 復習事項:毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。(90分)</p> <p>テキスト 松崎政三ら編著 臨地実習マニュアル[給食経営管理・給食の運営] 建帛社(2007)</p>																	
成績評価の方法	<p>給食経営管理実習事前事後評価</p> <table border="0"> <tr> <td>事前の課題研究内容</td> <td>(10点)</td> </tr> <tr> <td>事前の準備事項</td> <td>(30点)</td> </tr> <tr> <td>実習事項確認テスト</td> <td>(20点)</td> </tr> <tr> <td>事後の課題研究のまとめ</td> <td>(10点)</td> </tr> <tr> <td>事後の課題発表能力</td> <td>(30点)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">加点合計 100点</td> </tr> </table> <p>臨地実習の参加に関しては事前の準備、事後のまとめが重要であるため提出物の期限を厳守すること。</p>							事前の課題研究内容	(10点)	事前の準備事項	(30点)	実習事項確認テスト	(20点)	事後の課題研究のまとめ	(10点)	事後の課題発表能力	(30点)	加点合計 100点	
事前の課題研究内容	(10点)																		
事前の準備事項	(30点)																		
実習事項確認テスト	(20点)																		
事後の課題研究のまとめ	(10点)																		
事後の課題発表能力	(30点)																		
加点合計 100点																			
注意事項	参考図書等																		

授 業 回 数 別 教 育 内 容		
事前教育 二年後期	1回	オリエンテーション 1. 臨地実習の目的と意義 2. 実習先施設について 学校、高齢者福祉施設、保健所、病院実習の概要説明 3. 個人調査
	2回	4. 臨地実習施設の実習内容とスケジュール ・実習に必要な知識と技術 ・実習中の服装、持参品、費用について 5. 実習中のマナー、良好な人間関係を築くための必要事項
	3回	6. 実習に必要な実践的な知識と技術 ・栄養管理、給食管理、衛生管理について 7. 臨地実習での研究課題について
	4回	8. 学校における管理栄養士の業務と課題 ・学校給食の意義・目的について
	5回	9. 福祉施設における管理栄養士の業務 介護保険制度・栄養ケアマネジメントについて
	6回	10. 高齢者施設への理解を深める。 ・レポート作成 ・研究課題をまとめる
	7回	11. 社会人としてのマナーについて(外部講師) 服装など身だしなみについて 電話の対応、挨拶などのマナー レポート作成
	8回	12. 実習施設の説明、実習の心得 ・研究課題の完成、目標の設定を明確化
事前教育 三年前期	9回	13. 実習施設との打ち合わせ・訪問について ・電話の対応、挨拶などのマナー ・打ち合わせ準備、レポートなど説明文書について
	10回	14. 大量調理の知識と技術 ・栄養管理の実際 ・大量調理マニュアル ・衛生について ・給食帳票類について
	11回	15. 実習記録ノートの書き方 16. 実習準備確認テストと解説

	12 回	17. 実習中のマナー、注意事項、最終確認事項 18. 課題研究のまとめ方 19. お礼状の書き方
事後教育 三年前期	13 回	1. 臨地実習のまとめ 2. 臨地実習報告会の準備
	14 回	3. 臨地実習報告会の準備
	15 回	4. 臨地実習報告会の準備
		臨地実習報告会 ・ 施設別に実習の反省、感想を発表する 施設別の実習課題への取り組みの報告と討論 <インターンシップ> 希望学生に対して、実習施設別事後研修の施設選定、研修内容などの助言を行う。

令和7年度教育計画							
科目名	給食経営管理臨地実習Ⅰ	授業回数	1週間	単位数	1	担当教員	佐藤 幸枝
質問受付の方法：C棟201研究室で授業以外の時間に対応							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である  給食経営管理臨地実習Ⅰは、給食の運営を含む実習内容とし、学校給食施設又は事業所等の集団給食施設で行う。栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うための専門知識及び技術の統合を図る。各施設における給食の役割を理解し、給食サービス提供に関し必要な、給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳、衛生管理などの知識及び技能を習得する。  また、学校では児童・生徒に対する適切な栄養教育を行うための知識と技術を習得する。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt;  各施設における給食業務の内容を理解し、職務の遂行技術を習得する。  給食の目的・役割を理解し実践的な能力を身につける。社会人としての責任的倫理観、自己管理能力を獲得する。管理栄養士として必要な数量的スキル、情報リテラシーを獲得する。  施設でのコミュニケーション、チームワーク能力を身につける</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・<b>実習</b>・実技)  学校給食施設または高齢者福祉施設において3年次前期に1週間の臨地実習を行う。  研究課題を決め実習の目標とする。  実習内容は、指導担当管理栄養士と協議する。</p>	<p>予習・復習</p> <p>臨地実習に対しては予習、復習を必要とする。  予習・復習を行い、まとめておくこと。</p>	<p>テキスト</p> <p>松崎政三ら編著 臨地実習マニュアル[給食経営管理・給食の運営] 建帛社</p>			
成績評価の方法	<p>実習先の評価 (50点)  課題研究 (30点)  実習ノート (20点)  加点合計 100点</p> <p>社会人としての倫理観、自己管理能力の評価をおこなう。</p>						
注意事項	参考図書等						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
実 習 前	実習先事前訪問 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション</li> <li>・ 研究課題の設定・指導</li> </ul>
1 日 目	管理者・関係者への挨拶 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設の概要と特徴説明</li> <li>・ 給食業務の概要説明</li> <li>・ 食教育の概要又は高齢者の食事形態の概要について</li> </ul>
2 日 目	給食管理システムについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給食実施計画とその実際</li> <li>・ 実習の研究課題</li> </ul>
3 日 目	給食管理・運営の実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大量調理作業分析</li> <li>・ 衛生管理の実際</li> <li>・ 食育活動の実際・高齢者の食事の実際</li> </ul>
4 日 目	給食管理・運営の実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養士業務の分析</li> <li>・ 食育活動の実際・高齢者の食事の実際</li> </ul>
5 日 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究課題の整理、まとめ</li> <li>・ 実習施設での反省会</li> </ul>
6 日 目	大学での実習補講 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各施設の実習項目の確認</li> <li>・ 課題レポート作成</li> <li>・ 実習グループでのまとめと反省点</li> </ul>

令和7年度教育計画

科目名	給食経営管理臨地実習Ⅱ	授業回数	1週間	単位数	1	担当教員	佐藤 幸枝
質問受付の方法：C棟201研究室で授業以外の時間で対応							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 給食経営管理論等 今まで学んだことを活かし、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うための専門知識及び技術の統合を図る。実習の対象は高齢者施設または事業所である。事業所の給食の目的は福利厚生であり、そのための技術を習得する。また福祉施設給食では、的確な食事提供や給食運営方法、経営管理全般の業務を身に付け、栄養（栄養ケア・マネジメントの知識）・給食関連サービスのマネジメントを行う能力を習得する。実践現場での速やかな状況判断やスタッフとの連携方法や入所者への対応などを学ぶ。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt; 福祉・介護システムの中で栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる実践的な能力を獲得する。栄養ケア・マネジメントの知識と技術を習得する。入所者、他職種との連携に必要なコミュニケーション能力を学ぶ。マネジメントに必要な数量的スキル、情報リテラシーを獲得する。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・<b>実習</b>・実技) 高齢者福祉施設で、3年次前期に1週間の実習を行う。 研究課題を決め実習の目標とする。 実習内容は、指導担当管理栄養士と協議する。</p>					
	予習・復習	<p>臨地実習に対しては予習、復習を必要とする。 予習・復習をしっかりとめておくこと。</p>					
	テキスト	<p>松崎政三ら編著 臨地実習マニュアル[給食経営管理・給食の運営] 建帛社 (2007)</p>					
成績評価の方法	<p>実習先の評価 (50点) 課題研究 (30点) 実習ノート (20点) 加点合計 100点</p> <p>社会人としての倫理観、自己管理能力の評価をおこなう。</p>						

注意事項	<p>参考図書等          実習中の衛生管理、接遇に気をつけること。          臨地実習先の担当管理栄養士の指示に従い、積極的に実習に取り組むこと。</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
実習前	<p>実習先事前訪問          オリエンテーション          研究課題の設定・事前指導</p>
1日目	<p>実習オリエンテーション          施設職員への挨拶          施設の概要説明・見学          栄養部門業務の概要説明</p>
2日目	<p>経営管理システムの分析          入所者の食事管理・入所者とのコミュニケーション          研究課題活動①</p>
3日目	<p>衛生管理の実際、衛生教育          栄養ケア・マネジメントの実際          研究課題活動②</p>
4日目	<p>高齢者福祉施設調理作業の実際          栄養ケア・マネジメントの実際          研究課題活動③</p>
5日目	<p>研究課題の整理、まとめ          実習施設での反省会</p>
6日目	<p>大学での実習補講          高齢者福祉施設での給食経営管理項目の確認          実習報告会の打ち合わせ          課題レポートについて</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	公衆栄養臨地実習	授業回数	7	単位数	1	担当教員	内田 雅子
質問受付の方法 (e-mail:uchida@owc.ac.jp オフィスアワー：在室時はいつでも受け付けます)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 保健所および市町村保健センター等の果たす役割や業務を理解し、地域での公衆栄養活動を体験することによって、地域等における栄養関連サービスに関する実践力を身に付ける。</p> <p>学生の学習成果： 学内で習得した公衆栄養活動の知識・技術を実践の場に適用し、理論と実践を結びつけて理解することが出来るようになる。また、保健所および市町村等の役割や業務を理解できるようになる。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・<u>実習</u>・実技) 岡山県内の保健所または市町村保健センターなどにおいて1週間の臨地実習を行う。研究課題を決め、実習の目的とすること。実習終了後は、研究課題をまとめ、レポートとして各自実習施設に提出する。学内においては、全員で反省会を開催し、他の実習施設での実習参加者の報告も踏まえ各自レポートを提出する。</p>					
	予習・復習	実習先市町村の現状、特に栄養・健康課題やそれに対する施策について調べる。実習先から指示された課題（健康教育等）は積極的に準備すること。					
	テキスト	岡山県保健医療部健康推進課監修 公衆栄養学実習テキスト 岡山学院大学「管理栄養士のための臨地実習ノート」					
学習評価の方法	成績の評価は、事前補習（30%）、実習施設からの評価点（50%）、研究課題・実習ノート（20%）を加味して行う。						
注意事項	公衆栄養臨地実習受講準備のための事前補習を必ず受講すること。 事前補習による課題、提出物も評価対象とする。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
学 内	オリエンテーション 実習にあたっての事前説明および実習先の把握
第 1 日 目	保健所・市町村保健センター等の概要と業務について（講義）
第 2 日 目	地域保健対策関係課の業務について（講義） 行政栄養士の業務について（講義）
第 3 日 目	地域保健栄養活動の実際① （地域保健の現状とその対策）
第 4 日 目	地域保健栄養活動の実際② （地区組織の育成 他）
第 5 日 目	地域保健栄養活動の実際③ （母子保健事業 他）
第 6 日 目	学内での臨地実習報告会

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	臨床栄養臨地実習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	平野 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A 棟 405 研究室 水曜日 13 時から 14 時 30 分 hirano@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 臨床栄養学および臨床栄養学実習を履修した後、病院の現場において個々の疾病を持った患者に対して栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要な専門的知識および技術を修得する。チーム医療を理解するために現場の医療関係者との合同カンファレンスに参加してその重要性を認識する。</p> <p>&lt;学生の学習成果&gt; 専門的学習成果は、実践の場で総合的な栄養ケア・プロセスができる知識および技術が実践できることとする。 汎用的学習成果は、医療の場で、医療従事者の一員として求められる倫理観が獲得できることとする。 また、自分なりに課題を発見し、その解決ができる問題解決力が獲得できることとする。</p>						
	授業の進め方	<p>( 講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ <b>実習</b> ・ <b>実技</b> )</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院実習を 3 年生後期に 2 週間行う。事前学習・事後学習・実習時間等を含め、90 時間以上の学習を確保する。</li> <li>2. 3 年生前期に研究課題の作成および臨地実習の準備を行う。</li> <li>3. 後期オリエンテーション時に研究課題の最終確認および各病院の挨拶状況を確認する。</li> <li>4. 研究課題をまとめ、報告会ではパワーポイントを用いて発表する。</li> </ol>					
	予習・復習	<p>【予習】：これまでの臨床栄養学・給食経営管理論の授業を復習し、参加する。 臨地実習先の医療機関のホームページを確認する。</p> <p>【復習】：臨地実習期間中は、臨地実習で指導を受けた内容を実習ノートを確認しながら振り返る。</p>					
テキスト	<p>岡山学院大学作成 「臨床栄養臨地実習ノート」 佐藤和人編著 エssenシャル「臨床栄養学 第 10 版」医歯薬出版</p>						
学習評価の方法	<p>学習成果は、以下の獲得度合いを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○専門的学習成果は、実践の場で総合的な栄養ケア・プロセスができる知識および技術が実践できる。</li> <li>○汎用的学習成果は、チーム医療の場で社会人としての態度を取ることができる。課題発見とその解決ができる能力が身に付く。栄養ケア・プロセスの実践に関する補習への参加と事前・事後の準備を行う。</li> <li>○学習評価は、実習先評価 (30 点)、実習ノート (10 点)、研究課題レポート (10 点)、研究課題の発表 (20 点)、事前事後課題 (30 点) を総合して行う。</li> <li>○学習のフィードバックは、課題の返却時に解説を行う。</li> <li>○なお、臨地実習が規定の日数を行えない場合や実習先評価が著しく低い場合は、その他の学習評価が規定の得点を満たした場合でも、単位の認定は行わない。</li> </ul>						

<p>注意事項</p>	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業回数別内容は臨地実習先および病院が指定する休日により変更となる可能性があるのに対応する。</li> <li>・ これまでの授業内容は科目を問わず復習する。</li> <li>・ 解剖生理学と病理学のテキストは読み返す。</li> </ul>
<p>授 業 回 数 別 教 育 内 容</p>	
<p>1 回</p>	<p>事前実習（学内）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習概要・実習目標・注意事項などを説明する。</li> <li>・ 研究課題について説明する。</li> </ul>
<p>2 回</p>	<p>臨地実習 1日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p>
<p>3 回</p>	<p>臨地実習 2日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p>
<p>4 回</p>	<p>臨地実習 3日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p>
<p>5 回</p>	<p>臨地実習 4日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p>
<p>6 回</p>	<p>臨地実習 5日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p>
<p>7 回</p>	<p>学内にて臨地実習 6日目・・・全員登校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習ノートの確認（ノート持参）</li> <li>・ 研究課題の進捗状況の報告および質疑応答</li> <li>・ 1週間の反省を病院別にまとめ発表する</li> </ul>

8 回	臨地実習 7日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
9 回	臨地実習 8日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
10 回	臨地実習 9日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
11 回	臨地実習 10日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
12 回	臨地実習 11日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
13 回	学内にて事後実習 12日目・・・全員登校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習ノートおよび研究課題のまとめ（提出）</li> <li>・礼状の書き方</li> <li>・報告会の役割分担を決める</li> </ul> ○持参物：便箋と白封筒
14 回	学内にて事後実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床栄養臨地実習の報告会の準備</li> </ul> レポートの完成・パワーポイントの完成
15 回	学内にて事後実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究課題の報告会</li> </ul>

令和7年度教育計画							
科目名	学校栄養指導論 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	塩津 敦子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : D202 毎週 曜日 限 在室時はいつでも可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：近年、食に関する問題は食生活の多様化が進む中、喫緊の課題となっている。次代を担う子どもの食生活については、学校・家庭・地域が連携して望ましい食生活を形成する必要があるが、学校教育の場において児童生徒にいかに関食教育を進めていくかが重要であると考えられる。学校における食に関する指導の目標、栄養教諭が中心となり作成する食に関する指導の全体計画、各教科等や給食における食に関する指導方法を学び、食教育のあり方と課題を考え、管理栄養士として学んだことを学校教育の現場に生かすことができるよう、栄養教諭としての使命と自覚、職務内容についての理解を深めるようにする。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：栄養教諭としての基礎的な知識はもとより、食に関する指導の考え方と方法を身につけ、教諭としての資質を練磨する。</p> <p>汎用的学習成果：学校における管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する能力を培い、技能・態度及び考え方の総合的能力を身につける。栄養教諭として必要なチームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション能力として倫理的思考力、問題解決力を培う。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>栄養教諭が食に関する指導をおこない、学校給食管理についても指導的な立場であることの理解を踏まえながら、栄養教諭が関わっている制度・法律等をわかりやすく説明して授業を進めていく。資料提供をして具体的な実例を示し理解を図る。授業は、テキスト、プリント、パワーポイント、学習指導案、模擬授業などを利用して進める。</p> <p>また、授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。上記の質問に答え、コメントを記載して次回の授業で返却する。「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。</p>				
予習・復習		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業前に、「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める。</li> <li>・毎授業後に、復習を求める。</li> <li>・「シャトルカード」により、予習・復習を効果的に行っているかどうかを確かめる。</li> </ul> <p>問題がある場合は、学習の仕方等について指導する。</p>					
テキスト		<p>四訂 栄養教諭論 -理論と実際- 第2版 金田 雅代 編著 (健帛社)</p> <p>文部科学省 食に関する指導の手引 第二次改定版 (東山書房)</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領解説 総則編 (東洋館出版社)</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領解説 特別活動編 (東洋館出版社)</p>					
学習評価の方法	<p>基本的な栄養教諭の役割が理解できていることが基準となる。学習態度及び学習意欲も大切であるが、授業内容についての理解度を判定するために試験を行う。</p> <p>教諭として教壇に立つための基本的な教育力が身についた学習指導案が出来上がったか、そのレポートを提出し、総合として評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーテストによる基準得点の取得 …… 50%</li> <li>・レポートの提出 …… 20%</li> <li>・プレゼンテーション …… 20%</li> <li>・受講態度 …… 10%</li> </ul> <p>試験の不合格者については、再試験の前に類似の課題等を与える。</p> <p>発表等終了時に講評を行うとともに、希望する学生については個別に資料等をもとに説明を行う。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>栄養教諭の児童・生徒に対する食に関する指導のあり方と基本的な概念の説明            栄養教諭の職務内容・使命・役割について説明</p> <p>【予習】 栄養教諭について、現在持っている印象を整理して授業時間内に自分の言葉で発表できるようにしておく</p> <p>【復習】 授業で学んだ栄養教諭の職務内容をまとめておく</p>
2 回	<p>第1章 栄養教諭の制度と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養教諭制度創設の経緯</li> <li>・ 栄養教諭の資質能力の確保</li> <li>・ 栄養教諭の配置、身分</li> </ul> <p>【予習】 前時で配布されたシラバスとテキストの第1章を読んでおく</p> <p>【復習】 授業で学んだ栄養教諭の職務内容や身分についてまとめておく</p>
3 回	<p>第1章 栄養教諭の制度と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養教諭の職務</li> <li>・ 学校給食の歴史</li> <li>・ 学校給食法、食育基本法の施行、食育推進基本計画</li> </ul> <p>【予習】 学校給食の歴史について、テキストの該当箇所を読んでおく</p> <p>【復習】 授業で学んだ学校給食法について理解を深める</p>
4 回	<p>第2章 学校組織と栄養教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校組織と栄養教諭の位置づけ</li> <li>・ 委員会活動等における栄養教諭の役割</li> </ul> <p>【予習】 学校の組織について、テキストの該当箇所を読んでおく</p> <p>【復習】 授業で学んだ校務の分掌と栄養教諭の位置づけについて理解を深める</p>
5 回	<p>第7章 「食に関する指導」の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導内容の整理と指導計画</li> <li>・ 年間指導計画に基づいた指導の成果</li> </ul> <p>【予習】 テキストの第7章を読んでおく</p> <p>【復習】 授業で学んだ「食に関する指導」の指導計画について理解を深める</p>
6 回	<p>第7章 「食に関する指導」の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導の評価</li> </ul> <p>【予習】 テキストの第7章、児童の発達段階に応じた指導について理解を深めておく</p> <p>【復習】 授業で学んだ「食に関する指導」の指導計画について理解を深める            実際に児童に「食に関する指導」（給食時）をすることを想定して、計画を練る</p>

7 回	<p>第8章 給食の時間における食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領における学校給食の位置づけ</li> <li>・ 給食の時間における指導の特徴</li> <li>・ 給食の時間における食に関する指導の進め方</li> </ul> <p>【予習】テキストの第8章を読んでおく 【復習】実際に児童に「食に関する指導」（給食時）をすることを想定して、計画を練る</p>
8 回	<p>第8章 給食の時間における食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校給食におけるリスクマネジメント</li> <li>・ 給食時間の指導上の留意点</li> </ul> <p>【予習】テキストの第8章を読み、「特別活動の標準授業時数」について理解を深める 【復習】実際に児童に「食に関する指導」（給食時）をすることを想定して、計画を進める</p>
9 回	<p>第8章 給食の時間における食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導案の書き方</li> </ul> <p>【予習】【復習】前時に引き続き、「食に関する指導」の準備を各自進める</p>
10 回	<p>第8章 給食の時間における食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬授業 【演習】</li> </ul> <p>【予習】【復習】前時に引き続き、「食に関する指導」の準備を各自進める</p>
11 回	<p>第8章 給食の時間における食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬授業 【演習】</li> </ul> <p>【予習】クラスメイトの演習をみて、自身に活かせることをまとめておく 【復習】自身の演習発表の後には反省等整理し、まとめておく</p>
12 回	<p>第3章 学校給食と日本人の食生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校給食の食事内容の推移</li> <li>・ 学校給食の食事環境</li> <li>・ 学校給食用食器具の変遷</li> </ul> <p>【予習】テキストの第3章を読んでおく 【復習】授業で学んだ学校給食の変遷について理解を深める</p>
13 回	<p>第3章 学校給食と日本人の食生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校給食における地場産物の活用</li> <li>・ 米飯給食の普及と郷土食</li> </ul> <p>【予習】テキスト第3章、P.33～34（地場産物の活用）を読み、理解を深めておく 【復習】授業で学んだ「地場産物の活用と郷土食」について理解を深め、自身の郷土をテーマにしたレポートの作成を計画する</p>

<p>14 回</p>	<p>第4章 子どもの発達と食生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体位と健康</li> <li>・ 食習慣と健康</li> <li>・ 調査から見える食生活の課題</li> <li>・ 学校給食でのエネルギーおよび栄養素の摂取量</li> </ul> <p>【予習】 テキストの第4章、P.46 表4-1 を見ておく  【復習】 授業で学んだ学校給食摂取基準について理解を深める</p>
<p>15 回</p>	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食に関する指導体制の整備について</li> <li>・ 法律に基づく食の体制について</li> <li>・ 郷土料理の継承 【演習】</li> </ul> <p>【予習】 【復習】 授業で学んだ「地場産物の活用と郷土食」について理解を深め、自身の郷土をテーマにしたレポートの作成をする →提出する  郷土に親しみを持ち、地場産物をテーマにした「食に関する指導」を実施できるようにする  授業で学んだことを学校栄養指導論Ⅱにつなげられるよう、整理しておく</p>

令和7年度教育計画							
科目名	学校栄養指導論Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	塩津 敦子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : D202 毎週 曜日 限 在室時はいつでも可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：学校栄養指導論Ⅰの講義内容を受け、この教科では栄養教諭のあり方についてさらに実践に結びつく学習を行う。学校現場における栄養教諭が実際に行う食に関する指導について、各教科及び特別活動、道徳、総合的な学習、給食時間の指導など学習指導要領を基に学習指導案を作成し、問題点や解決策を見い出せるようにする。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：講義・指導案作成理論を通じて、栄養教諭として身につけたい資質・能力をより深く極める。そのために、教諭として教壇に立つポイントをつかみ、実際に模擬授業を実施し、食に関する指導の実践に結びつけることによって今後の教育実習に備える。</p> <p>汎用的学習成果：学校における管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する能力を培い、技能・態度及び考え方の総合的能力を身につける。そして栄養教諭として児童生徒への食に関する指導を行う能力を獲得する。また、栄養教諭として必要なチームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション能力として倫理的思考力、問題解決力を培う。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>栄養教諭の現状を、テキストを基に講義をする。</p> <p>学習指導要領を基に指導案を作成し、教材づくり等を理解するためにパワーポイントやプリントで具体的な説明を行う。指導案や教材研究をした上で、模擬授業を個人で実施し成果を批評し合い意欲を高める。</p> <p>また、授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。上記の質問に答え、コメントを記載して次回の授業で返却する。</p> <p>「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業前に、「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める。</li> <li>・毎授業後に、復習を求める。</li> <li>・「シャトルカード」により、予習・復習を効果的に行っているかどうかを確かめる。</li> </ul> <p>問題がある場合は、学習の仕方等について指導する。</p>					
	テキスト	<p>四訂 栄養教諭論 -理論と実際- 第2版 金田 雅代 編著 (健帛社)</p> <p>文部科学省 食に関する指導の手引 第二次改定版 (東山書房)</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領解説 総則編 (東洋館出版社)</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領解説 特別活動編 (東洋館出版社)</p>					
学習評価の方法	<p>栄養教諭としての基礎・基本がどのくらい身についたかをペーパーテストによる評価を行う。</p> <p>学習指導案による細案・板書計画・指導媒体の作成と使用方法について評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーテスト ……50%</li> <li>・模擬授業実践 ……30%</li> <li>・レポート提出 ……20%</li> </ul> <p>試験の不合格者については、再試験の前に類似の課題等を与える。</p> <p>発表等終了時に講評を行うとともに、希望する学生については個別に資料等をもとに説明を行う。</p>						

注 意 事 項	
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>栄養教諭の使命と役割および授業方針と講義内容についての説明</p> <p>栄養教諭が行う「食に関する指導」のあり方について</p> <p>【予習】【復習】学校栄養指導論Ⅰ で学んだことを整理しておく</p>
2 回	<p>第5章 学習指導要領の意義と食育のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領改訂の趣旨</li> <li>・ 学校における体育・健康に関する指導と食育の推進</li> <li>・ 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力</li> </ul> <p>【予習】テキストの第5章を読んでおく</p> <p>【復習】テキストの第5章、「学校教育で子どもたちに身に付けさせる資質・能力」について理解を深める</p>
3 回	<p>第5章 学習指導要領の意義と食育のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラムマネジメント</li> <li>・ 栄養教諭に求められるもの</li> </ul> <p>【予習】テキストの第5章、「カリキュラム・マネジメント」を読んでおく</p> <p>【復習】テキストの第5章、「カリキュラム・マネジメント」について理解を深める</p>
4 回	<p>第6章 食に関する指導の全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「食に関する指導の全体計画」の作成の必要性</li> <li>・ 食育の視点</li> </ul> <p>【予習】テキストの第6章、「食に関する指導の全体計画」を読んでおく→重要</p> <p>【復習】テキストの第6章、「食に関する指導の全体計画」について理解を深める</p>
5 回	<p>第6章 食に関する指導の全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「食に関する指導の全体計画」作成の手順および内容</li> <li>・ 食に関する指導の体系</li> </ul> <p>【予習】テキストの第6章、「食育の視点」を読んでおく→重要</p> <p>【復習】テキストの第6章、「食育の視点」について理解を深める</p>

6 回	<p>第9章 教科等における食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活科における食に関する指導</li> <li>「家庭科」、「技術・家庭科（家庭分野）」における食に関する指導</li> <li>「体育科」、「保健体育科」における食に関する指導</li> <li>総合的な学習の時間における食に関する指導</li> </ul> <p>【予習】テキストの第9章、「生活科」 「家庭科」、「技術・家庭科（家庭分野）」における食に関する指導 「体育科」、「保健体育科」における食に関する指導 を読んでおく</p> <p>【復習】テキストの第9章、上記の事項に関して理解を深める</p>
7 回	<p>第9章 教科等における食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動における食に関する指導</li> <li>社会科における食に関する指導</li> <li>理科における食に関する指導</li> <li>特別の教科 道徳における食に関する指導</li> </ul> <p>【予習】テキストの第9章、 教科等における食に関する指導 を読んでおく</p> <p>【復習】テキストの第9章、上記の事項に関して理解を深める</p>
8 回	<p>実践演習①（食に関する指導の指導案作り）</p> <p>各教科と関連した指導案の作成 学習指導要領を基にした指導案の作成について</p> <p>【予習】【復習】食に関する指導の計画と模擬授業の準備を進める</p>
9 回	<p>実践演習②（食に関する指導の指導案作り）</p> <p>各教科と関連した指導案の作成 教材の利用方法、指導のための資料の作成方法についての検討と説明</p> <p>【予習】【復習】食に関する指導の計画と模擬授業の準備を進める</p>
10 回	<p>実践演習③（食に関する指導の指導案作り）</p> <p>個人あるいは2～3人のグループで学年に合わせた指導案の検討及び作成を行う。</p> <p>【予習】【復習】食に関する指導の計画と模擬授業の準備を進める</p>
11 回	<p>実践演習④（作成した指導案の発表、相互評価）</p> <p>作成した指導案の発表を行う。児童生徒がその発達段階に応じて、食生活に対する正しい理解と望ましい食習慣を身につけることができる指導案が相互に問題点を指摘し、より良い指導案の作成を行う。</p> <p>【予習】【復習】食に関する指導の計画と模擬授業の準備を進める</p>

12 回	<p>実践演習⑤(作成した指導案の発表、相互評価)</p> <p>11 回と同様に作成した指導案の発表を行い、指導案が「学校における食育の推進」に結びつくか相互に検証し、より良い指導案の作成を行う。</p> <p>【予習】【復習】食に関する指導の計画と模擬授業の準備を進める</p>
13 回	<p>実践演習⑥(15分間 模擬授業 演習)</p> <p>作成した指導案に沿って模擬授業を行い、授業のやり方、説明の方法について検討を行う。</p> <p>【予習】【復習】演習後は自身の演習発表の反省をまとめ、次年度の教育実習に活かせるようにする</p>
14 回	<p>実践演習⑦(15分間 模擬授業 演習)</p> <p>作成した指導案に沿って模擬授業を行い、授業のやり方、説明の方法について検討を行う。</p> <p>【予習】【復習】演習後は自身の演習発表の反省をまとめ、次年度の教育実習に活かせるようにする</p>
15 回	<p>第10章 個別栄養相談指導の意義と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別栄養相談指導の実際</li> </ul> <p>第11章 家庭・地域社会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜ今「家庭・地域社会との連携」なのか</li> <li>・ 家庭・地域社会との連携に期待される「コーディネーター」の役割</li> <li>・ 地域・家庭との連携を具体的に推進するための「キーワード」 「開く」「結ぶ」「育む」</li> <li>・ 地場産物を活用するための連携</li> </ul> <p>【予習】テキストの第10章、「個別相談指導」を読んでおく→重要</p> <p>【復習】テキストの第10章、「個別相談指導」の実際について理解を深める</p>

令和7年度教育計画							
科目名	教育原理	授業回数	15	単位数	2	担当教員	堀口のぞみ
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : <a href="mailto:horiguchi@owc.ac.jp">horiguchi@owc.ac.jp</a> OH : 木曜日 12:00-12:50、その他在室時は何時でも可 (M棟 410)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>教育とは、学習とは、一体どのような営みなのか。本講義では、教育学の主要なトピックを取り上げ、歴史的検討、国際比較などを交えながら、「教育」という営みの本質、近代学校の教育的意義について基本的な知見を学ぶ。また、今日の教育的課題と今後の展望について多角的に考察する中で、教育に対する自分自身の向き合い方を自覚し、吟味・再構築していく。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>教育についての基礎的理解を深めるとともに、自らが考える力を身につける。</p> <p>専門的学習成果 :</p> <p>下記の事柄について基礎的知識を修得する。</p> <p>1. 教育の目的、目標、 2. 教育の思想と歴史、 3. 教育の内容、方法、評価 4. 教育の現状と課題</p> <p>汎用的学習成果 :</p> <p>コミュニケーション能力、情報編集・発信の能力、論理的思考力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主として講義形式とする。</li> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・基本的に授業開始前に小テストを実施する。(復習の確認)</li> <li>・コミュニケーション能力を育成するため、DVD教材をもとにディスカッション等の活動を行う。</li> <li>・シャトルカードにて学生からの質問や感想などを把握し、次回の授業の初めに補足説明を加える(双方向の授業)。</li> </ul> <p>予習・復習</p> <p>予習事項 (90 分) : 各回の授業で学習する内容についてテキストを読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項 (90 分) : テキストおよび授業で配付されたレジュメを読む。各回の復習キーワードを中心に、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。小テスト対策。</p> <p>テキスト</p> <p>田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著『やさしい教育原理 [第3版]』有斐閣、2016年。</p>					
学習評価の方法	<p>学習成果 : 以下の項目について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の目的、目標について理解している。</li> <li>・教育の主要な思想、歴史について理解している。</li> <li>・教育の内容、方法、評価について理解している。</li> <li>・今日の教育の現状と課題を認識し、他者の多様な考えを踏まえた上で、自分なりの意見を持つことができる。</li> <li>・自分の意見を正しい日本語で論理的に表現することができる。</li> </ul> <p>学習評価は、最終試験 (70%)、毎回の提出物と小テスト (30%) によって行う。</p> <p>課題 (試験や提出物等) に対するフィードバックの方法として、最終試験終了後、希望者に個別に対応する。</p>						

注 意 事 項	参考図書等： 柴田義松編『新・教育原理 改訂版』有斐閣、2003年。 それ以外の図書については、授業時に随時紹介する。
------------------	---

授業回数別教育内容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <p>○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、教育について学ぶ意義を理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション：本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。</li> <li>・自己紹介</li> <li>・ディスカッション：教育とは何か。その他、配付資料を用いて解説する。</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、教育について学ぶ意義を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの目次を中心に全体を一通り読んでくる。 復習事項：授業で配付された資料を読み、本日の授業の要点をまとめる。小テスト対策。 重要用語を覚える。</p>
2 回	<p>〈なぜ教育学を学ぶのか〉</p> <p>○本時の目標 本時では、映像資料の視聴とディスカッションを通して、栄養教諭になる上でなぜ教育学を学ぶのかを理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・ドキュメンタリー番組『いのちの授業 900日 ぶたのPちゃんと32人の小学生』視聴</li> <li>・ディスカッション：いのちの授業について</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 栄養教諭になる上で、教育学を学ぶ意義を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：なぜ教育学を学ぶ必要があるのか、自分の意見をまとめておく。 復習事項：授業で配付された資料を読み、本日の授業の要点をまとめる。小テスト対策。 重要用語を覚える。</p>
3 回	<p>〈教育とは何か〉</p> <p>○本時の目標 本時では、教育の意味とその必要性を理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・テキスト（1-42頁）及び配付資料で解説する。</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 教育の意味や必要性について理解しており、教育学の用語を用いながら、自分なりに説</p>

	<p>明できる。</p> <p>○予習及び復習事項  予習事項：テキスト（1-42 頁）を読み、疑問点を明確にしておく。  復習事項：生理的早産、野生児について自分なりに説明できるようにする。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>
4 回	<p>〈教育の思想〉</p> <p>○本時の目標  教育に関連する代表的な人物の思想を理解する。</p> <p>○本時の活動  ・小テスト  ・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。  ・配付資料で解説する。  ・シャトルカードの記入</p> <p>○本時の学習成果  教育に関連する代表的な人物と、その思想について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項  予習事項：「ルソー」、「ペスタロッチ」、「フレーベル」について情報を収集してくる。  復習事項：授業で取り上げた人物の思想を自分なりに説明できるようにする。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>
5 回	<p>〈学校とは何か①〉</p> <p>○本時の目標  本時では、学校がなぜ生まれ、それがどのように発展し、近代学校が準備されていったのかを理解する。</p> <p>○本時の活動  ・小テスト  ・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。  ・テキスト（43-59 頁）及び配付資料で解説する。  ・シャトルカードの記入</p> <p>○本時の学習成果  学校の成り立ちと近代教育制度の成立までを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項  予習事項：テキスト（43-59 頁）を読み、疑問点を明確にしておく。  復習事項：なぜすべての子どもが学校に通うようになったか、自分なりに説明できるようにする。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>
6 回	<p>〈学校とは何か②〉</p> <p>○本時の目標  本時では、特に日本において学校はどのように成立し、展開してきたのかを理解する。</p> <p>○本時の活動  ・小テスト  ・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。  ・テキスト（61-89 頁）及び配付資料で解説する。  ・シャトルカードの記入</p> <p>○本時の学習成果  日本の学校教育の成立と展開を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項  予習事項：テキスト（61-89 頁）を読み、疑問点を明確にしておく。  復習事項：自分が受けてきた学校教育は、どのような歴史の流れの中に位置付くか、説明できるようにする。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>

7 回	<p>〈学校とは何か③〉</p> <p>○本時の目標 本時では、学校の成立と展開の歴史をふまえて現代社会における教育課題を理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・小テスト</li> <li>・配付資料で解説する。</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 学校教育の成立と展開の歴史をふまえて、現代社会における教育課題について、自分の意見を述べることができる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：第5回、第6回で学んだ内容を自分なりにまとめる。 復習事項：現代社会における教育課題を解決するために、どのような方法が考えられるか、自分なりの意見をまとめる。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>
8 回	<p>〈授業の可能性・学校の可能性〉</p> <p>○本時の目標 本時では、学習指導のあり方が歴史的展開の中で大きく変わってきたことを理解し、これから求められる学習指導のあり方を考える。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・小テスト</li> <li>・配付資料で解説する。</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 学習指導の歴史的な変遷を理解し、これからの学習指導のあり方について、自分なりの意見を述べるができる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（157-181頁）を読んでおく。 復習事項：これからの学校教育において、どのような形態の授業が求められるか、自分の意見をまとめる。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>
9 回	<p>〈生活指導とは何か〉</p> <p>○本時の目標 一般に学校では頭髪検査や服装チェックなど、生活指導（生徒指導）が行われている。本時では、生活指導（生徒指導）何を目的としているのか、どのような意義があるのかについて理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・配付資料で解説する。</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 生活指導（生徒指導）の目的やその意義について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：中学校や高等学校でどのような生活指導（生徒指導）を受けたか、その時にどのように感じたかを思い出しておく。 復習事項：生活指導、問題行動について、自分なりに説明できるようにする。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>

10 回	<p>〈家庭教育について〉</p> <p>○本時の目標 現代の子どもたちが育つ家庭はどのような特徴を持っているのか。子どもたちは家庭で親からどのようなことを学ぶのか。また、家庭教育を補う機関にはどのようなものがあるのか。本時では、家庭教育に関わる基本的な事柄を理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・配付資料で解説する。</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 家庭教育の領域や、保育所・幼稚園・認定こども園による子育て支援など、家庭教育に関わる基本的な事柄を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：家庭で、子どもは親からどのようなことを学んでいるか、自分なりの意見を考えておく。</p> <p>復習事項：保育所、幼稚園、認定こども園、子育て支援について自分なりに説明できるようにする。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>
11 回	<p>〈社会教育と生涯学習〉</p> <p>○本時の目標 本時では、社会教育や生涯学習とは何か、また、なぜ生涯学習社会が必要とされるのかを理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・テキスト（227-242 頁）及び配付資料で解説する。</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 社会教育や生涯学習の意味、生涯学習社会の必要性について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：テキスト（227-242 頁）を読み、疑問点を明確にしておく。</p> <p>復習事項：社会教育、生涯学習について自分なりに説明できるようにする。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>
12 回	<p>〈教師の仕事〉</p> <p>○本時の目標 本時では、教師はどのようにして養成されるのか、現代の教師は教育活動に従事していくためにどのような力量が求められているのかを理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・テキスト（183-208 頁）及び配付資料で解説する。</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 教員養成の歴史や現代の教師に求められている事柄について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：テキスト（183-208 頁）を読み、疑問点を明確にしておく。</p> <p>復習事項：師範学校、開放制、教員免許更新制について自分なりに説明できるようにする。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>

13 回	<p>〈子どもの問題と学校教育〉</p> <p>○本時の目標 本時では、現代の学校や子どもをめぐる生じているさまざまな問題についてその実態、考えられる原因や対応策について理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・配付資料で解説する。</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 現代の学校や子どもをめぐる問題についてその実態を理解し、原因や対応策について自分なりの意見を述べるができる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：近年の子どもが抱える問題にはどのようなものがあるか調べてくる。 復習事項：不登校、いじめ、学級崩壊について自分なりに説明できるようにする。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>
14 回	<p>〈社会の変化と教育問題〉</p> <p>○本時の目標 本時では、社会の変化に応じて、学校現場で生じる問題について理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・配付資料で解説する。</li> <li>・ディスカッション：学校におけるジェンダー</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 社会の変化に応じて、学校現場で問題となる事柄について理解し、自分なりの意見を述べるができる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：これまでの学校生活を振り返り、男女別に分けられていたことを挙げる。 復習事項：隠れたカリキュラム、ジェンダーについて自分なりに説明できるようにする。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>
15 回	<p>〈まとめ：これまでの学習内容の総復習〉</p> <p>○本時の目標 本時では、これまでの学習内容の重要なポイントを振り返り、教育の基本的概念、歴史や思想をふまえた上で、教育の本質について理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・Power Point を用いて、前回のシャトルカードをもとに復習する。</li> <li>・配付資料で解説する。</li> <li>・シャトルカードの記入</li> </ul> <p>○本時の学習成果 教育の基本的概念、歴史や思想をふまえた上で、教育とは何かについて、自分の意見を論理的に述べるができる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：これまでの授業の中で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしておく。 復習事項：授業で配付されたすべてのレジюмеおよび資料を見直し、内容を整理する。重要用語を覚える。</p>

令和7年度教育計画							
科目名	教師論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	堀口のぞみ
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : horiguchi@owc.ac.jp、OH：木曜日 12:20～13:00、その他在室時は何時でも可 (M棟 410)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：教職を志望する受講生を対象に、以下の事柄に関する基礎的知識の定着を図るとともに、教職に就くことの意味を考え、教職に対する使命感を高めることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の仕事の意義と内容</li> <li>・教師の地位や身分</li> <li>・組織の一員としての教師の役割</li> <li>・教師に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障</li> <li>・教師の力量発達</li> <li>・近年の教育改革 (チーム学校への対応)</li> </ul> <p>学生の学習成果：            専門的学習成果：上記の基礎的知識を修得する。            汎用的学習成果：①論理的思考力、②コミュニケーション能力、③教師としてふさわしい倫理観、自己管理能力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回小テストを実施する。(復習の確認)</li> <li>2. 講義、個人発表、および質疑応答を授業の主要な構成要素とする。</li> <li>3. 各受講生が担当する箇所を決め、当該箇所について、受講生が作成したレジユメをもとに発表を行う。レジユメは早期に作成し、発表までに一度は担当教員のチェックを受けること。</li> <li>4. 発表をもとに、質疑応答を行う。また、以上の内容を補う講義をする。</li> <li>5. 授業後にシャトルカードに記入してもらい、双方向的な授業を展開する。</li> </ol> <p>予習・復習            予習事項 (90 分)：各回の授業で学習する内容についてテキストを読み、質問を考えてくる。            復習事項 (90 分)：テキストおよび授業で配付されたレジユメを読む。各回の復習キーワードを中心に、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。</p> <p>テキスト            秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門 [第3版]』有斐閣アルマ、2024年。</p>					
学習評価の方法	<p>学習成果：下記の学習成果について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教職の意義や職務内容など、教職に関する基礎的知識を修得している。</li> <li>②教員の身分や役割、研修などに関する法令や制度の概要を理解している。</li> <li>③教師の力量形成の現状と課題について理解している。</li> <li>④テキストの担当箇所について、ポイントを的確にとらえたレジユメを作成し、発表することができる。</li> <li>⑤教職をめぐる課題を認識したうえで、これまでの自身の経験を踏まえて、自分なりの考えを論理的に展開することができる。</li> </ol> <p>学習評価は、最終試験 (60%)、レジユメ発表 (20%)、課題 (20%) によって評価する。            課題は授業中に提示する。            課題 (試験や提出物等) に対するフィードバックの方法として、最終試験終了後、希望者に個別に対応する。</p>						

注 意 事 項	<p>参考図書等：曾余田浩史・岡東壽隆編著『改訂版 新・ティーチング・プロフェッション 次世代の学校教育をつくる教師を目指す人のために』明治図書出版、2019年。</p> <p>浅田匡・生田孝至・藤岡完治編著『成長する教師—教師学への誘い』金子書房、1998年。</p> <p>大村はま・苅谷剛彦・苅谷夏子『教えることの復権』ちくま書房、2003年。</p> <p>それ以外の図書については、授業中に随時紹介する。</p>
------------------	---

授業回数別教育内容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <p>○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、なぜ教職について学ぶのかを理解する。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 ・配付資料を用いて解説する。</p> <p>○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、教師の仕事について学ぶ意義を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの目次を中心に全体を一通り読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、本日の授業の要点をまとめる。</p>
2 回	<p>〈レジュメ作成の説明・教師の仕事の実像に迫る①〉</p> <p>○本時の目標 本時では、各自の発表に向けて、担当箇所を決定し、レジュメ作成の方法を理解する。また、実在の教師を取り上げた映像資料を通して、教師の仕事に対するイメージを構築する。</p> <p>○本時の活動 ・担当箇所の決定、レジュメ作成方法の説明 ・映像資料の視聴とそれに基づく議論</p> <p>○本時の学習成果 レジュメ作成の方法を一通り理解するとともに、教師の仕事に対するイメージをより明確にする。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの全体に目を通し、自分が担当したい章を考えてくる。 復習事項：映像資料に関する小レポートを作成する。</p>
3 回	<p>〈レジュメ作成の準備・教師の仕事の実像に迫る②〉</p> <p>○本時の目標 本時では、各自の発表に向けて発表準備を進める。また、実在の教師を取り上げた映像資料を通して、多様な教師の姿を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・発表に向けた準備（レジュメ作成状況の確認、疑問点の解消など） ・映像資料の視聴とそれに基づく議論</p> <p>○本時の学習成果 レジュメ作成の方法を十分に理解しているとともに、多様な教師の姿を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：レジュメ作成を進め、疑問点があれば質問できるようにしておく。 復習事項：映像資料に関する小レポートを作成する。</p>

4 回	<p>〈教師の仕事の実像に迫る③〉</p> <p>○本時の目標 本時では、後に行う各自の発表に向けて、発表準備を進める。また、実在の教師を取り上げた映像資料を通して、多様な教師の姿を理解し、自らの持つ教師の仕事に対するイメージをより明確にする。</p> <p>○本時の活動 ・発表に向けた準備（レジюме作成状況の確認、疑問点の解消など） ・映像資料の視聴とそれに基づく議論</p> <p>○本時の学習成果 レジюме作成の方法を習得するとともに、多様な教師の姿を理解し、自らの持つ教師の仕事に対するイメージが明確になっている。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：レジюме作成を進め、疑問点があれば質問できるようにしておく。 復習事項：映像資料に関する小レポートを作成する。</p>
5 回	<p>〈教師の日常世界へ〉</p> <p>○本時の目標 本時では、教師の仕事がどのような活動や要素から成り立ち、どのように組織されているのか、教職の特徴を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（1～20頁）</p> <p>○本時の学習成果 教師の仕事の性質や教職の特徴を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（1～20頁）を読み、疑問点を明確にしておく。 復習事項：教育職員免許状、無境界性、感情労働について自分なりに説明できるようにする。</p>
6 回	<p>〈授業をつくる〉</p> <p>○本時の目標 本時では、授業のデザインという仕事を支える教師の知識やどのようなもので、それを教師はどのように身につけていくのかを理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（21～47頁）</p> <p>○本時の学習成果 授業において教師が具体的にどのような活動をしているのか、そこで求められる知識を、教師はどうやって身につけていくのかを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（21～47頁）を読み、疑問点を明確にしておく。 復習事項：授業のデザイン、教室談話について自分なりに説明できるようにする。</p>
7 回	<p>〈授業から学ぶ〉</p> <p>○本時の目標 本時では、教師が授業を通して何を捉え、どのように意味づけながら、日々の教育実践を創造していくのかに着目しながら、「学び手」としての教師について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（49～69頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足</p> <p>○本時の学習成果 教職とは、日々の教育実践から常に学び続けることを通して自らの力量を高め、成長していく仕事であることを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（49～69頁）を読み、疑問点を明確にしておく。</p>

	<p>復習事項：省察、教育評価、研修について自分なりに説明できるようにする。</p>
8回	<p>〈カリキュラムをデザインする〉</p> <p>○本時の目標 本時では、カリキュラムについての考え方を押さえた上で、教師がカリキュラムをデザインする過程について理解する。また多様な専門性を持つ人材と連携することの重要性を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（71～83頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足</p> <p>○本時の学習成果 カリキュラム・デザインの過程を理解するとともに、多様な専門性を持つ人材と連携することの意義を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（71～83頁）を読み、疑問点を明確にしておく。 復習事項：プロジェクト単元、カリキュラム開発、実践 - 批評 - 開発モデルについて自分なりに説明できるようにする。</p>
9回	<p>〈子どもを育む〉</p> <p>○本時の目標 本時では、教師の仕事が教科指導のみならず、生徒指導や教育相談、進路指導など多岐にわたることを踏まえ、子どもを育むという観点から、教師として子どもの心に寄り添うことを理解する。また、教師がカウンセラー役を兼ねることの難しさ、教師とカウンセラーの違いについても理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（85～106頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足</p> <p>○本時の学習成果 子どもの心を育むという観点から、教師としてどのように子どもの心に寄り添えばよいかを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（85～106頁）を読み、疑問点を明確にしておく。 復習事項：教師のメンタルヘルス、バーンアウトについて自分なりに説明できるようにする。</p>
10回	<p>〈生涯を教師として生きる〉</p> <p>○本時の目標 本時では、教師は授業や専門科目の研究、子ども達との出会い、同僚や先輩教師、保護者等との交流等を通して、危機を乗り越えながら成長していく。教職生活におけるターニング・ポイントに注目しながら、教職人生の行路をたどり、教師として生き、成長することについて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（107～131頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足</p> <p>○本時の学習成果 新任者として着任してからベテランになるまで、教師がどのような過程を経て成長していくかを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（107～131頁）を読み、疑問点を明確にしておく。 復習事項：リアリティ・ショック、イニシエーション、アイデンティティについて自分なりに説明できるようにする。</p>

11 回	<p>〈同僚とともに学校を創る〉</p> <p>○本時の目標 本時では、教師は一人で仕事をしているのではなく、同僚らと仕事を分担したり学びあったりしている。組織の中で働き学ぶ教師について、また教員間の関係や雰囲気などがどのように創り出されていくのかについて理解し、チームとして組織的課題に対応することの重要性を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（133～152頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足</p> <p>○本時の学習成果 校内の教職員が効果的に連携・分担し、チームとして組織的課題に対応することの重要性を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（133～152頁）を読み、疑問点を明確にしておく。 復習事項：校内研修、校務分掌、同僚性について自分なりに説明できるようにする。</p>
12 回	<p>〈教職の専門性〉</p> <p>○本時の目標 本時では、専門職とは何か、教職の専門性とはどのような内実を備えているのか、専門性を獲得するためにはどのような教育が必要かといったトピックについて、国際的な認識やわが国の捉え方を参照しながら理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（153～178頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足</p> <p>○本時の学習成果 教職の専門性とは何か、その専門性の開発に関して、日本の教職の特徴を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（153～183頁）を読み、疑問点を明確にしておく。 復習事項：教員の地位に関する勧告、養成教育、現職教育について自分なりに説明できるようにする。</p>
13 回	<p>〈時代の中の教師〉</p> <p>○本時の目標 それぞれの時代の教科書に描かれた教師、生徒関係に注目しながら、過去そして現在の教師がどのような時代性を背負って生きてきた（いる）のかを理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（185～206頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足</p> <p>○本時の学習成果 それぞれの時代の教師像をふまえ、現代の教師がどのような時代性を背負っているかを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（179～200頁）を読み、疑問点を明確にしておく。 復習事項：聖職者教師像、教師専門職論について自分なりに説明できるようにする。</p>
14 回	<p>〈教師の仕事とジェンダー〉</p> <p>○本時の目標 本時では、教師の仕事における女性進出の歴史を追いながら、ジェンダーの観点から学校の構造、教師の仕事を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（207～232頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足</p> <p>○本時の学習成果</p>

	<p>ジェンダーの観点から教師の仕事を考察し、教師の仕事をより深く理解している。</p> <p>○予習及び復習事項  予習事項：テキスト（201～226 頁）を読み、疑問点を明確にしておく。  復習事項：ジェンダー、性別役割分業、性差別について自分なりに説明できるようにする。</p>
15 回	<p>〈まとめ：これまでの学習内容の総復習〉</p> <p>○本時の目標  これまでの学習内容の重要なポイントを振り返り、教職の意義や教員の役割を理解するとともに、教師に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障について理解する。</p> <p>○本時の活動  ・配付資料で解説する。</p> <p>○本時の目標  教職の意義や教員の役割を理解するとともに、教師に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項  予習事項：これまでの授業の中で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしておく。  復習事項：授業で配付されたすべてのレジュメおよび資料を見直し、内容をまとめる。</p>

令和7年度教育計画							
科目名	教育制度論	授業回数	8	単位数	1	担当教員	堀口のぞみ
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : horiguchi@owc.ac.jp、OH: 木曜日 12:20-13:00、その他在室時は何時でも可 (M棟 410)							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 : 学校現場で行われる1つ1つの行為は、社会的な制度の枠内で運営されている。本講義では、教育制度への全般的な理解を深め、教職におけるリーガルマインドを身につける。さらに教育界における今日的課題に対する認識を新たに、多角的な視座を身につける。						
	学生の学習成果 : 専門的学習成果 : 学校教育制度、教育行財政制度、学校経営・学校評価等に関わる基礎的知識を修得する。 汎用的学習成果 : 基礎的知識を用いて論理的に思考する力、自らの考えを適切な表現で的確に伝えると同時に他者の考えを理解するコミュニケーション能力を身につける。						
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技)  ・主として講義形式を採用する。授業時間内の活動には積極的な参加を求める。 ・授業は Power Point、自作の講義ノート、教科書、関連資料等を用いて、基礎的知識の修得を目指す。 ・授業後にシャトルカードに記入してもらい、双方向的な授業を展開する。 ・シャトルカードの質問内容及び回答を次回の講義の始めに Power Point で補足説明し、授業理解の一助として活用する。					
	予習・復習	予習事項 (90分) : 前回の復習と小テスト対策。 復習事項 (90分) : テキストおよび授業で配付されたレジュメを読む。各回の〈キーワード〉を中心に、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。小テスト対策。					
	テキスト	教育制度研究会編『要説 教育制度[新訂第三版]』学術図書出版社、2011年。					
学習評価の方法	学習成果 : 下記の項目について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。 学校教育制度、教育行財政制度、学校経営・学校評価等に関わる諸概念を理解している。 ・学校教育制度、教育行財政制度、学校経営・学校評価等に関わる法規について理解している。 ・わが国の教育制度改革の動向や課題を認識し、自分なりの考えを論理的に展開することができる。 学習評価は、最終試験 (70%)、提出物や小テスト等 (30%) によって行う。 課題 (試験や提出物等) に対するフィードバックの方法として、最終試験終了後、希望者に個別に対応する。						

注 意 事 項	参考図書等 ・河野和清編著『現代教育の制度と行政〔改訂版〕』福村出版、2017年。 ・菱村幸彦著『新訂第5版 やさしい教育法規の読み方』教育開発研究所、2015年。 ほか、随時紹介する。 出欠について ・隔週の本科目は3回以上欠席で受験資格なしとなる。
------------------	---

授業回数別教育内容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <p>○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、教育制度とは何かを理解する。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 ・配布資料を用いて解説する。</p> <p>○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、教育制度とは何かを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの目次を中心に全体を一通り読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、本日の授業の要点をまとめる。小テスト対策。重要用語を覚える。</p>
2 回	<p>〈教育制度の基本原則〉</p> <p>○本時の目標 本時では、今まで当たり前のように受けてきた公教育とは、どのような原理で成り立っているのか。また、現代の公教育制度にはどのような課題があるのか。現代公教育制度の意義・原理・構造について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・テキスト（19-34頁）及び配布資料等で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 公教育の意味やその原理（義務性、無償性、中立性）について理解し、教育制度をめぐる諸課題について自分なりの意見を述べるができる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉公教育の意味、義務性、無償性、中立性の意味を調べる。小テスト対策。 復習事項：テキスト（19-34頁）を読み、内容を整理する。重要用語を覚える。</p>
3 回	<p>〈教育法規の理論と体系〉</p> <p>○本時の目標 本時では、公教育制度を構成している教育法規の理論と体系を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・配布資料で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 教育法規の理論と体系を理解するとともに、教育に関連する各種の重要法規を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉日本国憲法、教育基本法、学校教育法の意味を調べてくる。 小テスト対策。</p>

	<p>復習事項：配付資料を読み、内容を整理する。重要用語を覚える。</p>
4 回	<p>〈教育行財政の仕組みを学ぶ。〉</p> <p>○本時の目標 本時では、日本の教育を支える教育行財政の仕組みについて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・テキスト（179-196 頁）及び配布資料で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 日本における教育行財政の仕組みについて理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉文部科学省、教育委員会 の意味を調べてくる。小テスト対策。 復習事項：テキスト（179-196 頁）を読み、内容を整理する。重要用語を覚える。</p>
5 回	<p>〈学校と地域との連携〉</p> <p>○本時の目標 学校と地域が連携する意義やその方法について、開かれた学校づくりが進められてきた経緯とともに理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・テキスト（197-214 頁）及び配布資料で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 学校と地域が連携することの意義やその方法、開かれた学校づくりが進められてきた経緯について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉学校評議員制度、学校運営協議会、学校評価 の意味を調べてくる。小テスト対策。 復習事項：テキスト（197-214 頁）を読み、内容を整理する。重要用語を覚える。</p>
6 回	<p>〈教員に関する仕組み〉</p> <p>○本時の目標 教育の直接的な担い手である教員に関する仕組みについて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・テキスト（215-230 頁）及び配布資料で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 学校に置かれる教員の種類、教師として守らなければならないきまりについて理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉教職員の種類、栄養教諭、職務上の義務、身分上の義務 の意味を調べてくる。小テスト対策。 復習事項：テキスト（215-230 頁）を読み、内容を整理する。重要用語を覚える。</p>
7 回	<p>〈社会変化と教育制度改革〉</p> <p>○本時の目標 本時では、今日的な社会変化と教育制度改革について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・配付資料で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 今日的な社会変化と教育制度改革について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉学校の管理下、学校保健安全法 の意味を調べてくる。小テ</p>

	<p>スト対策。</p> <p>復習事項：テキスト（212-213 頁）及び配付資料を読み、内容を整理する。重要用語を覚える。</p>
8 回	<p>〈7回の講義(続き)とまとめ：これまでの学習内容の総復習〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>これまでの学習内容の重要なポイントを振り返り、今日の学校で生じている様々な問題について、教育制度の視点から考察する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・配付資料で解説する。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <p>現代の学校教育に関する制度的な事項について十分に理解し、今日の学校で生じているさまざまな問題について、教育制度の視点から自分の意見を述べるができる。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：これまでの授業で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしておく。小テスト対策。</p> <p>復習事項：授業で配付されたすべてのレジюмеおよび資料を見直し、内容を整理する。重要用語を覚える。</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画

科目名	教育心理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀 恵子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail: ohga@owc.ac.jp						OH:土曜2限	
教育 目 標 と 学 生 の 学 習 成 果	<p><b>教育目標</b></p> <p>教育心理学とは、学ぶ存在としての人を心理学の視点から理解し支援するための科学と言える。学習指導するだけでなく、児童・生徒の精神的な発達や人間としての成長を育み、促すことも教師の重要な役割となる。本授業では、日々の教育活動の基礎となる心理学的知識を身につけることを目的とする。具体的には、受講学生は以下の諸点に関する基礎的な研究知見および能力を習得することである。</p> <p>①日々の教育活動の基礎となる心理学的知識を身につける。例えば、学びを支えるための心的過程（記憶、学習、動機など）について学ぶ</p> <p>②心理学的な観点から、児童・生徒への理解を深める。例えば、パーソナリティや知能とは何か、学校現場に見られる児童生徒の不適応行動について学ぶ。</p> <p>③教育活動において、正しい教育評価について理解する。</p> <p>④自立した社会人としての責務を果たすために必要な思考力、特に、論理的思考力や批判的思考力を身につける。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する研究知見を習得する。また、汎用的学習成果として、教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。</p>						
	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>講義形式によって行い、テキストに添って板書した内容を中心とし、補足プリントを配布する。また、受講者の理解を促進し、学習成果を確認するために授業中に論述課題を実施する。</p>					
	予習・復習	<p>各回の授業では予習復習が大切。予習に関しては、毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。復習に関しては、基本的には授業で使用した資料・板書内容・プリントの見直しや整理、また、各回の授業で復習内容のポイントを示す場合がある。</p> <p>また、予習・復習はそれぞれ2時間以上の学習時間を毎回確保すること。</p>					
テキスト	<p>・鎌原雅彦・竹綱誠一郎共著『やさしい教育心理学第4版』有斐閣、2015年。</p>						

学習評価の方法	<p><b>評価配分に関して</b></p> <p>専門的学習成果と汎用的学習成果について、それぞれの学習成果の習得度合いを量的（数値的）に変換し、合計 100 点を満点として評価を行う。それぞれの学習成果の量的（数値的）評価配分および評価比重は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的学習成果</li> </ul> <p>専門的学習成果の評価配分は 80 点である。評価配分 80 点の中で、以下に示した、それぞれの専門的学習成果には、おおよそ同等の比重をかける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①日々の教育活動の基礎となる心理学的知識を身につける。例えば、学びを支えるための心的過程（記憶、学習、動機など）について学ぶ</li> <li>②心理学的な観点から、児童・生徒への理解を深める。例えば、パーソナリティや知能とは何か、学校現場に見られる児童生徒の不適応行動とは何かを学ぶ。</li> <li>③教育活動において、正しい教育評価について理解する。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汎用的学習成果</li> </ul> <p>汎用的学習成果の評価配分は 10 点である。</p> <p>以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 80 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点で、合計 90 点である。なお、これらの評価配分に加え、専門的学習成果に関して、授業で学んだ知識の理解度を図るために、理解度合いの量的（数値的）評価を行う。この評価配分は 10 点である。総じて、専門的学習成果 80 点、汎用的学習成果 10 点、理解度確認 10 点で、合計 100 点満点で最終評価を行う。</p> <p><b>評価ツールに関して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的学習成果</li> </ul> <p>専門的学習成果の評価配分の合計 80 点は学期末に行う定期試験で測る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汎用的学習成果</li> </ul> <p>汎用的学習成果の評価配分 10 点は課題で測る。具体的には、自立した社会人としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた課題を課す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内容の理解度</li> </ul> <p>理解度確認の評価配分 10 点は授業 15 回のうちの 10 回で実施する課題で測る。課題は前回の授業に応じた内容とし、授業終了時に提出する。</p>
注意事項	<p>参考図書 授業中に紹介する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>&lt;オリエンテーション&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 本科目の授業スケジュールを確認し、教育心理学についての学びと教職の関連性を理解する。</li> <li>2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。</li> <li>・教職と教育心理学のかかわり、教育の必要性について理解する。</li> <li>・第1章「記憶」について内容を理解する。</li> </ul> </li> <li>3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の概要について理解し、教職と教育心理学のかかわり、教育の必要性が説明できる。</li> </ul> </li> <li>4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。</li> <li>・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。</li> </ul> </li> </ol>
2 回	<p>&lt;学びを支えるための基礎知識～記憶について～①&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 記憶の仕組み、記憶の定義や種類について理解する。</li> <li>2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1章「記憶力がいいとはどういうことか」記憶の定義や種類について理解する。</li> </ul> </li> <li>3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・記憶の定義や種類について説明できる。</li> </ul> </li> <li>4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習事項：テキスト第1章を読んでおく。</li> <li>・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。</li> </ul> </li> </ol>
3 回	<p>&lt;学びを支えるための基礎知識～記憶について～②&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 記憶の仕組み、記憶の定義や種類について理解する。</li> <li>2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1章「記憶力がいいとはどういうことか」記憶の仕組みについて理解する。</li> </ul> </li> <li>3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・記憶の仕組み、再生および忘却について説明できる。</li> </ul> </li> <li>4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習事項：テキスト第2章を読んでおく。</li> <li>・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。</li> </ul> </li> </ol>
4 回	<p>&lt;学びを支えるための基礎知識～学ぶことと考えること～&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 知識と問題解決について理解する。</li> <li>2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2章「学ぶことと考えること」知識と問題解決について理解する。</li> </ul> </li> <li>3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識と問題解決について説明できる。</li> </ul> </li> <li>4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習事項：テキスト第3章を読んでおく。</li> <li>・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。</li> </ul> </li> </ol>

5 回	<p>&lt;学びを支えるための基礎知識～ほめることの大切さ～①&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 ほめることの大切さ(1)―古典的条件づけについて理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・第3章「ほめることの大切さ」古典的条件づけについて理解する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・古典的条件づけと呼ばれる学習の手続きについて説明できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：心理学で定義されている“学習”とは何かを調べておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。</li> </ol>
6 回	<p>&lt;学びを支えるための基礎知識～ほめることの大切さ～②&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 ほめることの大切さ(2)―道具的条件づけ、その他の学習方法について理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・第3章 道具的条件づけ、観察学習、自己強化学習について理解する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・道具的条件づけと呼ばれる学習の手続き、その他の学習方法について説明できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。</li> </ol>
7 回	<p>&lt;学びを支えるための基礎知識～「やる気」を考える～①&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 「やる気」とは何か、やる気を促す方法について考える。</li> <li>2. 本時の活動 ・第4章「やる気」についての期待―価値モデルなどを理解する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・達成動機づけと呼ばれる問題について説明できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章の内容で自己の関心ある項目について調べておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。</li> </ol>
8 回	<p>&lt;学びを支えるための基礎知識～「やる気」を考える～②&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 「やる気」に関する原因について理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・第4章「やる気」に関する原因、内発的動機づけなどを理解する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・やる気に関する原因、内発的動機づけについて説明できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第5章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。</li> </ol>

9 回	<p>&lt;児童・生徒への理解を深める①～学校という社会～&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 学級という社会（学級集団）から児童・生徒について理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・第5章「学校という社会」学級集団の特殊性、雰囲気、人間関係などを理解する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・学校現場における児童・生徒の不適応・問題行動について説明できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第6章を読み、より良い授業とは何かを考えてくる。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。</li> </ol>
10 回	<p>&lt;児童・生徒への理解を深める②～どのように教えるか～&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 学習指導の様々な形態について理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・第6章「どのように教えるか」学習指導の形態について理解する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・より効果的な授業の方法を理解し、説明できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第7章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。</li> </ol>
11 回	<p>&lt;児童・生徒への理解を深める③～児童・生徒をどう評価するか～&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 教育成果の評価法について理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・第7章「どう評価するか」教育成果の評価、評価の情報を得る方法について理解する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・教育成果の評価、評価の情報を得る方法について説明できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第8章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。</li> </ol>
12 回	<p>&lt;児童・生徒への理解を深める④～人間の発達について考える～&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 児童期、思春期青年期の発達の特徴について理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・第8章「人間の発達」知能について理解する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・児童期、思春期青年期の発達の特徴についてについて説明できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第9,10章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。</li> </ol>

13 回	<p>&lt;生徒を正しく理解するために①～知識発達のみカニズム・発達段階～&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 パーソナリティについて学ぶ。</li> <li>2. 本時の活動 第9章 知能の発達、ピアジェ、フロイト、エリクソン発達段階について理解する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・パーソナリティ、発達段階について説明できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第11章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。</li> </ol>
14 回	<p>&lt;生徒を正しく理解するために②～困難を抱える子どもたち～&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 発達障害について学ぶ。</li> <li>2. 本時の活動 ・第10章 発達障害について理解できる。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・発達障害とは何か、主な発達障害について説明できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第12章を読んでおく。 ・復習事項：提出課題を見直しておく。</li> </ol>
15 回	<p>&lt;まとめ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 ・第12章「カウンセリング」の療法について学ぶ。14回目までの内容を振り返る。</li> <li>2. 本時の活動 ・これまでの授業内容を振り返り、不足のある部分について補足する。 ・定期試験についての説明</li> <li>3. 本時の学習成果 ・カウンセリング療法について理解できる。 ・14回目までの内容が理解できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし ・復習事項：提出課題の内容を見直しておく。</li> </ol>

令和7年度教育計画							
科目名	特別支援の方法と理解	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大賀 恵子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail: ohga@owc.ac.jp OH:土曜2限							
教育目標と学生の学習成果	<u>教育目標</u> 本科目の目的は、栄養教諭免許状取得のための「教職に関する科目」である。本科目では、通常学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により特別支援を必要とする幼児・児童及び生徒が学習活動に参加し生きる力を身につけていくことができるよう、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得することである。						
	<u>学生の学習成果</u> 専門的学習成果：教育目標に掲げる内容を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に関する内容を理解し、対応能力を身につける。						
教育方法	授業の進め方	(講義・ <b>演習</b> ・実験・実習・実技) 講義形式によって行い、受講者の理解を促進し、学習成果を確認するために授業中に論述課題を実施する。 授業時間外にもレポート課題を課す。					
	予習・復習	予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：基本的には授業で使用した資料・板書内容・プリントの見直しや整理、また、各回の授業で復習内容のポイントを示す場合がある。 また、予習・復習はそれぞれ1時間以上の学習時間を毎回確保すること。					
	テキスト	柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子 [編] 改訂版『はじめての特別支援教育』有斐閣アルマ 2016年					
学習評価の方法	<u>評価配分に関して</u> 以下の3つの学習成果について、習得度合いを等分に評価する。 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難への対応方法を理解する。						
<u>評価ツールに関して</u> ・専門的学習成果：評価配分の合計80点は学期末に行う定期試験で測る。 ・汎用的学習成果：評価配分20点は課題で測る。授業内容に応じた論述課題を含む。							

<p>注意事項</p>	<p>参考図書 授業中に紹介する。</p>
<p>授 業 回 数 別 教 育 内 容</p>	
<p>1 回</p>	<p>&lt;オリエンテーション・特別支援教育の歴史&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認し、支援の必要性を理解する。</li> <li>2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。</li> <li>・特別支援教育の歴史と支援の必要性を理解する。</li> </ul> </li> <li>3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の概要について理解し、特別支援教育の歴史と支援の必要性が説明できる。</li> </ul> </li> <li>4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。</li> <li>・復習事項：講義内容を振り返り、特別支援教育の歴史と支援の必要性を確認する。</li> </ul> </li> </ol>
<p>2 回</p>	<p>&lt;特別支援教育の理念と制度①&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 インクルーシブ教育システムや合理的配慮を学び、特別支援教育に関する制度の理念、仕組みを理解する。</li> <li>2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第1章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> </ul> </li> <li>3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育と合理的配慮について説明できる。</li> </ul> </li> <li>4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習事項：テキスト第1章を読んでおく。</li> <li>・復習事項：特別支援教育の理念に関する課題を仕上げる。</li> </ul> </li> </ol>
<p>3 回</p>	<p>&lt;特別支援教育の理念と制度②&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容を理解する。</li> <li>2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第2章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> </ul> </li> <li>3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容が説明できる。</li> </ul> </li> <li>4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習事項：テキスト第2章、特別支援教育学校の学習指導要領の内容を確認しておく。</li> <li>・復習事項：特別支援教育の仕組みに関する課題を仕上げる。</li> </ul> </li> </ol>

4 回	<p>&lt;特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 支援システムの構築の必要性と法的整備について理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・テキスト第3章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・支援システムの構築の必要性と法的整備について説明することができる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第3章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題を作成する。</li> </ol>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<p>&lt;特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法②&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 特別な支援教育におけるコーディネーターの役割と専門性を理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・テキスト第4章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・関係機関との連携し支援体制を構築することの必要性を理解できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章を読んでおく。 ・復習事項：特別支援教育コーディネーター・関係機関を確認する。</li> </ol>
6 回	<p>&lt;特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法③&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・テキスト第5章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成することができる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第5章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題（計画書）を作成する。</li> </ol>

7 回	<p>&lt;特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害など特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法を確認し、例示することができる。</li> <li>2. 本時の活動 ・テキスト第 6, 7 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法について、例示することができる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 6, 7 章を読んでおく。 ・復習事項：支援方法についてまとめる。</li> </ol>
8 回	<p>&lt;特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性②&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・テキスト第 8, 9 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解している。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 8, 9 章を読んでおく。 ・復習事項：情緒障害児・言語障害児の特性と支援方法をまとめる。</li> </ol>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p>&lt;特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性③&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・テキスト第 10, 11 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解している。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 10, 11 章を読んでおく。 ・復習事項：視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性をまとめる。</li> </ol>
10 回	<p>&lt;特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・テキスト第 12 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 12 章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。</li> </ol>

11 回	<p>&lt;特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、保護者との連携&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 保護者の障害受容とストレスなど、保護者の心理状態を把握し、支援の必要性を確認する。</li> <li>2. 本時の活動 ・テキスト第13章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・保護者の障害受容とストレスなどに対する支援の必要性を理解できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第13章を読んでおく。 ・復習事項：保護者の障害受容とストレスについて理解し、支援の必要性を確認する。</li> </ol>
12 回	<p>&lt;特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、専門機関や地域との連携&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 専門機関や組織的な対応の必要性を理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・テキスト第14章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・専門機関や組織的な対応の必要性を理解できる。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第14章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。</li> </ol>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p>&lt;早期発見、早期支援と連携&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の家庭支援の実際を確認し、早期発見、早期支援の必要性を理解する。</li> <li>2. 本時の活動 ・テキスト第15章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の進路状況や養育者の心理及び家庭支援の実際を理解する。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：本科目に関する内容からテーマを定め、それに関する資料を準備する。 ・復習事項：養育者の心理及び家庭支援の実際を理解し、早期発見・早期支援の必要性を確認する。</li> </ol>

14 回	<p>&lt;進学支援・就労支援と連携／特別支援の方法と理解&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する進学・就労支援について理解し、特別支援の方法と理解の内容を確認する。</li> <li>2. 本時の活動 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解について確認する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解を深める。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第16章を読む。／本科目の内容を復習しておく。 ・復習事項：第1回から第13回の授業内容を確認する。</li> </ol>
15 回	<p>&lt;まとめ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の目標 本科目の内容を振り返り、必要な知識や支援方法の習得度合いを確認する。</li> <li>2. 本時の活動 次の3点に関して習得度合いを確認し、本科目の内容に関するレポートを仕上げる。 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難との対応を理解する。</li> <li>3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。</li> <li>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第1回から第14回の授業内容を整理し、期末考査に備える。</li> </ol>

令和7年度教育計画							
科目名	教育課程論	授業回数	8	単位数	1	担当教員	堀口のぞみ
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : horiguchi@owc.ac.jp、OH：木曜日 12:20-13:00 その他在室時は何時でも可 (M棟 410)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：学校における授業やその他の諸活動は、すべて計画的に組織されている。日本では学習指導要領を基準として、各学校で教育課程が編成されている。本講では教育課程の意義や編成の方法を理解するとともに、「カリキュラム・マネジメント」の意義や重要性を理解する。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果： 下記の事柄について基礎的知識を修得する。 1. 教育課程の意義、2. 教育課程行政、3. 学習指導要領の変遷、 4. 教育課程編成の原理と方法、 5. 教育課程の経営と評価 (カリキュラム・マネジメント)</p> <p>汎用的学習成果： 論理的思考力、コミュニケーション能力、栄養学分野の専門的知識を現代の子どもの教育的課題に照らして意味づける力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技) ・主として講義形式を採用する。 ・テキスト以外の文献からも、栄養教諭に関連するテーマを積極的に取り上げる。 ・講義は Power Point、自作の講義ノート、教科書、関連資料等を用いて、基礎的知識の修得を目指す。 ・毎回小テストを実施する。(復習の確認) ・講義後にシャトルカードに記入してもらい、双方向的な授業を展開する。</p> <p>予習・復習 予習事項 (90分)：前回の復習と小テスト対策。 復習事項 (90分)：テキストおよび授業で配付されたレジュメを読む。各回の〈キーワード〉を中心に授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。小テスト対策。</p> <p>テキスト 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵著『新しい時代の教育課程 [第5版]』有斐閣、2023年。</p>					
学習評価の方法	<p>学習成果：以下の項目について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。 ・初等中等諸学校における教育課程の意義を理解している。 ・わが国の学習指導要領の変遷を理解している。 ・教育課程の思想と構造について理解している。 ・教育課程編成の基本原則について理解している。 ・教育課程評価やカリキュラム・マネジメントの考え方について理解している。 ・教育課程編成に関わる改革動向を踏まえ、自己の意見を論理的に展開することができる。</p> <p>学習評価は、最終試験 (70%)、提出物と小テスト等 (30%) によって行う。 課題 (試験や提出物等) に対するフィードバックの方法として、最終試験終了後、希望者に個別に対応する。</p>						

注意 事項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領</li> <li>・柴田義松編『教育課程論 第2版』学文社、2008年。</li> </ul> <p>ほか、随時紹介する。</p> <p>出欠について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隔週の本科目は3回以上欠席で受験資格なしとなる。</li> </ul>
----------	---

授業回数別教育内容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、教育課程とは何かについてその概要を理解する。</li> <li>○本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。</li> <li>・Power Point、講義ノートで解説する。</li> </ul> </li> <li>○本時の学習成果 本科目の概要を把握し、教育課程とは何かを理解している。</li> <li>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの目次を中心に全体を一通り読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、本日の授業の要点をまとめる。小テスト対策。重要用語を覚える。</li> </ul>
2 回	<p>〈教育課程の役割・機能・意義 ～近代日本の教育課程の歩み～〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の目標 日本の教育課程は、どのような人づくりをめざして編制されてきたのか。明治前期から昭和戦時下の教育課程について理解する。</li> <li>○本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・テキスト（19-46頁）、Power Point、講義ノートで解説する。</li> </ul> </li> <li>○本時の学習成果 明治前期から昭和戦時下の日本において、教育課程が果たした役割を理解している。</li> <li>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉学制、教育勅語、国定教科書の意味を調べてくる。小テスト対策。 復習事項：テキスト19-46頁を読み、内容を整理する。重要用語を覚える。</li> </ul>
3 回	<p>〈教育課程編成の基本原則～現代日本の教育課程の歩み～①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の目標 日本の教育課程は、どのような人づくりをめざして編制されてきたのか。昭和22年から今日の学習指導要領の改訂までを追いながら、その編成原理を理解する。発表準備を行う。</li> <li>○本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・テキスト（47-120頁）、Power Point</li> <li>・各自テキストを参照にしながらか改訂について要点をまとめる。</li> </ul> </li> <li>○本時の学習成果 学習指導要領改訂の変遷と主な改訂内容について社会背景と合わせて理解している。</li> <li>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉学習指導要領の意味をテキストで事前に調べてくる 復習事項：テキスト47-120頁を読み、発表原稿を作成する。重要用語を覚える。</li> </ul>

4 回	<p>〈教育課程編成の基本原則～現代日本の教育課程の歩み～②〉</p> <p>○本時の目標 前回に引き続き、昭和 22 年から今日の学習指導要領の改訂まで整理した内容を各自発表することを通して、学習指導要領が時代ごとの社会背景に影響されながら編成されているという原理を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（47-120 頁）、Power Point ・各自、まとめた資料をもとに発表。</p> <p>○本時の学習成果 学習指導要領改訂の変遷と主な改訂内容について社会背景と合わせて理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉学習指導要領の意味をテキストで事前に調べてくる。 復習事項：テキスト 47-120 頁を読み、内容を整理する。重要用語を覚える。</p>
5 回	<p>〈教育課程の思想と構造〉</p> <p>○本時の目標 教育課程編成の構成要件、教育課程編成論の歴史、教育課程編成の基本原則、教育課程編成の方法について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（149-212 頁）、Power Point、講義ノートで解説する。</p> <p>○本時の学習成果 教育課程編成の基本原則や教育課程編成の方法についての基本的な事項を理解し、児童・生徒や学校・地域の実情に即した教育課程を編成するその重要性を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉履修主義、修得主義 到達度評価論、スコープ、シーケンスの意味を調べてくる。小テスト対策。 復習事項：テキスト 149-212 頁を読み、内容を整理する。重要用語を覚える。</p>
6 回	<p>〈今日の課題への挑戦とカリキュラム・マネジメント〉</p> <p>○本時の目標 今日的課題への様々な取り組みとカリキュラム・マネジメントの理論/実践について理解するとともに各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義についても理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・テキスト（213-306 頁）Power Point、講義ノートで解説する。</p> <p>○本時の学習成果 現代の子どもたちが直面する課題とそれに対応する教育課程の理論と実践について理解しつつ、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉キャリア教育、環境教育、メディア・リテラシーの意味を調べてくる。小テスト対策。 復習事項：テキスト 213-306 頁を読み、内容を整理する。重要用語を覚える。</p>
7 回	<p>〈教育課程を考えてみよう〉</p> <p>○本時の目標 これまでの教育課程論を振り返りながら、実際に本学便覧やその他の大学の教育課程を参考に、自身で具体的な教育理念と実際の教育課程を設定してみることを通して、教育課程とは何かについて理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト ・テキスト(これまで学習した範囲全て)、Power Point、各自デジタル機器などで調べ学習。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回発表の準備</li> <li>○本時の学習成果 自らが具体的な教育課程を考案することを通して、教育課程の原理原則及び教育課程編成について理解している。</li> <li>○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉これまでの範囲の復習 復習事項：これまでの範囲の復習と、本学及び他大学の教育課程について調べる。</li> </ul>
8 回	<p>〈まとめ：第7回の発表とこれまでの学習内容の総復習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の目標 第7回で構想した教育課程を各自発表する。最後に、これまでの学習内容の重要なポイントを振り返ることで、教育課程論の理解を深める。</li> <li>○本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自まとめた資料をもとに発表する。</li> <li>・配付資料、Power Point 等で復習する。</li> </ul> </li> <li>○本時の学習成果 本時を通して教育課程とは何か、そして教育課程が学校教育運営にあたりいかに重要であるかを実践的活動を通して理解している。</li> <li>○予習及び復習事項 予習事項：これまでの授業の中で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしておく。 復習事項：授業で配付されたすべてのレジュメおよび資料を見直し、内容を整理する。重要用語を覚える。</li> </ul>

令和7年度教育計画							
科目名	道徳・特別活動・総合的な学習の時間	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎 聡 都田 修兵
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー) :、OH : (尾崎) osaki@owc.ac.jp、土曜日1限目 (都田) stsuda@owc.ac.jp、土曜日2限目							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>本科目は、栄養教諭免許状取得のための「教育課程に関する科目」の一つである。 本科目では、「特別の教科 道徳」、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」に関して、それらの教育課程における位置づけや意義、目標や内容について理解する。また、「総合的な学習の時間」に関しては年間指導計画の作成についても理解する。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げることを修得すること。 汎用的学習成果：教職として必要となる態度や信念を涵養する。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主として講義形式による。</li> <li>受講者の理解を促進させるため、授業時間外に取り組むレポートなどの課題を課す。</li> </ul>					
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。</li> <li>予習については、第2回～15回に向けて、90分×14回を目安とする。また、復習については、第1回～15回終了後にその回の内容と15回目には別途90分程度の期末試験に向けた復習も入れて、90分×15回+90分を目安とする。</li> </ul>					
	テキスト	<p>①文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき、2018。 ②文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社、2018。 ③文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版社、2018。</p>					
学習評価の方法	<p>以下の3つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。</p> <p>①「道徳」、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」の歴史の変遷を知り、それらの教育課程における位置づけや意義について理解する。 ②「道徳」、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」について、それぞれの目標や内容について理解する。 ③現代の学校における諸課題について、「道徳」、「総合的な学習の時間」、「特別活動」と関連させながら自らの考えを深める。</p> <p>学習評価は、課題(30点)及び期末試験(70点)により実施する。受講態度に問題がある者は、将来教育者となるための態度や信念の涵養が十分でないとして、ケースに応じて減点(1～5点を目安とする)する。なお、評価については課題などの返却時等において、その内容についてのフィードバックを実施する。</p>						

注意 事項	参考図書等 渡邊満ほか編著『新教科「道徳」の理論と実践』玉川大学出版部、2017。 山崎英則ほか編著『新しい特別活動の指導原理』ミネルヴァ書房、2017。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>&lt;オリエンテーション、現代教育の諸問題と学校教育課程&gt;</p> <p>○本時の目標          本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、現代教育の抱える諸問題と学校教育課程の全体像について理解する。</p> <p>○本時の活動          ・オリエンテーション          授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法          ・学校教育課程について学ぶ。</p> <p>○本時の学習成果          現代教育の諸問題と学校教育課程の全体像について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項          ・予習事項：教職に関する科目の内容を整理してくる。          ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の授業内容を整理する。</p>
2 回	<p>&lt;道徳・道徳教育とは何か 規範と道徳&gt;</p> <p>○本時の目標          人間存在が営む様々な規範と道徳との関係性を学ぶことを通して、道徳の存在意義・道徳教育の必要性について理解する。</p> <p>○本時の活動          ・テキスト①の該当箇所などで解説する。</p> <p>○本時の学習成果          人間存在が営む様々な規範と道徳との関係性、道徳の存在意義・道徳教育の必要性を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項          ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。          ・復習事項：テキスト①やノートを見ながら、人間存在が営む様々な規範と道徳との関係性、道徳の存在意義・道徳教育の必要性について整理する。</p>

3 回	<p>&lt; 道徳性の発達段階と道徳教育 &gt;</p> <p>○本時の目標 「道徳性の発達段階」に関する諸学説を学ぶことを通して、人間発達における道徳教育の位置づけや意義について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト①の該当箇所などで解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「道徳性の発達段階」に関する諸学説、人間発達における道徳教育の位置づけや意義について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキスト①やノートを見ながら、「道徳性の発達段階」に関する諸学説、人間発達における道徳教育の位置づけや意義について整理する。</p>
4 回	<p>&lt; 道徳教育の歴史の変遷とその課題 &gt;</p> <p>○本時の目標 「道徳教育に関する授業」の歴史の変遷を学ぶことを通して、その教育課程における位置づけや意義について理解するとともに、道徳教育の抱えている課題（いじめなど）について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト①の該当箇所などで解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「道徳教育に関する授業」の歴史の変遷を理解し、その教育課程における位置づけや意義と道徳教育の抱えている課題について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキスト①やノートを見ながら、「道徳教育に関する授業」の歴史の変遷、その教育課程における位置づけや意義、課題について整理する。</p>
5 回	<p>&lt; 「特別の教科 道徳」の意義と役割 &gt;</p> <p>○本時の目標 「特別の教科 道徳」の学習指導要領を読みながら、現代の教育課程のなかでの意義や役割について理解するとともに、そこで必要となる資質や能力の育成について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト①の該当箇所などで解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「特別の教科 道徳」が果たす意義や役割について理解し、そこで必要となる資質や能力の育成について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「特別の教科 道徳」の現代の教育課程のなかでの意義や役割、そこで必要となる資質や能力の育成について整理する。</p>

6 回	<p>&lt;「特別の教科 道徳」の目標と内容&gt;</p> <p>○本時の目標 「特別の教科 道徳」の学習指導要領に示された目標と内容について理解するとともに、「特別の教科 道徳」の現場レベルでの留意点について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト①の該当箇所を解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「特別の教科 道徳」の目標や内容、現場レベルでの留意点について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「特別の教科 道徳」の目標や内容、現場レベルでの留意点について整理する。</p>
7 回	<p>&lt;他教科および教育活動全体と道徳教育の連携&gt;</p> <p>○本時の目標 道徳教育は他教科および教育活動全体と連携することによって、より生き生きとしたものになっていくということを理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト①の該当箇所を解説する。</p> <p>○本時の学習成果 道徳教育は他教科および教育活動全体と連携することによって、より生き生きとしたものになっていくということを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキスト①やノートを見ながら、道徳教育と他教科および教育活動全体との連携、生き生きとした道徳教育のあり方について整理する。 ・課題：「特別の教科 道徳」の内容に関するプリント。</p>
8 回	<p>&lt;「総合的な学習の時間」の歴史の変遷&gt;</p> <p>○本時の目標 「総合的な学習の時間」の歴史の変遷を学ぶことを通して、その教育課程における位置づけや意義について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト②の該当箇所を解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「総合的な学習の時間」の歴史の変遷を理解し、その教育課程における位置づけや意義について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト②の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキスト②やノートを見ながら、「総合的な学習の時間」の歴史の変遷から、その教育課程における位置づけや意義について整理する。</p>

9 回	<p>&lt;「総合的な学習の時間」の意義と役割&gt;</p> <p>○本時の目標 「総合的な学習の時間」の学習指導要領を読みながら、現代の教育課程のなかでの意義や役割について理解するとともに、そこで必要となる資質や能力の育成について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト②の該当箇所で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「総合的な学習の時間」が果たす意義や役割について理解し、そこで必要となる資質や能力の育成について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト②の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「総合的な学習の時間」の現代の教育課程のなかでの意義や役割、そこで必要となる資質や能力の育成について理解している。</p>
10 回	<p>&lt;「総合的な学習の時間」の目標と内容、年間指導計画&gt;</p> <p>○本時の目標 「総合的な学習の時間」の学習指導要領に示された目標と内容について理解するとともに、「総合的な学習の時間」の年間指導計画の作成など、現場レベルでの留意点について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト②の該当箇所で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「総合的な学習の時間」目標や内容、現場レベルでの留意点について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト②の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「総合的な学習の時間」目標や内容、現場レベルでの留意点について整理する。 ・課題：「総合的な学習の時間」の内容に関するプリント。</p>
11 回	<p>&lt;「特別活動」の歴史的変遷&gt;</p> <p>○本時の目標 「特別活動」の歴史的変遷を学ぶことを通して、その教育課程における位置づけや意義について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト③の該当箇所で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「特別活動」の歴史的変遷を理解し、その教育課程における位置づけや意義について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト③の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキスト③やノートを見ながら、「特別活動」の歴史的変遷から、その教育課程における位置づけや意義について整理する。</p>

12 回	<p>&lt;「特別活動」の目標と内容&gt;</p> <p>○本時の目標 「特別活動」の学習指導要領を読みながら、現代の教育課程のなかでの目標や内容について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト③の該当箇所で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「特別活動」の目標や内容について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト③の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「特別活動」の目標や内容について整理する。</p>
13 回	<p>&lt;学級活動・ホームルーム活動&gt;</p> <p>○本時の目標 「特別活動」のなかでもとくに、学級活動とホームルーム活動について学習指導要領をもとにその目標や内容を理解し、その特質について学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト③の該当箇所で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 学級活動とホームルーム活動について学習指導要領をもとにその目標や内容を理解し、その特質について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト③の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、学級活動とホームルーム活動について学習指導要領をもとにその目標や内容、特質について整理する。</p>
14 回	<p>&lt;児童会・生徒会・クラブ活動・学校行事&gt;</p> <p>○本時の目標 「特別活動」のなかでもとくに、児童会、生徒会、クラブ活動と学校行事について学習指導要領をもとにその目標や内容を理解し、その特質について学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト③の該当箇所で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 児童会、生徒会、クラブ活動と学校行事について、学習指導要領をもとにその目標や内容を理解し、その特質について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト③の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、児童会、生徒会、クラブ活動と学校行事について学習指導要領をもとにその目標や内容、特質について整理する。 ・課題：「特別活動」の内容に関するプリント。</p>

15 回	<p>&lt;「特別活動」と他の各教科等との関連、総括&gt;</p> <p>○本時の目標 「特別活動」と他の各教科等との関連について、いくつかの具体的事例をもとに理解するとともに、本科目の総括をする。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト③の該当箇所を解説する。</li> <li>・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果 「特別活動」と他の各教科等との関連について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習事項：テキスト③の該当箇所を読んでくる。</li> <li>・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。</li> </ul>
---------	--

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	教育の方法及び技術	授業回数	15	単位数	2	担当教員 原田博史・都田修兵 原田俊孝・塩津敦子	
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー) : stsuda@owc.ac.jp、金曜日 5 限目 (都田)							
教育目標と学生の学習成果	<p>&lt;教育目標&gt;</p> <p>本科目は、栄養教諭 1 種免許状取得のための必修科目であり、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識や技能について、とくに栄養教諭という観点に基づいて身につけることを全体目標とする。</p> <p>本科目において、具体的に取り扱う内容と担当教員は次の通りである。</p> <p>(1) 教育の方法論 (都田・原田博史)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の基礎的理論と実践の理解</li> <li>・これからの教育方法のあり方の理解</li> <li>・授業の構成要件の理解</li> <li>・学習評価の基礎的考え方</li> </ul> <p>(2) 教育の技術 (塩津)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を行ううえでの基礎的技術</li> <li>・指導案の作成</li> </ul> <p>(3) 情報機器及び教材の活用 (原田俊孝)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器を活用した教材等の作成と提示</li> <li>・情報活用能力 (情報モラルを含む) 育成のための指導法</li> </ul> <p>&lt;学生の学習成果&gt;</p> <p>●専門的学習成果 教育目標に掲げる内容を習得する。</p> <p>●汎用的学習成果 価値観の多様性を理解し、自分なりの意見を持つ姿勢を獲得する。</p>						
	授業の進め方	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は、主として「講義形式」による 15 回の授業である。</li> <li>・授業時間内外に取り組む課題 (指導案) を課す。</li> </ul>					
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める。</li> <li>・予習については、第 2 回～15 回に向けて、90 分×14 回を目安とする。</li> </ul> <p>また、復習については、第 1 回～15 回終了後にその回の内容と 15 回目には別途 90 分程度の期末試験に向けた復習も入れて、90 分×15 回+90 分を目安とする。</p>					
テキスト	<p>田中耕治ほか著『改訂版 新しい時代の教育方法』有斐閣、2020 (初版 2012)。          ※テキストの内容とあわせて、各教員が必要に応じてプリント等配布することにより内容を補う。          ※参考文献については、適宜授業内で示す。</p>						

学習評価の方法	<p>&lt;学習評価の観点&gt;          学習評価の観点は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「専門的学習成果」については「教育目標」でも示した以下の（１）から（５）の観点に基づき行う。             <ul style="list-style-type: none"> <li>（１）教育の方法論</li> <li>（２）教育の技術</li> <li>（３）情報機器及び教材の活用</li> </ul> </li> <li>●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。</li> </ul> <p>&lt;学習評価の方法&gt;          学習評価は以下の方法により実施することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●専門的学習成果             <ul style="list-style-type: none"> <li>（１）定期試験（50点）                  「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）及び（３）にかかる内容についての定期試験（60点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。                  なお、得点の配分については、（１）の内容で40点、（３）の内容で10点とする。</li> <li>（２）課題（指導案）（40点）                  授業中に課される課題（指導案）への取り組み、提出等により40点満点で評価する。</li> </ul> </li> <li>●汎用的学習成果             <ul style="list-style-type: none"> <li>（３）読書レポート（10点×1回＝10点）                  教育に関する書籍を読み、読書レポートを提出する。</li> <li>（４）その他                  ただし、学習評価の方法（１）及び（２）、（３）以外に受講態度に問題があった者は、教育者としての倫理観が十分でないとして、以下のケースに応じて減点することとする。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（1点）</li> <li>・「無許可による携帯電話の使用（SNS等）」（2点）</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期試験             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学則施行細則」第7条により、<u>本科目について3分の2以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし）。</u></li> <li>・「学則施行細則」第7条により、学習評価は100点法をもって採点し、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可とする。</li> </ul> </li> <li>●再試験             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学則施行細則」第7条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、<u>講義及び演習の授業科目の再試験は100点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目については、学習評価の方法における（２）（３））は含めず、再試験による60点以上の得点者はすべて60点の学習評価とする。</u></li> </ul> </li> <li>●追試験             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学則施行細則」第7条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、<u>追試験による80点以上の得点者はすべて80点の学習評価とする。</u></li> </ul> </li> </ul>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	

1 回	<p>&lt;西洋における教育思想と教育方法の歴史&gt; (都田)</p> <p>○本時の目標        本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、教育方法について歴史的視点、コメニウスの教授法、ルソーの教育、ペスタロッチーの開発教授法などを中心としながら、その基礎的理論と実践を理解する。</p> <p>○本時の活動        ・オリエンテーション        本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。        ・テキスト (pp. 12-41) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果        西洋における教育思想と教育方法について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項        予習事項：テキストの該当箇所を読む。        復習事項：再度テキストの該当箇所及び自身のノートを見ながら、本時の内容をおさえる。</p>
2 回	<p>&lt;日本における教育改革と教育方法の歴史&gt; (都田)</p> <p>○本時の目標        わが国における教育改革の歴史と教育方法がどのように歴史的展開を経てきたのかについて学ぶ。</p> <p>○本時の活動        ・テキスト (pp. 44-71) で解説する。。</p> <p>○本時の学習成果        わが国における教育改革の歴史と教育方法がどのように歴史的展開を経てきたのかについて整理している。</p> <p>○予習及び復習事項        予習事項：テキストの該当箇所を読む。        自身の経験を振り返って、どのような授業があったかを考える。        復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返ししながら、教育方法の理論と実践を歴史的に整理する。</p>
3 回	<p>&lt;現代教育方法学の論点と課題&gt; (都田)</p> <p>○本時の目標        わが国における「学力観」や学習、授業に関する論争などについて整理し、現代の教育方法における論点や課題について整理する。</p> <p>○本時の活動        ・テキスト (pp. 5-13) で解説する。。</p> <p>○本時の学習成果        ルソーの教育までの教育方法の理論と実践を理解しているとともに、現代の教育方法との関連についても説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項        予習事項：テキストの該当箇所を読む。        自身の経験を振り返って、どのような授業があったかを考える。        復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返ししながら、本時の内容をおさえる。</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	

4 回	<p>&lt;子どもは何を学ぶか&gt; (都田)</p> <p>○本時の目標 教育目標や教育内容そのものについて、さらにはその諸相について整理する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp. 104-120) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 子どもたちが何を学んでいるのかについて整理している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 テキストを読んで、理解することが難しいところなどを考えておく。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しなが、本時の内容をおさえる。</p>
5 回	<p>&lt;学習とは何か&gt; (都田)</p> <p>○本時の目標 「学習」そのものについて、学習をめぐる理論や学習方法、他者の役割などの視点から学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp. 121-141) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「学習」そのものについて整理している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 テキストを読んで、理解することが難しいところなどを考えておく。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しなが、本時の内容をおさえる。</p>
6 回	<p>&lt;学力をどう高めるか&gt; (都田)</p> <p>○本時の目標 子どもの学力形成について、発達の過程や学習やプロセスという視点から整理する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp. 144-168) で解説する。 ・課題の提示：読書レポート</p> <p>○本時の学習成果 子どもの学力形成について整理している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しなが、本時の内容をおさえる。</p>
7 回	<p>&lt;教育の技術と教材の活用 (指導案作成) ①&gt; (塩津)</p> <p>○本時の目標 これまでの学習内容を踏まえつつ、『小学校学習指導要領』等をもとに年・月の授業計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp. 170-222、pp. 246-262) 及び授業で配付する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 『小学校学習指導要領』等をもとに年・月の授業計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：授業で配布された資料などをもとに、本時の内容を整理し、理解を深める。</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	

8 回	<p>&lt;教育の技術と教材の活用（指導案作成）②&gt;（塩津）</p> <p>○本時の目標 前回の内容をふり返りつつ、週・日案がどのように作成されるのかについて、それぞれの目標や内容、教材や教具についての理解と具体的な授業展開をもとに理解し、実際に指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（pp. 170-222、pp. 246-262）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（指導案作成）：指導案を作成する。</p> <p>○本時の学習成果 週・日案がどのように作成されるのかについて、それぞれの目標や内容、教材や教具についての理解と具体的な授業展開をもとに説明でき、それらをもとに、実際に指導案を作成している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：「指導案」について自分なりに調べてくる。 復習事項：授業で配布された資料などももとに、本時の内容を整理し、理解を深める。</p>
9 回	<p>&lt;教育の技術と教材の活用（指導案作成）③&gt;（塩津）</p> <p>○本時の目標 日案の作成についてふり返りつつ、目標や内容、教材や教具についての理解をさらに深め、具体的な授業展開の構造を理解するとともに、実際の学校現場において行われている「発問」などから、授業を行ううえでの基礎的な技術を獲得する。さらに、それらを実際の指導案作成に活用する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（pp. 170-222、pp. 246-262）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（指導案作成）：指導案を作成する。</p> <p>○本時の学習成果 指導案についての理解を深めているとともに、授業を行う基礎的な技術を身に付けている。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：前回の授業内容について復習してくる。 復習事項：「指導案」の構造について整理し、さらなる理解につなげる。</p>
10 回	<p>&lt;教育の技術と教材の活用（指導案作成）④&gt;（塩津）</p> <p>○本時の目標 具体的な指導案作成を行いながら、目標や内容などの視点、さらには授業を行ううえでの基礎的な技術を身に付けながら、教育の目的に適した指導技術についての理解を深め、それら指導技術の獲得を目指す。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（pp. 170-222、pp. 246-262）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（指導案作成）：指導案を作成する。</p> <p>○本時の学習成果 教育の目的に適した指導技術についての理解を深め、その指導技術を身に付けようと努力している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：前回の授業内容について復習してくる。 復習事項：指導案作成を通して、具体的な教育の技術や教材の活用について整理する。</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	

11 回	<p>&lt;情報機器とその活用①&gt; (原田俊孝)</p> <p>○本時の目標 ICTの環境整備とその利用を取り上げ情報機器の活用についての実態を把握する。さらに、子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することを学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp. 202-222) 及び授業で配布する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 情報活用能力及び ICT について理解し、情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：授業で配付された資料を読む。とくに、「情報活用能力」、「ICT」については自分の言葉で説明できるようにする。</p>
12 回	<p>&lt;情報機器とその活用②&gt; (原田俊孝)</p> <p>○本時の目標 子どもたちの情報活用能力 (情報モラルを含む) を育成するための指導法を理解し、保育者に必要な情報活用能力、とくに、保育者に必要な情報モラルもあわせて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp.202-222) 及び授業で配布する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 現在の情報モラル指導モデルカリキュラムを理解し、情報機器の活用をする前の子供たちに情報モラルと情報活用能力の原点を身に付ける能力について理解する。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：授業で配付された資料を読む。とくに、子供たちに情報モラルを含んだ情報活用能力を身に付けるためにどうすればいいか考える。</p>
13 回	<p>&lt;何をどう評価するのか&gt; (都田)</p> <p>○本時の目標 「観点別学習状況の評価」や「目標に準拠した評価」あるいは「診断的評価」や「形成的評価」、「総括的評価」、「パフォーマンス評価」、「ルーブリック評価」などの具体的な評価をもとに、学習評価そのものの基礎的な考え方を理解するとともに、実際の指導案における評価について考える。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp. 224-244) で解説する。</p> <p>○本時の目標 学習評価そのものの基礎的な考え方を理解しているとともに、実際の保育指導案における評価について考えている。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：学習評価についてまとめながら、学校現場における教育評価について自分なりに考えてみる。</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	

14 回	<p>&lt;教育の質保証&gt; (原田博史)</p> <p>○本時の目標 子どもたちに授業を行う学校側は、自らのカリキュラムや授業内容を常に省察し、教育の質を保障することは求められている。ここでは内部質保証や外部評価、そしてPDCAサイクルなどの方法を用いた教育の質保証のあり方について考える。</p> <p>○本時の活動 ・配布資料で解説する。</p> <p>○本時の目標 内部質保証や外部評価による教育の質保証について考える。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：教育の評価について考えてくる。 復習事項：学習評価についてまとめながら、学校現場における教育評価について自分なりに考えてみる。 第15回に提出する「読書レポート」を仕上げる。</p>
15 回	<p>&lt;どのような教師を目指すべきか、総括&gt; (都田)</p> <p>○本時の目標 これからの教師がどこを目指すべきなのかについて考えるとともに、全体的視点で教育の方法と技術について総括する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp. 264-285) で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。</p> <p>○本時の目標 学校における教育評価について理解し、作成した指導案によって、具体的レベルで教育評価について考える。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。</p>

令和7年度教育計画							
科目名	生徒指導論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	浦上 博文
質問受付：授業終了後教室で受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：栄養教諭の中心的業務は、学校における食に関する指導と学校給食の管理を一体的に担うことであるが、教員の一人として「生徒指導」にも携わらなければならない。本授業は、「生徒指導の理論的・実践的問題」に関する基礎的な知識と考え方を身に付けることを目指すものであり、具体的には、以下の点を教育目標とする。</p> <p>①生徒指導の意義と課題について理解する。  ②生徒指導と教育課程との関連について理解する。  ③生徒指導の組織と計画について理解する。  ④児童・生徒理解について理解する。  ⑤生徒指導の方法（集団指導・個別指導）について理解する。  ⑥問題行動の理解と指導について理解する。  ⑦現代日本の教育（生徒指導）の課題について理解する。</p> <p>学生の学習成果：教育目標に掲げる7点に関する知識と考え方を修得する。また、汎用的学習成果として、態度（社会人、教員としてのマナー・学習態度など）を涵養する。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回、3回の授業は、担当教員が講義を行う。</li> <li>・第4回～第14回の授業（第5・9・14回は除く）は、次のように行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①各受講生が担当する章を決め、その章について各受講生が作成したレジュメをもとに発表を行う（第2回、3回の講義資料を参考にして作成する）。</li> <li>②発表をもとに、受講生間で質疑応答を行う。</li> <li>③担当教員が以上の内容を補う講義と受講生の発表についての講評を行う。</li> </ul> </li> <li>・第5・9・14・15回は、ビデオを視聴する。</li> </ul>					
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。</li> <li>・毎授業回後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。</li> <li>・1回の授業に対する予習・復習の時間はそれぞれ90分とする。</li> </ul>					
	テキスト	テキストに代わる資料を配付する。					
成績評価の方法	<p>①各自が担当した章に関する内容を適切に理解し発表できたか。(25点)</p> <p>②「生徒指導の意義と課題」「生徒指導と教育課程との関連」「生徒指導の組織と計画」「児童・生徒理解」「生徒指導の方法（集団指導・個別指導）」「問題行動の理解と指導」について理解しているか。(期末試験、50点)</p> <p>③現代日本の教育（生徒指導）の課題について理解しているか。(期末試験、10点)</p> <p>④授業内容について予習・復習を行っているか。(個人レポート・シャトルカード、15点)</p> <p>なお、態度（社会人、教員としてのマナー・学習態度など）についての評価は全授業を通して行う。担当教員の指導に従わず改善されない場合、評価点より減ずる（1件2点）。</p>						
注意事項	参考図書等						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シラバス・テキスト等を用いたオリエンテーションにより、本授業の概要を理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション</li> <li>・ 各受講生が担当する章を決定する。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本授業の概要を説明できる。</li> </ul> <p>予習：シラバスを通読し、配付資料の概要を理解する。(90分) 復習：シラバスを読み返し、授業概要を確認する。(90分)</p>
2 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I. 生徒指導の意義と課題(1. 生徒指導の概念と目的 2. 生徒指導の領域・内容 3. 生徒指導の今日的課題)について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員が資料(Ⅰ)をレジюмеに沿って解説する。</li> <li>・ 受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・ 教員が補足の講義を行い、受講生の質問に答える。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導の意義と課題について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：資料(Ⅰ)を通読し、疑問点をまとめる。(90分) 復習：資料とレジюмеを読み返し、学習内容を確認する。(90分)</p>
3 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ II. 生徒指導と教育課程との関連(1. 生徒指導と教科との関連 2. 生徒指導と道徳との関連 3. 生徒指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連)について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当受講生が資料(Ⅱ)をレジюмеに沿って解説する。</li> <li>・ 他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・ 担当受講生が質問に答える・</li> <li>・ 教員が補足の講義と受講生の発表についての講評を行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導と教育課程との関連について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：資料(Ⅱ)を通読し、疑問点をまとめる。(90分) 復習：資料とレジюмеを読み返し、学習内容を確認する。(90分)</p>

4 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ⅲ. 生徒指導の組織と計画（1. 生徒指導の組織体制 2. 生徒指導における外部機関の活用）について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当受講生が資料（Ⅲ）をレジюмеに沿って解説する。</li> <li>・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・担当受講生が質問に答える・</li> <li>・教員が補足の講義と受講生の発表についての講評を行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の組織と計画について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：資料（Ⅲ）を通読し、疑問点をまとめる。（90分） 復習：資料とレジюмеを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本の生徒指導の課題（増加する非行とその変質）について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が補助資料を解説する。</li> <li>・ビデオを視聴する。</li> <li>・受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・教員が質問に答え、所見についてコメントする。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本の生徒指導の課題（増加する非行とその変質）について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：補助資料を通読し、疑問点をまとめる。（90分） 復習：ビデオの内容を振り返りつつ補助資料を読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p>
6 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ⅳ. 児童・生徒理解（1. 児童・生徒理解の意味と機能 2. 児童・生徒理解の領域・内容 3. 児童・生徒理解のための資料収集の方法）について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当受講生が資料（Ⅳ）をレジюмеに沿って解説する。</li> <li>・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・担当受講生が質問に答える。</li> <li>・教員が補足の講義と受講生の発表についての講評を行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒理解について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：資料（Ⅳ）を通読し、疑問点をまとめる。（90分） 復習：資料とレジюмеを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p>

7 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ V. 生徒指導の方法—集団指導（1. 集団指導の意味と意義 2. 集団指導の形態）について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当受講生が資料（Vの前半）をレジюмеに沿って解説する。</li> <li>・ 他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・ 担当受講生が質問に答える。</li> <li>・ 教員が補足の講義と受講生の発表についての講評を行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導の方法の内、集団指導（集団指導の意味と意義、集団指導の形態）について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：資料（Vの前半）を通読し、疑問点をまとめる。（90分） 復習：資料とレジюмеを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ V. 生徒指導の方法—集団指導（3. 集団活動の指導 4. 集団の評価と集団指導の観点）について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当受講生が資料（Vの後半）をレジюмеに沿って解説する。</li> <li>・ 他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・ 担当受講生が質問に答える。</li> <li>・ 教員が補足の講義と受講生の発表についての講評を行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導の方法の内、集団指導（集団活動の指導、集団の評価と集団指導の観点）について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：資料（Vの後半）を通読し、疑問点をまとめる。（90分） 復習：資料とレジюмеを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p>

9 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本の生徒指導の課題（病んでいく学校）について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が補助資料を解説する。</li> <li>・ビデオを視聴する。</li> <li>・受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・教員が質問に答え、所見についてコメントする。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本の生徒指導の課題（病んでいく学校）について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：補助資料を通読し、疑問点をまとめる。（90分）  復習：ビデオの内容を振り返りつつ補助資料を読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p>
10 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VI. 生徒指導の方法—個別指導（1. 教育相談の意義と目的 2. 教育相談の理論）について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当受講生が資料（VIの前半）をレジюмеに沿って解説する。</li> <li>・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・担当受講生が質問に答える。</li> <li>・教員が補足の講義と受講生の発表についての講評を行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の方法の内、個別指導（教育相談の意義と目的、教育相談の理論）について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：資料（VIの前半）を通読し、疑問点をまとめる。（90分）  復習：資料とレジюмеを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	

11 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VI. 生徒指導の方法—個別指導（3. 相談担当者の基本的態度 4. 教育相談のすすめ方 5. 学校教育相談の限界 6. 家庭・関係諸機関との連携）について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当受講生が資料（VIの後半）をレジюмеに沿って解説する。</li> <li>・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・担当受講生が質問に答える。</li> <li>・教員が補足の講義と受講生の発表についての講評を行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の方法の内、個別指導（相談担当者の基本的態度、教育相談のすすめ方、学校教育相談の限界、家庭・関係諸機関との連携）について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：資料（VIの後半）を通読し、疑問点をまとめる。（90分） 復習：資料とレジюмеを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p>
12 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VII. 問題行動の理解と指導（1. 問題行動の種類 2. 問題行動の原因）について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当受講生が資料（VIIの前半）をレジюмеに沿って解説する。</li> <li>・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・担当受講生が質問に答える。</li> <li>・教員が補足の講義と受講生の発表についての講評を行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動の理解と指導（問題行動の種類、問題行動の原因）について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：資料（VIIの前半）を通読し、疑問点をまとめる。（90分） 復習：資料とレジюмеを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p>
13 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VII. 問題行動の理解と指導（3. 問題行動の早期発見 4. 問題行動の処遇）について理解する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当受講生が資料（VIIの後半）をレジюмеに沿って解説する。</li> <li>・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・担当受講生が質問に答える。</li> <li>・教員が補足の講義と受講生の発表についての講評を行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動の理解と指導（問題行動の早期発見、問題行動の処遇）について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：資料（VIIの後半）を通読し、疑問点をまとめる。（90分） 復習：資料とレジюмеを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p>
授 業 回 数 別 教 育 内 容	

14 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本の生徒指導の課題（学級崩壊）について理解する（その3）。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が補助資料を解説する。</li> <li>・ビデオを視聴する。</li> <li>・受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・教員が質問に答え、所見についてコメントする。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本の生徒指導の課題（学級崩壊）について要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：補助資料を通読し、疑問点をまとめる。（90分）  復習：ビデオの内容を振り返りつつ補助資料を読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p>
15 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの授業を振り返り、生徒指導の要点を確認する。</li> </ul> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ「生徒指導」を視聴し、本授業の要点を確認する。</li> <li>・受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。</li> <li>・教員が質問に答え、所見についてコメントする。</li> <li>・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの授業を振り返り、生徒指導の要点を説明できる。</li> </ul> <p>予習：シラバス・テキスト・補助資料等によって、これまでの授業内容を振り返る。（90分）  復習：生徒指導の要点を確認するとともに、期末試験に向けて復習する。（90分）</p>

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	教育相談	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail: OH: 随時							
教育目標と学生の学習成果	教育目標	<p>児童生徒の精神的な発達や人間としての成長を育むために、カウンセリング的な態度を基礎とした教育活動や教育相談について学ぶことを目標とする。具体的には、受講学生は以下の諸点に関する基礎的な知識およびスキルを習得することである。</p> <p>①児童生徒の精神的な発達や人間としての成長を育むために、カウンセリング的な態度を基礎とした教育活動に関する基礎的な知識を習得する。</p> <p>②学校現場における児童生徒の心の問題・問題行動・精神疾患などについて理解する。</p> <p>③教育相談を実践するための基本的スキルを習得する。</p> <p>④自立した社会人としての責務を果たすために必要な思考力、特に、論理的思考力や批判的思考力を身につける。</p>					
	学生の学習成果	<p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する知識を習得する。また、汎用的学習成果として、教育目標に掲げる④の項目に関するスキルを身につける。</p>					
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>主として講義形式で行う。また、教育相談を実践するための基本的なスキルを習得するための演習も実施する。</p>					
	予習・復習	<p>各回の授業では予習復習が大切である。予習に関しては、授業時及びシラバスの中において指示する。復習に関しては、基本的には授業で使用した教科書・資料・プリントの見直しやノートの整理を行う。各回の授業で不明なところを残さないようにする。各回の予習復習に要する時間は、合計 180 分以上とする。</p>					
	テキスト	<p>教科書：石川正一郎・藤井泰編著『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房, 2010</p>					

学習評価の方法	<p><b>評価配分に関して</b></p> <p>専門的学習成果と汎用的学習成果について、それぞれの学習成果の習得度合いを量的（数値的）に変換し、合計 100 点を満点として評価を行う。それぞれの学習成果の量的（数値的）評価配分および評価比重は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的学習成果</li> </ul> <p>専門的学習成果の評価配分は 85 点である。評価配分 85 点の中で、以下に示した、それぞれの専門的学習成果には、①：②：③＝30：30：25 の比重をかける。</p> <p>①児童生徒の精神的な発達や人間としての成長を育むために、カウンセリング的な態度を基礎とした教育活動に関する基礎的知識を身につける。</p> <p>②学校現場における児童生徒の心の問題・問題行動・精神疾患などについて理解する。</p> <p>③教育相談を実践するための基本的スキルを習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用的学習成果</li> </ul> <p>汎用的学習成果の評価配分は 15 点である。</p> <p>以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 85 点、汎用的学習成果の評価配分は 15 点で、合計 100 点満点で最終評価を行う。</p> <p><b>評価ツールに関して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的学習成果</li> </ul> <p>専門的学習成果の評価配分のうち、①と②の評価配分点は学期末に行う定期試験で測る。また、③の評価配分点は演習で行う実技で測る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用的学習成果</li> </ul> <p>汎用的学習成果の評価配分 15 点は授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した社会人としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた論述課題を課す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題については、結果をフィードバックする。</li> </ul>
	注意事項

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本授業の内容・進め方・成績評価の方法に関する説明</li> <li>・ 授業に対しての不明な点について聞く</li> </ul>
2 回	<p>【学校教育における「教育相談」の位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育相談と生徒指導</li> <li>・ 教育相談とカウンセリング</li> </ul> <p>→教育相談と生徒指導の関係、教育相談とカウンセリングの関係について理解する  予習項目：配布資料を熟読してくる  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
3 回	<p>【開発カウンセリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開発カウンセリング、予防的及び治療的カウンセリングについて理解する。</li> <li>・ 構成的グループ・エンカウンターを実施してみる。</li> </ul> <p>予習項目：過去に友だちと仲良くなれた時のきっかけを考えてくる  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
4 回	<p>【教育相談の実際】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の行う教育相談－誰が？誰に？どこで？いつ？－</li> <li>・ 関係機関との連携・協力</li> </ul> <p>→教育相談が具体的にどのように行われるのか、その実際について理解する  予習項目：栄養教諭に相談したい項目について考えてくる。  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
5 回	<p>【カウンセリングから学ぶ教育相談－理論編①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロジャーズの理論を参考に、カウンセラーの基本的態度について理解する</li> </ul> <p>予習項目：“聴く”ために、大切な態度は何かを考えてくる  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
6 回	<p>【カウンセリングから学ぶ教育相談－理論編②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カウンセリングの一般的な過程について理解する</li> </ul> <p>予習項目：カウンセリングの目標とは何かを考えてくる  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
7 回	<p>【学校現場における不適応・問題行動①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不登校とは？</li> <li>・ 不登校の現状および特徴</li> <li>・ 不登校の要因と心理メカニズム</li> <li>・ 不登校児童生徒への支援</li> </ul> <p>不登校について、その概念の歴史の変遷、特徴、支援について理解する  予習項目：不登校について調べてくる  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>

8 回	<p><b>【学校現場における子どもの不適応・問題行動②】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害</li> <li>・ADHD・LD</li> <li>・自閉症スペクトラム障害</li> </ul> <p>発達障害について、その特徴を理解する  予習項目：発達障害について調べてくる  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
9 回	<p><b>【学校現場における現代的課題について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ、虐待、摂食障害等</li> </ul> <p>配布資料を熟読してくる  予習項目：学校において、どんな課題があるか調べてくる  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
10 回	<p><b>【カウンセリングから学ぶ教育相談—実践編①】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習を通して、相談技術を学び、その技術の意義を理解する</li> </ul> <p>予習項目：信頼関係を築くために、日常的に工夫していることを考えてくる  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
11 回	<p><b>【カウンセリングから学ぶ教育相談—実践編②】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習を通して、相談技術を学び、その技術の意義を理解する</li> </ul> <p>予習項目：“まずい” 聴き方や話し方は何かを考えてくる  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
12 回	<p><b>【カウンセリングから学ぶ教育相談—実践編③】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習を通して、相談技術を学び、その技術の意義を理解する</li> </ul> <p>予習項目：“うまい” 聴き方や話し方は何かを考えてくる  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
13 回	<p><b>【カウンセリングから学ぶ教育相談—実践編④】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習を通して、相談技術を学び、その技術の意義を理解する</li> </ul> <p>予習項目：新聞などから、学校における心の課題について考えてくる。  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
14 回	<p><b>【学校危機について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校危機とは</li> <li>・危機発生の要因</li> <li>・学校危機の内容と対応（教育相談）</li> </ul> <p>予習項目：学校危機について考えてくる  復習項目：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめておく</p>
15 回	<p><b>【まとめ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの授業内容や演習を振り返り、自己課題と改善策を考える。</li> <li>・疑問点や不足のある部分について質問し、補足する</li> <li>・定期試験についての説明</li> </ul> <p>予習項目：これまでの授業の中で疑問に思ったことがあればノートに書いてくる。  復習項目：特になし</p>

令和7年度教育計画							
科目名	事前・事後指導	授業回数	15	単位数	1	担当教員	塩津 敦子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : D202 毎週 曜日 限 在室時はいつでも可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：栄養教諭教育実習を実りあるものにするため、以下のことを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習先となる学校の選定手続き</li> <li>・教育実習に必要なとされる基礎的知識やマナーの習得</li> <li>・教育実習前後の諸手続き</li> <li>・教育実習後の報告会の準備</li> </ul> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：</p> <p>学校における管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する能力を培い、技能・態度及び考え方の総合的能力を身につける。栄養教諭として児童生徒への食に関する指導を行い指導能力を獲得する。また、栄養教諭として必要なチームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション能力として倫理的思考力・問題解決力を培う。</p> <p>汎用的学習成果：</p> <p>栄養教諭教育実習をより効果的に行うために、さまざまな作法・子どもに指導するための指導法等を身につける。教諭としての質の向上を図る。また、社会人としての責任を果たすために必要な倫理観・自己管理能力を高める。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1 講義形式によるもの</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教育実習に必要なとされる基礎的知識とマナー</li> <li>②『教育実習ノート』記入上の諸注意</li> <li>③教育実習中の心得</li> </ol> <p>2 学生の作業に関係するもの</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教育実習を実施する学校の選定と教育委員会に係る書類</li> <li>②教育実習事前レポートの作成</li> <li>③研究授業等の指導案及び教材準備の指導</li> <li>④教育実習後の報告会の準備</li> </ol> <p>授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。上記の質問に答え、コメントを記載して次回の授業で返却する。 「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。</p>					
	予習・復習	実習のために研究授業の指導案・細案・媒体・板書計画等を作成する。					
	テキスト	<p>参考書 栄養教諭養成における実習の手引 田中 信 監修・著者 東山書房 文部科学省 小学校学習指導要領 中学校学習指導要領</p>					



授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>&lt;3年次後期・オリエンテーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の進め方</li> <li>・ スケジュール</li> <li>・ 単位認定方法</li> <li>・ 栄養教育実習の基礎的事項</li> </ul> <p>【予習及び復習】自身の栄養教育実習の実習校について計画を練る</p>
2 回	<p>栄養教諭の活動状況と今後の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養教育実習の意義と目指す教師像</li> <li>・ 教師に求められる資質</li> </ul> <p>【予習及び復習】学校現場での最近の問題について調べ、理解を深めておく</p>
3 回	<p>教育実習の準備と心得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習中のマナーや実習に必要な知識など</li> <li>・ 実習期間中の一般的な注意事項</li> <li>・ 事前準備の確認</li> </ul> <p>【予習及び復習】教育実習の心得を読み返し、理解を深める</p>
4 回	<p>教育実習の形態と関わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校給食を「生きた教材」として活用する食に関する指導</li> <li>・ 学校給食管理</li> <li>・ 給食の時間における指導</li> </ul> <p>【予習及び復習】テキストの該当箇所を読む</p>
5 回	<p>食に関する指導の教育理論と技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導案について</li> <li>・ 授業展開と工夫</li> <li>・ 教材教具、資料などの作成</li> </ul> <p>【予習及び復習】テキストの該当箇所を読む</p>
6 回	<p>教育実習の学校の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育実習先の決定</li> <li>・ 実習内容の説明</li> <li>・ 実習に必要な知識と技術</li> <li>・ 実習中の服装など</li> </ul> <p>【予習及び復習】自身の栄養教育実習の実習校について計画を進め、担当教員に考えを伝えられるよう整理しておく</p>

7 回	<p>教育実習事前準備</p> <p>小学校、中学校、特別支援学校の小学部および中学部に勤務する栄養教諭の業務と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育実習中の研究課題の準備</li> <li>・ 栄養教諭の行う食に関する指導（研究授業準備）</li> </ul> <p>教員採用試験出願方法について</p> <p>【予習及び復習】 栄養教諭の業務と課題について、学んだことを整理しておく</p>
8 回	<p>教育実習事前準備</p> <p>栄養教諭の業務と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育実習中の研究課題の決定</li> <li>・ 教育実習先との打ち合わせ状況について(担当者との共通理解)</li> </ul> <p>【予習及び復習】 栄養教諭の業務と課題について、学んだことを整理しておく</p> <p>自身の栄養教育実習校との連絡調整を実際に行う</p>
9 回	<p>&lt; 4年次前期 &gt;</p> <p>教育実習事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育実習での研究授業の準備</li> </ul> <p>【予習及び復習】 自身の栄養教育実習校との連絡調整を実際に行う</p> <p>栄養教育実習校から与えられた課題を整理する</p>
10 回	<p>教育実習事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育実習での研究授業の準備</li> <li>・ 教育実習先への訪問と打ち合わせ状況について（担当者との共通理解）</li> </ul> <p>【予習及び復習】 自身の栄養教育実習校との連絡調整を行い、学校を訪問する</p>
11 回	<p>教育実習事前準備</p> <p>教育実習先ごとの課題の進捗状況について（最終確認）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育実習後のお礼状の書き方と送付する相手等確認</li> </ul> <p>【予習及び復習】 栄養教育実習校からの課題を進める</p>
12 回	<p>外部講師 教育委員会採用担当者 講義と説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員採用試験の準備・対策について</li> </ul> <p>【予習及び復習】 栄養教育実習校からの課題を進める</p> <p>外部講師から学んだことを整理する</p>
13 回	<p>教育実習報告会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育実習の整理および課題</li> <li>・ 研究テーマの推敲</li> </ul> <p>【予習及び復習】 教育実習報告会の資料を計画的に準備する</p>

14 回	<p>教育実習報告会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育実習報告会要項の原稿準備</li> <li>・ 巡回指導教員の感想</li> <li>・ 教育実習のまとめ</li> </ul> <p>【予習及び復習】教育実習報告会の資料を計画的に準備する 発表の自主練習を行う</p>
15 回	<p>社会に求められる栄養教諭とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職活動と心構えについて</li> <li>・ 栄養教諭一種免許申請手続について</li> <li>・ 採用試験(秋期実施)について</li> </ul> <p>【予習及び復習】栄養教育実習で学んだことを活かし、後期の教職実践演習へつなげる</p>

令和7年度教育計画							
科目名	栄養教育実習	授業回数	1週間	単位数	1	担当教員	塩津 敦子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : D202 毎週 曜日 限 在室時はいつでも可							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 学校栄養指導論Ⅰ、Ⅱを履修した後、学校教育という現場で教育実習を行う。学校での、児童生徒への対応の仕方、学校給食やその他の教科での「食に関する指導」の方法を学ぶ。実際に、学習指導要領の「特別活動」の「学級活動」に位置づけられている給食時間での「食に関する指導」を行うことによって教諭としての質を高めることを目的とする。また、社会人としての責任を果たすために必要な倫理観・自己管理能力を養う。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：</p> <p>栄養教諭は栄養に関する専門性と教育に関する専門性を併せ持つことが求められるため、学校における管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する能力を培い、さらに教育に生かす技能・態度及び考え方の総合的能力を身につける。また、学校における倫理的思考力、問題解決力を培う。</p> <p>汎用的学習成果：</p> <p>児童生徒が健全な食生活を実践して健康で豊かな人間性を育ていけるよう、栄養や食事のとり方について正しい知識に基づいて自己管理能力を育成することができる。教育活動全体を通じて総合的に食に関する指導に取り組むことができる。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・<b>実習</b>・実技)</p> <p>1 出身義務教育諸学校で、4年次前期に5日間(月曜日～金曜日)の実習を行う。  2 事前事後の授業に全て出席し、実習の準備をする。  3 実習施設の担当者・栄養教諭等と実習内容の確認をする。  4 研究課題を決定し、実習の目的とする。  5 教育実習後は、実習したことをまとめ、報告会で発表する。</p> <p>予習・復習 教育実習に際しては、事前事後の準備を必要とする。</p> <p>テキスト 参考書 栄養教諭養成における実習の手引 田中 信 監修・著者 東山書房  文部科学省 小学校学習指導要領  中学校学習指導要領</p>					
学習評価の方法	<p>① 教育実習の目的が理解でき意欲的に取り組んでいること。  ② 学習指導案が理解でき、指導案が書け、実際に授業ができること。  ③ 研究課題をもって臨むことができること。</p> <p>・教育実習先の評価 ……50%  ・研究課題 ……10%  ・実習ノート ……10%  ・実習報告会の評価 ……20%  ・実習前後の連絡及び報告等 ……10% これらを総合して評価する。</p>						

注 意 事 項	
------------------	--

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
教 育 実 習 前	教育実習事前訪問 オリエンテーション 研究課題の設定 事前指導
1 日 目	教育実習オリエンテーション 教育施設学校教職員への挨拶・紹介 教育実習内容・教育実習目標・諸注意等 研究課題について 研究授業について <u>大学へ報告(必須)</u>
2 日 目	教育内容は義務教育諸学校の教育実習計画によって行う。
3 日 目	教育内容は義務教育諸学校の教育実習計画によって行う。
4 日 目	教育内容は義務教育諸学校の教育実習計画によって行う。
5 日 目	教育内容は義務教育諸学校の教育実習計画によって行う。 終了後、 <u>大学へ報告(必須)</u>

令和7年度 教育計画							
科目名	教育実践演習(栄養教諭)		授業回数	15	単位数	2	担当教員 塩津敦子 堀口のぞみ
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : horiguchi@owc.ac.jp、OH：木曜日 12:20～13:00、その他在室時は何時でも可 (M棟 410)							
教育目標	<p>教育目標：</p> <p>これまでの授業や実習などを通じた学びを振り返り、栄養教諭になるうえで自身の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い定着を図ることによって、教職生活を円滑にスタートできる力を身につけることを目標とする。</p> <p>教員として求められる4つの事項、1. 使命感や責任感、教育的愛情などに関する事項、2. 社会性や対人関係能力に関する事項、3. 幼児・児童・生徒理解等に関する事項、4. 指導力に関する事項、をテーマとする。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：上記の4つの事項について知識や能力を修得し、教職につく意識を高める。</p> <p>汎用的学習成果：課題発見力、コミュニケーション能力、教師としてふさわしい言動や態度を身につける。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>教職に関する科目、栄養に関わる教育に関する科目担当者が連携し、オムニバス形式で進める。教員として求められる4つの事項についてグループ討議、外部講師による講話などを組み合わせて総合的に学ぶ。</p>					

	予 習 ・ 復 習	予習事項(90分)：各回の学習する内容について事前に教科書を読んだり用語を自分で調べたりする。  復習事項(90分)：授業で習ったキーワードを中心に内容理解をはかる。
	テ キ ス ト	文部科学省 小学校学習指導要領  栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート（芦川修貳 監修）
学 習 評 価 の 方 法		学習成果：下記の学習成果について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。  1. 教育者としての使命感や責任感を持ち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢を身につけている。  2. 教職員や保護者地域との関係を構築するための社会性や対人関係力を身につけている。  3. 児童生徒理解の姿勢を持ち、専門職としての自覚と知識を修得している。  4. 食に関する指導力の基礎を有し、板書や話し方、表情など授業を行う上での基礎的な表現力を身につけている。  学習評価：講義レポート、授業態度による。
注 意 事 項		参考図書等：授業内容に合わせて紹介・配布する

授業回数別教育内容

1 回	<p>(オリエンテーション)</p> <p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の進め方</li> <li>・ 学習評価方法の説明</li> <li>・ 講義「栄養教諭の役割・職務内容および児童生徒に対する責任等について」(教科書使用)</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習内容について理解している</li> </ul> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：シラバス及びテキストの目次を読んでくる</p> <p>復習事項：テキストないし講義プリントを中心に内容理解を深める</p>
2 回	<p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ討議「栄養教育実習で学んだ学校給食管理の事例・比較検討」(実習ノート持参)</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習内容について理解している</li> </ul> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：実習ノートを振り返る</p> <p>復習事項：本時の討議内容を振り返り、当該学習内容の理解を深める</p>

<p>3 回</p>	<p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ討議「児童生徒の栄養に関する諸問題 特別な配慮を必要とする児童生徒への指導・家庭との連携について」</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について理解している</li> </ul> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：教科書を一通り読んでくる</p> <p>復習事項：本時の討議内容を振り返り、当該学習内容の理解を深める</p>
<p>4 回</p>	<p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ討議「栄養教諭としての自己課題・食を通しての児童生徒の心身の発達・成長を支援する栄養教諭となるために」</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について理解している</li> </ul> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：教科書を一通り読んでくる</p> <p>復習事項：本時の討議内容を振り返り、栄養教諭として必要な知識を深める</p>
<p>5 回</p>	<p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業「栄養教諭としての資質・能力の確認」</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について理解している</li> </ul> <p>○予習及び復習事項</p> <p>予習事項：事前準備を行う</p> <p>復習事項：本時の内容を振り返り、栄養教諭としての資質・能力を確認した上で、模擬授業の自己省察を試みる</p>

6 回	<p>○本時の学習</p> <p>・教諭経験者講義・グループ討議「児童生徒理解と学級経営・学級活動・食に関する指導について」</p> <p>○本時の学習成果</p> <p>・本時の学習内容について理解している</p> <p>○予習及び復習事項：</p> <p>予習事項：教科書の関連事項を読む</p> <p>復習事項：本時の内容を振り返り、当該事項の内容理解を深める</p>
7 回	<p>○本時の学習</p> <p>・グループ討議・発表「外部講師の講話を基に、『めざす栄養教諭像』について」</p> <p>○本時の学習成果</p> <p>・本時の学習内容について理解している</p> <p>○予習及び復習事項：</p> <p>予習事項：外部講師の講話を基に、「めざす栄養教諭像」について発表資料を作成する</p> <p>復習事項：本時の内容を振り返り、当該事項の内容理解を深める</p>
8 回	<p>○本時の学習</p> <p>・養護教諭経験者講義・グループ討議「養護教諭・管理職等、教員間の連携について」</p> <p>○本時の学習成果</p> <p>・本時の学習内容について理解している</p> <p>○予習及び復習事項：</p> <p>予習事項：教員間の連携について教科書で関連する箇所を読む</p> <p>復習事項：本時の内容を振り返り、当該事項の内容理解を深める</p>

9 回	<p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する諸問題</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について理解している</li> </ul> <p>○予習及び復習事項：</p> <p>予習事項：教育虐待について事前に調べ、教育に関する諸問題について関心を深める</p> <p>復習事項：本時の内容を振り返り、当該事項の内容理解を深める</p> <p>授業中に埋められなかった感想を完成させる</p>
10 回	<p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育と人間形成①—社会問題と教育(1)</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について理解している</li> </ul> <p>○予習及び復習事項：</p> <p>予習事項：前回に引き続き教育虐待をはじめとする教育に関する諸問題について関心を深める</p> <p>復習事項：本時の内容を振り返り、当該事項の内容理解を深める</p>
11 回	<p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育と人間形成②—社会問題と教育(2)</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について理解している</li> </ul> <p>○予習及び復習事項：</p> <p>予習事項：「ミルグラム実験」について調べてくる</p> <p>復習事項：本時の内容を振り返り、当該事項の内容理解を深める</p>

12 回	<p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像鑑賞—(1/2)</li> </ul> <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について理解している</li> <li>・人間形成に関連ある場面について自分の考えを言語化することができる</li> </ul> <p>○予習及び復習事項：</p> <p>予習事項：関心ある社会問題について調べてくる</p> <p>復習事項：本時で観た映像資料をふまえ、自分の意見をまとめる</p>
13 回	<p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像鑑賞—(2/2)と話し合い</li> </ul> <p>本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について理解している</li> <li>・自分と他者の意見を交換することで学習内容を深めることができる</li> <li>・コミュニケーションを通して、他者の意見を尊重する姿勢を身につけることができる</li> </ul> <p>○予習及び復習事項：</p> <p>予習事項：映像資料をもとに、自分の考えをまとめる</p> <p>復習事項：本時で得た他者の意見を振り返りながら、学習内容の理解を深める</p>
14 回	<p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間とは何か？</li> </ul> <p>本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について理解している</li> </ul> <p>○予習及び復習事項：</p> <p>予習事項：これまでの授業内容を振り返り、人間とは何かについて考えてくる</p> <p>復習事項：本時の内容を振り返り、当該事項の内容理解を深める</p>

15 回	<p>○本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛着とケア</li> </ul> <p>本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について理解している</li> </ul> <p>○予習及び復習事項：</p> <p>予習事項：これまでの講義ノートを全体的に振り返る。特に、第二回の講義ノートで扱った「愛着」について確認し、理解を深めておく</p> <p>復習事項：本時の内容を振り返り、当該事項の内容理解を深める</p>
---------	--